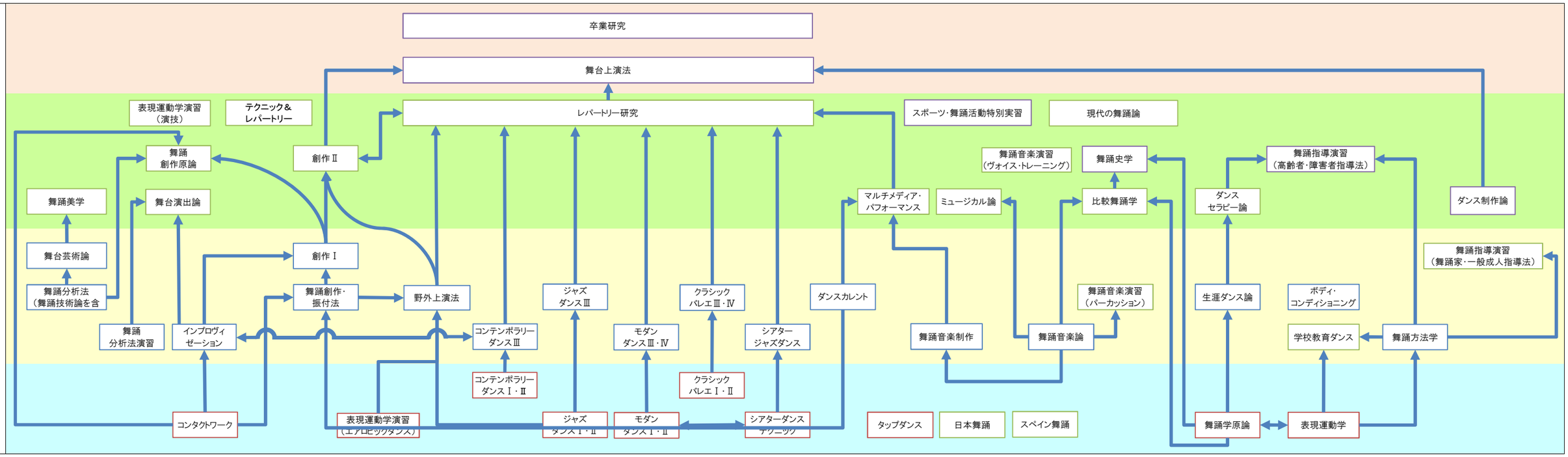
日本女子体育大学 | 2020年度 | シラバス

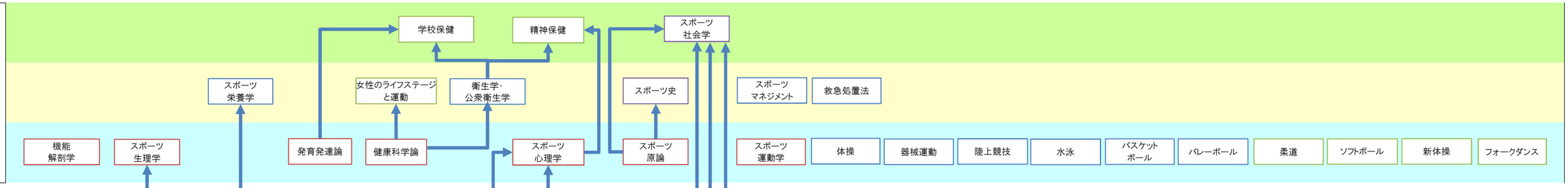
Japan Women's College of Physical Education

ダンス学科　カリキュラムマップ

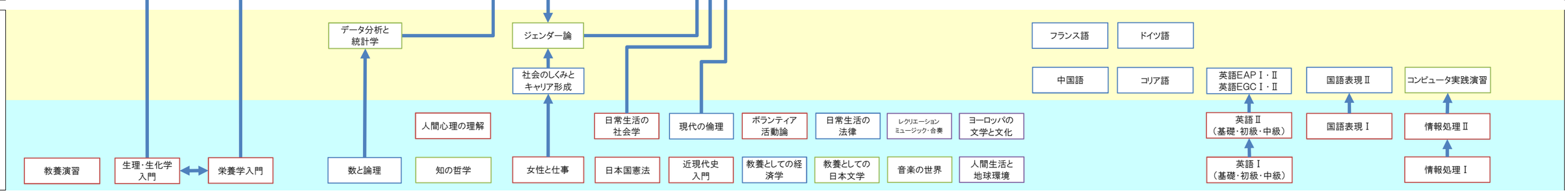
専門基礎教育・専門教育科目



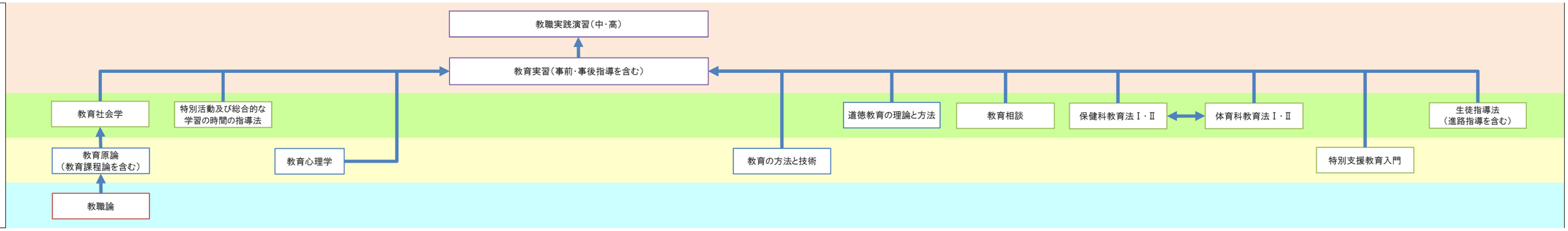
体育関連科目



教養科目



教職科目



科目名	日本国憲法			担当者	中　村　安　菜	
英文名	Constitutional Law					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	講義		科目ナンバー	SLR101・DLR101・HLR101・CLR101		

【目的とねらい】

日本という国の基本的なあり方を決めている日本国憲法。この法がどのような内容であり、どのように役立っているのかを学ぶ。人権に関する規定、統治機構に関する規定ともに出来るだけ具体的・現実的な事件・出来事等と結びつけながら解説する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　なぜ憲法を学ぶのか？
【　到達目標　】
(1)体育大学生が必修で日本国憲法について学ぶ理由を理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第1章を熟読する。(4.0hr)

第２回　憲法とはどのような法か？
【　到達目標　】
(1)憲法は権力濫用の防止を目的とする法であることを理解する。
(2)憲法は国内の最高法規であることを理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第1章を熟読する。(4.0hr)

第３回　基本的人権総論
【　到達目標　】
(1)基本的人権が保障されることの意味を理解する。
(2)基本的人権は誰に、どの範囲で保障されるのかを理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第11章を熟読する。(4.0hr)

第４回　法の下の平等
【　到達目標　】
(1)法の下の平等とはどのようなことであるかを理解する。
(2)具体的な事例で不合理な差別とはどのようなことであるかを理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第12章を熟読する。(4.0hr)

第５回　精神的自由権①
【　到達目標　】
(1)思想・良心の自由とはどのようなことであるかを理解する。
(2)信教の自由とはどのようなことであるかを理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第4章を熟読する。(4.0hr)

第６回　精神的自由権②
【　到達目標　】
(1)学問の自由とはどのようなことであるかを理解する。
(2)表現の自由とはどのようなことであるかを理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第3章・第4章を熟読する。(4.0hr)

第７回　経済的自由権
【　到達目標　】
(1)職業選択の自由とはどのようなことであるかを理解する。
(2)財産権とはどのようなものであるかを理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第6章を熟読する。(4.0hr)

第８回　人身の自由
【　到達目標　】
(1)人身の自由が保障されている意味を理解する。
(2)人身の自由の内容と刑事手続の流れを理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第5章を熟読する。(4.0hr)

第９回　社会権
【　到達目標　】
(1)社会権が保障されることになった歴史的背景を理解する。
(2)生存権等の社会権の具体的内容を理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第8章を熟読する。(4.0hr)

第10回　天皇と国民
【　到達目標　】
(1)憲法上の天皇に関する規定について理解する。
(2)天皇の存在と国民主権主義の関係について理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第11章を熟読する。(4.0hr)

第11回　平和主義
【　到達目標　】
(1)日本国憲法が規定している平和主義について理解する。
(2)平和主義の意義と問題点について理解する。

【授業時間外学習】
教科書第15章を熟読する。(4.0hr)

第12回　国会の役割
【　到達目標　】
(1)国会の地位と構成・役割について理解する。
(2)国会と国民主権主義の関係について理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第13章を熟読する。(4.0hr)

第13回　内閣の役割
【　到達目標　】
(1)内閣の地位と構成・役割について理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第13章を熟読する。(4.0hr)

第14回　裁判所の役割
【　到達目標　】
(1)裁判所の地位と構成・役割について理解する。

【授業時間外学習】
教科書の第14章を熟読する。(4.0hr)

第15回　憲法の役割と現実
【　到達目標　】
(1)この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。

【授業時間外学習】
この授業を通して自分が関心をもった事柄について簡単にまとめる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義をよく聴き、メモ・ノートをしっかりとること。講義において興味を持った事柄について、自らすすんで調べてみること。なお、授業内容の詳細は随時指示する。

【教科書・参考書など】

「【合格水準】教職のための憲法」志田陽子　編著、法律文化社、2017

【成績評価方法】

期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提です）。
試験は試験期間中に別途実施。

科目名	女性と仕事			担当者	山下敬緯子	
英文名	Career Development Studies (Women and Work)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	講義		科目ナンバー	SLR102・DLR102・HLR102・CLR102		

【目的とねらい】

本学の教育理念に沿い、主体的な生き方を自ら創造するキャリア形成の基礎力を身につけることを目的とする。その方法として「問い」を重視する。働く環境がめまぐるしく変化する社会にあって、「働くこと」の意味や「仕事」について、自ら「問い」を立て思考することによって、4年間の学生生活に取り組む姿勢を確認する。2年次の「社会のしくみとキャリア形成」とともに、女性としての社会的立場を理解し、自らの道を切り開く力の養成を図ることを狙いとする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
本講義の目的と狙いを理解し､現時点の自己を把握するために自らの振り返りと未来の予測を､具体的に書きまとめてみる。

【授業時間外学習】
テキストの該当部分を予習する。全15回の授業について概観する。(4.0hr)

第２回　「問い」の力を知る
【　到達目標　】
本授業の目的を達成するために自ら「問い」を立てることを目指す。
その「問い」の持つ力について知り、考える。

【授業時間外学習】
「問い」に関する練習問題を行う。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)

第３回　社会を知る(1)　講演①
【　到達目標　】
卒業生から「働くこと」「仕事をすること」について多方面からの視点を学び、考え、自分なりに「問い」を立てる。

【授業時間外学習】
自分の「問い」について答えをまとめる。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)

第４回　社会を知る(2)　講演②
【　到達目標　】
業界や業種について知る。ニチジョの卒業生が就職をしている業界について、資料を通じて具体的に知る。業界や業種に関して、自分なりの問いを立てる。

【授業時間外学習】
自分の「問い」について答えをまとめる。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)

第５回　社会を知る(3)　講演③
【　到達目標　】
キャリアセンターと連携し、上級生のインターンシップ体験報告を視聴し、雇用とキャリア形成に関して自分なりの「問い」を立てる。

【授業時間外学習】
自分の「問い」について答えをまとめる。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)

第６回　社会を知る(4)　雇用とキャリア形成
【　到達目標　】
現代の若者や女性の就業環境と雇用形態の現実を学び、自分の働く姿勢や仕事の価値観についての考えをまとめる。

【授業時間外学習】
キャリアセンターを訪問する。センターの実施講座について知る。(4.0hr)

第７回　社会を知る(5)　講演④
【　到達目標　】
企業に勤務する卒業生による講演を通して、いろいろな仕事や生き方を学び、自分なりの問いを立てる。

【授業時間外学習】
キャリアセンターHPのOG図鑑を参考に、自分の「問い」についての答えをまとめる(4.0hr)

第８回　社会を知る(6)　キャリアデザイン
【　到達目標　】
キャリアデザインについて学び、自ら「問い」を立てる。グループワークを通して、視野を広げ、さらに自らの「問い」を掘り下げていく。

【授業時間外学習】
関連HPや書籍を参考に、自分の「問い」についての答えをまとめる。(4.0hr)

第９回　社会を知る(7)　講演⑤
【　到達目標　】
現代の社会問題について専門家から話を聴き、ブラック企業の実情を理解し、当事者としての対処法を学ぶ。また、自分なりの問いを立てる。

【授業時間外学習】
自分の「問い」について答えをまとめる。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)

第10回　自分を知る(1)　社会人基礎力
【　到達目標　】
社会人入門として「社会人基礎力」を学び、社会人に必要な力について、自分なりの「問い」を立てる。

【授業時間外学習】
自分の「問い」について答えをまとめる。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)

第11回　自分を知る(2) 2年次「社会の仕組みとキャリア形成」への導き
【　到達目標　】
人生100年時代の働き方と自分の可能性について考え、自分なりの「問い」を立てる。

【授業時間外学習】
関連書籍を参考に、自分の「問い」についての答えをまとめる(4.0hr)

第12回　自分を知る(3)「教員」と言う仕事について
【　到達目標　】
「教員」として身に付けておくべき力は、全業界、全業種にも求められる力であることに気づき、自分なりの「問い」を立てる。

【授業時間外学習】
冬休みを利用して、プレゼンテーションのための準備をする。(4.0hr)

第13回　自分らしく生きるために
【　到達目標　】
自分のキャリアデザインやアクションプランを作成し、プレゼンテーションの準備を通して大学生活と将来についての考えをまとめる。

【授業時間外学習】
プレゼンテーションの準備をする。期末レポートを執筆する。(4.0hr)

第14回　プレゼンテーション(1)
【　到達目標　】
「キャリアデザインに関する私の問いと答え」の発表を通して、多人数の人の前でプレゼンテーションをする。仲間のプレゼンテーションにコメントを寄せ、他者理解を深める。

【授業時間外学習】
プレゼンテーションの準備をする。期末レポートを執筆する。(4.0hr)

第15回　プレゼンテーション(2)
【　到達目標　】
「キャリアデザインに関する私の問いと答え」の発表を通して、多人数の人の前でプレゼンテーションをする。仲間のプレゼンテーションにコメントを寄せ、他者理解を深める。

【授業時間外学習】
プレゼンテーションの準備をする。期末レポートを執筆する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

「質問づくり」という手法を用いて、講義を聴講するだけでなくキャリアデザインを自分自身の問題として捉えるアクティブラーニング的手法で授業を行う。また、ゲストセッションを通して、書籍や資料だけでは得難い体験に基づいた講話やオンタイムの情報を得る機会を学生諸君に提供する。この授業をきっかけに視野を広げ、自ら「問い」を立て探求する姿勢を身に着けてほしい。各自の理解度や気づきの程度の確認のため、小レポートの提出を課し、授業の課題達成度を確認する。

【教科書・参考書など】

キャリアデザインテキスト（担当教員が製作）を授業内で販売する。

【成績評価方法】

授業における課題達成度（50%）、プレゼンテーション並びにプレゼンテーションの要旨レポート（50%）で評価する。

科 目 名	教養演習			担当者		
英 文 名	Preparations for Academic Studies					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR103・DLR103・HLR103・CLR103		

【目的とねらい】

この授業は、大学での学修の基礎となる知識・技術の習得を目的とした初年次教育の授業である。授業では以下の４点を重点的に養成する。①アカデミック・スキルズ(大学での学修・調査・研究に必要な諸技術)の習得、②日本女子体育大学の一員としての自覚と責任の養成、③社会の一員として必要となるソーシャル・スキルズの向上、④教養力の養成。これらの目的を達成するため授業は少人数クラスでの演習形式で行われる。また下記の授業内容に加え、必要に応じて各種の配布物を使った課題およびワークショップ的内容も実施する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　アイスブレイク
【　到達目標　】
クラスメイトと「アイスブレイク」の活動を通して、仲間と打ち解けあい、よりよい集団づくりをしていくには何が必要かを体験的に学ぶ。

【授業時間外学習】
学習内容を今後のクラス、部活動、諸活動などの実践の場で活かすよう工夫する。(4.0hr)

第２回　私の学生生活
【　到達目標　】
これまでの学生生活を振り返り、他者の事例との比較考察を通して、自分の大学生活を有意義なものしていくにはどうすればよいかを自覚的に考える。

【授業時間外学習】授業で確認した内容を踏まえ、今後の大学生活をどう送るかについて各自の自覚を深める。(4.0hr)

第３回　日本女子体育大学を知る（１）
【　到達目標　】
日本女子体育大学の創立者である二階堂トクヨの生涯を概観し、本学がどのようにして創立されたのかを理解し、説明できるようになる。

【授業時間外学習】創立者二階堂トクヨのことを必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。(4.0hr)

第４回　日本女子体育大学を知る（２）
【　到達目標　】
日本女子体育大学の建学の精神・教育理念を理解し、本学の一員としての自覚と責任を深め、本学で学ぶことの意義を考える。

【授業時間外学習】本学の建学の精神・教育理念を必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。(4.0hr)

第５回　話し合いの技術
【　到達目標　】
集団で物事を決定する際の諸方法の長所・短所を比較考察し、話し合いの目的や決める内容に応じた適切な方法を考える。

【授業時間外学習】
学習内容を今後のクラス・部活動・諸活動などの実践の場で活かせるよう工夫する。(4.0hr)

第６回　ノートテイクの技術
【　到達目標　】
大学で行われる授業の性質・特徴を踏まえて、ノートテイクの意義・留意点を確認する。そして担当教員の指示に従って実践し、各自の改善点を探る。

【授業時間外学習】
ノートテイクの技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。(4.0hr)

第７回　データを読む技術
【　到達目標　】
量的データを扱う際の初歩的な統計的計算方法やスキルを、その基本問題の実践を通じて習得する。

【授業時間外学習】
データ解釈の技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。(4.0hr)

第８回　データをまとめる技術
【　到達目標　】
質的データを、整理・分析・考察の有効な資料にしていくための「まとめる」スキルを学ぶ。ここでは「マインド・マップ」と「ＫＪ法」を習得する。

【授業時間外学習】
授業で実践したスキルを、今後の授業・研究などで実践してみる。(4.0hr)

第９回　レポート・論文作成の技術（１）
【　到達目標　】
レポート・論文作成に求められる基本姿勢・思考法・研究倫理を理解し、作成の手順等を、内容と形式の両面から習得する。

【授業時間外学習】
今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。(4.0hr)

第10回　レポート・論文作成の技術（２）
【　到達目標　】
レポート・論文作成における各種の不正行為を防ぐ方法、および研究倫理を具体例を通して学習する。また参考文献を正しく利用することで論考の質を高める技術を実践的に習得する。

【授業時間外学習】
今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。(4.0hr)

第11回　プレゼンテーションの技術
【　到達目標　】
プレゼンテーションに求められる姿勢・準備方法等を理解し、その効果的な実施方法や手順を習得する。

【授業時間外学習】
学習内容を今後の授業・ゼミ・部活でのプレゼンに活かすよう工夫する。(4.0hr)

第12回　専門への架け橋
【　到達目標　】
「卒業研究」の概要を理解し、先輩たちの体験アンケート結果を参考にして、自分の卒業研究の方向性を考える。

【授業時間外学習】
学習内容を踏まえ、自分が書きたい卒業研究のテーマ・内容を考える。(4.0hr)

第13回　レポート・プレゼンテーション①
【　到達目標　】
担当教員の指示に従って、レポート・プレゼンテーションの作成・発表等を行う。

【授業時間外学習】
各自のレポート・プレゼンテーションの準備を行う。(4.0hr)

第14回　レポート・プレゼンテーション②
【　到達目標　】
前回に引き続きレポート・プレゼンテーションの作成・発表等を行う。

【授業時間外学習】
各自のレポート・プレゼンテーションの準備を行う。(4.0hr)

第15回　レポート・プレゼンテーション③
【　到達目標　】
担当教員の指示の下に、レポート・プレゼンテーションのまとめの作業を行う。

【授業時間外学習】
受講生各自がレポート・プレゼンテーションの反省点・改善点を確認する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

この授業は、講義ではなく「演習」である。そこでは受講生ひとりひとりが読み、考え、書き、意見交換をし、調べ、報告する様々な「活動」が中心となる。良識ある態度で授業に臨み、教員・クラスメイトと協力し合って、この演習を有意義なものにすることが望まれる。

【教科書・参考書など】

『教養演習ハンドブック』を用いる。他にも必要に応じて随時ハンドアウト・資料等を配布する。

【成績評価方法】

スキル・課題の習得度・達成度を50%、レポート・プレゼンテーションの達成度50%で評価する。

科目名	情報処理Ⅰ			担当者	鈴木　信夫・牧　　琢弥 水野　有希・阿南　　大	
英文名	Information Literacy Ⅰ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR104・DLR104・HLR104・CLR104		

【目的とねらい】

ICT（Information & Communication Technology）の基礎を理解した上で、文書作成、表計算等に関するアプリケーションの活用法を学ぶ。また、ネットワークのしくみの基本を理解し、インターネットやメーラーの活用法を学ぶ。さらに、OSやファイル管理、周辺機器やメディアについても理解を深める。

【授業内容・到達目標など】

第１回　インターネットについての理解と利用１

【　到達目標　】

(1)LANについての基礎知識を理解する。

(2)メーラー設定・パスワード変更・ネット検索について習得する。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第２回　文書作成法の理解

【　到達目標　】

(1)文書の構成の知識と文書作成ソフトウェアの知識を理解する。

(2)テキストデータ作成と編集について理解する。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第３回　文書作成の方法

【　到達目標　】

(1)Wordによる文書レイアウトの操作に関する知識を得る。

(2)文書のレイアウト方法や編集について理解する。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第４回　ビジュアル表現法の理解

【　到達目標　】

(1)文書上のオブジェクトについて理解する。

(2)文書上の画像コンテンツのレイアウト方法を習得する。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第５回　ビジュアル表現の方法１

【　到達目標　】

(1)文書上の罫線・表の作成・編集について習得する。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第６回　ビジュアル表現の方法２

【　到達目標　】

(1)文書上の図形描画（ドロー系コンテンツ）を習得する。

(2)文書の印刷方法について理解し、習得する。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第７回　数値分析・データ加工法の理解

【　到達目標　】

(1)コンピュータによるデータの蓄積と分析の知識を得る。

(2)表計算ソフトEXCELの基本操作ができるようになる。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第８回　数値分析・データ加工の方法

【　到達目標　】

(1)EXCELによるデータ分析、シートの編集・印刷についての知識を得る。

(2)数値計算・統計計算への応用ができるようになる。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第９回　インターネットについての理解と利用２

【　到達目標　】

(1)ネット上のマナーと著作権およびコンピュータウィルスの知識を得る。

(2)メールによるファイル添付、ネット上の図等の利用について習得する。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第10回　周辺機器とメディアについての理解と利用

【　到達目標　】

(1)PC周辺機器についての知識を得る。

(2)プリンタ等の実用的な利用方法を学ぶ。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第11回　プレゼンテーション法の理解

【　到達目標　】

(1)PCを使ったプレゼンテーションについて理解する。

(2)PowerPointによるスライド作成を習得する。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第12回　プレゼンテーションの方法１

【　到達目標　】

(1)プレゼンテーション・スライドの応用的利用について理解する。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第13回　プレゼンテーションの方法２

【　到達目標　】

(1)プレゼンテーション・スライドの効果的利用方法を習得する。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第14回　OSとアプリケーションとファイルについての理解

【　到達目標　】

(1)OSとアプリケーションについての知識を得る。

(2)Word文書をPDF形式に保存する方法・EXCELをCSV形式に保存する方法等を習得する。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第15回　ファイルについての知識および管理の方法

【　到達目標　】

(1)ファイルについての知識および管理方法を習得する。

(2)様々な保存形式について理解する。

(3)提出課題ポートフォリオによるスキルの自己チェックを行う。

【授業時間外学習】

予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

【学習上の留意点】

単なるアプリケーションの活用と習得だけでなく、その背景にあるコンピュータの仕組みやネットワーク、さらに文書の構成やコンピュータの分析処理の基本的考え方等の基本的知識を学び、専門における応用が可能となるようにする。そのため、基礎知識を学び、毎回授業時にそれに関連した課題を提出してもらう。

【教科書・参考書など】

別途、授業時に指示する。

【成績評価方法】

毎回の提出課題を１００％として評価する。

科目名	情報処理Ⅱ			担当者	鈴木　信夫・水野　有希 阿南　　大・竹内由利子	
英文名	Information Literacy Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR105・DLR105・HLR105・CLR105		

【目的とねらい】

「情報処理Ⅰ」よりワンランク上の内容を学ぶ。Wordでは、より高度な文書作成（データの差し込み等）を学ぶ。Power Pointでは、相手に伝わるプレゼンテーションを作るための工夫を学び、実際にプレゼンテーションをおこなう。また、インターネットやメーラーの活用法を学び、コンピュータウイルスに対する対策についても理解する。Excelのデータの並べ替えや抽出等を活用できるようにする。画像や映像ファイルの編集方法を学び、実際に撮影や録画したデータから作品を作り、発表する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　情報ツールとネットワークPC
【　到達目標　】
(1)ネットワークコンピュータやネットワークシステムを理解する。
(2)情報ツール、Wifi、について理解する。
(3)パソコンの設定について理解する。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第２回　文書作成の方法（応用）
【　到達目標　】
(1)ファイルについての知識と管理方法を理解する。
(2)文書上のオブジェクトの編集方法を習得する。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第３回　ビジュアル表現の方法（応用）１
【　到達目標　】
(1)複雑な図形表現の方法を習得する。
(2)作成されたオブジェクトの利用方法を習得する。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第４回　ビジュアル表現の方法（応用）２
【　到達目標　】
(1)文書上のオブジェクトについて理解する。
(2)文書上の画像コンテンツのレイアウト方法を習得する。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第５回　データベースのデータの活用
【　到達目標　】
(1)データベースについて理解する。
(2)データベースのデータを文書に差し込む方法を習得する。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第６回　数値データの分析１
【　到達目標　】
(1)EXCELの式と関数によるデータ処理を理解する。
(2)絶対参照の利用方法を習得する。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第７回　数値データの分析２
【　到達目標　】
(1)統計に必要な関数の利用方法を習得する。
(2)データに条件をつけて分析・表示させる方法を習得する。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第８回　数値データのビジュアル化
【　到達目標　】
(1)分析に適したグラフを理解する。
(2)分析結果をグラフで表現する。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第９回　マルチメディアデータの取込と編集
【　到達目標　】
(1)知的財産権について理解する。
(2)マルチメディアのファイルについて理解する。
(3)マルチメディアをPCで取込む方法を習得する。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第10回　マルチメディアの簡単な編集と利用
【　到達目標　】
(1)マルチメディア編集ソフトによる編集と利用方法を習得する。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第11回　スライドを使ったプレゼンテーション１
【　到達目標　】
(1)プレゼンテーション内容に適したスライド作成を理解する。
(2)グループワークによりプレゼンテーション用スライドを作成する。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第12回　スライドを使ったプレゼンテーション２
【　到達目標　】
(1)分担を決めてスライドの作成を行う。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第13回　スライドを使ったプレゼンテーション３
【　到達目標　】
(1) スライドの作成を完了する。
(2) スライドを使ってプレゼンテーションを行う（1回目）。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第14回　スライドを使ったプレゼンテーション４
【　到達目標　】
(1)スライドを使ってプレゼンテーションを行う（2回目）。
(2)他のグループによる評価を行い。プレゼンテーションしたグループにフィードバックする。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第15回　ファイル管理とPCの設定
【　到達目標　】
(1)高度なファイル操作・管理・設定を習得する。
(1)提出課題ポートフォリオによるスキルの自己チェックを行う。
【授業時間外学習】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

【学習上の留意点】

単なるアプリケーションの活用と習得だけでなく、その背景にあるコンピュータの仕組みやネットワーク、さらに文書の構成やコンピュータの分析処理の基本的考え方等の基本的知識を学び、専門における応用が可能となるようにする。そのため、基礎知識を学び、毎回授業時にそれに関連した課題を提出してもらう。

【教科書・参考書など】

別途、授業時に指示する。

【成績評価方法】

毎回の提出課題を１００％として評価する。

科目名	国語表現Ⅰ			担当者	高橋　良久・石元みさと 並木真理子	
英文名	Japanese Composition and Rhetoric Ⅰ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR106・DLR106・HLR106・CLR106		

【目的とねらい】

・言語力やコミュニケーション能力を養い、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力を高めることを目的とする。
・新聞や本の読み方を学ぶ中で、自ら主体的に言語生活の充実を図るとともに、言葉に関する視野を広げ、実生活に活きて働く基本的なリテラシーを養う。
・読書に親しむとともに、書評を取り扱い、書評を分析したり実際に書いたりすることを通して、批判的思考力を養う。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション（授業概要理解・学習目標設定）
【　到達目標　】
この授業の目的とねらい、学習方法を理解し、各自が学習目標を設定する。
【授業時間外学習】
データベースを活用して、テーマに基づいた新聞記事を探す。(4.0hr)

第２回　新聞に親しむ①
【　到達目標　】
・新聞の読み方を知り、新聞に親しむ。
・全国紙と地方紙、一般紙と専門紙の違いを知る。
・紙面構成と記事構成を学ぶ。
【授業時間外学習】
興味・関心のある新聞記事を探し、要約する。(4.0hr)

第３回　新聞に親しむ②
【　到達目標　】
・新聞をもとに、意見を交流する。
・新聞をもとに、自分の意見を組み立てる。
・批判的なものの見方・考え方について理解する。
【授業時間外学習】
新聞記事を参考にして意見文を書く。(4.0hr)

第４回　手紙①
【　到達目標　】
手紙のマナーや書き方について理解を深める。
【授業時間外学習】
模擬の手紙を書く。(4.0hr)

第５回　手紙②
【　到達目標　】
手紙の書き方について一層の理解を深める。
【授業時間外学習】
模擬の手紙を書く。(4.0hr)

第６回　メール
【　到達目標　】
PCのeメールとケータイメールの使い分けについて理解するとともに、eメールのマナーと書き方の知識を深める。
【授業時間外学習】
模擬のeメールを書く。(4.0hr)

第７回　読書生活①
【　到達目標　】
・本の選び方と読み方を知る。
・書評を読み、本の批評方法について学ぶ。
・書誌情報について理解する。
【授業時間外学習】
教科書として指定された文庫を読む。(4.0hr)

第８回　読書生活②
【　到達目標　】
・書評の批評の特徴について考える。
・ネット書店の書評などの他の書評と教科書として読む文庫に取り挙げられた書評を比較する。
・批判的思考力を身に付ける。
【授業時間外学習】
教科書として指定された文庫を読む。(4.0hr)

第９回　読書生活③
【　到達目標　】
・教科書として指定された文庫を読み、書評を要約したり意見を持ったりし、批評的な観点を身につける。
・書評を分析する。
【授業時間外学習】
教科書として指定された文庫の書評を分析する。(4.0hr)

第10回　読書生活④
【　到達目標　】
・教科書として指定された文庫を読み、書評を要約したり意見を持ったりし、批評的な観点を身につける。
・教科書として指定された文庫の書評を分析する。
【授業時間外学習】
教科書として指定された文庫の書評を分析する。(4.0hr)

第11回　ビブリオバトル①
【　到達目標　】
・本の時内容を把握するとともに、内容の魅力の伝え方を構想し、ビブリオバトルの準備を行う。
【授業時間外学習】
ビブリオバトルを意識して、本を読む。(4.0hr)

第12回　ビブリオバトル②
【　到達目標　】
・グループごとにビブリオバトルを行い、本について情報を共有する。
【授業時間外学習】
ビブリオバトルを踏まえて、本の情報を加筆したり修正したりする。(4.0hr)

第13回　ビブリオバトル③
【　到達目標　】
・全体でビブリオバトルを行い、本について情報を共有する。
【授業時間外学習】
ビブリオバトルの記録を完成させる。(4.0hr)

第14回　ビブリオバトル④
【　到達目標　】
・全体でビブリオバトルを行い、本について情報を共有する。
・チャンプ本を選ぶ。
・ビブリオバトルを参考にして、書評の構想を練る。
【授業時間外学習】
書評の構想を基にして、書評の執筆をする。(4.0hr)

第15回　目標達成度確認・国語表現Ⅱへの課題
【　到達目標　】
自己評価により目標達成度を測り、国語表現Ⅱへの課題を確認する。
【授業時間外学習】
授業全体を振り返って、自己評価を行う。(4.0hr)

【学習上の留意点】

・毎授業の始めに、日本語検定試験の問題を使って解説の時間を設けるとともに、適宜、確認テストを行う。
・本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。
・新聞や文庫等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないので、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。
・不明な言葉をすぐに調べられるようにするため、国語辞典を持参すること。電子辞書でも構わない。

【教科書・参考書など】

教科書　：『10代のうちに本当に読んでほしい「この一冊」』、河出書房新社編集部編、河出文庫(河出書房新社)　税込713円
　　『高校生・大学生のための読書の教科書』(仮称/学事出版)　税込1,600円程度

【成績評価方法】

毎回の提出物40%・レポート課題30%・発表(ビブリオバトル等)20%・日本語検定確認テスト10%

科目名	英語Ⅰ（基礎）			担当者	加賀　岳彦・大和久吏恵 中村　大輔	
英文名	English Ⅰ (Elementary)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR107・DLR107・HLR107・CLR107		

【目的とねらい】

この授業では、英語の基礎を確認・再学習する。要点は、１）基本語彙を覚える、２）文法・発音の基礎を習得する、３）平易な英文・対話文でコミュニケーションができるようになる、の３点である。また受講生の必要に応じて、英語の学習法や英語になじむための活動も取り入れる。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーションおよびプレイスメントテストの実施
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。
受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。
自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。
【授業時間外学習】
試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)

第２回　英語学習上のポイント等の説明・英語基礎総合演習①
【　到達目標　】
プレイスメントテストの結果を踏まえて、基礎クラスの受講生に必要な学習上の工夫・ポイントを理解し、実践する。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第３回　英語基礎総合演習②
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第４回　英語基礎総合演習③
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第５回　英語基礎総合演習④
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第６回　英語基礎総合演習⑤
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第７回　英語基礎総合演習⑥
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第８回　英語基礎総合演習⑦
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第９回　英語基礎総合演習⑧
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第10回　英語基礎総合演習⑨
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第11回　英語基礎総合演習⑩
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第12回　英語基礎総合演習⑪
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第13回　英語基礎総合演習⑫
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第14回　英語基礎総合演習⑬
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第15回　英語基礎総合演習⑭
【　到達目標　】
基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。
【授業時間外学習】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

【学習上の留意点】

予習・復習を継続すること。
小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。

【教科書・参考書など】

各担当教員の指示に従うこと。
必要に応じて、随時指示する。
辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。

【成績評価方法】

原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。

科目名	英語Ⅰ（初級）			担当者	大和久吏恵・中村　大輔 篠原　結城	
英文名	English Ⅰ (Lower-Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR108・DLR108・HLR108・CLR108		

【目的とねらい】

この授業では、英語の基礎知識の復習・確認をしながら、日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・表現力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また受講生が自立的学習を行えるよう学習指導にも言及する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーションおよびプレイスメントテストの実施
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。
受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。
自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。
【授業時間外学習】
試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)

第２回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得①
【　到達目標　】
授業時間外学習の方法を把握する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第３回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得②
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第４回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得③
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第５回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得④
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第６回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑤
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第７回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑥
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第８回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑦
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第９回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑧
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第10回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑨
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第11回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑩
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第12回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑪
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第13回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑫
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第14回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑬
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第15回　基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑭
【　到達目標　】
既習事項を復習・確認する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

予習・復習を継続すること。
小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。

【教科書・参考書など】

各担当教員の指示に従うこと。
必要に応じて、随時指示する。
辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。

【成績評価方法】

原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。

科目名	英語Ⅰ（中級）			担当者	加賀　岳彦・大和久吏恵 中村　大輔	
英文名	English Ⅰ (Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR109・DLR109・HLR109・CLR109		

【目的とねらい】

この授業では、英語の基礎知識(語彙・文法・発音等)を踏まえて、コミュニケーションの実践および学術研究に発展していけるようになるための英語力の養成を図る。また受講生が自立的学習を行っていけるようになるための学習指導や、知識・視野を広げるための海外事情・国際教養にも言及する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーションおよびプレイスメントテストの実施
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。
受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。
自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。
【授業時間外学習】
試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)

第２回　Introduction　英語総合演習①
【　到達目標　】
受講にあたっての留意点・学習の進め方を理解する。
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第３回　英語総合演習②
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第４回　英語総合演習③
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第５回　英語総合演習④
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第６回　英語総合演習⑤
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第７回　英語総合演習⑥
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第８回　英語総合演習⑦
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第９回　英語総合演習⑧
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第10回　英語総合演習⑨
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第11回　英語総合演習⑩
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第12回　英語総合演習⑪
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第13回　英語総合演習⑫
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第14回　英語総合演習⑬
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第15回　英語総合演習⑭
【　到達目標　】
日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。
【授業時間外学習】
授業内容の復習に取り組む。(4.0hr)

【学習上の留意点】

予習・復習を継続すること。
小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。

【教科書・参考書など】

各担当教員の指示に従うこと。
必要に応じて、随時指示する。
辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。

【成績評価方法】

原則として、平常授業での課題を40%、試験の結果を60%として評価する。

科目名	英語Ⅱ（基礎）			担当者	加賀　岳彦・大和久吏恵 中村　大輔	
英文名	English Ⅱ (Elementary)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR110・DLR110・HLR110・CLR110		

【目的とねらい】

この授業では、「英語Ⅰ（基礎）」を踏まえて、さらに英語の基礎全般を確認・再学習し、コミュニケーション力の向上を図る。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業説明および英語総合演習①

【　到達目標　】

授業の目標・内容・計画を確認する。
受講生各自が、自己の英語学習の改善点を意識し、自立的学習を行っていけるよう方向づけを行う。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第２回　英語総合演習②

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第３回　英語総合演習③

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第４回　英語総合演習④

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第５回　英語総合演習⑤

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第６回　英語総合演習⑥

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第７回　英語総合演習⑦

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第８回　英語総合演習⑧

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第９回　英語総合演習⑨

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第10回　英語総合演習⑩

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第11回　英語総合演習⑪

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第12回　英語総合演習⑫

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第13回　英語総合演習⑬

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第14回　英語総合演習⑭

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第15回　英語総合演習⑮

【　到達目標　】

受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。
各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。

【授業時間外学習】

授業で学んだ事項の復習を行う。(4.0hr)

【学習上の留意点】

予習・復習を継続すること。
小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。

【教科書・参考書など】

各担当教員の指示に従うこと。
必要に応じて、随時指示する。
辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。

【成績評価方法】

原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。

科目名	英語Ⅱ（初級）			担当者	大和久吏恵・中村　大輔 篠原　結城	
英文名	English Ⅱ (Lower-Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR111・DLR111・HLR111・CLR111		

【目的とねらい】

この授業では、「英語Ⅰ（初級）」を踏まえ、さらに日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また受講生が自立的学習を継続できるよう、引き続き学習指導にも言及する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　イントロダクション・英語運用能力の習得、読解力の向上①
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の内容と目標を確認する。
授業時間外学習の方法を振り返り、継続・改善する点を把握する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第２回　英語運用能力の習得、読解力の向上②
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第３回　英語運用能力の習得、読解力の向上③
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第４回　英語運用能力の習得、読解力の向上④
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第５回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑤
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第６回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑥
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第７回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑦
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第８回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑧
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第９回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑨
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第10回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑩
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第11回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑪
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第12回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑫
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第13回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑬
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第14回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑭
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第15回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑮
【　到達目標　】
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
精読を通して読解力を向上させる。
各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、今後も自立的学習を継続させる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

予習・復習を継続すること。
小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。

【教科書・参考書など】

各担当教員の指示に従うこと。
必要に応じて、随時指示する。
辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。

【成績評価方法】

原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。

科目名	英語Ⅱ（中級）			担当者	加賀　岳彦・大和久吏恵 中村　大輔	
英文名	English Ⅱ (Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR112・DLR112・HLR112・CLR112		

【目的とねらい】

この授業では、「英語Ⅰ（中級）」を踏まえて、英語のコミュニケーションの実践および英語を用いた学術研究に発展していけるようになるための英語力の養成を図る。

【授業内容・到達目標など】

第１回　Introduction 英語演習①
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第２回　英語演習②
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第３回　英語演習③
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第４回　英語演習④
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第５回　英語演習⑤
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第６回　英語演習⑥
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第７回　英語演習⑦
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第８回　英語演習⑧
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第９回　英語演習⑨
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第10回　英語演習⑩
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第11回　英語演習⑪
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第12回　英語演習⑫
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第13回　英語演習⑬
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第14回　英語演習⑭
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第15回　英語演習⑮
【　到達目標　】
英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。
各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。
【授業時間外学習】
授業内容の復習に取り組む。(4.0hr)

【学習上の留意点】

予習・復習を継続すること。
小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。

【教科書・参考書など】

各担当教員の指示に従うこと。
必要に応じて、随時指示する。
辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。

【成績評価方法】

原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。

科 目 名	国語表現Ⅱ			担当者	高橋　良久・石元みさと 並木真理子	
英 文 名	Japanese Composition and Rhetoric Ⅱ					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR201・DLR201・HLR201・CLR201		

【目的とねらい】

国語表現Ⅰで培った言語力やコミュニケーション能力の基礎的・基本的な知識を基に、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力の一層の伸長を図るとともに、アカデミック・ライティングについての学びを深める。

新聞やインターネットを活用し、メディア・リテラシーや情報リテラシーを身につける。さらには、新書を読む読書力を養い、質的研究法で用いられるインタビューなど、自身が体験したことの言語化に取り組む。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション（授業概要理解・学習目標設定）
【　到達目標　】
国語表現Ⅰでの学習を振り返り、各自が学習目標を設定する。

【授業時間外学習】
興味や関心のある新聞記事を探す。(4.0hr)

第２回　新聞を活用した意見の構築①
【　到達目標　】
新聞を活用した情報収集を行うとともに、討議などにより自己の意見を組み立てる。また、クリティカルに社会事象をとらえて文章等にまとめる。

【授業時間外学習】
記事を要約する。(4.0hr)

第３回　新聞を活用した意見の構築②
【　到達目標　】
新聞を活用した情報収集を行うとともに、討議などにより自己の意見を組み立てる。また、クリティカルに社会事象をとらえて文章等にまとめる。

【授業時間外学習】
討議の内容を整理し、要約する。(4.0hr)

第４回　新聞を活用した意見の構築③
【　到達目標　】
新聞を活用した情報収集を行うとともに、討議などにより自己の意見を組み立てる。また、クリティカルに社会事象をとらえて文章等にまとめる。

【授業時間外学習】
記事をもとにして、意見文を書く。(4.0hr)

第５回　アカデミック・ライティングの基礎①
【　到達目標　】
文章構成や批判的な読み方、ディスカッション等を通して意見文を書き、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。

【授業時間外学習】
意見文を書く。(4.0hr)

第６回　アカデミック・ライティングの基礎②
【　到達目標　】
文章構成や批判的な読み方、ディスカッション等を通して意見文を書き、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。

【授業時間外学習】
意見文を書く。(4.0hr)

第７回　アカデミック・ライティングの基礎③
【　到達目標　】
文章構成や批判的な読み方、ディスカッション等を通して意見文を書き、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。

【授業時間外学習】
本を読み、要約などをする。(4.0hr)

第８回　本から学ぶ①
【　到達目標　】
・新書の読み方を知る。
・本の選び方と読み方を知る。
・インタビューを読み、インタビューの文章の特性を理解する。
【授業時間外学習】
教科書として指定された新書を読む。(4.0hr)

第９回　本から学ぶ②
【　到達目標　】
・書誌情報を知る。
・インタビューを読み、インタビューの文章の特性を理解する。

【授業時間外学習】
教科書として指定された新書を読む。(4.0hr)

第10回　本から学ぶ③
【　到達目標　】
新書等に親しみ、目的に応じた読書の方法を理解する。また、要約力や批評力を培うことを通して、読書力を身につけるとともに、自ら主体的に読書をする能力・態度を養う。

【授業時間外学習】
本を読み、要約などをまとめる。(4.0hr)

第11回　本から学ぶ④
【　到達目標　】
新書等に親しみ、目的に応じた読書の方法を理解する。また、要約力や批評力を培うことを通して、読書力を身につけるとともに、自ら主体的に読書をする能力・態度を養う。

【授業時間外学習】
本を読み、要約などをまとめる。(4.0hr)

第12回　インタビューを書く①
【　到達目標　】
インタビューのまとめ方について理解するとともに、インタビュー方法の学習を踏まえ、自己を深く見つめて、インタビューをして文章に適切にまとめる。

【授業時間外学習】
インタビューのまとめ方の構想を練る。(4.0hr)

第13回　インタビューを書く②
【　到達目標　】
インタビューのまとめ方について理解するとともに、インタビュー方法の学習を踏まえ、自己を深く見つめて、インタビューをして文章に適切にまとめる。

【授業時間外学習】
インタビューを完成させる。(4.0hr)

第14回　インタビューを読み合う
【　到達目標　】
完成したインタビューを読み合い、入念に推敲した上で、より適切な文章に修正する。

【授業時間外学習】
推敲して修正したインタビューの文章を見直す。(4.0hr)

第15回　目標達成度確認・今後の言語生活に向けて
【　到達目標　】
自己評価により目標達成度を測り、今後の言語生活に対する見通しを持つ。

【授業時間外学習】
授業全体を振り返って、自己評価を行う。(4.0hr)

【学習上の留意点】

・本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。
・新聞や新書等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないので、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。
・不明な言葉をすぐに調べられるようにするため、国語辞典を持参すること。電子辞書でも構わない。

【教科書・参考書など】

教科書　：初回の授業で指定する
参考書1　：『日本語検定公式練習問題集改訂版 3級』日本語検定委員会編(東京書籍)
参考書2　：『聞く力』阿川佐和子著(文春新書)

【成績評価方法】

毎回の提出物40%・発表20%・課題40%

科目名	栄養学入門			担当者	古泉　佳代・大村　恵利	
英文名	Primary Nutrition					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE101・DLE101・HLE101・CLE101		

【目的とねらい】

食生活は心身の健康と密接な関わりがあり、そのバランスや豊かさが生活の安定に直結する。特に幼少期からの食生活習慣の形成は、そのあとに続く成人期、高齢期の生活と健康に重要な意味を持ち、また、食は心の健康や社会生活にも大きな影響を及ぼす。

本授業では、栄養に関する基本的な知識を学ぶことを目的とし、「正しく食べる」ことの意味とその影響について考え、受講生自身の食生活への意識、行動も高めることをねらいとする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス・食生活と社会環境

【　到達目標　】

(1)自分の食生活を振り返り、食べることについて考えることができる。

(2)食生活は色々な環境が関係していることに気付く。

【授業時間外学習】

毎日の食事から食生活を振り返り、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第２回　食を取り巻く環境の変化

【　到達目標　】

(1)フードシステムの複雑化にともなって生じている食生活の課題を認識する。

【授業時間外学習】

食に関するニュースを検索し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第３回　食料の供給と課題

【　到達目標　】

(1)食料自給率の低下とその背景を理解する。

(2)農業再生に向けた取組みの現状を把握する。

【授業時間外学習】

フードロスに関するニュースを検索し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第４回　食品の安全性①食中毒・リスク分析

【　到達目標　】

(1)食品由来の危害要因と健康へのリスクについて理解する。

(2)食中毒とその危害要因、食中毒の予防について知識を得て行動できるようにする。

(3)リスク分析の考え方と3つの構成要素について理解する。

【授業時間外学習】

食中毒予防を実践し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第５回　食品の安全性②食品の安全性を確保するための制度

【　到達目標　】

(1)わが国の食品の安全性を確保するための法律と制度について知る。

(2)食品の容器・包装の表示を読み、表示の役割について考えることができる。

【授業時間外学習】

教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第６回　食生活と健康①食物と栄養（栄養バランス）

【　到達目標　】

(1)栄養バランスの評価方法を理解し、栄養バランスの良い食事を考えることができる。

【授業時間外学習】

教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第７回　食生活と健康②炭水化物

【　到達目標　】

(1)炭水化物の代謝を理解することができる。

(2)炭水化物の種類を理解することができる。

【授業時間外学習】

教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第８回　食生活と健康③食物と栄養（脂質）

【　到達目標　】

(1)脂質の種類、体内での働き及び代謝を理解する。

【授業時間外学習】

教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第９回　食生活と健康⑧食生活と健康

【　到達目標　】

(1)青年期の食生活と健康との関わりについて理解する。

(2)エネルギーバランスからウエイトコントロールを考えることができる。

【授業時間外学習】

教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第10回　食生活と健康⑥たんぱく質

【　到達目標　】

(1)たんぱく質の消化吸収を理解できる。

(2)たんぱく質の摂取方法について考えることができる。

【授業時間外学習】

教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第11回　食生活と健康⑦ビタミン・ミネラル・水

【　到達目標　】

(1)ビタミン・ミネラルについて理解する。

(2)体内の水の出納を理解する。

【授業時間外学習】

教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第12回　食生活と健康⑨食の情報を読み解くリテラシー・飲み物の糖度

【　到達目標　】(1)食情報のリテラシーの重要性について理解する。

(2)「健康食品」の表示の実態を知り、問題点について指摘できるようにする。

(3)飲み物の糖度について理解できる。

(4)糖質の摂取方法について考えることができる。

【授業時間外学習】

健康によい根拠は何かを考え、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第13回　食生活と文化①食物のおいしさ

【　到達目標　】

(1)おいしさの要因や味わい教育、おいしさの表現方法について知る。

(2)おいしさの要因を理解することができる。

【授業時間外学習】

教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第14回　食生活と文化②日本の食文化・共食の現代的課題

【　到達目標　】

(1)自然環境と歴史のなかで、日本食文化がどのように形成されたかを理解できる。

(2)共食の意義と家族や地域における共食の歴史変遷を知り、有効的な活用について考えることができる。

【授業時間外学習】

教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第15回　食育とフード・リテラシー

【　到達目標　】

(1)わが国における食育の推進について、現状と課題を理解できる。

(2)フード・リテラシーとは何か、自分らしい「食」を実現し、「食」を楽しむために、どのようなリテラシーが必要か考えることができる。

【授業時間外学習】

教科書を見直しながら、フード・リテラシーを生かした食生活を実践する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

パワーポイントを用いて講義の要点を示し、口頭で詳細を説明する。教科書で単語や事例を確認しながら理解を深めていく。本講義を理解するためには、自分自身の食生活を振り返りながら、受講することが大切である。また、授業内で学生同士のディスカッションや食体験を取り入れるため、自分だけなく他者の食生活にも興味を持ちながら受講することも大切である。講義内容に関する理解度確認テストを実施し、理解度の確認を行う。

【教科書・参考書など】

教科書　編著者　金子佳代子・松島悦子「白熱教室　食生活を考える」　(アイ・ケイコーポレーション出版)

参考資料は、適宜配布する。

【成績評価方法】

期末テスト達成度（80%）、レポート（20%）。なお、試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	生理・生化学入門			担当者	大　澤　拓　也	
英文名	Introduction to Human Physiology and Biochemistry					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE102・DLE102・HLE102・CLE102		

【目的とねらい】

健康科学およびスポーツ科学を学ぶために最低限必要と思われる生理学・生化学的な基礎知識を学習する。また、身体運動や環境の変化に対する生理的な適応およびそのメカニズムを理解する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション・概論
【　到達目標　】
授業の進め方、生理学・生化学の学問領域を理解する。
日常生活やスポーツの場面でよく観察される生理応答について考え、その機能を理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第２回　筋 (1)
【　到達目標　】
筋の種類・微細構造、筋収縮様式を理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第３回　筋 (2)
【　到達目標　】
骨格筋の損傷・疲労・トレーニングによる変化を理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第４回　神経
【　到達目標　】
運動による中枢・末梢神経系の応答、反射について理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第５回　呼吸 (1)
【　到達目標　】
呼吸器系の構造・機能、酸素輸送について理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第６回　呼吸 (2)
【　到達目標　】
最大酸素摂取量の意味・有用性・測定法について理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第７回　循環 (1)
【　到達目標　】
心臓・血管系の構造と機能を理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第８回　循環 (2)
【　到達目標　】
自律神経系による循環機能の調節を理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第９回　エネルギー代謝
【　到達目標　】
3つのエネルギー産生機構について理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第10回　ホルモン
【　到達目標　】
運動に伴うホルモン応答とその作用について理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第11回　血液
【　到達目標　】
血液の成分・役割・運動による変化について理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第12回　骨
【　到達目標　】
骨の構造・代謝・測定法について理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第13回　脂肪
【　到達目標　】
脂肪の種類・代謝・測定法について理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第14回　環境生理
【　到達目標　】
暑熱・低酸素・無重力環境に対する身体の適応を理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第15回　運動時における生理応答
【　到達目標　】
実際の運動時に生じる様々な生理学・生化学的変化の相互作用を理解する。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

【学習上の留意点】

パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。本講義の理解のためには、講義内容を各自の運動経験や専門スポーツ種目に置き換え、具体例を思い浮かべることが大切である。講義終了時にレポート作成、および翌回講義開始時に小テストを行う。その後の講義内において、これらのフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

特定の教科書・参考書を準備する必要はない。ただし、図書館等で借りられる「運動生理学」「生化学」「解剖学」に関する書籍を参考にすることは講義の理解を深める。

【成績評価方法】

授業内での発言、小テスト、レポートを20%、筆記試験の結果（試験は試験期間中に別途実施）を80%として総合的に評価する。

科目名	近現代史入門			担当者	山　本　唯　人	
英文名	Introductory Course to the Modern Japanese History					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE103・DLE103・HLE103・CLE103		

【目的とねらい】

東京から見る日本近現代史/みなさんにとって「いま」とはいつからのことですか？なぜ、そう思うのですか？歴史を学ぶとはこの質問への自分なりの答えを、いま、見ることのできる資料に照らして確かめていくことです。答えはひとによって違います。この講義を受講されるみなさんは、年表を覚えることが歴史だという発想を、まず捨ててください。以上の問いを共有しつつ、明治、大正、昭和、平成にいたる日本の近現代史を、身近な街・東京を題材に初歩から学んでいきます。上の質問について、考えてきてください。

【授業内容・到達目標など】

第１回　イントロダクション
【　到達目標　】
幕末開国から現在まで。歴史がどう流れてきたかを概観し、この講義でどこを、どのように学んでいくかを説明します。評価方法などについても説明するので受講を希望する方は必ず出席してください。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第２回　東京の誕生
【　到達目標　】
そもそも「東京」とはいつごろ、どのように成立したのか。これまでの研究から確認していきます。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第３回　開国と文化変容（1）　横浜居留地
【　到達目標　】
幕末開港は日本社会に大きな影響を与えます。その影響を外国に開かれた「窓」、居留地の風景から探ります。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第４回　開国と文化変容（2）　築地居留地
【　到達目標　】
第3回の続編として、東京に開かれた築地居留地について見ていきます。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第５回　街頭空間の成立（1）　パリの都市計画
【　到達目標　】
東京が成立した時代、世界の都市で大きな街づくりが進められていました。東京のまちづくりを見る前に、その参考の一つになった19世紀パリの都市計画を見ます。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第６回　街頭空間の成立（2）　商店街の形成、市区改正
【　到達目標　】
多くのひとが「都会らしさ」を感じる場所とは、不特定多数のひとが入り乱れる「街頭」である場合が多いです。こうした「街頭」空間の多くは「東京」になって初めて生まれたものです。その一つとして商店街の形成を扱います。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第７回　街頭空間の成立（3）　新宿御苑
【　到達目標　】
特殊な街頭空間のひとつに公園やオープンスペースがあります。戦前までは皇室の所有であり戦後になって一般市民に開放された新宿御苑の成り立ちをたどります。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第８回　街頭空間の成立（4）　自由民権、帝国議会、東京市役所
【　到達目標　】
街頭空間は単なる交通や商業の場所ではなく、政治の舞台でもありました。日本に「議会」を成立させる原動力になった自由民権運動を都市の「街頭」を舞台にした言論活動という視点から見ます。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第９回　街頭の民主主義（1）　日露戦争、日比谷焼き打ち事件
【　到達目標　】
明治の後期から大正時代にかけては、都市の街頭に多くのひとびとが繰り出して自らの主張を訴える様々な行動が行われた時代でした。そうしたひとびとの行動を「街頭の民主主義」という視点から見つめ直します。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第10回　街頭の民主主義（2）　第一次世界大戦、米騒動、普通選挙
【　到達目標　】
第9回の続編です。街頭におけるひとびとの行動が、「普通選挙」の仕組みを生み出すというかたちで、現代にその遺産をもたらしていることを見ていきます。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第11回　関東大震災と「大東京」の時代
【　到達目標　】
関東大震災と東京大空襲というふたつの災害を通じて、それまでの東京のまちなみは大きく変わっていきます。第11回は関東大震災とその復興のなかであらわれた「大東京」のまちなみを見ます。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第12回　東京大空襲と東京の復興
【　到達目標　】
第11回の続編として、東京大空襲と戦後の復興を扱います。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第13回　バブル期の都市政治（1）
【　到達目標　】
「バブルの時代」は現代に続く東京の再開発がはじまった時代でもありました。
「バブルの時代」とは何だったのか？東京の再開発を軸に探っていきます。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第14回　バブル期の再開発（2）
【　到達目標　】
第13回の続編です。バブルの崩壊から現在までを展望します。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第15回　おわりに―オリンピック前／後のはざまに
【　到達目標　】
最後に「いま」の時代をふりかえります。ここまで歴史を学んだみなさんには「いま」をより確かに把握することができることでしょう。いまの東京を、つまり「わたしたち」の未来を考えて、講義全体をまとめます。
【授業時間外学習】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

【学習上の留意点】

聞く、考える、書くをもう一つのテーマとして授業をすすめます。毎回の授業で提供されるテーマについて、その場で集中的に聞き、考え、その結果を書き、表現するトレーニングを重ねます。授業のはじめに前回の話題をフィードバックし、ふりかえりの時間を持つので、その時間にこれまでの学習をふりかえってください。入門の講義なので予備知識はいりません。「歴史」「東京」などのテーマに関心のあるみなさんの参加を歓迎します。

【教科書・参考書など】

教科書は特にありません。毎回資料を配ります。参考書は随時教えます。

【成績評価方法】

2回のミニレポートと期末レポートで評価します。ミニレポート40%（1回20%）、期末レポート60%で評価します。

科目名	人間心理の理解			担当者	三　好　昭　子	
英文名	Personality Psychology					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE104・DLE104・HLE104・CLE104		

【目的とねらい】

本講義は、人間の心と行動について多面的にとらえ、理解することができるようになることを目的とする。まずは人間が物理的世界をどのように主観的にとらえているのかを理解する。それぞれ主観的な世界をもつ人間が、他者や自分自身といった人間の心をどのようにとらえているのだろうか。それについて考えることを可能にするため、パーソナリティや知能といった漠然とした目に見えないものの見方を幅広く修得する。対人場面での実践的な問題を通して人間心理の多様性を理解し、他者理解とともに自己洞察を深めることを目的としている。

【授業内容・到達目標など】

第１回　感覚・知覚
【　到達目標　】
(1)人間が外界をどのように知覚するかを理解する。
(2)同じものを見ても見え方が異なることを理解する。
(3)心理的世界と物理的世界との関連を理解する。
【授業時間外学習】
人間の知覚についての理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第２回　感情・情動
【　到達目標　】
(1)どのようにして感情を感じるのかを理解する。
(2)表情の読み取りについて理解する。
【授業時間外学習】
感情の起源と表情の読み取りに関する課題を行う。(4.0hr)

第３回　対人認知・印象形成
【　到達目標　】
(1)対人認知について理解する。
(2)印象形成について理解する。
【授業時間外学習】
対人認知と印象形成の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第４回　態度変容
【　到達目標　】
(1)態度変容に影響を与える要因について理解する。
(2)態度変容をうながすテクニックが悪用される危険性について理解する。
【授業時間外学習】
態度変容に関する課題を行う。(4.0hr)

第５回　恋愛
【　到達目標　】
(1)恋愛に関する社会心理学的研究について理解する。
(2)恋愛のタイプ分けテストに基づき自己分析する。
【授業時間外学習】
恋愛の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第６回　グループダイナミクス（集団力学）
【　到達目標　】
(1)向社会的行動（思いやり）について理解する。
(2)他者への同調・服従について理解する。
(3)他者への同調・服従がまねく危険性について考える。
【授業時間外学習】
向社会的行動や同調・服従の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第７回　パーソナリティ①類型論
【　到達目標　】
(1)クレッチマーの類型論について理解する。
(2)ユングの類型論によるタイプ分けテストに基づき自己分析する。
【授業時間外学習】
類型論の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第８回　パーソナリティ②特性論
【　到達目標　】
(1)共通特性について理解する。
(2)ギルフォードの特性論について理解する。
(3)Big Fiveについて理解する。
【授業時間外学習】
特性論の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第９回　パーソナリティ③構造論
【　到達目標　】
(1)フロイトの構造論について理解する。
(2)レヴィンの構造論について理解する。
【授業時間外学習】
構造論の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第10回　防衛機制に基づく個人差と無意識による自己理解
【　到達目標　】
(1)防衛機制に基づく個人差について理解する。
(2)投影法を実施し、自己分析する。
【授業時間外学習】
防衛機制に基づく個人差と投影法の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第11回　知能とは何か
【　到達目標　】
(1)知能の定義について理解する。
(2)知能テストについて理解する。
【授業時間外学習】
知能と知能テストの理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第12回　知能の発達
【　到達目標　】
(1)行動遺伝学について理解する。
(2)知能やパーソナリティに対する遺伝と環境の影響について理解する。
【授業時間外学習】
知能の発達に関する課題を行う。(4.0hr)

第13回　発達の可塑性
【　到達目標　】
(1)初期経験の重要性について理解する。
(2)社会的に剥奪された環境からの社会復帰について考える。
【授業時間外学習】
発達の可塑性についての理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第14回　健康なパーソナリティ
【　到達目標　】
(1)健康なパーソナリティについて理解する。
(2)ストレスへの対処について理解する。
【授業時間外学習】
健康なパーソナリティの理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第15回　自己実現
【　到達目標　】
(1)パーソナリティの変容について理解する。
(2)なりたい自分について考える。
【授業時間外学習】
自己実現の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義ではパワーポイントを使用し、資料を毎回配布する。受講者は講義を聞きながらメモを取り、自分なりのノートを作成する。授業の中で、心理テストを行ったり、グループでロールプレイやディスカッションを行うことがある。自己理解に役立てるためにも積極的に取り組むことが望まれる。毎回、講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするための課題を出す。課題を通して、分かったこと、分からなかったことを明確にし、知識を整理することが必要である。課題の内容は期末テストと対応しているので、しっかり復習すること。次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。
参考書：『心理学 こころと行動のメカニズムを探る』越智啓太・著（樹村房　2012）

【成績評価方法】

課題の提出30%、期末テスト（試験は試験期間中に別途実施）を70%として評価する。

科目名	ボランティア活動論			担当者	山田亜沙妃	
英文名	Citizenship Education					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE105・DLE105・HLE105・CLE105		

【目的とねらい】

2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2021年のワールドマスターズゲームズ2021関西を控え、大会の成否に影響を与えると言われるボランティアの存在に注目が集まっている。本講義では、各分野で活動している実践者からの現場の生の声を通して、実際にボランティア活動を体験しながら、現代社会におけるボランティア活動の意義を考察することを目的とする。授業履修後も継続的にボランティア活動に参加し、自らの専門性や力量を市民参加や社会貢献に結び付けていくことが、本講義の最終的なねらいである。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション（趣旨、学習の進め方）
【　到達目標　】
(1)「ボランティア活動論」の全体の流れを把握する。
(2)自分の学習目標を決める。

【授業時間外学習】
自分の学習目標を決める。（4.0hr）

第２回　ボランティア活動の役割と背景
【　到達目標　】
(1)ボランティア活動の果たす役割を理解する。
(2)ボランティア活動を重視する背景を理解する。

【授業時間外学習】
ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)

第３回　ボランティア活動事例の紹介（１）（講話）
【　到達目標　】
(1)ボランティア活動のいくつかの活動分野を知る。
(2)ボランティア活動事例を、自分の活動に役立てる。

【授業時間外学習】
ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)

第４回　スポーツボランティア活動の基礎知識
【　到達目標　】
(1)スポーツボランティアの定義と分類、具体的なスポーツボランティア活動を知る。
(2)スポーツボランティアの現状と課題を理解する。

【授業時間外学習】
ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)

第５回　スポーツイベントやプログラム
【　到達目標　】
(1)スポーツイベントの分類、効果について理解を深める。
(2)今後のスポーツイベントのあり方を探り、各イベントにおけるボランティア規模を知る。

【授業時間外学習】
ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)

第６回　スポーツイベントボランティア
【　到達目標　】
(1)大規模スポーツイベントにおけるボランティアの活動を理解する。
(2)スポーツイベントボランティア活動事例を知り、自分の活動に役立てる。

【授業時間外学習】
ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)

第７回 ボランティア活動事例の紹介（２）（講話）
【　到達目標　】
(1)ボランティア活動のいくつかの活動分野を知る。
(2)ボランティア活動事例を、自分の活動に役立てる。

【授業時間外学習】
ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)

第８回　海外のスポーツボランティア
【　到達目標　】
(1)海外のスポーツボランティアの取り組みについて理解する。
(2)海外の事例をもとに、日本のスポーツボランティアのあり方を考える。

【授業時間外学習】
ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)

第９回　ボランティア活動の歴史
【　到達目標　】
(1)世界におけるボランティア活動の歴史を理解する。
(2)ボランティア思想の発展史を理解する。

【授業時間外学習】
ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)

第10回　ボランティア活動事例の紹介（３）（講話）
【　到達目標　】
(1)ボランティア活動のいくつかの活動分野を知る。
(2)ボランティア活動事例を、自分の活動に役立てる。

【授業時間外学習】
ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)

第11回　大学の地域貢献
【　到達目標　】
(1)大学で学ぶ専門性を地域のために活かす方策を考える。
(2)自らの市民参加や社会貢献に結び付けて考察する。

【授業時間外学習】
ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)

第12回　ボランティア活動体験と報告（１）
【　到達目標　】
(1)ボランティア活動を実際に体験する。
(2)自分のボランティア活動を振り返り検証し、報告を行う。

【授業時間外学習】
ボランティア活動を実際に体験する。(4.0hr)

第13回　ボランティア活動体験と報告（２）
【　到達目標　】
(1)ボランティア活動を実際に体験する。
(2)自分のボランティア活動を振り返り検証し、報告を行う。

【授業時間外学習】
ボランティア活動を実際に体験する。(4.0hr)

第14回　ボランティア活動体験と報告（３）
【　到達目標　】
(1)ボランティア活動を実際に体験する。
(2)自分のボランティア活動を振り返り検証し、報告を行う。

【授業時間外学習】
ボランティア活動を実際に体験する。(4.0hr)

第15回　ボランティア活動レポートの作成・提出
【　到達目標　】
(1)授業内容とボランティア活動体験をふまえ、ボランティア活動レポートを作成する。

【授業時間外学習】
ボランティア活動レポートを作成する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

ボランティア活動計画書の作成、ボランティア活動体験、プレゼンテーション、活動レポートの作成（2400字以上）を行う。

【教科書・参考書など】

資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。

【成績評価方法】

各回の授業時での課題50%、ボランティア活動レポート50%として評価する。

科目名	日常生活の社会学			担当者	田　北　康　成	
英文名	Introductory Sociology					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE106・DLE106・HLE106・CLE106		

【目的とねらい】

私たちの日常生活が複雑さを増す中で何が本当に大切かを見分ける知性が求められている。学校、家族、友人関係など日常生活の経験を糸口にして社会学とはどんな考え方をする学問であるのかを学んでいく。また社会調査という実証の方法についても学ぶ。実際にそれを活かして日常生活を検証してみる。社会学的思考は、自分の生き方の自由度を広げていくための知的なアイテムとして有効なことを実感していただければと思う。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
(1)本講義の方針、評価方法の説明、履修予定者の状況を把握する。
(2)領域を超えて横断的に物事を捉える習慣、そこで何が語られないかと考える習慣を身につける。
【授業時間外学習】
予習課題：「日本」という国の好きなところ、きらいなところを考えておく。(4.0hr)

第２回　社会学はどのような考え方をするのか(1)
【　到達目標　】
(1)身の回りの「あたりまえ」を疑い、別の視点からも捉え直して考える習慣を身につける。
(2)日常生活が世界とどこまで、どのように繋がっているかを想像できるようにする。
【授業時間外学習】
予習課題：「スマホ」「インターネット」に頼らない旅行計画を立ててみる。(4.0hr)

第３回　社会学はどのような考え方をするのか(2)
【　到達目標　】
(1)学問的な「問い」と「答え」を導き出す方法を知る。
(2)社会学の実証研究の方法として量的調査、質的調査共に様々なアプローチがあることを学ぶ。
【授業時間外学習】
予習課題：次に食べに行きたい「おいしい店」を探しておく。(4.0hr)

第４回　人が持っているバイアスを考える（1）エスニシティ
【　到達目標　】
(1)「日本」という国に住んでいることのバイアスを考えてみる。
(2)「想像の共同体」という概念を覚え、自国中心の観点について客観的に考えられるようにする。
【授業時間外学習】
予習課題：行ってみたい、住んでみたい国をその理由とともに考えておく。(4.0hr)

第５回　人が持っているバイアスを考える（２）ジェンダー
【　到達目標　】
(1)生物学的な区分と社会化の過程で作られるジェンダーの違いを学ぶ。
(2)さまざまな性のあり方が知られていく一方で、より固着化していく心理を読み解けるようにする。
【授業時間外学習】
予習課題：子どものときに読んだ絵本やマンガ、遊び方を調べておく。(4.0hr)

第６回　家族の役割について考える（１）
【　到達目標　】
(1)「家族」に対する理論的な分析枠組みを知ると共に、その機能を学ぶ。
(2)「家族」の制度がかかえる問題や課題を知り、将来、当事者として考えられるようにする。
【授業時間外学習】
予習課題：「夫婦別姓」についてどう思うか、その理由を考えておく。(4.0hr)

第７回　家族の役割について考える（２）
【　到達目標　】
(1)「家制度」の変化と現状、課題を知る。
(2)ライフステージの変化を捉え、家族の絆がどのような場面で必要かを考えられるようにする。
【授業時間外学習】
予習課題：自分の「お墓」について考えておく。(4.0hr)

第８回　人や地域コミュニティのネットワークをどう形成するか
【　到達目標　】
(1)「ゲマインシャフト」「ゲゼルシャフト」「中間集団」「コミュニティ」などの概念を学ぶ。
(2)コミュニティの繋がり、協力態勢について、主体的な居住者として考えられるようにする。
【授業時間外学習】予習課題：自分が住んでいる地区のゴミ集積所、避難場所、掲示板、広報誌を調べておく。(4.0hr)

第９回　多文化共生時代の「地域」の変革を探る
【　到達目標　】
(1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。
(2)人口減少社会における「労働力」「移民」について主体的に考えられるようにする。
【授業時間外学習】
予習課題：「絆」「助け合い」という言葉から連想することを考えておく。(4.0hr)

第10回　これからのライフステージを考える
【　到達目標　】
(1)ライフステージに伴う生活の変化を捉える。
(2)働き方に縛られない生活を把握し、将来、当事者として考えられるようにする。
【授業時間外学習】
予習課題：将来、どこに住みたいか、その理由とともに考えておく。(4.0hr)

第11回　働くことの意味を考える
【　到達目標　】
(1)「疎外された労働」、搾取、格差社会について理解する。
(2)労働条件の持つ意味を把握するとともに、「シャドウワーク」に支えられている労働がいかに身近にあるか考えられるようにする。
【授業時間外学習】
予習課題：家事労働は「いくら」もらえば満足するかを考えてみる。(4.0hr)

第12回　セーフティネットの持つ意味
【　到達目標　】
(1)「階級」「階層」「社会移動」について理解し、「格差」社会に起きていることを知る。
(2)「自己責任」論が跋扈し、セーフティネットが機能しにくい問題について考える。
【授業時間外学習】
予習課題：「生活保護」について自分の考えをまとめておく。(4.0hr)

第13回　「健康」「美容」を考える
【　到達目標　】
(1)「健康」や「美容」を過度なまでに強制する社会の圧力について理解する。
(2)「病」がつくられている現状について、医療社会学などの知見を得て、考えられるようにする。
【授業時間外学習】
予習課題：「ダイエット」や「サプリメント」について考えておく。(4.0hr)

第14回　中毒や依存症、医療について考える
【　到達目標　】
(1)タルコット・パーソンズの「病人役割」について把握する。
(2)グローバル化に伴う「リスク社会」に生きる中で、「病」と対策について考えられるようにする。
【授業時間外学習】
予習課題：自分の住んでいる場所の休日・深夜の医療体制を調べておく。(4.0hr)

第15回　全体のまとめと補論
【　到達目標　】
(1)「自由」「権利」とは何か、なぜ「秩序」が作られ、「逸脱行動」が非難されるかを考える。
(2)法規制の厳罰化や社会的制裁の強化がもたらす影響について考えられるようにし、難しい判断を迫られるような状況にも主体的に取り組むことができるようにする。
【授業時間外学習】
予習課題：許せない他人の癖や行動、ネット上の炎上事件などを調べておく。(4.0hr)

【学習上の留意点】

この授業は、社会学的な思考方法とそれに基づく現実の社会についての理解が求められている。それに加えて社会調査入門も兼ねている。ほぼ毎回、授業開始時に課題が用意されており、授業を受けたことにより考えた内容を問いかけるので、好奇心を持って主体的な参加をしてほしい。授業は板書、パワーポイント、書画カメラ、映像資料を複合的に使用するので、履修者が整理しやすいノート作りを自ら工夫してほしい。レスポンスシートの記述／質問内容については、紹介することにより、履修生全体の学修効果が見られるものについて、次の授業時に紹介したり、回答したりすることがある。

【教科書・参考書など】

教科書は不使用。
参考書は随時指示するが、下記の文献を事後学習に役立ててほしい。
①篠原清夫・栗田真樹編著（2016）『大学生のための社会学入門』晃洋書房、②田中正人編著（2019）『社会学用語図鑑』プレジデント社

【成績評価方法】

予習課題に連動した毎回のレスポンスシート（10%）と、授業を受けて発展的に学習したかどうか学期末のテスト（90%）との総合点で評価する。
(試験は試験期間中に別途実施する)

科目名	数と論理			担当者	水　野　有　希	
英文名	Arithmetic and Logic					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE107・DLE107・HLE107・CLE107		

【目的とねらい】

これまで学んできた数学の知見をおさらいし具体的な問題を解くことで、基本的な数学についての理解を深めます。数の計算、代数の基礎、いろいろな進法を学び、教員採用試験や企業の適性検査に頻繁に出題されている流水算、旅人算、年齢算などの手法や、集合、論理パズル、表や資料の読み取り方について学習します。社会人になってから求められる実務をこなす基礎能力を身につけ、課題解決に向けた論理的思考を習熟します。

【授業内容・到達目標など】

第１回　計算の基礎1、整数の基礎
【　到達目標　】
(1)四則算、計算の順序について復習する。
(2)約数と倍数について学ぶ。

【授業時間外学習】
授業時に実施した基礎問題の復習をする。(4.0hr)

第２回　計算の基礎2、平方根
【　到達目標　】
(1)正負、小数点、分数の計算について復習する。
(2)平方根の計算について学ぶ。

【授業時間外学習】
実数および平方根の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第３回　方程式
【　到達目標　】
(1)1次方程式、連立方程式について復習する。
(2)2次方程式について復習する。
(3)不等式について学ぶ。
【授業時間外学習】
方程式の公式および計算の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第４回　関数１
【　到達目標　】
(1)比例と反比例について学ぶ。
(2)1次関数について学ぶ。

【授業時間外学習】
1次関数の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第５回　関数2
【　到達目標　】
(1)2次関数について学ぶ。
(2)平方完成について学ぶ。

【授業時間外学習】
2次関数の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第６回　関数3
【　到達目標　】
(1)関数の領域（不等式）について学ぶ。
(2)関数の応用について学ぶ。

【授業時間外学習】
関数の領域（不等式）の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第７回　三角比
【　到達目標　】
(1)三角比について理解する。
(2)三角比の応用問題について学ぶ。

【授業時間外学習】
返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第８回　数列
【　到達目標　】
(1)等差数列、等比数列について理解する。
(2)数列の応用問題について学ぶ。

【授業時間外学習】
数列の公式および計算の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第９回　比と割合
【　到達目標　】
(1)比について復習する。
(2)利益算について学ぶ。
(3)濃度算について学ぶ。
【授業時間外学習】
百分率や歩合の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第10回　速さ
【　到達目標　】
(1)速さ、時間について復習する。
(2)通貨算、流水算について学習する。

【授業時間外学習】
速さの公式や計算の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第11回　特殊算
【　到達目標　】
(1)鶴亀算について復習する。
(2)集合算について理解する。

【授業時間外学習】
返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第12回　場合の数と確率
【　到達目標　】
(1)順列と組み合わせについて学ぶ。
(2)確率について学ぶ。

【授業時間外学習】
順列と組み合わせの公式および計算の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第13回　図形の基本
【　到達目標　】
(1)図形の性質について学ぶ。
(2)図形の体積と表面積について学ぶ。

【授業時間外学習】
図形の種類や計算式の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第14回　合同と相似
【　到達目標　】
(1)合同と相似について復習する。
(2)平行線と三角形を使った合同と相似の問題について学ぶ。

【授業時間外学習】
合同と相似の定義の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

第15回　命題と推論
【　到達目標　】
(1)命題とは何かを理解する。
(2)命題の真・偽について論理的に判断する方法を学ぶ。

【授業時間外学習】
命題の対偶について予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)

【学習上の留意点】

知識を固めるためには、実際に解いてみることが一番です。講義時間に15分位問題を解く時間をとります。すぐに答え合わせをするので、間違えた人は必ず復習をしてください。

【教科書・参考書など】

講義中に指示します。

【成績評価方法】

毎回行うミニ課題40%、期末試験60%（試験は試験期間中に別途実施）として評価します。ミニ課題は出された授業時間内で必ず提出して下さい。授業時間外の提出(翌週に出すことや、研究室に持ってくること)は、いかなる理由であっても認めません。

科目名	現代の倫理			担当者	宇多村俊介	
英文名	Ethics in Modern Life					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE108・DLE108・HLE108・CLE108		

【目的とねらい】

倫理学は古くかつ新しい学問分野です。古くは古代ギリシャにまで遡る歴史があり、いかに生きるべきかについて幾多の哲学者たちが連綿と考えつづけてきている点でいにしえの主題であり、また一方では、ますます混迷化の様相を呈する現代にあって、倫理的諸問題が過去のどの時代にもなかった諸条件のもとで現れている点でつねに新しい主題をなしています。この講義では、こうした裾野から私たちを取りまく具体的な問題を手掛かりに、いくつかの倫理学の基本概念と原則を検討し、現代の倫理的な問への視角を学びます。個々の論題に対し、各受講者が倫理学的に何が問題かを把握し、自ら考える端緒としてほしい。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション：倫理的な問い

【　到達目標　】

倫理的な問いのもつ特質を理解するとともに、自分の現状での思想傾向を把握する。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>に取り組む。(4.0hr)

第２回　「幸福」「善」とは何か

【　到達目標　】

倫理的な脈絡での「善・よい」を把握し、定義の構成を理解した上で善の定義を試み、それが開かれた(未決の)問であることを理解する。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第３回　普遍化可能性１：社会契約

【　到達目標　】

道徳規則が万人に対する要請として現れる仕組みと可能性を考察することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第４回　普遍化可能性２：自由意志

【　到達目標　】

自由をめぐる二つの考えを把握し、自由意志に基づく道徳的要請が成立する仕組みとその問題点を理解する。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第５回　普遍化可能性３：功利の原理(1)

【　到達目標　】

現代社会の行為原則として功利の原理のもつ特質とその倫理的含みを理解する。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第６回　功利の原理(2)：自由主義的な行為原則

【　到達目標　】

功利の原理が下敷きにする自由主義のはらむ問題点を、とくに自己決定権、他者危害の原則について考えることができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第７回　正義：自由と平等

【　到達目標　】

自由と平等が民主主義の二つの(別個の)伝統であることを把握し、格差（是正）原理を通してそれらの両立可能性について考えることができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第８回　自然と文明：道具的理性

【　到達目標　】

自然と人間、人間と文明がはらむ倫理的問題を、(道具的)理性の批判的検討を仲立ちにして理解する。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第９回　環境倫理：未来に対する責任

【　到達目標　】

現在の個および種としての行為が、未来の他者に及ぼす影響について考え、未来に対する責任を自覚することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第10回　情報化社会の倫理：情報時代と監視社会

【　到達目標　】

メディア文化の来歴を把握し、監視・管理社会にともなう倫理的な諸論題を理解して、その問題点を考えることができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第11回　生命倫理１：人間の尊厳

【　到達目標　】

生命倫理の基本概念を把握し、とくに安楽死をめぐる事案を通して現代医療で生じる諸論題の倫理的問題の所在を理解する。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第12回　生命倫理２：生殖医療

【　到達目標　】

テクノロジーの発達と介入によって生じる、生殖医療をめぐる倫理的問題の所在を理解する。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第13回　科学技術時代の倫理：科学者の社会的責任

【　到達目標　】

科学者の社会的責任論の類型を批判的に吟味することを通して、科学技術の来歴と特質がもつ倫理的含みを考えることができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第14回　倫理的相対主義

【　到達目標　】

倫理の相対主義の問題点を理解し、多元的社会での合意形成の可能性について考えることができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第15回　規範なき時代とニヒリズム

【　到達目標　】

残された、しかし重要な問題として、なぜ道徳的でなければならないか、その可能性を考えることができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

【学習上の留意点】

暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理するために、授業中に７～８回、ミニレポートを書き、提出してもらいます。これを除く各回、講義内容を踏まえた考察カードを書いてもらいます。とくに寸評を要する考察や疑問は翌週冒頭に取り上げ理解度を確認してもらいます。各回の主題に沿って原理的に考えることを要しますが、事例や具体的状況のなかで倫理的問題の所在がどこにあるのかをつかむには、知見を要する場合もあります。できるだけ歴史的・社会的背景の吸収・収集にも努めてください。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。

【成績評価方法】

課題ミニレポート40%、定期試験60%で成績を評価する。試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	日常生活の法律			担当者	中　村　安　菜	
英文名	Law in Everyday Life					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE109・DLE109・HLE109・CLE109		

【目的とねらい】

私たちが日常生活の中で実際に接する可能性の高い法律問題を選び、それらに関係する基本的な用語や制度を理解する。あわせて、法的問題を解決する場合に必要な思考方法をも身につけたい。

【授業内容・到達目標など】

第１回　私たちの日常生活に関わる様々なルールについて
【　到達目標　】
(1)私たちの日常生活には様々なルールが存在していることを理解する。
(2)様々なルールのなかで法律が持つ特性を理解する。

【授業時間外学習】
日本に存在している法律の数を調べる。(4.0hr)

第２回　アルバイトと法律①
【　到達目標　】
(1)契約について理解する。
(2)労働基準法の内容について理解する。

【授業時間外学習】
自分のアルバイトの契約内容について調べる。(4.0hr)

第３回　アルバイトと法律②
【　到達目標　】
(1)労働に関連する法的問題について理解する。
(2)ブラックアルバイトについて理解する。

【授業時間外学習】
ブラックバイトの具体的な事例を調べる。(4.0hr)

第４回　恋愛関係と法律①
【　到達目標　】
(1)恋愛関係による法的問題の存在を理解する。
(2)ストーカー規制法について理解する。

【授業時間外学習】
恋愛関係において発生する問題を調べる。(4.0hr)

第５回　恋愛関係と法律②
【　到達目標　】
(1)DV防止法について理解する。
(2)リベンジポルノ防止法について理解する。

【授業時間外学習】
2つの法律に関連する具体的な事件を調べる。(4.0hr)

第６回　家族と法律①
【　到達目標　】
(1)婚姻の成立と効果に関する法規定について理解する。
(2)家庭生活及び婚姻の解消に関する法制度について理解する。

【授業時間外学習】
結婚するために必要な手続について調べる。(4.0hr)

第７回　家族と法律②
【　到達目標　】
(1)親子関係の発生及び親子間の権利義務に関する法制度について理解する。
(2)養子に関する法制度について理解する。

【授業時間外学習】
親子関係不存在確認訴訟（2014年7月17日）に関する新聞記事をコピーする。(4.0hr)

第８回　無戸籍問題
【　到達目標　】
(1)無戸籍問題を理解する。
(2)無戸籍であることによって生じる不利益について理解する。

【授業時間外学習】
無戸籍問題に関する新聞記事を調べる。(4.0hr)

第９回　表現物と法律①
【　到達目標　】
(1)知的財産の種類について理解する。
(2)特許制度について理解する。

【授業時間外学習】
特許をとっている製品を調べる。(4.0hr)

第10回　表現物と法律②
【　到達目標　】
(1)著作権法について理解する。
(2)著作権法において規定されている諸権利について理解する。

【授業時間外学習】
著作権が問題となった事例を調べる。(4.0hr)

第11回　ペットの飼育と法律①
【　到達目標　】
(1)法律におけるペットの定義について理解する。
(2)ペットに関する諸法律の存在について理解する。

【授業時間外学習】
遺棄される動物の数を調べる。(4.0hr)

第12回　ペットの飼育と法律②
【　到達目標　】
(1)動物愛護管理法の内容について理解する。
(2)動物愛護管理法の改正と飼い主の責任について理解する。

【授業時間外学習】
動物愛護に関する具体的な社会的取り組みについて調べる。(4.0hr)

第13回　犯罪の取り調べと裁判の進め方
【　到達目標　】
(1)警察による取り調べに関する規定について理解する。
(2)起訴から判決までの流れについて理解する。

【授業時間外学習】
日本国内の地方裁判所・高等裁判所の数と所在地を調べる。(4.0hr)

第14回　試験と法律
【　到達目標　】
(1)偽計業務妨害罪について理解する。
(2)私文書偽造罪について理解する。

【授業時間外学習】
不正行為を禁止される理由について考える。(4.0hr)

第15回　日々の暮らしと法律
【　到達目標　】
(1)この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。

【授業時間外学習】
全体の授業を通して自分が関心をもった事項についてより深く調べ、まとめる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義をよく聴き、メモ・ノートをしっかりとること。講義において興味を持った事柄について、自らすすんで調べてみること。なお、授業内容の詳細は随時指示する。

【教科書・参考書など】

開講時に指示する。

【成績評価方法】

期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提です）。
試験は試験期間中に別途実施。

科目名	教養としての経済学			担当者	高　橋　信　勝	
英文名	Introductory Economics					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE110・DLE110・HLE110・CLE110		

【目的とねらい】

目的：市場経済社会を俯瞰できるように経済学の基礎理論を学び、経済学的思考の涵養を図る。
ねらい：この授業では、経済学の基礎理論をベースにして、私たちの生活にとって「政治」とともに係りを断つことができない「経済」について学ぶ。新聞の経済トピックの解説や問題演習を随時取り入れて、受講者の理解を深める。

【授業内容・到達目標など】

第１回　経済学への誘い（１）
【　到達目標　】
市場経済社会の成り立ちを知り、経済学を学ぶ意義を考える。
経済システムと経済問題、経済学の3つの部門（理論、歴史、政策）について学ぶ。
経済学の学問的特質を理解する。
【授業時間外学習】
経済学の偉人について調べる（ケネー）。(4.0hr)

第２回　経済学への誘い（２）
【　到達目標　】
希少性、機会費用、サンクコスト等を学ぶ。
経済学的思考が日常生活のなかで、どのように役立つのかを理解する。
【授業時間外学習】
経済学の偉人について調べる（スミス）。(4.0hr)

第３回　企業と経済
【　到達目標　】
企業とは何か、国民経済における企業の役割を学ぶ。
企業経営におけるイノベーションの必要性、企業間の競争の意義について理解する。
【授業時間外学習】
経済学の偉人について調べる（シュンペーター）。(4.0hr)

第４回　GDPと三面等価の原則
【　到達目標　】
ストックとフロー、GDP・GNI・NDP、三面等価の原則、経済成長、景気循環について学ぶ。
国民経済の数量的把握について理解する。
【授業時間外学習】
経済学の偉人について調べる（ケインズ）。(4.0hr)

第５回　中央銀行の機能と金融政策（１）
【　到達目標　】
貨幣とは何か、貨幣需要、貨幣供給について学ぶ。
中央銀行の機能と金融政策を学ぶ。
金融政策の枠組みについて理解する。
【授業時間外学習】
経済史の重要テーマについて調べる（イギリスの産業革命）。(4.0hr)

第６回　中央銀行の機能と金融政策（２）
【　到達目標　】
前回のつづき。
【授業時間外学習】
経済史の重要テーマについて調べる（日本の産業革命）。(4.0hr)

第７回　インフレとデフレ
【　到達目標　】
インフレとデフレとは何かを学び、その国民経済への影響について理解する。
【授業時間外学習】
経済史の重要テーマについて調べる（世界恐慌）。(4.0hr)

第８回　有効需要論（１）
【　到達目標　】
有効需要、45度線分析、乗数、インフレギャップとデフレギャップを学ぶ。
経済のマクロ分析について理解する。
【授業時間外学習】
経済史の重要テーマについて調べる（高度経済成長）。(4.0hr)

第９回　有効需要論（２）
【　到達目標　】
前回のつづき。
【授業時間外学習】
日本の財政について調べる（歳入）。(4.0hr)

第10回　IS-LM分析（１）
【　到達目標　】
財市場とIS曲線との関係、貨幣市場とLM曲線との関係を学ぶ。
IS-LM分析にもとづく財政政策・金融政策を学ぶ。
市場経済への公的介入についての理解を深める。
【授業時間外学習】
日本の財政について調べる（歳出）。(4.0hr)

第11回　IS-LM分析（２）
【　到達目標　】
前回のつづき。
【授業時間外学習】
日本の財政について調べる（国債残高と財政赤字）。(4.0hr)

第12回　国際収支と為替レート（１）
【　到達目標　】
国際収支、円安と円高、為替レートと貿易収支の関係を学ぶ。
変動相場制と固定相場制、為替レートと物価の関係を学ぶ。
世界経済と日本経済とのかかわりを理解する。
【授業時間外学習】
貿易論の重要テーマについて調べる（リカードウの比較生産費説）。(4.0hr)

第13回　国際収支と為替レート（２）
【　到達目標　】
前回のつづき。
【授業時間外学習】
貿易論の重要テーマについて調べる（リストの経済発展段階論と貿易論）。(4.0hr)

第14回　戦後の日本経済
【　到達目標　】
高度経済成長、バブル、人口減少社会の到来等、戦後の日本経済史について学ぶ。
戦後の日本経済の歩みを回顧し、今日の日本経済が直面している問題について理解を深める。
【授業時間外学習】
貿易論の重要テーマについて調べる（経済のグローバル化）。(4.0hr)

第15回　授業の総復習と問題演習
【　到達目標　】
授業を振り返り、重要なポイントを再確認する。
問題演習に取り組み、知識の定着を図る。
【授業時間外学習】経済学上の対抗思想（経済成長至上主義と定常状態論、大きな政府と小さな政府）を調べる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

経済学は体系的な学問であるから、授業理解の第一のカギは継続的な出席である。テキストの予習箇所をあらかじめ指示するので、必ず目を通しておくこと。毎回、授業のポイントを明示したレジュメを配布する。授業ではキーワードを板書し、レジュメとテキストを参照しながら口頭で説明する。詳細な板書は行わないので、受講生各自がノートを整理し直すことが望ましい。また理解度を確認するため、問題演習を単元ごとに実施し、後続の授業でその解説を行う。

【教科書・参考書など】

教科書名：『経済認識の扉』高橋信勝・著（八千代出版）。参考文献等は、適宜、紹介する。

【成績評価方法】

小テスト（30%）と試験（70%）により、評価する。試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	英語ＥＡＰＩ			担当者	中　村　大　輔	
英文名	English for Academic Purposes Ⅰ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE201・DLE201・HLE201・CLE201		

【目的とねらい】

学術論文を理解するためには語彙･文法知識だけでは不十分であり、英文の論理構造に関する知識も必要である。この授業ではcause-effect関係の把握等のreading skillsを習得し、逐語訳することなく英文の論理構造を把握できるようになることをねらいとする。予習を前提としている授業なので、受講生は充分に準備した上で授業に臨むことになる。

【授業内容・到達目標など】

第１回　Introduction
【　到達目標　】
この授業での学習の進め方・評価方法の説明・受講上の注意点を把握する。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 1: Finding the meanings of wordsを予習する。(4.0hr)

第２回　Memory & New Technology
【　到達目標　】
単語の意味を推測できるようになる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 2: Finding the topic of a paragraphを予習する。(4.0hr)

第３回　Lying
【　到達目標　】
パラグラフのトピックを把握できるようになる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 3: Finding the meanings of wordsを予習する。(4.0hr)

第４回　Fact or fiction: Science
【　到達目標　】
単語の意味を推測できるようになる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 4: Finding the main idea of a paragraphを予習する。(4.0hr)

第５回　Hoaxes
【　到達目標　】
パラグラフのメインアイデアを把握できるようになる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 5: Finding the meanings of wordsを予習する。(4.0hr)

第６回　The psychiology of price
【　到達目標　】
単語の意味を推測できるようになる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 6: Finding the topic and main dea of a readingを予習する。(4.0hr)

第７回　Guerrilla marketing
【　到達目標　】
文章全体のトピックとメインアイデアを把握できるようになる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 7: Finding the meanings of wordsを予習する。(4.0hr)

第８回　Taste and color
【　到達目標　】
単語の意味を推測できるようになる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 8: Finding supporting detailsを予習する。(4.0hr)

第９回　Why do some people hate broccoli?
【　到達目標　】
メインアイデアのサポート文を把握できるようになる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 9: Finding the meanings of wordsを予習する。(4.0hr)

第10回　Ocean--An economic resource
【　到達目標　】
単語の意味を推測できるようになる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 10: Finding steps in a processを予習する。(4.0hr)

第11回　The health of our oceans
【　到達目標　】
プロセスを説明する文章の構造を把握できるようになる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 11: Noticing parts of wordsを予習する。(4.0hr)

第12回　Communication in natural disasters
【　到達目標　】
名詞の接辞を理解できるようになる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 12: Finding advantages and disadvantagesを予習する。(4.0hr)

第13回　How do social networks affect our daily lives?
【　到達目標　】
物事に潜む二面性を表現する際の文章の構造を把握できる。
【授業時間外学習】
Skills and strategies 13: Noticing parts of wordsを予習する。(4.0hr)

第14回　The history of currency
【　到達目標　】
動詞の接辞を理解できるようになる。
【授業時間外学習】
課題の総チェックと総点検を行う。(4.0hr)

第15回　総復習
【　到達目標　】
これまで学習した内容を総復習する。課題をしっかり行った上で授業に臨むこと。期末試験に向けた課題も出す。
【授業時間外学習】
課題の総チェックと総点検を行う。(4.0hr)

【学習上の留意点】

・講義の理解度確認手段として課題をほぼ毎回出す。授業では冒頭で課題に関する解説を行うことで課題へのフィードバックを行うとともに、課題で習得したスキルを用いて文章構造を把握する問題演習を行う。指定された箇所の予習を確実に行った上で授業に出席すること。
・授業には辞書（あるいはsmartphone等辞書機能として使用できるもの）を携帯すること。
・履修者のレベルは英語１・２（初級・中級）レベルを想定し、文章の大まかな流れは説明するが逐語訳は行わない。初回の授業でテキストの難易度を確認すること。

【教科書・参考書など】

Williams, J & Wiese, D. (2016). Making connections: Intro. New York: Cambridge University Press。その他、参考書等は授業内で指示する。
※上記テキストは現時点での予定であり、変更の可能性がある。詳しくは初回の授業で担当者の指示に従うこと。

【成績評価方法】

平常点（小テスト、課題、授業内での応答、自立的学習力）を50%、学期末試験を50%として成績を評価する。

科 目 名	英語ＥＧＣⅠ			担当者	Mensto Flameling	
英 文 名	English for General Communication Ⅰ					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE202・DLE202・HLE202・CLE202		

【目的とねらい】

This course (English for General Communication I) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.

【授業内容・到達目標など】

第１回　Introductions
【　到達目標　】
Previewing contents and goals of the course
【授業時間外学習】
Preview syllabus(4.0hr)

第２回　Asking / Answering Questions
【　到達目標　】
Practising question / answer format
【授業時間外学習】
Review question sentence grammar(4.0hr)

第３回　Likes and Dislikes
【　到達目標　】
Practising preference vocabulary/grammar
【授業時間外学習】
Preview preference vocabulary / grammar(4.0hr)

第４回　Presentations: Likes and Dislikes
【　到達目標　】
Discussing preferences
【授業時間外学習】
Prepare presentation(4.0hr)

第５回　Family
【　到達目標　】
Practising family vocabulary
【授業時間外学習】
Preview family vocabulary(4.0hr)

第６回　People
【　到達目標　】
Practising descriptive vocabulary
【授業時間外学習】
Preview descriptive vocabulary(4.0hr)

第７回　Preparations for Presentations: Family
【　到達目標　】
Gathering and organising information
【授業時間外学習】
Prepare presentation(4.0hr)

第８回　Presentations: Family
【　到達目標　】
Discussing family
【授業時間外学習】
Prepare presentation(4.0hr)

第９回　Regular and Current Activities
【　到達目標　】
Practising present tenses
【授業時間外学習】
Review present tense usage(4.0hr)

第10回　Presentations: Invitations
【　到達目標　】
Discussing schedules
【授業時間外学習】
Prepare presentation(4.0hr)

第11回　Part-time Work
【　到達目標　】
Previewing work-related vocabulary
【授業時間外学習】
Preview work-related vocabulary(4.0hr)

第12回　Duties and Working Conditions
【　到達目標　】
Previewing additional work-related vocabulary
【授業時間外学習】
Preview additional vocabulary(4.0hr)

第13回　Presentations: Part-time Work
【　到達目標　】
Discussing part-time work
【授業時間外学習】
Prepare presentation(4.0hr)

第14回　Preparations for Mid-term Presentations
【　到達目標　】
Previewing the mid-term presentation
【授業時間外学習】
Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)

第15回　Mid-term Presentations
【　到達目標　】
Course Review
【授業時間外学習】
Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)

【学習上の留意点】

Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer!
I.e. This class will be conducted in English.

【教科書・参考書など】

Talk a Lot 1 - D. Martin - EFL Press

【成績評価方法】

Participation 40%, Assignments 30%, and Mid-term Presentations 30%

科目名	英語ＥＡＰⅡ			担当者	大和久吏恵	
英文名	English for Academic Purposes Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE203・DLE203・HLE203・CLE203		

【目的とねらい】

この授業では、英語による様々な分野の論理的な文章を正確に読み、多様性を受容する素地を作ります。またプレゼンテーションに関する作業（原稿作成・発表・相互評価）を通して、英語で意見を述べる技術の習得を目指します。受講生は担当箇所のみならず課題全体を予習・復習する必要があります。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション　英文読解演習（１）
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の進め方を理解する。
時間外学習の方法を把握する。
論理的な文章を正確に読むために必要なポイントを理解する。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第２回　英文読解演習（２）
【　到達目標　】
論理的な文章を正確に読む訓練をする。
パラグラフの構造を確認する。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第３回　英文読解演習（３）
【　到達目標　】
論理的な文章を正確に読む訓練をする。
パラグラフ間の関係を理解する。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第４回　英文読解演習（４）
【　到達目標　】
パラグラフ間の関係を理解する。
論理的な文章を正確に読む訓練をする。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第５回　英文読解演習（５）
【　到達目標　】
論理的な文章を正確に読む訓練をする。
プレゼンテーションの構造を理解する。①
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第６回　英文読解演習（６）
【　到達目標　】
論理的な文章を正確に読む訓練をする。
プレゼンテーションの内容を把握する。①
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第７回　英文読解演習（７）
【　到達目標　】
論理的な文章を正確に読む訓練をする。
プレゼンテーションの内容に関して意見を構築する。①
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第８回　英文読解演習（８）
【　到達目標　】
論理的な文章を正確に読む訓練をする。
プレゼンテーションの原稿を作成する。①
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第９回　英文読解演習（９）
【　到達目標　】
プレゼンテーションを行う。相互・自己評価も行う。①
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第10回　英文読解演習（１０）
【　到達目標　】
論理的な文章を正確に読む訓練をする。
プレゼンテーションの構造を理解する。②
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第11回　英文読解演習（１１）
【　到達目標　】
論理的な文章を正確に読む訓練をする。
プレゼンテーションの内容を把握する。②
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第12回　英文読解演習（１２）
【　到達目標　】
論理的な文章を正確に読む訓練をする。
プレゼンテーションの内容に関して意見を構築する。②
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第13回　英文読解演習（１３）
【　到達目標　】
論理的な文章を正確に読む訓練をする。
プレゼンテーションの原稿を作成する。②
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第14回　英文読解演習（１４）
【　到達目標　】
プレゼンテーションを行う。相互・自己評価も行う。②
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第15回　英文読解演習（１５）
【　到達目標　】
論説文・プレゼンテーションを含む授業全体のふり返りを行う。
今後の学習目標を設定する。
【授業時間外学習】
授業内容を復習し、今後も自律的学習を継続させる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

担当箇所のみならず、課題全体の予習・復習を行うこと。
復習効果を確認できるよう、小テストにしっかりと取り組むこと。
論説文・プレゼンテーションの課題に関して意見を構築し、発表すること。

【教科書・参考書など】

プリントを配布します。
辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めません。

【成績評価方法】

原則として、平常点(課題・レポート等)40%、発表20%、試験４0%で評価します。

科 目 名	英語ＥＧＣⅡ			担当者	Mensto Flameling	
英 文 名	English for General Communication Ⅱ					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE204・DLE204・HLE204・CLE204		

【目的とねらい】

This course (English for General Communication Ⅱ) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.

【授業内容・到達目標など】

第１回　Introductions
【　到達目標　】
Previewing the contents and goals of the course

【授業時間外学習】
Preview syllabus(4.0hr)

第２回　Questions about Past Experiences
【　到達目標　】
Practising past tense questions / answers

【授業時間外学習】
Review past tense(4.0hr)

第３回　A Holiday in Florida
【　到達目標　】
Listening in Context

【授業時間外学習】
Preview holiday vocabulary(4.0hr)

第４回　Presentations: Holidays
【　到達目標　】
Discussing a past experience

【授業時間外学習】
Prepare presentation(4.0hr)

第５回　Countries and Their Kitchens
【　到達目標　】
Practising food-related vocabulary

【授業時間外学習】
Preview food-related vocabulary(4.0hr)

第６回　Locations
【　到達目標　】
Practising location vocabulary

【授業時間外学習】
Preview location vocabulary(4.0hr)

第７回　Presentations: A Country and its Kitchen
【　到達目標　】
Discussing Foreign Countries

【授業時間外学習】
Prepare presentation(4.0hr)

第８回　The Home
【　到達目標　】
Practising home-related vocabulary

【授業時間外学習】
Preview home-related vocabulary(4.0hr)

第９回　The City
【　到達目標　】
Practising giving / receiving directions

【授業時間外学習】
Preview directions vocabulary(4.0hr)

第10回　Presentations: My Home
【　到達目標　】
Discussing living space

【授業時間外学習】
Prepare presentation(4.0hr)

第11回　School
【　到達目標　】
Previewing school-related vocabulary

【授業時間外学習】
Preview school-related vocabulary(4.0hr)

第12回　Presentations: School
【　到達目標　】
Discussing School

【授業時間外学習】
Prepare presentation(4.0hr)

第13回　Reading a Story
【　到達目標　】
Reading comprehension

【授業時間外学習】
Reading Preparation(4.0hr)

第14回　Preparations for Mid-term Presentations
【　到達目標　】
Previewing the mid-term presentation

【授業時間外学習】
Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)

第15回　Mid-term Presentations
【　到達目標　】
Course Review

【授業時間外学習】
Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)

【学習上の留意点】

Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer!
I.e. This class will be conducted in English.

【教科書・参考書など】

Talk a Lot 1 - D. Martin - EFL Press

【成績評価方法】

Participation 40%, Assignments 30%, and Mid-term Presentations 30%

科目名	ドイツ語			担当者	藤　由　順　子	
英文名	German Language					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE205・DLE205・HLE205・CLE205		

【目的とねらい】

初級レベルの基礎知識を確実なものにし、これを高め、応用力を養うことに備える。ドイツ語の言語的特徴と全体像をつかむことをめざす。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業内容の説明、テキスト等の紹介／発音とアルファベートの確認

【　到達目標　】

音声的基礎を踏まえ、コミュニケーション能力を高める。
あいさつやとっさの一言が言える。

【授業時間外学習】

アルファベートの確認をし、文字と単語の発音練習をする。(4.0hr)

第２回　発音、基本表現、基礎的文法事項の確認

【　到達目標　】

日常生活レベルの語彙を知り、アクセントや発音の特徴をつかむ。
初めて見る地名や人名を正確に発音できる。

【授業時間外学習】

語彙の発音と意味を確認する。(4.0hr)

第３回　ドイツ語の文構造／自己紹介（1）

【　到達目標　】

「動詞が二番目にくる」というドイツ語文の特徴を理解する。
規則動詞、不規則動詞の人称変化をおさえて、自分について簡単な説明ができる。
例）私は～出身です／専攻しています。

【授業時間外学習】

基本的な文を覚える。／基本的な動詞を調べる。(4.0hr)

第４回　ドイツ語の名詞と、主語となる代名詞を知る

【　到達目標　】

名詞が内包する三要素「性・数・格」を捉えて、その名詞の文中での役割を意識できる。
例）父が／友人に／ピアノを／それは／あなたは／彼は、などを表現できる。

【授業時間外学習】

格変化の表の見方に慣れる。／自分と関連する名詞を調べる。(4.0hr)

第５回　冠詞の役目：不定冠詞、定冠詞、所有冠詞

【　到達目標　】

英語のa, an, the, myと異なる、冠詞の役目を確認する。
「1つの～が」「その～を」「私の～に」等の表現を身につける。

【授業時間外学習】

自分で格変化表を作成してみる。自分の持ち物や身内を表現する。(4.0hr)

第６回　複数形／否定冠詞を使った否定表現

【　到達目標　】

sをつけて複数形を作る英語と異なり、名詞を複数形にするのが単純ではないことを学ぶ。
自分のよく使いそうな単語の複数形を調べて、表現する。
例）私には二人の姉がいる。／靴は3足しかない。

【授業時間外学習】

単数形に戻す練習を重ねる。(4.0hr)

第７回　自己紹介（2）／数詞

【　到達目標　】

簡単な自己紹介ができる。友人や家族のことを表現する。

【授業時間外学習】

簡単な自己紹介文を作成する。(4.0hr)

第８回　人称代名詞

【　到達目標　】

主語だけでなく、目的語になる代名詞を学習して、活用する。
「彼に」・「私たちを」・「それを」などを体得する。

【授業時間外学習】

自分が何を愛しているのか、口頭や文章で表現する練習をする。(4.0hr)

第９回　前置詞の格支配

【　到達目標　】

状況を説明するフレーズを表現できる。
「～と一緒に・～の後で・～のために・～の上で」等を言える。

【授業時間外学習】

例文を覚える。(4.0hr)

第10回　助動詞

【　到達目標　】

話法の助動詞を学び、ドイツ語特有の語順を理解する。
例)私は～できる／～したい／～しなければならない。

【授業時間外学習】

自分のしたいこと、できること、好きなことを表現してみる。(4.0hr)

第11回　過去表現　過去形と現在完了形

【　到達目標　】

動詞の三基本形（不定詞、過去基本形、過去分詞）を知る。
現在形と過去形の違いを理解する。
過去形と現在完了形との用法の違いを認識する。

【授業時間外学習】

三基本形の規則性を覚える。(4.0hr)

第12回　疑問文

【　到達目標　】

疑問、質問を相手に行うことができる。
疑問詞疑問文を作ったり、問い合わせをスムーズにするフレーズを使えたりする。

【授業時間外学習】

例文を覚えて、これをアレンジする。(4.0hr)

第13回　時の表現

【　到達目標　】

現在や過去、未来の表現を知る。（昨日、3日前、毎年、4月に、1週間、将来、等）
頻度や回数、継続、曜日を表現する。（頻繁に、5回、10年前からずっと、日曜日には、等）

【授業時間外学習】

自分の部活動や趣味などの活動状況をドイツ語で説明してみる。(4.0hr)

第14回　自己紹介（3）

【　到達目標　】

自分の家族や友人について、これまでより詳しく他者に表現できる。

【授業時間外学習】

家族や友人のことも表現してみる。(4.0hr)

第15回　理解度の確認と補足説明

【　到達目標　】

習得した文法項目を用いて、自分が表現したい事、相手に尋ねたい事を伝える。

【授業時間外学習】

自分の分からない所を書き出す。(4.0hr)

【学習上の留意点】

半期しかないので、日本で、あるいは外国において自分の言いたいことをドイツ語で表現することを常に意識して、授業に集中して臨んでください。そして、発音練習を欠かさず自宅で行うようにしてください。理解度確認小テストやレポート課題は返却されましたら、間違いの個所や、指摘されたより適切な表現をしっかり確認するようにして、ドイツ語表現の幅を広げてください。

【教科書・参考書など】

平山・小野・藤由　『お菓子で学ぶドイツ語』朝日出版社
独和辞典はできれば用意してください。小さいものでも電子辞書でも古いものでも構いません。

【成績評価方法】

授業時の発表・課題提出、理解度確認のための小テスト25%、試験結果を75%として評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。

科目名	フランス語			担当者	山　下　利　枝	
英文名	French					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE206・DLE206・HLE206・CLE206		

【目的とねらい】

はじめてフランス語を学ぶ学生を対象に、フランス語の持つ豊かで魅力的な世界を味わってもらう。そのため、フランス語の生まれてきた文化的背景を講義するとともに、フランス語の発音・リズム・表現に触れ、フランス語を使う人々の日常的な表現世界を理解し共有することを目指す。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション：挨拶（アルファベ、綴りと発音）、フランスとフランス文化
【　到達目標　】
(1)挨拶（アルファベ、綴りと発音）に触れ、フランスとフランス文化の特徴を理解する。
【授業時間外学習】
プリント「サッカーは世界の共通語」を読む。(4.0hr)

第２回　フランス語について：沿革と発音の特徴、フランス語の魅力
【　到達目標　】
(1)フランス語の歴史と文化的背景を理解して、フランス語の魅力に気づく。
【授業時間外学習】
プリント「ロワール河の北と南」を読む。(4.0hr)

第３回　日常の表現：挨拶（アルファベ、綴りと発音の関係の復習）
【　到達目標　】
(1)日常の表現世界の理解。コミュニケーションの基礎としての挨拶を理解する。
【授業時間外学習】
プリント「個性競うセーヌの橋」を読む。(4.0hr)

第４回　日常の表現：自分のことを言う
【　到達目標　】
(1)日常の表現世界の理解。自分を説明できる。
【授業時間外学習】
プリント「魅力あふれる小国モナコ」を読む。(4.0hr)

第５回　日常の表現：相手・第三者のことを言う
【　到達目標　】
(1)日常の表現世界の理解。相手・他人について説明できる。
【授業時間外学習】
プリント「カンヌ映画祭開幕」を読む。(4.0hr)

第６回　まとめと復習①
【　到達目標　】
(1)４・５回のまとめと復習を実施する。
【授業時間外学習】
プリント「日仏マンガ交流」を読む。(4.0hr)

第７回　日常の表現：数、時間、お金
【　到達目標　】
(1)日常の表現世界の理解。フランス語の世界の基礎としての数、時間、お金についての表現を理解する。
【授業時間外学習】
プリント「ストライキ大国フランス」を読む。(4.0hr)

第８回　日常の表現：位置、方向（道を教える・聞く）
【　到達目標　】
(1)日常の表現世界の理解。フランス語の世界の基礎としての位置方向についての表現を理解する。
【授業時間外学習】
プリント「フランスワインの内憂外患」を読む。(4.0hr)

第９回　日常の表現：好き、嫌い、意思、願望
【　到達目標　】
(1)日常の表現世界の理解。好悪や意志や願望についての表現を理解する。
【授業時間外学習】
プリント「エコ・ライフには自転車を」を読む。(4.0hr)

第10回　日常の表現：非人称構文、天候、時間、義務
【　到達目標　】
(1)日常の表現世界の理解。天候や時間や義務についての表現を学び、日本語と違う非人称の表現を理解する。
【授業時間外学習】
プリント「文化を生み出すカフェ」を読む。(4.0hr)

第11回　まとめと復習②
【　到達目標　】
(1)７～１０回のまとめと復習を実施する。
【授業時間外学習】
プリント「海洋環境復元にむけて（モン・サン・ミシェル）」を読む。(4.0hr)

第12回　日常の表現：過去形、未来形の基本
【　到達目標　】
(1)日常の表現世界の理解。過去・未来について表現の規則を理解する。
【授業時間外学習】
プリント「ツール・ド・フランスの勝者」を読む。(4.0hr)

第13回　フランスの映画鑑賞
【　到達目標　】
(1)映画鑑賞を通して、フランス語の世界を具体的に理解する。
【授業時間外学習】
プリント「7月14日は革命記念日」を読む。(4.0hr)

第14回　フランス語の世界を理解するための注目点
【　到達目標　】
(1)フランス語の世界を理解するために、特に注目すべき点を把握する。
【授業時間外学習】
プリント「ミシュランの三ツ星」を読む。(4.0hr)

第15回　総復習
【　到達目標　】
(1)総復習をして、フランス語の世界への理解を深める。
【授業時間外学習】
プリント「空飛ぶ作家サン＝テグジュペリ」を読む。(4.0hr)

【学習上の留意点】

予習は必要ありません。しっかり復習し、日常的にフランス語に触れること（映画・歌等）。

【実務経験のある教員による授業科目】

語学学校の専任教員としての実務経験を活かし、フランス語の基礎の習得とフランス語圏の歴史・社会・文化についても講義する。

【教科書・参考書など】

「だいじょうぶ！フランス語」（太田浩一・明石伸子著）（白水社）

【成績評価方法】

各回の授業時での課題40%、理解度確認のためのテスト結果を60%として評価する。（試験は試験期間中に別途実施する。）

科目名	中国語			担当者	道　上　峰　史	
英文名	Chinese					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE207・DLE207・HLE207・CLE207		

【目的とねらい】

本講義は、初めて中国語を学習する学生を対象に開講します。中国語独特の発音や簡体字に慣れてもらうため、受講生には発音、発声の練習や、基礎的な作文を課します。最終目標としては、中国語で自己紹介が出来る水準を目指します。その他に、中国の社会や文化なども紹介して、中国に対する興味や関心を広げることを目的とします。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション：中国語について
【　到達目標　】
(1)言語としての中国語の特性を理解する。

【授業時間外学習】
身近な中国語などを探して、中国語に興味を持つ。(4.0hr)

第２回　発音の基礎：発音記号と四声
【　到達目標　】
(1)言語としての中国語の音声（発音・リズム）を習得する。

【授業時間外学習】
授業で習った発音を、繰り返し発声する。(4.0hr)

第３回　文字について：中国の簡体字と日本の漢字
【　到達目標　】
(1)中国の簡体字と日本の漢字の違いについて理解する。

【授業時間外学習】
実際に簡体字を自分で書いてみる。(4.0hr)

第４回　基礎構文（I）：是の構文
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)是を使った構文を習得する。

【授業時間外学習】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第５回　基礎構文（I）：是の構文の応用
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)是を使った構文の否定形、疑問形を習得する。

【授業時間外学習】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第６回　基礎構文（II）：目的語がある構文
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)目的語がある構文を習得する。

【授業時間外学習】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第７回　基礎構文（II）：目的語がある構文の応用
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)目的語がある構文の否定形、疑問形を習得する。

【授業時間外学習】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第８回　基礎構文（III）：形容詞がある構文
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)形容詞がある構文を習得する。

【授業時間外学習】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第９回　基礎構文（III）：形容詞がある構文の応用
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)形容詞がある構文の否定形、疑問形を習得する。

【授業時間外学習】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第10回　基礎構文（IV）：過去形
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)過去形がある構文を習得する。

【授業時間外学習】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第11回　基礎構文（IV）：過去形の応用
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)過去形がある構文の否定形、疑問形を習得する。

【授業時間外学習】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第12回　作文：自己紹介
【　到達目標　】
(1)自分について紹介する文章を作る。

【授業時間外学習】
自分で作成した中国語の文章を、更に推敲して完成させる。(4.0hr)

第13回　作文：日常の表現
【　到達目標　】
(1)日常表現をするための語彙を増やす。

【授業時間外学習】
普段、目に付いたものを中国語で表現する練習をする。(4.0hr)

第14回　中国の文化（I）：中国文化と中国語I
【　到達目標　】
(1)中国語の成り立ちと中国文化を理解する。
(2)中国語の語彙を増やす。

【授業時間外学習】
授業で触れた中国の文化について、自分でまとめなおす。(4.0hr)

第15回　中国の文化（II）：中国文化と中国語II
【　到達目標　】
(1)中国文化の中で成長した中国語について理解する。
(2)中国語の語彙を増やす。

【授業時間外学習】
授業で触れた中国の文化について、自分でまとめなおす。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義期間中に1度課題を出します。課題の結果は、講義内で解説によるフィードバックをおこないます。中国語を用いた会話などを行うことで、中国語を身につけていけるように指導します。それだけでなく、普段から復習を心がけ、中国語に触れる機会を増やしましょう。

【教科書・参考書など】

講義用の参考書(講義担当者作成)を準備します。初回のオリエンテーションにて詳細をお伝えします。

【成績評価方法】

授業時の課題が30%、学期末の筆記試験（試験は試験期間中に別途実施）が70%となります。

科目名	コリア語			担当者	李　　貞旼	
英文名	Korean language					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE208・DLE208・HLE208・CLE208		

【目的とねらい】

韓国についての情報や文化が、ようやく詳細に日本にも紹介されてきている。韓国の文字であるハングルに触れ、その理解を通じて、身近な国の韓国について関心度や理解度をさらに高めていきたい。生活や文化の正確な理解には、その国の言葉の理解が不可欠である。韓国語の文字（ハングル）や発音、基礎的な文法、表現を理解することによって、韓国の人々の日常生活や文化を正確に理解し、コミュニケーション能力を高めていくことを目標とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション：ハングルとはどういう言語か 【　到達目標　】 (1)言語としての韓国語の特性を理解する。 (2)文字としてのハングルの成立の文化的背景を理解する。 (3)ハングル文字の仕組みについて理解する。 【授業時外学習】 韓国語と日本語の共通点や相違点、ハングル文字の特性や仕組みについて学習する。(4.0hr)	**第９回　日常生活の表現：疑問表現** 【　到達目標　】 (1)日常の表現世界の理解。質問の仕方や答え方を習得する。 【授業時間外学習】 質問の方法を学習し、趣味の聞き方や答え方などを学習する。(4.0hr)
第２回　ハングルの発音：基本母音字 【　到達目標　】 (1)文字としてのハングルの発音・リズムを理解する。 (2)基本母音を習得する。 【授業時間外学習】 ハングル文字の仕組みを明確に理解したうえで、基本母音を学習する。(4.0hr)	**第10回　日常生活の表現：否定表現** 【　到達目標　】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の否定表現を習得する。 【授業時間外学習】 「～ではありません」の表現を勉強し、否定の仕方を学習する。(4.0hr)
第３回　ハングルの発音：子音字（１） 【　到達目標　】 (1)文字としてのハングルの発音・リズムを理解する。 (2)子音（平音・激音）を習得する。 【授業時間外学習】 基本母音と子音の組み合わせ及びその発音を学習する。(4.0hr)	**第11回　日常生活の表現：用言の表現（１）** 【　到達目標　】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の基礎の用言の表現を理解する。 【授業時間外学習】 動詞・形容詞などの丁寧形（その１：ハムニダ体）を学習する。(4.0hr)
第４回　ハングルの発音：子音字（２） 【　到達目標　】 (1)ハングルの子音（濃音）を習得する。 【授業時間外学習】 基本母音と子音の組み合わせ及びその発音を学習する。(4.0hr)	**第12回　日常生活の表現：用言の表現（２）** 【　到達目標　】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の基礎の用言の表現を理解する。 【授業時間外学習】 動詞・形容詞などの丁寧形（その２：ヘヨ体）を学習する。(4.0hr)
第５回　ハングルの発音：合成母音字 【　到達目標　】 (1)合成母音を習得する。 【授業時間外学習】子音と合成母音の組み合わせ及びその発音を学習する。発音の仕組みについて理解する。(4.0hr)	**第13回　日常生活の表現と韓国文化：過去形** 【　到達目標　】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の過去形の表現を習得する。 【授業時間外学習】 用言の過去形の作り方を勉強し、過去の出来事の説明の仕方を学習する。(4.0hr)
第６回　ハングルの発音：パッチム、挨拶 【　到達目標　】 (1)文字としてのパッチムを習得する。 【授業時間内学習】 パッチムという概念の理解とその発音を勉強し、基本的な挨拶を学習する。(4.0hr)	**第14回　日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（１）** 【　到達目標　】 (1)韓国語の漢数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。 【授業時間外学習】 漢字語数詞を勉強し、日にちや値段などの言い方を学習する。(4.0hr)
第７回　日本語のハングルの表記 【　到達目標　】 (1)日本語のハングル表記を習得する。 (2)辞書の引き方、キーボードの打ち方を習得する。 【授業時間外学習】日本語のハングル表記を学習し、自分の氏名をハングルで書く、辞書を引く、等を学習する。(4.0hr)	**第15回　日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（２）** 【　到達目標　】 (1)韓国語の固有数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。 【授業時間外学習】 固有語数詞を勉強し、時間や人数や年齢などの言い方を学習する。(4.0hr)
第８回　日常生活の表現：肯定表現 【　到達目標　】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の肯定表現を習得する。 【授業時間外学習】 「～は～です」の表現を勉強し、自己紹介や挨拶の表現を学習する。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

予習・復習を継続し、日常的にハングルに触れる（ドラマ・映画・歌、等）ようにすることが語学の上達の上で重要である。ほぼ毎回、各課ごとの応用練習帳の作成及び提出の課題が出される。課題の結果、間違いやすい部分や注意すべき点などに関して、次の授業内で解説によるフィードバックを行う。また、1－2回ほど理解度の確認のため、小テストや中間テストを行う。テスト結果は、次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

「教科書名」：「楽しく学べる韓国語」（李美賢・李貞旼）著（白水社）

【成績評価方法】

各回の授業時での課題40%、理解度確認のためのテスト結果を60%として評価する。試験は試験期間中に別途実施。

科目名	社会のしくみとキャリア形成			担当者	八　田　益　之	
英文名	Social System and Basic Career Development					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE209・DLE209・HLE209・CLE209		

【目的とねらい】

この講義では、主に「ビジネス」の視点から「社会のしくみ」を学ぶ。具体的には、ある課題を解決するプロジェクトを通じて、チームビルディング、情報収集、プランの検討、提案作成、最終成果の発表まで、一続きで実施する予定である。これらの実践を通じて、社会や会社の仕組みの、社会人としての基本スキル、あなた自身のキャリア形成の参考となる考え方などを理解する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス・「社会におけるスポーツの価値」について 【　到達目標　】 授業受講のためのガイダンスを行う。講義内容のほかに、参加型の講義の基本となる「チームビルディング」についての方針も理解する。 【授業時間外学習】 自分自身の受講目的を明確にする。(4.0hr)	**第９回　収益モデル:お金の回しかた?** 【　到達目標　】 会社経営におけるおカネの仕組みを学ぶ。 【授業時間外学習】 興味のある会社のおカネの仕組みについて調べてみる。(4.0hr)
第２回　「人」の視点からみたビジネス　～「組織」と「チームワーク」について 【　到達目標　】 スポーツにおける「チームワーク」と、ビジネス界における「チームワーク・会社組織」では、共通点は何か、違いは何か。スポーツの経験をどう活かせるのかを考えることができる。 【授業時間外学習】 チームビルディングについて調べてみる。(4.0hr)	**第10回　IT・AI** 【　到達目標　】 現代経済の主役IT、未来の主役AIについて理解する。 【授業時間外学習】 興味のある会社のITの仕組みについて調べてみる。(4.0hr)
第３回　「課題解決」の視点からみたビジネス 【　到達目標　】 ビジネスの基本である「課題解決」について、基本を理解する。 今回の課題解決プロジェクトについて具体的に理解する。 【授業時間外学習】 今回の課題について自ら調べる。(4.0hr)	**第11回　課題解決プロジェクト最終しあげ** 【　到達目標　】 提案内容をチームで最終確認する。 【授業時間外学習】 提案内容のチームでの最終確認をする。(4.0hr)
第４回　ターゲット:誰をHappyにするか? 【　到達目標　】 ビジネスの基本は「相手目線」。誰に対して、どのように役にたつのか? その基本的な考え方を学ぶ。 【授業時間外学習】 「相手目線」と「自分目線」の違いを考える。(4.0hr)	**第12回　最終発表** 【　到達目標　】 チームでの課題解決プロジェクトの、最終成果を発表する。 【授業時間外学習】 提案・発表のふりかえりをする。(4.0hr)
第５回　バリュー:どんな価値を提供できるか? 【　到達目標　】 相手にとって、自分（自社）はいくつものライバルの中の1選択肢でしかない。どのように、自分の価値を明確にすればよいのか？価値についての考え方を学ぶ。 【授業時間外学習】 自分の好きなものの「価値」について考える。(4.0hr)	**第13回　応用：気になる会社の調べ方** 【　到達目標　】 就職活動でも必要になる「企業研究」の基本を理解する。 【授業時間外学習】 興味のある会社の採用情報などを調べてみる。(4.0hr)
第６回　リソース・体制　～どのように価値を提供するか？ 【　到達目標　】 アイデアを決めたら、継続的に実行できるようにする仕組みが必要になる。 そのための会社組織の仕組み、パターンについて学ぶ。 【授業時間外学習】 興味のある会社の裏側の仕組みについて調べてみる。(4.0hr)	**第14回　体育大学で学んだことを社会で活かす** 【　到達目標　】 企業・社会で必要なこととスポーツの共通点と違いについて考えを深める。 【授業時間外学習】 体育大学で学んだことを活かす視点で、自らの強みを考える。(4.0hr)
第７回　説明・プレゼンテーションの基本 【　到達目標　】 物語の構造について理解する。 大人数の前で考えを説明するための基本を理解する。 【授業時間外学習】 チームでの課題解決プロジェクト発表準備をする。(4.0hr)	**第15回　課題解決プロジェクト　他チームの詳細分析** 【　到達目標　】 ライバルに学ぶ～上位入賞チームの提案内容を分析・解説する。 自チームの取り組みをふりかえる。 【授業時間外学習】 授業全体を通して学んだことを復習し、自身を内省する。(4.0hr)
第８回　中間発表 【　到達目標　】 チームでの課題解決プロジェクトの、ここまでの成果を発表する。 【授業時間外学習】 チームでの課題解決プロジェクトのふりかえりをする。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

ビジネス界では、知識は実行してはじめて価値がうまれる。そのリハーサルの意味をこめた参加型の「アクティブ・ラーニング」の形式をとる。実際の仕事のつもりで「友達とは限らない相手とのチーム」を組み、チームに「貢献」し、「成果物」を作り、社会の課題を解決する。これらチーム作業の内容は、講義の中で紹介・解説することで、随時フィードバックしていく。自分が社長になって会社経営するくらいの気持ちで本気で取り組んでほしい。

【教科書・参考書など】

特になし（各講義ごとに提示）。

【成績評価方法】

授業における課題達成度(50%)、提出レポート(50%)で評価する。

科目名	データ分析と統計学			担当者	水　野　有　希	
英文名	Data Analysis and Statistics					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE210・DLE210・HLE210・CLE210		

【目的とねらい】

情報化社会の現代では、溢れる情報から必要な情報を的確に読み取る能力が必要不可欠です。この情報をどのように分析して、どのように結論として導いていくか、その手段として統計学が重要な役割を担っています。本講義では、統計学がどのような場面で使用されているか、実例を多数紹介しながら理解を深め、統計学の基本的な考え方と統計手法を学びます。また、卒業研究や課題レポートなどのデータ分析に活用できるスキルを身につけます。

【授業内容・到達目標など】

第１回　統計の心構え、度数分布表とヒストグラム
【　到達目標　】
(1)データの特徴にはばらつきも考えられる。ばらつきをとらえるものとして度数分布表やヒストグラムを学ぶ。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習（度数分布表・ヒストグラム）をする。(4.0hr)

第２回　データの種類・尺度水準
【　到達目標　】
(1)データの特徴を表すものに代表値がある。代表値とは何か、どのようなものがあるのかを、データの種類や尺度から学ぶ。

【授業時間外学習】
提出課題（尺度水準）の復習をする。(4.0hr)

第３回　データのばらつきを数値に表すには
【　到達目標　】
(1)ばらつきの度合いを数値として表すものには何があるかを学ぶ。

【授業時間外学習】
提出課題（分散・標準偏差）の復習をする。(4.0hr)

第４回　散布図と相関、相関係数
【　到達目標　】
(1)散布図を作成し、パターンを理解する。
(2)相関係数の求め方を学ぶ。

【授業時間外学習】
提出課題（相関係数）の復習をする。(4.0hr)

第５回 回帰直線
【　到達目標　】
(1)回帰直線を使って予測する方法を学ぶ。

【授業時間外学習】
提出課題（回帰直線）の復習をする。(4.0hr)

第６回　アンケート作成
【　到達目標　】
(1)アンケート作成の基本を学ぶ。

【授業時間外学習】
アンケート項目を考えアンケートを作成する。(4.0hr)

第７回　確率について
【　到達目標　】
(1)確率の意味を復習する。

【授業時間外学習】
提出課題の復習をする。(4.0hr)

第８回　正規分布とその他の分布
【　到達目標　】
(1)どのような分布があるかを学ぶ。
(2)一般のデータを標準正規分布に変換する方法を学ぶ。
(3)標準正規分布表から確率を求める方法を学ぶ。
【授業時間外学習】
提出課題（正規分布）の復習をする。(4.0hr)

第 9回　平均の推定と区間推定
【　到達目標　】
(1)データ数が多い場合のデータの特徴を捉えるにはどのような方法があるかを学ぶ。
(2)サンプルから全体の特徴を推定した場合の信頼区間について学ぶ。

【授業時間外学習】
提出課題（平均の推定）の復習をする。(4.0hr)

第10回　分散の推定と区間推定
【　到達目標　】
(1)データ数が多い場合のデータの特徴を捉えるにはどのような方法があるかを学ぶ。
(2)サンプルから全体の特徴を推定した場合の信頼区間について学ぶ。

【授業時間外学習】
提出課題（分散の推定）の復習をする。(4.0hr)

第11回　t検定（対応あり）
【　到達目標　】
(1)実際の例をとらえながら、t検定の必要なケースを理解する。

【授業時間外学習】
提出課題（対応のあるt検定）の復習をする。(4.0hr)

第12回　t検定（対応なし）
【　到達目標　】
(1)実際の例をとらえながら、t検定の必要なケースを理解する。

【授業時間外学習】
提出課題（対応のないt検定）の復習をする。(4.0hr)

第13回　カイ二乗検定
【　到達目標　】
(1)仮説検定の考え方を理解する。
(2)カイ二乗値について理解し、求め方と利用方法を学ぶ。

【授業時間外学習】
提出課題（カイ二乗検定）の復習をする。(4.0hr)

第14回　分散分析
【　到達目標　】
(1)実際の例をとらえながら、分散分析を理解する。

【授業時間外学習】
提出課題（分散分析）の復習をする。(4.0hr)

第15回　実践課題
【　到達目標　】
(1)実際のデータを使って分析を行います。

【授業時間外学習】
分析方法と表やグラフについて復習する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義は、できるだけ実際の例を示しながら解説し、数学の苦手な学生も理解ができるように工夫します。
また、講義で行った知識を固めるために、講義の後半10分から15分は課題を遂行する時間をとります。間違えた学生は復習を心掛けてください。

【教科書・参考書など】

講義中に指示します。

【成績評価方法】

ミニ課題（講義中に出すもの)40%、期末試験（試験は試験期間中に別途実施）60%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。

科目名	知の哲学			担当者	宇多村俊介	
英文名	Philosophy of Knowledge					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE111・DLE111・HLE111・CLE111		

【目的とねらい】

この授業は「知」をめぐる哲学上のいくつかの局面から主題を選びながら、物事や資料、読み物を理知的に解読する習慣を養うことに主眼を置いています。これは、何を素材にするにせよ、日常的に筋道立って考え解釈するための基礎作業をなしていて、大学生として最低限、身につけておくべき論理的な思考の諸原則と技能とを含みます。取り上げる主題としては、眼前の身近な素材や事例を用いながら、ことによると普段は当然視しているであろう事柄を批判的に捉え直す視角を学びます。各受講生がことばと思考を自覚的に使用し、みずから暮らしを哲学する端緒として欲しい。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション：哲学することと知へのアプローチ

【　到達目標　】

哲学的な問いのもつ特性を理解するとともに、「考える」という作業の一端を実践して、知へアプローチする上でのその意義を自覚する。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の<検討課題>に取り組む。(4.0hr)

第２回　知の成立条件と定義：必要条件と充分条件

【　到達目標　】

知の古典的な定義を通して、定義の構成と充たすべき要件を理解し、みずからの問題を定義のかたちで明晰に述べることを試みる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第３回　意味と明晰さ：曖昧と漠然

【　到達目標　】

定義の種類と、目的に応じたタイプを弁別して理解し、タイプに応じた適切な定義の満たすべき要件に照らして任意の定義の適切さを批判的に吟味することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第４回　立論の批判的評価の諸段階１：推論の２類型

【　到達目標　】

立論(論証)の構造と、そこに含まれる推論の２つの類型を把握した上で、立論の健全さを評価することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第５回　立論の批判的評価の諸段階２：問と論駁

【　到達目標　】

対話的な枠組みのなかで立論の目的を理解し、いくつかの問のもつ機能と諸特質を弁別することができる。立論の目的に照らして、論理的思考の裏面をなす欺瞞的な思考の一形式を分析することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第６回　立論の批判的評価の諸段階３：歪んだ思考

【　到達目標　】

欺瞞的な立論（虚偽）の分類と形式を把握し、虚偽を犯した個々の立論をそれと分析することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第７回　　立論の解剖学：樹形図の方法

【　到達目標　】

複合的な立論を分析する手段として樹形図の方法を把握し、任意の立論の論理構造を理解することができる。同時に、この方法から取り出される書き手としての一般原則を把握し、運用することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第８回　知覚経験と認識：現象と実在

【　到達目標　】

知の四つの源泉を把握し、認識の手段、能力として、感覚・知覚、表象、概念の諸特質を理解して、知覚経験の限界と客観性の諸条件について考察することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第９回　感情：感情と認識

【　到達目標　】

感情の三つの様態を弁別し、それぞれの認識能力との対応関係を理解して、みずからの生活意識を反省的に顧みることができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第10回　思考と行為：プラグマティックな意味基準

【　到達目標　】

プラグマティックな意味基準を理解し、観念や言明を明晰化する方法として適用することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第11回　コミュニケーションの哲学：社会的自我

【　到達目標　】

コミュニケーションという用語の意味、その基本要素と諸段階を確認した上で、自我の社会性および主体性を理解し、コミュニケーションの可能性の基盤を考えることができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第12回　現代の知の諸相１：情報化時代の知

【　到達目標　】

現代の知の一形態として集合知の特性を理解し、その正当性の根拠と限界について考えることができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第13回　現代の知の諸相２：科学的接近法

【　到達目標　】

問題解決のための着想を評価する技能として説明上の仮説を理解し、仮説を評価するための検討項目に照らして、任意の仮説を評価することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第14回　現代の知の諸相３：俗悪なものの形而上学

【　到達目標　】

形而上学的な次元が日常的な思考や行動をどう左右するかを理解し、その観点から任意の事例を分析することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第15回　知の主体的責任と知的誠実性

【　到達目標　】

授業を振り返り、知を表明し伝達することの意味と責任を自覚することができる。

【授業時間外学習】

授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

【学習上の留意点】

暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理してもらうために、また、いくつかの思考の技能への一定の習熟を図るために、授業時に５～６回、課題ミニレポートを書き、提出してもらいます。これを除く各回、講義内容を踏まえた考察カードを書いてもらいます。とくに寸評を要する考察や、解答例のある課題については翌週の解答・解説によって理解度を確認してもらいます。予備知識は問いませんが、必ずしも馴染みのない、新しい事柄を学ぶ意欲をもって集中して理解し、実地に適用する心構えでいて下さい。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。

【成績評価方法】

授業内の課題ミニレポート30%、定期試験70%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	教養としての日本文学			担当者	高　橋　良　久	
英文名	Introduction to Japanese Literature					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE112・DLE112・HLE112・CLE112		

【目的とねらい】

本科目では、「令和」の元号の出典である「万葉集」を取り上げる。上代文学である「万葉集」は、現代の我々の知識や常識、また、感性では読み解けない部分もある。授業では、まず、古代社会の成立および実態を理解することから始まる。そして、その知識をもとに、テーマごとに作品の鑑賞・分析を行い、そのテーマにおける古代人と現代人の捉え方の相違点や共通点を確認する。そうすることで、テーマについて改めて、問題意識を持つとともに、自らのこととして、主体的に現代社会を問い直す視点を獲得する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　この授業の目的・ねらい・進め方
【　到達目標　】
教養として文学を読むことの意義、授業のねらいと方針、学習方法を理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第２回　上代社会①
【　到達目標　】
上代社会の成立を理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第３回　上代社会②
【　到達目標　】
上代社会の実態を理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第４回　「万葉集」について
【　到達目標　】
「万葉集」の書誌的情報を理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第５回　「呪術」「信仰」がテーマの作品
【　到達目標　】
作品を通して上代における「呪術」「信仰」を理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第６回　「儀礼」「儀式」がテーマの作品
【　到達目標　】
作品を通して上代における「儀礼」「儀式」について理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第７回　「恋愛」がテーマの作品①
【　到達目標　】
作品を通して上代における「恋愛」の在り方、かたちを理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第８回　「恋愛」がテーマの作品②
【　到達目標　】
作品を通して上代における「恋愛」の在り方、かたちを理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第９回　「親子」がテーマの作品
【　到達目標　】
作品を通して上代における「親子」の在り方について理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第10回　「人生」がテーマの作品
【　到達目標　】
作品を通して上代における「人生」の捉え方を理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第11回　「風土」がテーマの作品①
【　到達目標　】
「風土」が作品にどのように影響しているかを理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第12回　「風土」がテーマの作品②
【　到達目標　】
「風土」が作品にどのように影響しているかを理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第13回　「労働」がテーマの作品
【　到達目標　】
「万葉集」の中の「東歌（あずまうた）」を通して上代における「労働」について理解する。
【授業時間外学習】
次の授業で取り上げる作品を読み、授業記録に意訳、感想などをまとめる。(4.0hr)

第14回　「短歌」から「和歌」へ
【　到達目標　】
「万葉集」における「短歌」が、次の時代の平安朝には「和歌」となる背景を理解する。
【授業時間外学習】
授業記録の内容を充実させるため、授業全体を振り返り、加筆や訂正を行う。(4.0hr)

第15回　上代社会と現代社会
【　到達目標　】
上代の社会が現代の我々に問いかけること、教えることなどを通して、これからの社会がどのようにあるべきかを考える。
【授業時間外学習】
授業全体を振り返り、自己評価を行う。(4.0hr)

【学習上の留意点】

・万葉集の歌を精読し、作品分析を行う。次回の授業で取り扱う作品を事前に読むのを前提に講義を進める。
・定期試験を実施する。試験は試験期間中に別途実施する。定期試験では、持ち込みも認めないので、予め授業で取り上げた作品は全て読み直しておくこと。
・自主学習が多いためハードである。積極的に学習に取り組む覚悟がなければ本科目は単位習得できないので、中途半端な気持ちで選択しないようにすること。
・「グループ学習」を取り入れる。また、「レスポンスカード」を使用し、理解の深化を図る。

【教科書・参考書など】

教科書　授業時に使用する資料は、こちらで用意する。
参考書　新編日本古典文学全集『源氏物語』（小学館）。他の書籍も授業時に適宜紹介する。

【成績評価方法】

・授業時の提出物(40%):授業の講義記録や作品を読んでの意見等を評価する。
・定期試験(60%):作品、及び授業内容への理解度を評価する。

科目名	音楽の世界			担当者	森　　立子	
英文名	The World of Music					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE113・DLE113・HLE113・CLE113		

【目的とねらい】

世界の様々な音楽を、その様式と文化的背景とを学ぶことにより、より深く理解することを目指す。また、音楽と舞踊の関係にも着目し、様々な時代、地域の例にふれつつ考察を進めていく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　序説～人間と音楽

【　到達目標　】

人間は音楽をどのような場面で必要とし、またどのように音楽と関わってきたのか。いくつかの例を基に考察する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第２回　音階とは何か

【　到達目標　】

音階の概念について学び、（西洋芸術音楽の）調性と音階の関係について理解する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第３回　様々な音階

【　到達目標　】

様々な種類の音階について学び、それらの音階に基づく音楽を鑑賞して、響きの違いを理解する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第４回　楽器の分類とその響き（１）

【　到達目標　】

楽器の分類法について学ぶ。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第５回　楽器の分類とその響き（２）

【　到達目標　】

代表的な楽器の音色と、その楽器を使用した楽曲について理解する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第６回　音楽と「声」

【　到達目標　】

世界の様々な音楽において「声」がどのように活用されているのか、具体的な例を鑑賞しながら学ぶ。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第７回　合唱の諸相

【　到達目標　】

様々な合唱の形態について学び、さらに文化史的視点から合唱とは何かについて考察する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第８回 祈りの音楽

【　到達目標　】

「祈り」のための音楽にはどのようなものがあるのか､世界各地の例を鑑賞しながら理解する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第９回　童歌の諸相

【　到達目標　】

童歌（わらべうた）にはどのようなものがあるのか。世界各地の例を鑑賞しながら理解するとともに、童歌の社会的機能についても学ぶ。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第10回　祭りと音楽（１）

【　到達目標　】

「祭り」の中で音楽がどのような機能を付与されてきたのか。主に歴史的な視点から考察する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第11回　祭りと音楽（２）

【　到達目標　】

今日の「祭り」の中で音楽がどのような機能を付与されているのか。実例を観ながら理解する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第12回　舞曲とは何か

【　到達目標　】

舞曲の種類について学び、その実例を鑑賞しながら、舞曲における音楽と舞踊の関係について理解する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第13回 音楽と民族的アイデンティティ（１）

【　到達目標　】

民族的アイデンティティーの構築、強化に音楽がどのように用いられてきたのか、歴史的視点から考察する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第14回　音楽と民族的アイデンティティ（２）

【　到達目標　】

音楽の中に現れる民族性の問題について、具体的な例を鑑賞しながら考察する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

第15回　日本における西洋音楽の受容

【　到達目標　】

日本において西洋音楽がいかに受容されてきたのか、主に歴史的視点から考察する。

【授業時間外学習】

授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)

【学習上の留意点】

音楽という科目の性格上、CD・DVDなど視聴覚教材を多用した授業展開になるため、欠席しないことが大前提となる。

毎回、授業で扱ったテーマについてのミニ・レポートを課す。課題に真摯に向き合うことの出来る学生の参加を求める。なお、ミニ・レポートの内容も成績評価の対象とする。

【教科書・参考書など】

授業の際に随時紹介する。

【成績評価方法】

ミニ・レポート50%、学期末レポート50%の割合で評価する。

科目名	ジェンダー論			担当者	藤　山　　新	
英文名	Gender Issues					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE211・DLE211・HLE211・CLE211		

【目的とねらい】

本講義では、日常生活の様々な場面に潜在するジェンダーにまつわる事象や問題について、自分自身に関係のあることとして認識し、理解を深めることを目的とする。また、本学の特徴に合わせ、セクシュアル・マイノリティやセクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメント、デートDVなど、学校や体育、スポーツの場面で指導的立場に立つうえで必要な知識を身につけることを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　イントロダクション
【　到達目標　】
(1)セックスおよびジェンダーの概念とその変遷を理解する。
(2)ジェンダー・ギャップ指数（GGI）を通じて、国際社会における日本の位置づけを知る。
(3)ジェンダーの視点から、どのような事柄が課題となりうるのかを把握する。
【授業時間外学習】授業内容で指示するジェンダー・ギャップ指数のリポートを閲覧し、日本が特に経済と政治の分野で女性の参画が少ない状況を詳細に把握する。(4.0hr)

第２回　フェミニズムの歴史
【　到達目標　】
(1)フェミニズムの全体的な歴史を知る。
(2)現代のフェミニズムのありかたを理解する。
【授業時間外学習】授業内容のうち、特に現代のフェミニズムのありかたとその特徴について復習し、理解を定着させる。(4.0hr)

第３回　男女共同参画社会ってなんですか
【　到達目標　】
(1)男女共同参画社会推進法の理念を理解する。
(2)男女共同参画社会に対するバックラッシュの歴史を知る。
(3)男女共同参画社会を推進するための具体的な取り組みを知る。
【授業時間外学習】授業内容を踏まえ、男女共同参画社会を推進するために、国や自治体でどのような取り組みが行われているかを調べる。(4.0hr)

第４回　セクシュアル・マイノリティの基礎知識
【　到達目標　】
(1)人間の「性」の多様性と多層性について理解する。
(2)「性別二元論」および「異性愛主義」の概念を理解する。
(3)「マジョリティ＝正常」「マイノリティ＝異常」ではないことを理解する。
【授業時間外学習】授業内容を踏まえ、テレビや雑誌などのマス・メディアでセクシュアル・マイノリティがどのように描かれているかを調べる。(4.0hr)

第５回　「リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ」という考え方
【　到達目標　】
(1)「リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ」の概念を理解する。
(2)「性と生殖に関する自己決定権」が確立されるために必要な事柄を理解する。
(3)性感染症及び性犯罪の実態について知る。
【授業時間外学習】授業内容を踏まえ、厚生労働省のWebサイトに掲載されている性感染症に関する情報を閲覧し、正確な知識と情報を得る。(4.0hr)

第６回　実は身近なデートDV
【　到達目標　】
(1)デートDVの構造と実態を理解する。
(2)誰もがデートDVの被害者、加害者になりうることを理解する。
(3)「ピア・サポート」の概要と重要性を理解する。
【授業時間外学習】授業中に示すデートDV防止に取り組む団体等のWebサイトを閲覧し、ピア・サポートの重要性について、授業内容とも関連させて理解を定着させる。(4.0hr)

第７回　スポーツ・ジェンダー学という世界
【　到達目標　】
(1)スポーツ・ジェンダー学の特徴を理解する。
(2)ジェンダーの視点でスポーツをとらえた時に見えてくる課題について知る。
(3)オリンピックへの女性の参加の歴史について知る。
【授業時間外学習】あらかじめ『よくわかるスポーツとジェンダー』の「Ｉ総論」を自身のスポーツへの取組と関連させながら読んで、授業に臨む。(4.0hr)

第８回　女子ボクシングの昨日・今日・明日
【　到達目標　】
(1)日本における女子ボクシングの現状を知る。
(2)ボクサーとして必要なスキルに男女で差がないことを理解する。
(3)メディアにおける女子ボクサーの描かれ方の特徴を理解する。
【授業時間外学習】授業内容を踏まえ、スポーツ新聞やボクシング専門誌に目を通し、男性と女性のボクサーの報じられ方の異同について調べる。(4.0hr)

第９回　近代スポーツとジェンダー
【　到達目標　】
(1)「近代スポーツ」の概念を理解する。
(2)「近代スポーツ」と「男らしさ」の結びつきを理解する。
(3)女性とスポーツに関する国際的なムーブメントの歴史とその意義を把握する。
【授業時間外学習】授業内容のうち、「ブライトン宣言」についてWebで調べ、その内容と意義について理解を定着させる。(4.0hr)

第10回　保健体育科教育とジェンダー
【　到達目標　】
(1)トマス・アーノルドと二階堂トクヨの相違点について理解する。
(2)保健体育科教員の男女比の偏りがもたらす問題について理解する。
(3)競技スポーツに偏っている体育のカリキュラムに対するオルタナティブを考える。
【授業時間外学習】授業内容を踏まえ、保健体育科教育におけるジェンダー問題を理解し、解決するための方法を検討する。(4.0hr)

第11回　セクシュアル・マイノリティと学校
【　到達目標　】
(1)セクシュアル・マイノリティと学校をめぐる近年の社会的動向を把握する。
(2)当事者の体験を踏まえ、教員やスポーツの指導者として、セクシュアル・マイノリティ当事者と接するうえで必要な知識や心構えを理解する。
【授業時間外学習】第4回及び第10回の授業内容とも関連させながら、教員やスポーツの指導者としてセクシュアル・マイノリティ当事者への配慮のありかたを考える。(4.0hr)

第12回　スポーツにおけるセクシュアル・マイノリティ
【　到達目標　】
(1)セクシュアル・マイノリティとスポーツをめぐる世界的な動向を把握する。
(2)スポーツにおけるホモフォビアの存在とその現状を理解する。
(3)MtFトランスジェンダー当事者やDSDs女性のスポーツ参加に伴う課題を知る。
【授業時間外学習】授業内容および『よくわかるスポーツとジェンダー』の「IX性的マイノリティとスポーツ」を参考に、スポーツにおける「公平」とは何かを考察する。(4.0hr)

第13回　メディアとスポーツとジェンダーと
【　到達目標　】
(1)メディアにおけるジェンダー格差について理解する。
(2)メディアにおける女性アスリートの描かれ方とその変化について理解する。
【授業時間外学習】『データでみるスポーツとジェンダー』の「第7章スポーツメディアとジェンダー」を読み、メディアにおけるジェンダー問題の具体例を理解する。(4.0hr)

第14回　スポーツと人権
【　到達目標　】
(1)スポーツ界特有のセクシュアルハラスメントやパワーハラスメントの構造を理解する。
(2)スポーツ界でのハラスメントを防ぐために必要な取組について知る。
【授業時間外学習】授業内容のうち、スポーツ場面におけるセクシュアル・ハラスメントの特徴について復習し、理解を定着させる。(4.0hr)

第15回　日常生活世界に見るジェンダー
【　到達目標　】
(1)家族、就業、政治などの場面で現れるジェンダー問題について理解する。
(2)育児休業の期間や取得率の男女差、育休後の女性の復職率などの実態を知る。
【授業時間外学習】授業内で指示する男女共同参画白書令和2年版（Web版）の該当箇所を参照し、日本におけるジェンダー問題の現状を数量的に把握する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

毎時間ハンドアウトを配布します。授業内容を理解するためには、単なるハンドアウトの穴埋めにとどまらず、積極的にノートを取ることを推奨します。受講者は主体的に授業に参加し、わからない点は積極的に質問するなどしてください。授業中に質問しにくい場合には、授業の前後、およびメールでの質問にも応じます。また、理解度を確認するためのリアクションペーパーを5回提出してもらいます。リアクションペーパーの内容については、次回の授業で一部を共有し、解説によるフィードバックを行います。

【教科書・参考書など】

教科書　特に指定しない。
参考書は、『よくわかるスポーツとジェンダー』飯田貴子・熊安貴美江・來田享子著（2018）ミネルヴァ書房、『データで見るスポーツとジェンダー』日本スポーツとジェンダー学会著（2016）八千代出版、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江著（2013）ミネルヴァ書房

【成績評価方法】

リアクションペーパー30%、期末試験70%で評価する。
※試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	コンピュータ実践演習			担当者	水　野　有　希	
英文名	Lecture and Practice in Information and Communication Technology					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE212・DLE212・HLE212・CLE212		

【目的とねらい】

会社や大学、家庭など、ありとあらゆるところに情報技術が利用されています。そのような社会に生きる私たちにとって、情報技術は理論的にも実践的にも重要です。本講義では、情報技術の進歩が私たちの生活や社会にどのように影響を及ぼしているか、どのような利点と欠点が出てきたかをとらえます。また、実践として、インターネットやメールを利用した情報操作、レポート作成、データ分析やデータベース操作を身に付けます。

【授業内容・到達目標など】

第１回　情報技術について
【　到達目標　】
(1)情報技術とは何かを理解する。
(2)情報技術が利用されている例を見ながら理解を深める。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第２回　レポート作成と論文作成の基礎
【　到達目標　】
(1)レポート作成に必要なWordの技術を学ぶ。
(2)長い文章を意識したWordの技術を学ぶ。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第３回　プレゼンテーション資料の作成
【　到達目標　】
(1)プレゼンテーションについての技法を学ぶ。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第４回　クラウドについて
【　到達目標　】
(1)GoogleDriveやOneDriveについて学ぶ。

【授業時間外学習】
アンケート項目を考える。(4.0hr)

第５回　データ収集の実践
【　到達目標　】
(1)GoogleDriveを利用したアンケートの作成方法、集計技術を理解する。

【授業時間外学習】
アンケートフォームからアンケートを体験する。(4.0hr)

第６回　インターネットの仕組みと現状、情報倫理について
【　到達目標　】
(1)インターネットの仕組みを理解する。
(2)インターネットの現状を把握し、利点と欠点を理解する。
(3)情報についてのマナー、セキュリティー、プライバシー、知的財産権について学ぶ。
【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第７回　Excelの初級
【　到達目標　】
(1)Excelの基本操作と基礎的関数について学ぶ。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第８回　Excelの上級
【　到達目標　】
(1)Excelの応用関数(IF関数やVLOOKUP関数など)について学ぶ。
(2)シートの操作について学ぶ。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第９回　データベースについて
【　到達目標　】
(1)データベースとは何かについて学ぶ。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第10回　データベースの基本操作
【　到達目標　】
(1)フィルタについて学ぶ。
(2)ピボットの操作について学ぶ。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第11回　Excelの画面操作と印刷について
【　到達目標　】
(1)画面操作について学ぶ。
(2)印刷の方法について学ぶ。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第12回　グラフの作成
【　到達目標　】
(1)基本的なグラフについて学ぶ。
(2)複合グラフについて学ぶ。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第13回　Excelの総復習
【　到達目標　】
(1)第7回から第12回まで学習した内容を総合的に学ぶ。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第14回　Excelを利用したデータ分析の基礎
【　到達目標　】
(1)Excelの分析ツールを利用して、基本的統計量やヒストグラムの作成を学ぶ。
(2)Excelの分析ツールを利用して、回帰分析を学ぶ。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第15回　Excelを利用したデータ分析の応用
【　到達目標　】
(1)実際のデータを使いながら、第9回と第10回で学んだデータ分析方法を使い、
どのようなことがいえるのかを理解する。

【授業時間外学習】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

【学習上の留意点】

1年生に行った情報処理Ⅰ・Ⅱの知識を基礎として、応用的な内容を学習します。講義時間の後半10分から15分は実際に皆さんが課題を解く時間とします。解いた課題については、次回解説を行います。間違えた人は必ず復習をしてください。

【教科書・参考書など】

資料を配付します。

【成績評価方法】

毎回行われるミニ課題（講義中に出すもの)40%、演習課題（第5回,第13回）25%、総復習問題(第15回)35%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。

科目名	人間生活と地球環境			担当者	鈴　木　信　夫	
英文名	Human life and Earth Environment					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE114・DLE114・HLE114・CLE114		

【目的とねらい】

環境問題が大きく取り上げられる現代であるが、この授業では、まず最初に原始地球の環境はどのようなものであったのか、その後、生物の出現にともなって地球環境はどう変化したのかを知る。

次に、人類誕生後、我々の日々の営みが、地球上の生物にどのような影響を与えてきたか、また、限りある資源をどう利用すればいいかを考える。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション

【　到達目標　】

「人間生活と地球環境」の授業の概要とねらいを理解する。

【授業時間外学習】

事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。(4.0hr)

第２回　原始地球の環境(1)

【　到達目標　】

原始地球の環境が現在と大きく異なること、特に全海洋蒸発が起きたことを理解する。

【授業時間外学習】

事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第３回　原始地球の環境(2)

【　到達目標　】

今から６億年ほど前に起きた全球凍結のメカニズムを知り、その後、生物が爆発的に進化したことを理解する。

【授業時間外学習】

ネット等でカンブリア紀の生物の特徴を調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)

第４回　恐竜の絶滅

【　到達目標　】

生物が絶滅するメカニズムを恐竜の絶滅を例に理解する。

【授業時間外学習】

インターネットなどで恐竜絶滅の原因を調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)

第５回　人為圧による野生生物の絶滅

【　到達目標　】

野生生物の絶滅の中で、人為圧による絶滅のメカニズムをドードーやリョウコウバトの絶滅を例に理解する。

【授業時間外学習】

ネット等でドードー・リョコウバト以外の絶滅動物について調べること。(4.0hr)

第６回　酸性雨

【　到達目標　】

酸性雨の発生する仕組みを知り、その影響を理解する。

【授業時間外学習】

インターネットなどでヨーロッパにおける最近の酸性雨の影響を調べること。(4.0hr)

第７回　水問題

【　到達目標　】

人口増加による水不足の問題や、森林の荒廃による河川の生態系の崩壊など、水にまつわる問題を理解する。

【授業時間外学習】

インターネットなどで水問題について調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)

第８回　温室効果ガス

【　到達目標　】

温室効果ガスの一つである二酸化炭素の排出量を規制する条約、京都議定書が成立するまでの各国の思惑を理解する。

【授業時間外学習】

インターネットなどで京都議定書について調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)

第９回　温室効果ガス

【　到達目標　】

中国の驚異的な工業化、米国における排出権取引ビジネスの成功、海面上昇により国家存亡の危機にあるツバルの現状等を理解する。

【授業時間外学習】

ネット等で京都議定書成立後の二酸化炭素排出規制に関する問題点を調べること。(4.0hr)

第10回　崩れる生態系

【　到達目標　】

外来種の侵入が及ぼす影響、巨大ダム建設による生態系の破壊、大型肉食動物の駆除が生態系に与える影響などを理解する。

【授業時間外学習】

ネット等で外来生物法について調べ、外来生物の問題点を理解すること。(4.0hr)

第11回　リサイクル法(1)

【　到達目標　】

環境先進国であるドイツのリサイクル法(廃棄物規制令)の仕組みを理解する。

【授業時間外学習】インターネットなどでドイツのゴミリサイクルに関する現状（問題点）を調べること。(4.0hr)

第12回　リサイクル法(2)

【　到達目標　】

環境先進国であるドイツのリサイクル法(廃車政令)の仕組みを理解する。

【授業時間外学習】

ネット等で自動車メーカーのリサイクルに対する対策を調べること。(4.0hr)

第13回　リサイクル法(3)

【　到達目標　】

日本におけるリサイクル法(容器包装リサイクル法や家電リサイクル法など)の仕組みを理解する。

【授業時間外学習】

ネット等で日本におけるゴミリサイクルの現状（問題点）を調べること。(4.0hr)

第14回　環境監査(1)

【　到達目標　】

環境監査の概念を理解し、EUで導入されているEMAS(Eco-Manage-ment and Audit Scheme)の意義を理解する。

【授業時間外学習】

インターネットなどでEMASについて調べ、現状と問題点を理解すること。(4.0hr)

第15回　環境監査(2)

【　到達目標　】

EMASを手本にできたISO14001について、取得に取り組む、ある中小企業の例を参考に、その意義を理解する。

【授業時間外学習】

インターネットなどでISO14001認証取得の方法について調べ、理解すること。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。定期的に授業内容に関する小レポートを作成し、授業の理解度を確認する。結果については、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

教科書は特に使用せず、プリントを配布する。

【成績評価方法】

小レポートの達成度を100%として評価する。

科目名	ヨーロッパの文学と文化			担当者	加　賀　岳　彦	
英文名	European Literature and Culture					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE115・DLE115・HLE115・CLE115		

【目的とねらい】

ヨーロッパの文学は、日本をも含む世界中の文学・芸術・思想に多大な影響を及ぼしてきた。この授業では、ヨーロッパ文学の古典から現代までの代表的作品を、まずはその文化的背景、時代、社会と関連づけながら理解し、そして現代に生きる我々の諸問題と結び付けて考察していく。なお講義の性質上、ヨーロッパ文学と類縁関係にあるアメリカ文学、およびヨーロッパ文学から大きな影響を受けた近代日本文学をも視野に置き、頻繁に言及する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業概要の説明・ヨーロッパの地理・歴史の概観

【　到達目標　】

授業内容を理解する。

ヨーロッパの地理・歴史についての基礎概念を理解する。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第２回　ヨーロッパ文学の源流　ギリシャ神話

【　到達目標　】

ヨーロッパ文化の源流であるギリシャ神話の自然観・世界観・人間観を理解し、20世紀文学への影響等を考察する。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第３回　ヨーロッパ文学の源流　古典ギリシャ文学①

【　到達目標　】

ギリシャ神話を知識を基に、西洋最古の文学であるホメロスの英雄叙事詩『イリアス』を考察する。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第４回　ヨーロッパ文学の源流　古典ギリシャ文学②

【　到達目標　】

『イリアス』に続き、ホメロスの英雄叙事詩『オデュッセイア』を概観し、20世紀文学への影響などを考察する。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第５回　ヨーロッパの古典思想　古典ギリシャ哲学

【　到達目標　】

その後のヨーロッパ文明に大きな影響を与えたギリシャ哲学を概観し、特にプラトンの思想を具体的に考察する。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第６回　ユダヤ＝キリスト教①　『旧約聖書』

【　到達目標　】

ギリシャ文学と並び、後世のヨーロッパ文化を決定づけた『旧約聖書』の主要個所を精読し、その世界観・特徴・歴史的重要性を考察する。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第７回　ユダヤ＝キリスト教②　『新約聖書』

【　到達目標　】

前回の『旧約聖書』を踏まえて、『新約聖書』の主要個所を精読し、イエスの思想およびキリスト教の特徴を理解し、後世のヨーロッパ文化に与えた影響を考察する。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第８回　ヨーロッパ中世の文化

【　到達目標　】

ヨーロッパ「中世」という時代の歴史的背景を捉えた上で、カトリック、マリア崇敬などに見られる中世文化の諸特徴を考察する。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第９回　ヨーロッパ中世の文学

【　到達目標　】

ヨーロッパ中世文学を考察する。ここでは中世期にヨーロッパ中に広まった「アーサー王伝説」およびその物語群を考察し、19～20世紀への影響等を追っていく。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第10回　ルネサンスの文学①

【　到達目標　】

中世からの時代の変化を十分踏まえながら、ルネサンス文学の特徴と本質は何なのかを、セルヴァンテスの『ドン・キホーテ』の主要個所の精読を通して考察する。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第11回　ルネサンスの文学②

【　到達目標　】

前回に続きルネサンスの文学を考察する。ここではウィリアム・シェイクスピアの作品を題材に、その表現方法やテーマから、ルネサンス文学の特徴と魅力を掴む。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第12回　宗教改革

【　到達目標　】

宗教改革（Reformation）は単に宗教上の運動にとどまらず、その後のヨーロッパ近代社会の発展に様々な影響を与えた。その内実を、ルター、カルヴァンのテキストを通して理解していく。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第13回　ヨーロッパ近代の文学①

【　到達目標　】

宗教改革以降、ヨーロッパの近代文学には何がどのように描かれ、どのような発展と分岐を経ていったのかを概観し、その多様な特徴を理解する。主にディケンズの作品を扱う。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第14回　ヨーロッパ近代の文学②

【　到達目標　】

18～19世紀のヨーロッパ・アメリカにおけるデモクラシー・平等といった近代諸概念を、文学はどう扱い表現していったのか、その特徴を理解する。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第15回　ヨーロッパの現代文学

【　到達目標　】

「戦争の世紀」と言われる20世紀、ヨーロッパでは多くの新思潮が抬頭してきた。それらの傾向と方向性を捉えた上で、モダニズム、実存、不条理など、20世紀ヨーロッパ文学が描き出した人間存在の諸問題を考察する。

【授業時間外学習】

配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

授業時に配布するテキストをしっかり読み、毎回の授業の復習として授業の要点を各自ノートにまとめておくことを勧める。また授業で触れた作品を自分で読んでみたり、その映画作品を観たりすると、理解が格段に深まる。

【教科書・参考書など】

授業時に資料集を配布する。また随時、重要文献・映像資料等を指示する。

【成績評価方法】

授業時での課題50%、理解度確認のためのテスト50%で評価する。

科目名	レクリエーションミュージック・合奏			担当者	今　角　夏　織	
英文名	Recreation music (Ensemble)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE116・DLE116・HLE116・CLE116		

【目的とねらい】

高校までの音楽科の授業を発展させる形で、「音を合わせる」ということを学ぶ。合奏や合唱の経験を通して豊かな表現力を養い、協力して一つの曲を完成させる喜びを味わう。

【授業内容・到達目標など】

第１回　楽譜の基礎知識①/声のアンサンブル導入
【　到達目標　】
基本的な楽譜の読み方を理解する。歌唱に必要な身体の使い方を理解する。
【授業時間外学習】
楽譜の読み方を復習する。(4.0hr)

第２回　音楽の形式①/声のアンサンブル
【　到達目標　】
校歌の音楽的特徴を理解したうえで、二部合唱で歌う。
【授業時間外学習】
校歌のメロディーを確認する。(4.0hr)

第３回　楽譜の基礎知識②/身近なものを使ったアンサンブル①
【　到達目標　】
プラスチックカップを用いていくつかの音色を出し、リズムを理解してアンサンブルを楽しむ。
【授業時間外学習】
楽曲の正しいリズムを習得する。(4.0hr)

第４回　身近なものを使ったアンサンブル②/リコーダー導入
【　到達目標　】
前回学習したリズムを応用して、音楽に合わせて正しく演奏する。リコーダーの基本的な奏法を理解する。
【授業時間外学習】
リコーダーの取り扱いを習得する。(4.0hr)

第５回　身近なものを使ったアンサンブル③（発表）/リコーダー運指①
【　到達目標　】
グループに分かれ、アレンジを完成させる。初歩的なリコーダーの運指を理解する。
【授業時間外学習】
学習したリコーダーの運指を復習する。(4.0hr)

第６回　音楽の形式②/楽器のアンサンブル：スペインのカスタ①
【　到達目標　】
各国の伝統的なリズムに触れ、違いを理解する。カスタネットの奏法を理解する。
【授業時間外学習】
打楽器の基本的な取り扱いを習得する。(4.0hr)

第７回　楽器のアンサンブル：スペインのカスタ②（発表）
【　到達目標　】
カスタネット、トライアングル等によるアンサンブルを楽しむ。
【授業時間外学習】
第６回で扱った楽曲の復習をする。(4.0hr)

第８回　ボディーパーカッション①/リコーダー運指②
【　到達目標　】
身体を打ち鳴らして出る様々な音を発見する。リコーダーで１オクターブの音域を使って演奏する。
【授業時間外学習】
リコーダーの運指を復習する。(4.0hr)

第９回　ボディーパーカッション②
【　到達目標　】
グループごとに創意工夫をして、ボディーパーカッションのアレンジをする。
【授業時間外学習】
第８回で扱った楽曲の復習をする。(4.0hr)

第10回　ボディーパーカッション③（発表）/楽譜の基礎知識③
【　到達目標　】
第９回でアレンジした曲を演奏し、互いの演奏を聴き合う。
【授業時間外学習】
第９回で取り組んだ内容の復習をする。(4.0hr)

第11回　リコーダー運指③/トーンチャイム導入
【　到達目標　】
リコーダーのサミングを習得する。トーンチャイムの取り扱いを習得する。
【授業時間外学習】
これまでに学習したリコーダーの運指の復習をする。(4.0hr)

第12回　楽器のアンサンブル：トーンチャイム①
【　到達目標　】
自らのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。
【授業時間外学習】
トーンチャイム演奏における楽譜の読み方を復習する。(4.0hr)

第13回　楽器のアンサンブル：トーンチャイム②/リコーダー①
【　到達目標　】
トーンチャイムのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。
【授業時間外学習】
リコーダーの奏法：タンギングの復習をする。(4.0hr)

第14回　楽器のアンサンブル：トーンチャイム③/リコーダー②
【　到達目標　】
トーンチャイム：リズム、メロディーが際立つ演奏をする。リコーダー：チューニングを学ぶ。
【授業時間外学習】
担当するパートの復習をする。(4.0hr)

第15回　リコーダー＆トーンチャイム（発表）
【　到達目標　】
今までに学習したことを生かし、より音楽的に仕上げる。
【授業時間外学習】
第14回の授業内容を復習する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

ソプラノリコーダーは、履修する全学生が指示の通りに購入すること。
アンサンブルはひとりでも欠けると成立しないので、欠席しないことを条件に課す。
各回に提出された課題に対してコメントをする形で取り組みに対する評価を行う。

【教科書・参考書など】

適宜楽譜を配布する。

【成績評価方法】

授業における課題達成度および授業内演奏の習熟度50%、授業内課題提出50%で評価する。

科目名	スポーツ運動学			担当者	石　塚　　浩	
英文名	Sport Movement Theory					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・必修	専門基礎・必修	専門基礎・選択	専門基礎・必修
授業形態	講義		科目ナンバー	DBR101		

【目的とねらい】

運動技術の階層概念について認識を深め、他の要因である体力や戦術との相互関係について、さらに体力の内容と技術や戦術との関連性が深い専門的体力について理解する。さらに、戦術の特性とそのゲシュタルトの捉え方について理解を深める。一方で、運動構造について局面構造を理解し、さらに動感（キネステーゼ）との関連から「コツ」や「カン」の発生について理解を深める。また、運動の習熟過程として「できない」から「いつでも上手にできる」に至るまでの位相構造について、実践的に理解する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　運動技能の構造
【　到達目標　】
運動技能を構成する要因である「技術」「戦術」「体力」の関係について理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第２回　技術や戦術と専門的体力の関係
【　到達目標　】
複合した要因となる専門的体力について技術の側面、また戦術の側面について理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第３回　運動技能と発育発達との関係
【　到達目標　】
年齢段階によって運動技能を構成する要因を育成する方向性に変化があることを理解し、自己の経験と比較対照する。

【授業時間外学習】
中学・高校での「運動経験」と配布プリントの内容との照合。(4.0hr)

第４回　宮本武蔵の「五輪書」や孫子の「兵法」における技術と戦術
【　到達目標　】
武道という日本古来の古書から技術、戦術の分類をし、また中国の孫子の兵法からも理解を深める。

【授業時間外学習】
配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)

第５回　戦術に関する要因とその具体例（１）
【　到達目標　】
代表的なスポーツ種目における戦術を取り上げるとともに、戦略、作戦といった概念についても理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第６回　戦術に関する要因とその具体例（２）
【　到達目標　】
技術の獲得と戦術を利用した指導場面から、その基礎となる「状況判断能力」と、その代表的なモデル例を理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)

第７回　技術練習の方法
【　到達目標　】
技術練習を行う際の手順に隠されている運動表象、運動投企、運動記憶といった概念を知り、動きのコツ獲得の方法論を理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)

第８回　戦術練習の方法
【　到達目標　】
戦術練習を行う際に必要な「アイコンタクト」「トライアングル」「サポーティング」「コーチング」という内容を理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)

第９回　運動技能の構造に関する諸要因とその関連性
【　到達目標　】
運動技能の構造に関する諸要因を理解し、個々の要因との関連を関連づけながら理解を深める。

【授業時間外学習】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第10回　運動の構造（局面構造に着目して）（１）
【　到達目標　】
運動形式（循環性運動、非循環性運動、運動組み合わせ）から、その構造と実際のスポーツ場面での応用について理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第11回　運動の構造（リズム構造に着目して）（２）
【　到達目標　】
運動の構造に関する具体例について分析・検討し、実習授業等で課題となっている内容について理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第12回　運動技能の上達過程「できない」から「できる」の階層
【　到達目標　】
運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、粗協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第13回　運動技能の上達過程「できる」から「上手にできる」の階層
【　到達目標　】
運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、精協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第14回　運動技能の上達過程「上手にできる」から「いつでも上手にできる」の階層
【　到達目標　】
運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、最高精協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第15回　運動技能の上達過程における「コツ」と「カン」の獲得
【　到達目標　】
運動技能の上達過程で発生する「コツ」や「カン」について、実践例を映像資料などから分析し、総合的に理解する。

【授業時間外学習】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

【学習上の留意点】

スポーツ運動学における発生論、構造論、伝承論の領域を相互関連的に理解する必要があり、パワーポイント画面を写すだけでは表層的な理解に留まる恐れがある。自らメモをとるとともに、自己のスポーツやダンスの経験と照らし合わせながら理解することが最も重要である。また、書く力、表現する力といった総合的な能力を陶冶することが求められる。数回のレスポンスカードによる確認を行なう。さらに、スポーツ運動学では、一つの正解を覚える、または、一つの正解しかないという発想を捨てることが求められる。

【教科書・参考書など】

教科書：「教師のための運動学」金子明友・監修　吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）
参考書：「マイネル　スポーツ運動学」K．マイネル著、金子明友訳（大修館書店）
「スポーツ運動学序説」朝岡正雄・著（不昧堂出版）、「スポーツ運動学」金子明友・著（明和出版）

【成績評価方法】

全体の２０％は数回配付される授業内容の考察用紙の内容、小テストの結果、授業時の挙手による、または、指名による回答であり、残りの８０％はレポートもしくは試験の結果から評価する。試験の場合は、試験期間中に実施。

科目名	スポーツ生理学			担当者	星　川　佳　広	
英文名	Sport Physiology					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・必修	専門基礎・必修		
授業形態	講義		科目ナンバー	DBR102		

【目的とねらい】

私たちの身体の諸機能のうち、スポーツ・ダンスなど身体運動と関係が深い神経系、筋系、呼吸系、循環系、内分泌系、体温調節などについて、その生理学的な仕組みの基礎を学ぶ。運動に対して身体がどのように応答するか、またそれを繰り返す（＝トレーニング）と身体はどのように変化するかについて、生理学的に理解する基礎を作る。

第１回　スポーツ生理学とは何か

【　到達目標　】

スポーツ生理学の概要と本講義における学習到達目標を理解する。

【授業時間外学習】配布資料､教科書に基づきスポーツ生理学の概要を復習する｡教科書第1章の予習をする。(4.0hr)

第２回　スポーツと骨格筋・神経①

【　到達目標　】

骨格筋・神経の解剖、生理について理解を深め、運動発現とその調節の仕組みについて理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第1章・7章の予習をする。(4.0hr)

第３回　スポーツと骨格筋・神経②

【　到達目標　】

神経系からの指令を受けた筋が収縮し運動が発現する仕組みを理解する。特に筋線維組成について理解する。また、脳機能についても扱う。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第1章・7章の予習をする。(4.0hr)

第４回　スポーツとエネルギー供給機構

【　到達目標　】

エネルギーを生み出す仕組みとその種類について理解し、トレーニングに応用できる。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第2章の予習をする。(4.0hr)

第５回　スポーツと呼吸①

【　到達目標　】

運動時の呼吸機能の変化と調節機構について理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第3章の予習をする。(4.0hr)

第６回　スポーツと呼吸②

【　到達目標　】

最大酸素摂取量、最大酸素借について理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第3章の予習をする。(4.0hr)

第７回　スポーツと循環①

【　到達目標　】

循環系の解剖、生理について理解を深め、運動時の変化について理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第4章の予習をする。(4.0hr)

第８回　スポーツと循環②

【　到達目標　】

運動中の心臓応答、トレーニングに利用できる心拍数の変化について理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第4章の予習をする。(4.0hr)

第９回　スポーツと代謝、栄養①

【　到達目標　】

異化と同化、運動中のエネルギー基質利用について理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第5章・9章の予習をする。(4.0hr)

第９回　スポーツと代謝、栄養②

【　到達目標　】

運動に関係する栄養成分の働きと特性の基礎を理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第5章・9章の予習をする。(4.0hr)

第11回　スポーツと内分泌・ストレス

【　到達目標　】

運動時の呼吸、循環機能変化やエネルギー消費を調節する内分泌系について理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第6章の予習をする。(4.0hr)

第12回　スポーツと体組成

【　到達目標　】

体組成の概念とトレーニング効果について理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第10章の予習をする。(4.0hr)

第13回　スポーツと発育発達

【　到達目標　】

身体サイズの発育および諸機能の発達について概要を理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第11章の予習をする。(4.0hr)

第14回　スポーツと体温調節

【　到達目標　】

体温調節の仕組みとパフォーマンスへの影響について理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第12章の予習をする。(4.0hr)

第15回　スポーツと身体不活動

【　到達目標　】

運動不足や身体不活動が及ぼす身体諸機能への影響を理解する。

【授業時間外学習】

講義内容を教科書およびノートにより復習する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

教科書と図表スライドを用いて講義内容の要点を示し、口頭および板書にて詳細を説明する。ほぼ毎時間、講義内容に関する提出物がある。適宜、理解度テストを行い、授業内でフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

「スポーツ生理学」　冨樫健二編、化学同人

【成績評価方法】

定期試験(試験は試験期間中に別途実施する)50%、理解度テスト20%、提出物30%で評価する。なお、良好な出席状況は、当然の前提である。

科目名	スポーツ原論			担当者	都　筑　　真	
英文名	Principle of Sports					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・必修	専門基礎・必修	専門基礎・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	DBR103		

【目的とねらい】

本講義では、古代から現代に至るまでのスポーツや体育の展開を概観しながら、これまでのスポーツや体育の在り様や諸問題について理解を深めることを目的とする。これまでのスポーツや体育の在り様を学ぶことを通じて、現在のスポーツや体育が抱える諸問題をより深く理解し、さらにそのことを通じて、これからのスポーツや体育の在り方を考察することをねらいとする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
(1)講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。

【授業時間外学習】
参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。(4.0hr)

第２回　古代のスポーツ
【　到達目標　】
(1)ギリシャやローマなどの古代のスポーツの在り様を理解し、現在のスポーツとの類似点や相違点について考察する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第３回　中世のスポーツ
【　到達目標　】
(1)ヨーロッパや日本などの中世のスポーツの在り様を理解し、現在のスポーツとの類似点や相違点について考察する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第４回　近代のスポーツ①
【　到達目標　】
(1)イギリスにおける近代スポーツの発展過程を理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第５回　近代スポーツ②
【　到達目標　】
(1)近代スポーツが国際的に普及していく過程を理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第６回　近代オリンピックの創始
【　到達目標　】
(1)近代オリンピックが何故創始されたのかを理解する。
(2)日本の近代オリンピックとの関わりを理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第７回　近代オリンピック開催を脅かしてきた様々な問題
【　到達目標　】
(1)戦争、テロ、ボイコットなど近代オリンピックの開催を脅かしてきた問題について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第８回　体育とスポーツの違いと体育の目的
【　到達目標　】
(1)体育とスポーツの概念を整理し、両者の違いを理解する。
(2)体育は何を目的として行われているのかを理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第９回　体育の理念の変遷
【　到達目標　】
(1)体育の理念の変化と、体育において求められる人間像の変化について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第10回　社会変化と今後の体育
【　到達目標　】
(1)社会の変化やスポーツ需要の変化を理解し、今後の体育の在り方について考察する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第11回　スポーツのグローバリゼーションとナショナリズム
【　到達目標　】
(1)スポーツのグローバリゼーションの背景や具体例を踏まえ、この現象がもたらす長所や問題点について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第12回　スポーツと政治
【　到達目標　】
(1)スポーツ界が掲げる「政治のスポーツへの不介入」という理想と現実の乖離について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第13回　スポーツとドーピング
【　到達目標　】
(1)スポーツ界におけるドーピング問題とアンチ・ドーピングの取り組みを理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第14回　スポーツとジェンダー
【　到達目標　】
(1)スポーツ界における男性中心主義とそれを解消する取り組みについて理解する。
(2)性の多様な在り方が引き起こす問題について考察する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第15回　「スポーツ・フォー・オール」運動
【　到達目標　】
(1)ヨーロッパにおける「スポーツ・フォー・オール」運動の背景や展開、そしてその影響を受けて日本で展開されてきた「生涯スポーツ」の推進について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義ではほぼ毎回、講義内容に関する小レポートを課し、理解度の確認を行う。小レポートの結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。「スポーツ史」と併せて履修することが望ましい。

【教科書・参考書など】

特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。『体育・スポーツ史概論』（木村吉次編著、市村出版）と『教養としての体育原理』（友添秀則／岡出美則編、大修館書店）を講義の参考書として利用すること。

【成績評価方法】

講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	スポーツ心理学			担当者	佐々木万丈	
英文名	Sport Psychology					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	講義		科目ナンバー	DBR104		

【目的とねらい】

スポーツ心理学の研究領域で提出された知見と最新の研究成果に関わる基礎的事項を学修することが目的である。取り上げるトピックは、いずれもスポーツ競技場面や体育授業、健康の保持増進を目的とする身体活動との関わりで検討されている内容であるが、ダンサーやダンスを指導する者にとってもその有用性は高い。ダンスおよびダンス指導の実践に活用できる心理学的知識の習得とその応用力を高めることが本講義のねらいとなる。

【授業内容・到達目標など】

第１回　スポーツ心理学概説 【　到達目標　】 (1)スポーツ心理学の定義を理解し、説明することができる。 (2)スポーツ心理学における研究課題の枠組みを理解し、説明することができる。 【授業時間外学習】 復習課題（授業のまとめ）と予習課題（不安の役割を調べる）に取り組む。(4.0hr)	**第９回　スポーツ傷害と選手の心理** 【　到達目標　】 (1)スポーツ選手の傷害発生を心理学的に理解し、説明することができる。 (2)ストレス理論を用いたスポーツ傷害の予防及び対処について説明することができる。 【授業時間外学習】復習（授業まとめ）と予習（バーンアウト、学習性無力感について調べる）に取り組む。(4.0hr)
第２回　スポーツと不安 【　到達目標　】 (1)不安には２つの側面（状態不安と特性不安）が仮説的に定義されていることを理解し、説明できる。 (2)逆U字理論を理解し説明できる。 【授業時間外学習】 復習（授業のまとめ）と予習（ストレスの解説を読み自分の経験を整理）に取り組む。(4.0hr)	**第10回　スポーツとバーンアウト** 【　到達目標　】 (1)スポーツ選手のバーンアウト発症機序を説明できる。 (3)バーンアウトや学習性無力感に対する対処法を説明できる。 【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（配布資料を読んで自分の引退後を考える）に取り組む。(4.0hr)
第３回　スポーツとストレス 【　到達目標　】 (1)スポーツ選手の認知や行動の問題の理解と改善に、心理学的ストレス研究がどのように貢献できるのかを説明できる。 【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（動機づけの解説を読みその定義を考える）に取り組む。(4.0hr)	**第11回　スポーツとキャリアトランジション** 【　到達目標　】 (1)スポーツ選手の競技引退に関わる問題や課題を理解し、説明することができる。 【授業時間外学習】復習（授業まとめ）と予習（ライフスキルの定義を調べ、内容を整理する）に取り組む。(4.0hr)
第４回　スポーツと動機づけ（１） 【　到達目標　】 (1)動機づけとは何かを理解し、説明できる。 (2)自己決定理論を理解し、スポーツ行動がどのように起こるのか説明できる。 【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（資料を読みやる気を高める方法を考える）に取り組む。(4.0hr)	**第12回　スポーツとライフスキル** 【　到達目標　】 (1)スポーツ活動の効果の一つである心理社会的スキルはどのような心理的過程を経て習得されるのかを説明することができる。 (2)心理社会的スキルがライフスキルに般化する過程を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（LGBTを告白したスポーツ選手を調べる）に取り組む。(4.0hr)
第５回　スポーツと動機づけ（２） 【　到達目標　】 (1)期待価値理論、原因帰属理論、社会的学習理論、達成目標理論をそれぞれ理解し、説明することができる。 (2)スポーツ場面のやる気の高め方を具体的に説明できる。 【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（運動技能の分類について整理する）に取り組む。(4.0hr)	**第13回　スポーツとジェンダー** 【　到達目標　】 (1)スポーツ活動場面におけるジェンダーに関わる問題や課題を具体的に説明することができる。 【授業時間外学習】復習（授業まとめ）と予習（リッカート法、半構造化面接について調べる）に取り組む。(4.0hr)
第６回　スポーツと運動学習 【　到達目標　】 (1)運動学習における運動技能と認知技能について理解し、説明することができる。 (2)効果的な運動学習の方法を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】復習（授業まとめ）と予習（ガイダンス仮説､文脈干渉効果などを調べる）に取り組む。(4.0hr)	**第14回　スポーツ心理学研究法（１）調査方法について** 【　到達目標　】 (1)質問紙法、面接法、事例研究法などを理解し、説明することができる。 【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（平均が頻繁に使用される理由を考える）に取り組む。(4.0hr)
第７回　運動学習と認知 【　到達目標　】 (1)認知とスキーマについて理解し、説明することができる。 (2)高い運動スキルを支える認知的要因を説明できる。 【授業時間外学習】 復習(授業まとめ)と予習(自分の心理的競技能力のレベルを測定する)に取り組む。(4.0hr)	**第15回　スポーツ心理学研究法（２）統計法について** 【　到達目標　】 (1)度数分布、平均、分散、標準偏差について理解し、それぞれを実際に用いてデータを処理することができる。 【授業時間外学習】 本時の復習課題に取り組むと共に、改めて全体をノートに基づき振り返る。(4.0hr)
第８回　スポーツと心理的競技能力 【　到達目標　】 (1)スポーツ選手に必要な心理的要素について理解し、説明できる。 (2)DIPCAⅢにより自らの心理的競技能力を把握し、分析できる。 【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（自らを振り返りケガの要因をまとめる）に取り組む。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

授業ではパワーポイントにより要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者はスライドのみをノートに書き写すだけでは、学習としては不十分であることを理解しておく必要がある。集中してメモを取り、スポーツ活動に役立つオリジナルのスポーツ心理学ノートを作り上げる努力をすることが肝要である。また、毎時間、その時間の内容に関する復習課題と次時の内容に関する予習課題を提示する。授業以外の時間を有効に使い、復習と予習に取り組むことで知識の定着を図るよう努力する必要がある。特に復習課題については、次時の冒頭で、簡単な整理上の要点を説明するので、授業後に各自が行う復習は必須である。

【教科書・参考書など】

教科書として「基礎から学ぶスポーツの心理学」（著者：佐々木万丈、出版社：勁草書房）を使用する。また、 適宜、参考資料を配付する。

【成績評価方法】

期末テストの結果（100％：試験は別途試験期間中に実施）に基づいて評価する。

科目名	機能解剖学			担当者	永　野　康　治	
英文名	Functional Anatomy					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・必修	専門基礎・必修	専門基礎・必修	
授業形態	講義		科目ナンバー	DBR105		

【目的とねらい】

本講義の目的は骨格と各関節の構造、特徴、運動、および筋の走行、機能を学び、身体の動きを関節運動と筋肉の働きから理解することである。本講義のねらいは、体育・スポーツに関わる者として、身体の構造や動きを骨格や筋機能の面から理解することで、自らのスポーツ活動におけるパフォーマンス向上や怪我の予防に生かし、さらには運動を指導する立場において効率的な評価、処方、指導ができるようになることである。

【授業内容・到達目標など】

第１回　機能解剖学概論（機能解剖学の基礎）
【　到達目標　】
(1)機能解剖を学ぶうえで必要な基礎事項や用語の定義を説明できる。
(2)全身の骨格を概観し、全身の骨の名称とその位置を同定できる。
【授業時間外学習】
全身の骨の名称とその位置を覚える。(4.0hr)

第２回　上肢の骨格1：鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨
【　到達目標　】
(1)上肢(鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨)の骨の形状を図示できる。
(2)上肢(鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨)の代表的な骨指標を同定できる。
(3)上肢(鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨)の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨の特徴を覚える。(4.0hr)

第３回　上肢の骨格2：尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨
【　到達目標　】
(1)上肢(尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨)の骨の形状を図示できる。
(2)上肢(尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨)の代表的な骨指標を同定できる。
(3)上肢(尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨)の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨の特徴を覚える。(4.0hr)

第４回　下肢の骨格1：寛骨、大腿骨、膝蓋骨
【　到達目標　】
(1)下肢(寛骨、大腿骨、膝蓋骨)の骨の形状を図示できる。
(2)下肢(寛骨、大腿骨、膝蓋骨)の代表的な骨指標を同定できる。
(3)下肢(寛骨、大腿骨、膝蓋骨)の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
寛骨、大腿骨、膝蓋骨の特徴を覚える。(4.0hr)

第５回　下肢の骨格2：脛骨、腓骨、足根骨
【　到達目標　】
(1)下肢(脛骨、腓骨、足根骨)の骨の形状を図示できる。
(2)下肢(脛骨、腓骨、足根骨)の代表的な骨指標を同定できる。
(3)下肢(脛骨、腓骨、足根骨)の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
脛骨、腓骨、足根骨の特徴を覚える。(4.0hr)

第６回　体幹の骨格1：脊柱、頚椎
【　到達目標　】
(1)体幹(脊柱、頚椎)の骨の形状を図示できる。
(2)体幹(脊柱、頚椎)の代表的な骨指標を同定できる。
(3)体幹(脊柱、頚椎)の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
脊柱、頚椎の特徴を覚える。(4.0hr)

第７回　体幹の骨格2：胸椎、腰椎、仙骨、肋骨
【　到達目標　】
(1)体幹(胸椎、腰椎、仙骨、肋骨)の骨の形状を図示できる。
(2)体幹(胸椎、腰椎、仙骨、肋骨)の代表的な骨指標を同定できる。
(3)体幹(胸椎、腰椎、仙骨、肋骨)の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】胸椎、腰椎、仙骨、肋骨の特徴を覚える。骨格についての復習課題に取り組む。(4.0hr)

第８回　関節の構造と関節運動　概論
【　到達目標　】
(1)関節の大まかな構造と種類を説明できる。
(2)関節運動の定義と実際の運動を結びつける。
(3)肩甲上腕関節を例に、関節の構造と運動を説明できる。
【授業時間外学習】
各関節運動と実際の運動を一致させて覚える。(4.0hr)

第９回　関節の構造と関節運動　上肢1
【　到達目標　】
(1)肩甲胸郭関節、肩甲上腕関節を構成する骨、安定組織を列挙できる。
(2)肩甲胸郭関節の運動と作用する筋肉を関係づける。
(3)肩甲胸郭関節、肩甲上腕関節の構造や筋機能の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)

第10回　関節の構造と関節運動　上肢2
【　到達目標　】
(1)肘関節、前腕、手関節、指節間関節を構成する骨、安定組織を列挙できる。
(2)肘関節、前腕、手関節、指節間関節の運動と作用する筋肉を関係づける。
(3)肘関節、前腕、手関節、指節間関節の構造や筋機能の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)

第11回　関節の構造と関節運動　下肢1
【　到達目標　】
(1)股関節、脛骨大腿関節を構成する骨、安定組織を列挙できる。
(2)肘関節の運動と作用する筋肉を関係づける。
(3)肘関節の構造や筋機能の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)

第12回　関節の構造と関節運動　下肢2
【　到達目標　】
(1)膝蓋大腿関節を構成する骨、安定組織を列挙できる。
(2)脛骨大腿関節、膝蓋大腿関節の運動と作用する筋肉を関係づける。
(3)脛骨大腿関節、膝蓋大腿関節の構造や筋機能の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)

第13回　関節の構造と関節運動　下肢3
【　到達目標　】
(1)足関節、足部を構成する骨、安定組織を列挙できる。
(2)足関節、足部の運動と作用する筋肉を関係づける。
(3)足関節、足部の構造や筋機能の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)

第14回　関節の構造と関節運動　体幹1
【　到達目標　】
(1)脊柱の関節(椎間関節、椎体間関節)を構成する骨、安定組織を列挙できる。
(2)頚部、胸腰部の運動と作用する筋肉を関係づける。
(3)脊柱の関節(椎間関節、椎体間関節)や構造や筋機能の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)

第15回　関節の構造と関節運動　体幹2
【　到達目標　】
(1)胸郭(肋椎関節)を構成する骨、安定組織を列挙できる。
(2)(呼吸)胸郭運動の運動と作用する筋肉を関係づける。
(3)胸郭の構造や筋機能の特徴を説明できる。
【授業時間外学習】
関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)

【学習上の留意点】

授業開始時にその日の内容に関するクイズを出題するので積極的に参加し、基礎知識を確認する。授業は配布される講義ノートへの記述を中心に授業を進める。その際に使用したプレゼンテーション資料はWeb上に公開するので、復習に用いること。授業の中盤、および終了時に理解度確認テストを行い内容を整理する。また、復習用の課題を1、7、13回目にし、課題に取り組むことで知識の定着を図る。その際の回答、質問はWeb上から入力し、授業中にフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

教科書：特に指定しない
参考書：筋骨格系のキネシオロジー(医歯薬出版)
　　骨・関節・筋肉の構造と動作のしくみ(ナツメ社)

【成績評価方法】

課題　20%
期末試験（試験は試験期間中に別途実施）80%

科目名	モダンダンスⅠ			担当者	坂　本　秀　子	
英文名	Modern Dance Ⅰ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	実技		科目ナンバー	DBR106		

【目的とねらい】

本授業では、身体の正しい使い方を理解し、基本的な技術を習得する。また様々な質を持つコンビネーションを体験し、実力を高めていく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション 【　到達目標　】 授業の取り組み方、その他注意事項も含めてモダンダンス基礎の講座について理解する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)	**第９回　習作：グループワーク１** 【　到達目標　】 グループに分かれ、動きを考案し、クラスの仲間に教え合う事によって、動きの本質を確認する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)
第２回　基礎技術の確認 【　到達目標　】 床に正しく立つこと、歩くことの基礎技術を確認し習得する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)	**第10回　習作：グループワーク２** 【　到達目標　】 グループに分かれ、動きを考案し、クラスの仲間に教え合う事によって、動きの本質を確認する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)
第３回　コンビネーション１ 【　到達目標　】 脚上げの基礎技術を確認し習得する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)	**第11回　習作：グループワーク３** 【　到達目標　】 グループに分かれ、動きを考案し、クラスの仲間に教え合う事によって、動きの本質を確認する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)
第４回　コンビネーション２ 【　到達目標　】 ターン系の基礎技術を確認し習得する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)	**第12回　発表、再検討** 【　到達目標　】 改善する箇所を相談し、修正する事によってより深く動きの本質を理解する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)
第５回　コンビネーション３ 【　到達目標　】 ジャンプ系の基礎技術を確認し習得する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)	**第13回　グループワーク、踊り込み練習** 【　到達目標　】 複数回練習する事によって、考案したフレーズをなめらかに踊れるようになる。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)
第６回　コンビネーション４ 【　到達目標　】 その他の動きの基礎技術を習得する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)	**第14回　発表、評価** 【　到達目標　】 発表、評価を通して、動きの習熟度を確認する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)
第７回　コンビネーション１、２の発展、応用 【　到達目標　】 複合された動きをマスターする。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)	**第15回　ビデオ鑑賞、前期の感想、反省等** 【　到達目標　】 ビデオ鑑賞、前期の感想、反省等を通して動きの習熟度を確認する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)
第８回　コンビネーション３、４の発展、応用 【　到達目標　】 複合された動きをマスターする。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)	

【学習上の留意点】

ダンスする上で、最も重要な基礎を習得するため、毎時間毎時間集中して授業に取り組んで下さい。

【教科書・参考書など】

特にありません。

【成績評価方法】

レポート２０％、テスト６０％、授業への取り組み方・参加度２０％の割合で総合的に評価する。

科目名	モダンダンスⅡ			担当者	松　山　善　弘	
英文名	Modern Dance Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	実技		科目ナンバー	DBR107		

【目的とねらい】

様々な運動単位から発展してきたコンビネーションやレパートリーの学習を通して、イメージと連鎖した表現、技術の習得を目指す。空間、リズム、流れを意識して、イメージに相応しい作品を作る。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業進行についてのオリエンテーション（DVDを使用） 【　到達目標　】 授業の取り組み方、その他注意事項も含めて本授業について理解する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)	**第９回　重心の移動を意識したコンビネーションの練習１** 【　到達目標　】 重心の移動を理解し、効率よく移動できるようになる。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)
第２回　身体のセンターに対する意識を高める（エクササイズ）１ 【　到達目標　】 身体のセンターについて理解し意識を高める。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)	**第10回　重心の移動を意識したコンビネーションの練習２** 【　到達目標　】 重心の移動を理解し、効率よく移動できるようになる。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)
第３回　身体のセンターに対する意識を高める（エクササイズ）２ 【　到達目標　】 身体のセンターについて理解し意識を高める。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)	**第11回　重心の移動を意識したコンビネーションの練習３** 【　到達目標　】 重心の移動を理解し、効率よく移動できるようになる。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)
第４回　身体のセンターに対する意識を高める（エクササイズ）３ 【　到達目標　】 身体のセンターについて理解し意識を高める。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)	**第12回　重心の移動を意識したコンビネーションの練習４** 【　到達目標　】 重心の移動を理解し、効率よく移動できるようになる。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)
第５回　骨盤に対する意識を高める（エクササイズ）１ 【　到達目標　】 身体を動かす際の骨盤の重要性について理解し、意識を高める。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)	**第13回　グループワーク１** 【　到達目標　】 グループワークを通して、より深く動きの本質を理解し実際の動きに結びつける事が出来るようになる。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)
第６回　骨盤に対する意識を高める（エクササイズ）２ 【　到達目標　】 身体を動かす際の骨盤の重要性について理解し、意識を高める。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)	**第14回　グループワーク２** 【　到達目標　】 グループワークを通して、より深く動きの本質を理解し実際の動きに結びつける事が出来るようになる。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)
第７回　骨盤に対する意識を高める（エクササイズ）３ 【　到達目標　】 身体を動かす際の骨盤の重要性について理解し、意識を高める。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)	**第15回　グループ作品の発表と評価** 【　到達目標　】 グループ作品の発表と評価を通して動きの習熟度を確認する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)
第８回　骨盤に対する意識を高める（エクササイズ）４ 【　到達目標　】 身体を動かす際の骨盤の重要性について理解し、意識を高める。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)	

【学習上の留意点】

ダンスする上で、最も重要な基礎を習得するため、毎時間毎時間集中して授業に取り組んで下さい。

【教科書・参考書など】

特にありません。

【成績評価方法】

レポート２０％、テスト６０％、授業への取り組み方・参加度２０％の割合で総合的に評価する。

科目名	クラシックバレエⅠ			担当者	渡辺　碧・曺　旼永	
英文名	Classical Ballet Ⅰ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	実技		科目ナンバー	DBR108		

【目的とねらい】

あらゆる舞踊の基礎となるバレエの基礎技法を正しく理解、体得し、品格のある健康な美しい身体を作り上げる。実践的なバレエの解剖学について学び、バレエにおける正しい身体と筋肉の使い方について理解する。バーでは組み合わせた基礎動作から身体配置を中心に学び、センターでは連続の動きの中でポジションを守ることの至難さ、音楽と動きの融合を実現させ、空間芸術を追究する。さらに、バレエの基本3原則であるアン・デ・オール、アプローン、エレヴェッションについて理解し、動きの中で常に意識すること、実践できることを最終目標とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　クラス分け
【　到達目標　】
全員でバレエ能力テストを受け、上・中・初級にクラス分けをする。その際にそれぞれの今後の課題について検討し、理解をする。

【授業時間外学習】
毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第２回　オリエンテーション
【　到達目標　】
それぞれのクラスで、前期を通しての目標を確認するとともに、授業における取り組みの意識を向上させる。

【授業時間外学習】
毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第３回　身体配置（アライメント）の認識①
【　到達目標　】
バレエにおける正しい身体配置（アライメント）について理解する。特に骨盤の正しい配置を認識する。また、骨盤周辺の筋肉の使い方についても理解する。

【授業時間外学習】
毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第４回　身体配置（アライメント）の認識②
【　到達目標　】
バレエにおける正しい身体配置（アライメント）について理解する。特に背骨の正しい配置と使い方について認識する。また､背骨周辺の筋肉の使い方(上体の表現)についても理解する。

【授業時間外学習】
毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第５回　アン・デ・オール、アプローン、エレヴェッションについて
【　到達目標　】
これまでのバレエにおける正しい身体配置（アライメント）に基づき、バレエの基本3原則である、①アン・デ・オール（ターン・アウト）、②アプローン、③エレヴェッションついて理解し、実践する。
【授業時間外学習】
毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第６回　エクササイズ(基礎)①
【　到達目標　】
身体の正しいアライメントを踏まえ､バレエの基本3原則を意識した上で､実際に基本的なバーレッスンおよびセンターエクササイズを体験する。

【授業時間外学習】
毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第７回　エクササイズ(基礎)②
【　到達目標　】
前回までの復習を通して、体験にとどまらず、今まで習ってきた要素をいかにエクササイズの中で実践していくかについて検討し、それを基に実践していく。

【授業時間外学習】
毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第８回　エクササイズ(基礎)③
【　到達目標　】
これまでのまとめとして､基礎的なエクササイズの中で身体を正しく使い､バレエの基本3原則を意識しながら動けているかを確認する。

【授業時間外学習】
毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第９回　エクササイズ(応用)①
【　到達目標　】
バー､センターエクササイズを通して､今までの基礎的要素をいかに応用し､より複雑なムーブメントにつなげていくかを体験する。

【授業時間外学習】
毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第10回　エクササイズ(応用)②
【　到達目標　】
各エクササイズにおいて、バレエにおける正しい身体配置、バレエの基本3原則を意識しながら、音楽に合わせ、正しいポジションを守りながら踊ることを理解する。

【授業時間外学習】
毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第11回　エクササイズ(応用)③
【　到達目標　】
応用編のまとめとして、バレエのどの動きにおいても、正しい身体配置とバレエの基本3原則を意識して、音楽に合わせ、正しいポジションを守りながら踊ることが出来る。

【授業時間外学習】
毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第12回　練習課題と反復練習①
【　到達目標　】
半期のまとめである練習課題を習い、振付を覚える。

【授業時間外学習】
毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第13回　練習課題と反復練習②
【　到達目標　】
練習課題を深く理解し、正しく踊ること出来る。

【授業時間外学習】
毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第14回　練習課題と反復練習③
【　到達目標　】
練習課題を正しく踊ることが出来、自分の改善点を見つけることが出来る。

【授業時間外学習】
毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第15回　課題の発表と今後の検討
【　到達目標　】
課題を発表し、第2回目の授業に設定した目標をどれだけ達成しているかを理解する。
自分の中のバレエの位置づけを認識する。教員のフィードバックを踏まえて、今後の自身の目標と課題を検討する。
【授業時間外学習】
毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

【学習上の留意点】

授業を受講する際、基本レオタードとタイツのみを着用して、自身の身体のラインをしっかりと認識する。髪の毛などの身だしなみを整える。シューズなどの忘れ物をした場合は減点対象とする。ただ受け身で授業を受講するのではなく、一人一人が明確な目標設定を行い、受講するよう求める。第15回の「課題発表と今後の検討」では、フィードバックを求める学生一人一人に対して口頭でフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

バレエ用語辞典、必要な資料は適宜配布します。

【成績評価方法】

実技テスト60%、授業における課題達成度・理解度、関心・意欲・積極性・レポート40%を総合的に評価する。

科目名	クラシックバレエⅡ			担当者	渡辺　碧・曺　旼永	
英文名	Classical Ballet Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	実技		科目ナンバー	DBR109		

【目的とねらい】

クラシックバレエⅠで学んだことを復習するとともに、より確実に自分のものとして体得することを目標とする。バレエ用語についても取り上げ、ただ単にバレエの動きを体得するだけではなく、用語の名前や意味を正しく理解し、その上で動きを体現出来ることで、より深くバレエを理解することを目指す。バレエの基本3原則であるアン・デ・オール、アプローン、エレヴェッションについて理解し、動きの中で常に意識すること、正しく実践できることを最終目標とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　エクササイズ(クラシックバレエⅠの復習とその応用)①

【　到達目標　】

クラシックバレエⅠの結果を踏まえ、この授業を通しての目標、自分への今後の課題を認識するとともに、さらなる上達のための意識を高める。

【授業時間外学習】

毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第２回　エクササイズ(クラシックバレエⅠの復習とその応用)②

【　到達目標　】

クラシックバレエⅠで行った内容（特に、正しい身体配置とその使い方、バレエの基本3原則）についてもう一度復習する。応用のエクササイズになっても、これらの意識を失うことなく踊ることが出来る。特に骨盤の正しい身体配置にフォーカスして、踊ることが出来る。

【授業時間外学習】

毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第３回　エクササイズ(クラシックバレエⅠの復習とその応用)③

【　到達目標　】クラシックバレエⅠで行った内容（特に､正しい身体配置とその使い方、バレエの基本3原則）について、もう一度復習する。応用のエクササイズになっても、これらの意識を失うことなく、音楽に合せて、ポジションを正しく守りながら踊ることが出来る。特に背骨の身体配置にフォーカスして、踊ることが出来る。

【授業時間外学習】

毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第４回　エクササイズ(クラシックバレエⅠの復習とその応用)④

【　到達目標　】クラシックバレエⅠで行った内容（特に､正しい身体配置とその使い方、バレエの基本3原則）について、もう一度復習する。応用のエクササイズになっても、これらの意識を失うことなく、音楽に合せて、ポジションを正しく守りながら踊ることが出来る。特に骨盤と背骨の身体配置にフォーカスして、踊ることが出来る。

【授業時間外学習】

毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第５回　エクササイズとバレエ用語学習①

【　到達目標　】

バーやセンターレッスンで用いられるバレエ用語について、内容や意味を理解する。

【授業時間外学習】

毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第６回　エクササイズとバレエ用語学習②

【　到達目標　】

実際のエクササイズの中でバレエ用語の意味を理解し、その用語と動きを関連させて理解することが出来る。

【授業時間外学習】

毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第７回　エクササイズとバレエ用語学習③

【　到達目標　】

実際のエクササイズの中でバレエ用語の意味を理解し、その用語の動きを体現出来る。
バレエの流派によって、バレエ用語が異なることを理解する。

【授業時間外学習】

毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第８回　エクササイズとバレエ用語学習④

【　到達目標　】

実際のエクササイズの中でバレエ用語の意味を理解し、その用語の動きを体現出来る。
また逆に、動きからもバレエ用語が理解出来、その意味を答えることが出来る。

【授業時間外学習】

毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第９回　練習課題と反復練習①

【　到達目標　】

半期のまとめとして練習課題を習い、振付を覚える。

【授業時間外学習】

毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第10回　練習課題と反復練習②

【　到達目標　】

練習課題を深く理解し、正しく踊ること出来る。バレエの基本3原則を意識して踊る努力ができる。

【授業時間外学習】

毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第11回　練習課題と反復練習③

【　到達目標　】

練習課題を正しく踊ることが出来、自分への課題を見つけることが出来る。また、その課題の改善に向けた努力が出来る。バレエの基本3原則を意識して踊る努力が出来る。

【授業時間外学習】

毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第12回　練習課題と反復練習④

【　到達目標　】

練習課題を正しく踊ることが出来､さらに踊りを良くするために必要な技術や表現を体得する。バレエの基本3原則を意識して正しく踊ることができる。

【授業時間外学習】

毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第13回　課題の発表

【　到達目標　】

課題を発表し、初回授業に設定した目標をどれだけ達成しているかを理解する。

【授業時間外学習】

毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第14回　バレエ用語の確認

【　到達目標　】

これまで学んできたバレエ用語が正しく理解出来ているかを、バレエ用語と実際の動きを通して確認する。

【授業時間外学習】

毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

第15回　理解度の確認と今後の目標の検討

【　到達目標　】

半期を通し、また、1年間を通して、それぞれの成長を確認するとともにクラシックバレエの重要性を理解する。自分の中においてのバレエの位置づけを認識する。教員のフィードバックを踏まえて、今後の自身の目標と課題を検討する。

【授業時間外学習】

毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)

【学習上の留意点】

授業を受講する際、基本レオタードとタイツのみを着用して、自身の身体のラインをしっかりと認識する。髪の毛などの身だしなみを整える。シューズなどの忘れ物をした場合は減点対象とする。ただ受け身で授業を受講するのではなく、一人一人が明確な目標設定を行い、受講するよう求める。第13回の「課題の発表」、第15回の「理解度の確認と今後の目標の検討」では、フィードバックを求める学生一人一人に対して口頭でフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

バレエ用語辞典、必要な資料は適宜配布します。

【成績評価方法】

実技テスト60%、バレエ用語確認テスト20%、授業における課題達成度・理解度、関心・意欲・積極性・レポート20%を総合的に評価する。

科目名	ジャズダンスⅠ			担当者	石　川　浩　子	
英文名	Jazz Dance Ⅰ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	実技		科目ナンバー	DBR110		

【目的とねらい】

ジャズダンスに必要な柔軟性・基礎体力を強化し、体幹を習得させる。それを踏まえた上で、全身を使い様々な曲に合わせて踊れるダンサー育成する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　基礎体力・エクササイズ・ストレッチの習得　クロスフロアー①

【　到達目標　】

正しいエクササイズ・ストレッチを理解し、実践する。
特にアイソレーションに特化した練習
ジャズダンスのテクニックを入れたクロスフロアーを習得する。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第２回　基礎体力・エクササイズ・ストレッチの習得　クロスフロアー②

【　到達目標　】

正しいエクササイズ・ストレッチを理解し、実践する。
特にアイソレーションに特化した練習
ジャズダンスのテクニックを入れたクロスフロアーを習得する。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第３回　ジャズダンスコンビネーション①-1

【　到達目標　】

邦楽を使用し、日本語に合わせ、感受性豊かに、身体を大きく使い体幹がぶれることなく踊れるようにする。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第４回　ジャズダンスコンビネーション①-2

【　到達目標　】

邦楽を使用し、日本語に合わせ、感受性豊かに、身体を大きく使い体幹がぶれることなく踊れるようにする。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第５回　ジャズダンスコンビネーション①-3

【　到達目標　】

邦楽を使用し、日本語に合わせ、感受性豊かに、身体を大きく使い体幹がぶれることなく踊れるようにする。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第６回　ジャズダンスコンビネーション（小テスト）実技テストとして評価対象とする

【　到達目標　】

コンビネーション①に対し、与えられた課題をを達成する。テストで課題を達成できなかった場合は達成できるまで何回でも追試（再テスト）を行う。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第７回　ジャズダンスコンビネーション②-1

【　到達目標　】

洋楽（アップテンポ）を使用し、繊細で細かい動きや、シャープさ、かっこよさ、ノリの良さ等を、曲を一体となって踊る「グルーブ感」を習得する。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第８回　ジャズダンスコンビネーション②-2

【　到達目標　】

洋楽（アップテンポ）を使用し、繊細で細かい動きや、シャープさ、かっこよさ、ノリの良さ等を、曲を一体となって踊る「グルーブ感」を習得する。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第９回　ジャズダンスコンビネーション②-3

【　到達目標　】

洋楽（アップテンポ）を使用し、繊細で細かい動きや、シャープさ、かっこよさ、ノリの良さ等を、曲を一体となって踊る「グルーブ感」を習得する。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第10回　ジャズダンスコンビネーション（小テスト）実技テストとして評価対象とする

【　到達目標　】

コンビネーション①に対し、与えられた課題をを達成する。テストで課題を達成できなかった場合は達成できるまで何回でも追試（再テスト）を行う。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第11回　ジャズダンスコンビネーション③-1

【　到達目標　】

洋楽（ミディアムテンポ）を使用し、女性ならではの色気（セクシー）、しなやかさ等を習得する。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第12回　ジャズダンスコンビネーション③-2

【　到達目標　】

洋楽（ミディアムテンポ）を使用し、女性ならではの色気（セクシー）、しなやかさ等を習得する。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第13回　ジャズダンスコンビネーション③-3

【　到達目標　】

洋楽（ミディアムテンポ）を使用し、女性ならではの色気（セクシー）、しなやかさ等を習得する。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第14回　ジャズダンスコンビネーション（最終テスト）実技テストとして評価対象とする

【　到達目標　】

コンビネーション①に対し、与えられた課題をを達成する。テストで課題を達成できなかった場合は次回追試を行う。それでも達成できなかった場合には、レポートの追加を行う。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第15回　前期ジャズダンスについての復習・レポート作成

【　到達目標　】

前期でのジャズダンスで習得したこと、自分自身の身体のや動きの変化等を、全員で話合い、意見交換する。最後に、それをレポートにまとめ提出する。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

【学習上の留意点】

前半のストレッチ・バランス、筋力強化などは、曲をかけながら口頭で注意、説明をしながら進めるので集中力を持って授業に臨む必要がある。
後半のコンビネーションでは振付を覚えることに集中し、覚えた後の練習が必要とされる。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

授業における課題達成度50%・テストの結果50%を評価する。

科目名	ジャズダンスⅡ			担当者	石　川　浩　子	
英文名	Jazz Dance Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	実技		科目ナンバー	DBR111		

【目的とねらい】
ジャズダンスに必要な柔軟性・基礎体力を強化し、体幹を習得させる。それを踏まえた上で、全身を使い様々な曲に合わせて踊れるダンサーを育成する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ジャズダンスコンビネーション④-1
【　到達目標　】
邦楽のロックミュージックを使用し、日本語に合わせ、感受性豊かに、ダイナミックに激しく踊れるようにする。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第２回　ジャズダンスコンビネーション④-2
【　到達目標　】
邦楽のロックミュージックを使用し、日本語に合わせ、感受性豊かに、ダイナミックに激しく踊れるようにする。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第３回　ジャズダンスコンビネーション④-3
【　到達目標　】
邦楽のロックミュージックを使用し、日本語に合わせ、感受性豊かに、ダイナミックに激しく踊れるようにする。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第４回　ジャズダンスコンビネーション（小テスト）実技テストとして評価対象とする
【　到達目標　】
コンビネーション④に対し、与えられた課題を達成する。テストで課題を達成できなかった場合は、達成できるまで何回でも追試（再テスト）を行う。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第５回　ジャズダンスコンビネーション⑤-1
【　到達目標　】
洋楽（アップテンポ）を使用し、繊細で細かい動きや、シャープさ、かっこよさ、ノリのよさ等を、曲と一体となって踊る「グルーブ感」を習得する。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第６回　ジャズダンスコンビネーション⑤-2
【　到達目標　】
洋楽（アップテンポ）を使用し、繊細で細かい動きや、シャープさ、かっこよさ、ノリのよさ等を、曲と一体となって踊る「グルーブ感」を習得する。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第７回　ジャズダンスコンビネーション⑤-3
【　到達目標　】
洋楽（アップテンポ）を使用し、繊細で細かい動きや、シャープさ、かっこよさ、ノリのよさ等を、曲と一体となって踊る「グルーブ感」を習得する。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第８回　ジャズダンスコンビネーション（小テスト）実技テストとして評価対象とする
【　到達目標　】
コンビネーション⑤に対し、与えられた課題を達成する。テストで課題を達成できなかった場合は、達成できるまで何回でも追試（再テスト）を行う。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第９回　ジャズダンスコンビネーション⑥-1
【　到達目標　】
洋楽（ミディアムテンポ）を使用し、独特な雰囲気を出せるよな振付を渡し、学生ひとりひとりの個性が出せるようにする。
（ただし、与えられた振付を変え、癖を出すことはＮＧとする）
【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第10回　ジャズダンスコンビネーション⑥-2
【　到達目標　】
洋楽（ミディアムテンポ）を使用し、独特な雰囲気を出せるよな振付を渡し、学生ひとりひとりの個性が出せるようにする。
（ただし、与えられた振付を変え、癖を出すことはＮＧとする）
【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第11回　ジャズダンスコンビネーション⑥-3
【　到達目標　】
洋楽（ミディアムテンポ）を使用し、独特な雰囲気を出せるよな振付を渡し、学生ひとりひとりの個性が出せるようにする。
（ただし、与えられた振付を変え、癖を出すことはＮＧとする）
【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第12回　ジャズダンステクニック復習
【　到達目標　】
前期・後期で学んだジャズダンスのテクニックを復習する。
クロスフロアー形式で練習する。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第13回　ジャズダンステクニックテスト
【　到達目標　】
ジャズダンスのテクニックを、クロスフロアー形式でテストをする。
できなかった場合には、できるまで追試（再テスト）を行う。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第14回　ジャズダンスコンビネーション（最終テスト）実技テストとして評価対象とする
【　到達目標　】
コンビネーション⑥に対し、与えられた課題を達成する。テストで課題を達成できなかった場合は、次回追試を行う。それでも達成できなかった場合には、レポートの追加を行う。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第15回　後期ジャズダンスについての復習・レポート
【　到達目標　】
後期でのジャズダンスで習得したこと、自分自身の身体や動きの変化等を、全員で話合い、意見交換する。最後に、それをレポートにまとめ提出する。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

【学習上の留意点】
前半のストレッチ・バランス、筋力強化などは、曲をかけながら口頭で注意、説明をしながら進めるので集中力を持って授業に臨む必要がある。
後半のコンビネーションでは振付を覚えることに集中し、覚えた後の練習が必要とされる。

【教科書・参考書など】
特になし。

【成績評価方法】
授業における課題達成度50%・テストの結果50%を評価する。

科目名	コンテンポラリーダンスⅠ			担当者	岩淵多喜子	
英文名	Contemporary Dance Ⅰ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	実技		科目ナンバー	DBR112		

【目的とねらい】

コンテンポラリーダンスの基礎技術の理解と習得を行う。特にリリーステクニックをもとにしたフロアーテクニックの基礎、骨格の構造を意識した体のアライメントへの意識、呼吸と動きの関連、空間認識などについての理解を深める。前期は基礎技術の習得を主とし、後期はフレーズを通して、一連の流れのある動きから体への意識、技術の向上を目指す。またパートナーワークやコンタクト、動きの質等についての基礎知識、技術を習得し、多様なコンテンポラリーダンスの領域に対応するための基礎知識、技術の習得を目的とする。また作品鑑賞レポートを通してコンテンポラリーダンスの多様性への理解を深める。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業進行についてのオリエンテーション
【　到達目標　】
コンテンポラリーダンスの概念を理解し、今後の授業の内容と進行について理解する。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第２回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　導入
【　到達目標　】
基本エクササイズの流れを習得する。
フロアーテクニックと体のアライメントを用いたエクササイズを体験する。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第３回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　基礎①
【　到達目標　】
基本エクササイズの流れを習得する。
具体的なエクササイズを通し、フロアーテクニックと体のアライメントについて理解を深める。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第４回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　基礎②
【　到達目標　】
使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。
具体的なエクササイズを通し、フロアーテクニックと体のアライメントについて理解を深める。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第５回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　基礎③
【　到達目標　】
使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。
フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第６回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　基礎④
【　到達目標　】
使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。
フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第７回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　基礎⑤
【　到達目標　】
使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。
フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第８回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　応用①
【　到達目標　】
エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。
前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第９回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　応用②
【　到達目標　】
エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。
前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第10回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　応用③
【　到達目標　】
エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。
前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第11回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　応用④
【　到達目標　】
エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。
前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第12回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　応用⑤
【　到達目標　】
エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。
前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第13回　振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ　基礎①
【　到達目標　】
より長いフレーズの中でテクニックへの理解を深める。
より長いフレーズを通して基礎テクニックの定着、向上を図る。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第14回　振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ　基礎②
【　到達目標　】
より長いフレーズの中でテクニックへの理解を深める。
より長いフレーズを通して基礎テクニックの定着、向上を図る。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第15回　振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ　基礎③
【　到達目標　】
より長いフレーズの中でテクニックへの理解を深める。
前期で得た知識、技術を用い、フレーズを個々で踊る。それをもとに前期を振り返り総括する。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

【学習上の留意点】

実践を通しての知識、技術の習得となるため、万全の状態で授業に臨めるように常に体のケア、怪我への留意を行うこと。また、授業は前回までの内容を土台にして進行していくため、個々で知識、技術の整理、復習を行うこと。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

評価基準は、実技課題70%、レポート課題30%とし、総合的に評価する。

科目名	コンテンポラリーダンスⅡ			担当者	岩淵多喜子	
英文名	Contemporary Dance Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	実技		科目ナンバー	DBR113		

【目的とねらい】

コンテンポラリーダンスの基礎技術の理解と習得を行う。特にリリーステクニックをもとにしたフロアーテクニックの基礎、骨格の構造を意識した体のアライメントへの意識、呼吸と動きの関連、空間認識などについての理解を深める。前期は基礎技術の習得を主とし、後期はフレーズを通して、一連の流れのある動きから体への意識、技術の向上を目指す。またパートナーワークやコンタクト、動きの質等についての基礎知識、技術を習得し、多様なコンテンポラリーダンスの領域に対応するための基礎知識、技術の習得を目的とする。また作品鑑賞レポートを通してコンテンポラリーダンスの多様性への理解を深める。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業進行についてのオリエンテーション
【　到達目標　】
コンテンポラリーダンスの概念を理解し、今後の授業の内容と進行について理解する。

【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第２回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　導入
【　到達目標　】
基本エクササイズの流れを習得する。
フロアーテクニックと体のアライメントを用いたエクササイズを体験する。

【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第３回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　基礎①
【　到達目標　】
基本エクササイズの流れを習得する。
具体的なエクササイズを通し、フロアーテクニックと体のアライメントについて理解を深める。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第４回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　基礎②
【　到達目標　】
使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。
具体的なエクササイズを通し、フロアーテクニックと体のアライメントについて理解を深める。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第５回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　基礎③
【　到達目標　】
使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。
フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第６回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　基礎④
【　到達目標　】
使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。
フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第７回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　基礎⑤
【　到達目標　】
使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。
フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第８回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　応用①
【　到達目標　】
エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。
前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第９回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　応用②
【　到達目標　】
エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。
前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第10回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　応用③
【　到達目標　】
エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。
前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第11回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　応用④
【　到達目標　】
エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。
前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第12回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　応用⑤
【　到達目標　】
エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。
前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第13回　振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ　基礎①
【　到達目標　】
より長いフレーズの中でテクニックへの理解を深める。
より長いフレーズを通して基礎テクニックの定着、向上を図る。

【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第14回　振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ　基礎②
【　到達目標　】
より長いフレーズの中でテクニックへの理解を深める。
より長いフレーズを通して基礎テクニックの定着、向上を図る。

【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

第15回　振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ　基礎③
【　到達目標　】
より長いフレーズの中でテクニックへの理解を深める。
前期で得た知識、技術を用い、フレーズを個々で踊る。それをもとに前期を振り返り総括する。
【授業時間外学習】
実技の復習､文献研究､公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)

【学習上の留意点】

実践を通しての知識、技術の習得となるため、万全の状態で授業に臨めるように常に体のケア、怪我への留意を行うこと。また、授業は前回までの内容を土台にして進行していくため、個々で知識、技術の整理、復習を行うこと。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

評価基準は、実技課題70%、レポート課題30%とし、総合的に評価する。

科目名	スポーツ栄養学			担当者	古　泉　佳　代	
英文名	Sports Nutrition					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・必修		
授業形態	講義		科目ナンバー	DBR201		

【目的とねらい】

日常の食生活が体格や健康状態に影響を及ぼすこと、すなわちウェイトコントロール、骨密度の増加、貧血を予防するためには日常生活において食事をしっかり摂ることが重要であることに気付く。そして、炭水化物、脂質、たんぱく質等栄養素に関連する知識を習得し、理解する。さらに栄養を運動との関連からとらえるために、運動を効率よく行う等、身体活動量の計算方法についても理解して日常生活での実践を目指す。さらに舞踊指導者としての能力を養う。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
(1)「ダンサーの食事」について考えることができる。
(2)「食」とダンサーの関係を考えることができる。

【授業時間外学習】
教科書を見直しながら、一日の食事を見直す。(4.0hr)

第２回　栄養バランスの評価①
【　到達目標　】
(1)栄養バランスの評価方法を理解する。
(2)自分の一日の食事の栄養バランスを評価できる。

【授業時間外学習】
一日の食事の栄養バランスを見直す。(4.0hr)

第３回　栄養バランスの評価②
【　到達目標　】
(1)期分けによる食事の違いに気付く。
(2)様々な状況下での食事を考えることができる。

【授業時間外学習】
一日の食事の栄養バランスを見直す。(4.0hr)

第４回　活動と栄養
【　到達目標　】
(1)身体活動とエネルギーの関係について理解する。
(2)「基礎代謝量」について説明できる。
(3)「食事摂取基準」について説明できる。
【授業時間外学習】
教科書を見ながら様々な年代、性別の「基礎代謝量」を算出する。(4.0hr)

第５回　身体組成の変化
【　到達目標　】
(1)体重の増減とエネルギー消費と摂取の関係を理解できる。
(2)様々な身体組成の測定方法の長所と短所に気付く。

【授業時間外学習】
身体組成の測定をする。(4.0hr)

第６回　からだづくりとウェイトコントロール①炭水化物
【　到達目標　】
(1)糖質及び食物繊維の種類を理解する。
(2)「糖質エネルギー比」について説明できる。

【授業時間外学習】
教科書を見ながら様々な主食の量を計測して、適切な量を把握する。(4.0hr)

第７回　からだづくりとウェイトコントロール②炭水化物
【　到達目標　】
(1)炭水化物の種類と吸収の関係を理解できる。
(2)炭水化物の摂取方法について考えることができる。

【授業時間外学習】
教科書を見ながら様々な主食の量を計測して、適切な量を把握する。(4.0hr)

第8回　からだづくりとウェイトコントロール③水分補給
【　到達目標　】
(1)飲み物の糖度を測定し「味覚」に気付く。
(2)糖度や甘さと炭水化物の量の関係を理解する。

【授業時間外学習】
スポーツ中の水分補給を考え実践する。(4.0hr)

第9回　からだづくりとウェイトコントロール④水分補給
【　到達目標　】
(1)運動時の水分補給について理解する。
(2)飲み物について多面的に考えることができる。

【授業時間外学習】
スポーツ中の水分補給を考え実践する。(4.0hr)

第10回　からだづくりとウェイトコントロール⑤ビタミン
【　到達目標　】
(1)ビタミンの特徴を説明できる。
(2)食事におけるビタミンB群の摂取方法について考えることができる。

【授業時間外学習】
ビタミンB群を考えて献立を作成し、食生活を実践する。(4.0hr)

第11回　からだづくりとウェイトコントロール⑥脂質
【　到達目標　】
(1)脂質の代謝を理解する。
(2)「脂質エネルギー比」について説明できる。

【授業時間外学習】
教科書を見ながら脂質の調理法を考えた食生活を実践する。(4.0hr)

第12回　からだづくりとウェイトコントロール⑦ミネラル
【　到達目標　】
(1)ミネラルの種類、体内での働き及び代謝を理解する。
(2)貧血のアセスメントを理解し、予防方法を考えることができる。

【授業時間外学習】
教科書を見ながら鉄の量を意識した献立を考える。(4.0hr)

第13回　エネルギー摂取と消費の関係からダイエットを考える①
【　到達目標　】
(1)エネルギー消費量を把握する方法を説明できる。
(2)運動強度と時間の関係を理解できる。
(3)一日のエネルギー消費量を算出できる。
【授業時間外学習】
運動強度を意識した生活を考える。(4.0hr)

第14回　エネルギー摂取と消費の関係からダイエットを考える②
【　到達目標　】
(1)女性アスリートの三主徴の関係を説明できる。
(2)エネルギー有用性を理解できる。
(3)摂食障害について理解できる。
【授業時間外学習】
教科書を見ながら適切な量を意識した食事を考える。(4.0hr)

第15回　エネルギー摂取と消費の関係からダイエットを考える③
【　到達目標　】
(1)サプリメントとエルゴジェニックエイドの特徴を理解する。
(2)食事、食品の安全性に関する様々な視点を理解する。

【授業時間外学習】
サプリメント、エルゴジェニックエイドについてインターネットを利用し調べる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

パワーポイントを用いて講義の要点を示し、口頭で詳細を説明する。教科書で単語や事例を確認しながら理解を深めていく。本講義を理解するためには、自分自身の食生活を振り返りながら、受講することが大切である。また、授業内で学生同士のディスカッションや食体験を取り入れるため、自分だけなく他者の食生活にも興味を持ちながら受講することも大切である。講義内容に関する理解度確認テストを実施し、理解度の確認を行う。

【教科書・参考書など】

・「ビジュアルワイド食品成分表　文部科学省科学技術・学術審議会　資源調査分科会　報告　五訂増補日本食品標準成分表」東京書籍
・計算が苦手な受講者は電卓を用意しておくこと。
・参考図書に関しては授業内で適宜、紹介する。

【成績評価方法】

期末テスト達成度（80%）、レポート（20%）。なお、試験は試験期間中に別途実施。

科目名	女性のライフステージと運動			担当者	沢　井　史　穂	
英文名	Life Stage and Physical Activity of Women					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・必修		
授業形態	講義		科目ナンバー	DBR202		

【目的とねらい】

ライフステージによって変わる女性の身体の構造と機能の特徴を知り、幼児期から老年期に至るまでの各ステージに応じた運動への取り組み方について考える。

また、女性の性機能と運動の関わり、女性特有の健康問題と運動との関わり、体力・運動能力の男女差、女性アスリートの健康問題等について理解を深める。そして、一生を通じて女性が運動・スポーツと関わることの意義や価値を考える。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション　女性と運動
【　到達目標　】
(1)女性としての自分と運動・スポーツとの関わり方、年齢と運動との関係、女性スポーツ選手のイメージなど、いくつかのキーワードに沿って女性と運動について考える。

【授業時間外学習】
メディアや周囲の人が女性と運動との関わりをどうとらえているかを調べる。(4.0hr)

第２回　女性のスポーツ参加の変遷
【　到達目標　】
(1)社会環境の変化にともなう女性のスポーツ参加の変遷を理解する。

【授業時間外学習】女性の参加する各種競技会やスポーツイベントに関心を持ち、参加したり観戦したりする。(4.0hr)

第３回　女性のスポーツ参加の現状
【　到達目標　】
(1)成長期及び成人期女子の身体活動量、スポーツ参加率の現状を知り、改善策を考える。

【授業時間外学習】
スポーツ活動に参加したり、定期的な運動習慣を身につける。(4.0hr)

第４回　一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（幼児期）
【　到達目標　】
(1)幼児期の身体特性と運動との関わりについて理解する。
(2)現代の生活環境が幼児の健康に及ぼす影響について考える。

【授業時間外学習】
幼児の運動に関する情報や資料を集めて読む。(4.0hr)

第５回　一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（発育発達期）
【　到達目標　】
(1)発育発達期における女子の身体特性と運動との関わりについて理解する。

【授業時間外学習】
発育発達期の運動に関する情報や資料を集めて読む。(4.0hr)

第６回　一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（成人期）
【　到達目標　】
(1)現代の若い女性が抱える様々な健康問題と運動との関わりについて理解する。

【授業時間外学習】
若い女性の運動に関する情報や資料を集めて読む。(4.0hr)

第７回　一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（中高年期）
【　到達目標　】
(1)中高年女性の身体特性を理解し、適切な運動習慣の取り入れ方について考える。
(2)肥満、メタボリックシンドローム、生活習慣病、うつの予防としての運動の効果について理解する。
【授業時間外学習】
中高年の健康と運動に関連する資料を探して読む。(4.0hr)

第８回　一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（老年期）
【　到達目標　】
(1)加齢にともなう身体機能の低下に応じた運動について理解する。
(2)高齢者の運動実施における留意点について理解する。

【授業時間外学習】
高齢者の健康と運動に関連する資料を探して読む。(4.0hr)

第９回　女性の性機能と運動の関わり（女性ホルモンの働きと性周期）
【　到達目標　】
(1)女性ホルモンの働きと性周期に伴う各種ホルモン、子宮、卵巣の変化を理解する。

【授業時間外学習】
授業で扱った内容を整理し、復習するとともに、次回の授業の準備をする。(4.0hr)

第10回　女性の性機能と運動の関わり（月経と運動）
【　到達目標　】
(1)月経周期、月経前症候群（PMS）、月経随伴症状について理解し、運動との関わり方について考える。

【授業時間外学習】
授業で扱った内容を復習するとともに、次回の授業の準備をする。(4.0hr)

第11回　女性の性機能と運動の関わり（妊娠・出産と運動）
【　到達目標　】
(1)妊娠・出産に伴う身体の変化について理解する。
(2)妊娠期および産褥期における運動への取り組み方について理解する。

【授業時間外学習】
授業で扱った内容を復習するとともに、次回の授業の準備をする。(4.0hr)

第12回　女性の性機能と運動の関わり（更年期障害と運動）
【　到達目標　】
(1)閉経がもたらす影響と更年期障害について理解する。
(2)更年期女性にとっての運動の効果について理解する。

【授業時間外学習】
授業で扱った内容を復習するとともに、次回の授業の準備をする。(4.0hr)

第13回　女性アスリートの健康問題
【　到達目標　】
(1)現代の女性アスリートが抱える様々な健康問題（月経異常、摂食障害、骨粗鬆症等）について理解を深める。

【授業時間外学習】
女性アスリートの健康問題に関する情報や資料を集めて読む。(4.0hr)

第14回　体格・身体組成・体力・運動能力における性差
【　到達目標　】
(1)体格や身体能力の性差について、それが生じる要因とともに理解する。

【授業時間外学習】
運動場面で見られる性差について整理し、復習する。(4.0hr)

第15回　女性スポーツの展望
【　到達目標　】
(1)これからの女性とスポーツとの関わりについて、競技力向上、健康体力づくり、生きがいづくり等、様々な視点から、その意義と価値について考える。

【授業時間外学習】
授業の内容を復習し、自分自身の運動とのかかわり方について考え、行動する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

授業では、パワーポイントと配布資料を使って講義を行う。図表を多く引用するので、その意味するところを読み取り、そこから何がわかるかを考えることに重点をおく。毎回の講義で重要なポイントを確認しながら進めていくので、受け身ではなく積極的に学習する姿勢を持つこと。また、授業内で取り上げるテーマに応じて、適宜、視聴覚教材などを使用し、その内容に関する理解度と考察力を確認するためのレポートを作成する。その結果は、授業の中でフィードバックする。

【教科書・参考書など】

特に指定はない。授業内で適宜資料を配布する。

【成績評価方法】

授業内での課題達成度30%、定期試験(試験は試験期間中に別途実施する)70%で評価する。

科目名	健康科学論			担当者	沢　井　史　穂	
英文名	Introduction to Health Science					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・必修	
授業形態	講義		科目ナンバー	DBE101		

【目的とねらい】

現代人の抱える健康問題を、主に生活環境の変化との関わりから理解する。特に、日本における疾病構造の変化と主な死因の推移、メタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームのリスクファクターとその予防について、運動を中心とするライフスタイルとの関連で理解すること、また、年齢、性機能、休養、ストレスと健康との関わりについて理解することを目的とする。これらの理解を通して、現代の健康の問題に対する科学的見方を身につけることがねらいである。

【授業内容・到達目標など】

第１回　健康とは何か。健康観の変遷。現代における健康観。

【　到達目標　】

(1)「健康」の定義を理解する。

(2)健康観の歴史的推移を知り、現代における望ましい健康観を考える。

【授業時間外学習】

各種メディアの発信する「健康」関連情報に関心を持ち、視聴したり読んだりする。(4.0hr)

第２回　日本人の健康問題　人口構成の推移、疾病構造の変化

【　到達目標　】

(1)死因順位の大きな変化とその要因について理解する。

(2)現代日本人の抱える健康問題を、人口構成の推移、疾病構造の変化とともに理解する。

【授業時間外学習】

授業で扱った健康問題の資料を整理し、復習しておくこと。(4.0hr)

第３回　生活習慣病とは

【　到達目標　】

(1)健康な生活を送る上での良い生活習慣について理解する。

(2)生活習慣病の定義、危険因子、予防策について理解する。

【授業時間外学習】

良い生活習慣について復習し、自分の生活習慣を見直して行動変容につなげる。(4.0hr)

第４回　循環系疾患とライフスタイル

【　到達目標　】

(1)心臓病と脳血管病、その基礎疾患としての動脈硬化、高血圧、糖尿病とライフスタイルとの関連を理解する。

【授業時間外学習】

循環系疾患に関連するライフスタイルについて復習し、予防行動につなげる。(4.0hr)

第５回　代謝異常・肥満とライフスタイル

【　到達目標　】

(1)脂質代謝異常、肥満症をもたらすライフスタイルを理解する。

(2)肥満の判定基準と日本の現状を知り、予防・改善策を考える。

【授業時間外学習】

肥満の予防につながるライフスタイルについて復習し、自らの日常生活に還元する。(4.0hr)

第６回　メタボリックシンドロームの判定と予防

【　到達目標　】

(1)メタボリックシンドロームの定義と判定基準を理解する。

(2)メタボリックシンドロームの現状、危険因子を理解し、予防・改善策を考える。

【授業時間外学習】

授業の内容を復習し、メタボリックシンドロームの予防行動につなげる。(4.0hr)

第７回　骨の健康　骨粗鬆症の予防

【　到達目標　】

(1)人の一生を通じた骨量、骨代謝の変化を知り、丈夫な骨を形成し、骨粗鬆症を予防するための生活習慣を考える。

【授業時間外学習】

授業の内容を復習し、丈夫な骨を作るための生活習慣を心がける。(4.0hr)

第８回　ロコモティブシンドロームの概念と予防

【　到達目標　】

(1)ロコモティブシンドロームの概念、定義、危険因子を理解し、予防策を考える。

【授業時間外学習】授業の内容を復習し、将来のロコモティブシンドロームの予防につながる生活行動を身につける。(4.0hr)

第９回　子どもの生活環境の変化と健康

【　到達目標　】

(1)現代の生活環境が子どもの健康に及ぼす影響について理解する。

(2)成長に伴う身体の構造と機能の変化を知り、成長期における健康問題について理解する。

【授業時間外学習】

子どもの健康に関する文献や資料を探して読む。(4.0hr)

第10回　女性の性機能の変化と健康

【　到達目標　】

(1)女性の一生を通じての性機能の変化と女性特有の健康問題について理解する。

【授業時間外学習】

女性の健康に関する文献や資料を探して読む。(4.0hr)

第11回　妊娠と健康

【　到達目標　】

(1)妊娠期の身体の変化と生活の注意点について理解する。

(2)避妊・不妊・出生前診断など、生命倫理に関する問題について考える。

【授業時間外学習】

妊娠のまつわる文献や資料を探して読む。(4.0hr)

第12回　高齢者の運動と健康

【　到達目標　】

(1)加齢に伴う身体の構造と機能の変化を知り、中高齢者、高齢者の健康に運動が果たす役割や意義について理解する。

【授業時間外学習】

高齢者の健康に関する文献や資料を探して読む。(4.0hr)

第13回　休養と健康

【　到達目標　】

(1)睡眠や休息と健康との関わりについて理解する。

【授業時間外学習】

授業で扱った内容を復習し、毎日の生活の中で適切な休養を心がける。(4.0hr)

第14回　メンタルヘルス

【　到達目標　】

(1)現代社会におけるストレスと健康との関わり、心の健康に運動が果たす役割について理解する。

【授業時間外学習】

授業で扱った内容を復習し、自分のストレスマネジメントに積極的に取り組む。(4.0hr)

第15回　健康づくり施策　概念と歴史　日本における施策

【　到達目標　】

(1)健康づくり施策の概念と歴史を理解し、日本における健康施策とその課題について考える。

【授業時間外学習】

授業で扱った健康問題の資料を整理し、復習する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

授業では、パワーポイントと配布資料を使って講義を行う。毎回の講義で重要なポイントを確認しながら資料に書き込んでいくので、受け身ではなく積極的に学習する姿勢を持つこと。また、授業内で取り上げるテーマに応じて、適宜、視聴覚教材などを使用し、その内容に関する理解度と考察力を確認するためのレポートを作成する。その結果は、授業の中でフィードバックする。

【教科書・参考書など】

とくに指定はない。必要な資料をその都度配布する。

【成績評価方法】

授業内での課題達成度30%、定期試験(試験は試験期間中に別途実施する)70%で評価する。

科目名	発育発達論			担当者	井 筒 紫 乃	
英文名	Growth and Development					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・必修	専門基礎・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	DBE102		

【目的とねらい】

ヒトの一生における発育発達と老化の特性についての知識を身につけるとともに、それぞれの年齢においての発育発達特性を考慮した運動をはじめとする身体活動と健康関連指標との関係と運動指導の重要性を理解する。更に、不活動とは区別されている座位行動と健康関連指標との関係を理解し、その抑制の重要性を理解する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　発育発達とは、心理的特徴
【　到達目標　】
(1)発育発達の概念を理解する。
(2)身体計測の測定法を理解する。

【授業時間外学習】
受講前に、「発育発達論」では何を学びたいのか、意見をまとめてくること。(4.0hr)

第２回　発育発達期の身体的特徴（身長）1
【　到達目標　】
(1)身体計測値を用いて発育過程を図解できる。

【授業時間外学習】
受講前に、自身の小学校入学以降、現在までの身長を調べてくること。(4.0hr)

第３回　発育発達期の身体的特徴（身長）2，骨成熟の評価法
【　到達目標　】
(1)形態の発育の性差・個人差を理解する。
(2)生物学的成熟度について理解する。

【授業時間外学習】
受講前に、自身の身長、体重、および座高を計測してくること。(4.0hr)

第４回　発育発達期の身体的特徴（体重・身体組成）
【　到達目標　】
(1)肥満の弊害について理解する。
(2)やせの問題について理解する。

【授業時間外学習】
受講前に、子どもの肥満と痩身の出現率を調べ、各々の問題点をまとめてくること。(4.0hr)

第５回　中高年齢者の身体的特徴（体重・身体組成）
【　到達目標　】
(1)身体組成の測定法について理解する。
(2)中高年齢者の形態の特徴について理解する。

【授業時間外学習】
受講前に、身体組成の計測方法を調べてくること。(4.0hr)

第６回 運動をはじめとする身体活動と座位行動の定義，ライフステージ別の特徴
【　到達目標　】
(1)運動をはじめとする身体活動と座位行動の定義を理解する。
(2)身体活動量と座位行動のライフステージ別の特徴を理解する。

【授業時間外学習】
受講前に、身体活動と座位行動の計測方法を調べてくること。(4.0hr)

第７回　体力の定義，成長期における筋力の発達と老化の過程
【　到達目標　】
(1)体力の定義について理解する。
(2)スポーツ庁による体力・運動能力の測定法を理解する。
(3)筋力の発達と老化の過程を理解する。
【授業時間外学習】
受講前に、「何故、体力を高める必要があるのか」、意見をまとめてくること。(4.0hr)

第８回　成長期における基本的動作スキルの発達
【　到達目標　】
(1)成長期における基本的動作スキルの発達について理解する。

【授業時間外学習】
受講前に、文部科学省による基本的動作スキルの測定法を調べてくること。(4.0hr)

第９回　日本と世界の身体活動量や座位行動の推奨値
【　到達目標　】
(1)身体活動量や座位行動と健康関連指標との関係について理解する。
(2)日本と世界の身体活動量や座位行動の推奨値を理解する。

【授業時間外学習】
受講前に幼児期運動指針と健康づくりのための身体活動基準2013を調べてくること。(4.0hr)

第10回　成長期における全身持久力の発達と老化の過程
【　到達目標　】
(1)全身持久力の発達と老化の過程を理解する。

【授業時間外学習】
スポーツ庁による全身持久力の測定法を調べてくること。(4.0hr)

第11回　日本と世界の子どもの身体的特徴と生活習慣の現状
【　到達目標　】
(1)日本と世界の子どもの身体活特徴と運動などの生活習慣の現状を理解する。
(2)47都道府県の子どもの身体活特徴と運動などの生活習慣の現状を理解する。

【授業時間外学習】
受講前に、世界の子どもの肥満者と痩身者の出現率を調べてくること。(4.0hr)

第12回　発育発達期の運動プログラム
【　到達目標　】
(1)発育発達期の運動プログラムの留意点を理解する。
(2)発育発達期の運動・スポーツの体力への効果を理解する。

【授業時間外学習】
子どもの運動プログラムを考える際､留意すべき点について意見をまとめてくること｡(4.0hr)

第13回　中高年齢者とスポーツ
【　到達目標　】
(1)中高年齢者の運動プログラムの留意点を理解する。
(2)中高年齢者の運動・スポーツの体力への効果を理解する。

【授業時間外学習】中高年者の運動プログラムを考える際、留意すべき点について意見をまとめてくること。(4.0hr)

第14回　女性とスポーツ
【　到達目標　】
(1)女性選手の三主徴について理解する。
(2)女性の痩せと低出生児について理解する。

【授業時間外学習】
受講前に､女性アスリートの指導上､留意すべき点について意見をまとめてくること｡(4.0hr)

第15回　運動をはじめとする身体活動量促進と座位行動抑制
【　到達目標　】
(1)運動をはじめとする身体活動量促進と座位行動抑制の方法を理解する。

【授業時間外学習】
受講前に､学校と家庭での身体活動量促進と座位行動抑制の方法をまとめてくること｡(4.0hr)

【学習上の留意点】

学習成果をあげるため、教科書・参考書、講義中に配布する資料などを用いて、授業時間外学習により予習・復習をそれぞれ講義時間相当量行うことが望まれる。

【教科書・参考書など】

教科書：2019年9月出版予定の書籍（杏林書院）を用いる予定である。参考書: 高石　昌弘（監修）樋口　満，佐竹　隆（編著）：からだの発達と加齢の科学. 大修館書店，2012，ISBN 9784469267402，　竹中晃二（編）:アクティブ・チャイルド 60 min ―子どもの身体活動ガイドライン―. （株）サンライフ企画，2010,ISBN 4904011244

【成績評価方法】

定期試験の成績90%、課題の提出10%で評価する。
なお、試験は試験期間中に別途実施。

科目名	表現運動学演習（エアロビックダンス）			担当者	岡　島　浩　美	
英文名	Seminar in Expressive Movements (Aerobic Dance)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・選択		
授業形態	演習		科目ナンバー	DBE103		

【目的とねらい】

エアロビックダンスエクササイズはリズミカルな有酸素性運動であるという特性を理解し、エアロビクスの基礎理論、基本構成、基本ステップ等を習得する。
グループエクササイズのプログラム作成・演習を通じて、プログラム作成能力・指導力を身につける。

【授業内容・到達目標など】

第１回　エアロビックダンスエクササイズの歴史
【　到達目標　】
エアロビックダンスエクササイズの歴史を習い、それを十分に理解する。

【授業時間外学習】
エアロビックダンスエクササイズの歴史と現状のプログラム内容の復習をする。(4.0hr)

第２回　フィットネス概論及びエアロビクス基礎理論
【　到達目標　】
フィットネス全般についてのコンセプトと注意点、及びエアロビックダンスエクササイズの基礎的要素を学び、理解する。

【授業時間外学習】
エアロビックダンスエクササイズ以外の有酸素性運動の種類を事前に調べる。(4.0hr)

第３回　基本構成・運動強度の考え方
【　到達目標　】
エアロビックダンスエクササイズにおける基本構成について理解するとともに、運動強度についても正しい認識を持つ。

【授業時間外学習】
エアロビックダンスエクササイズの４つのパートを復習する。(4.0hr)

第４回　強度の変化と動きのつなぎ方
【　到達目標　】
強度を変化させながら、動きとしてスムーズにつなげていく方法を学び理解する。

【授業時間外学習】
運動強度の変換の方法を復習する。(4.0hr)

第５回　基本ステップの習得(ローインパクト)
【　到達目標　】
基本ステップ(ローインパクト)を習い、正確に動けるようにする。

【授業時間外学習】
基本のローインパクトステップの練習をする。(4.0hr)

第６回　基本ステップの習得(ハイインパクト)
【　到達目標　】
基本ステップ(ハイインパクト)を習い、正確に動けるようにする。

【授業時間外学習】
基本のハイインパクトステップの練習をする。(4.0hr)

第７回　動きのつなぎ方・展開の仕方
【　到達目標　】
前回までの内容を踏まえ、いかにして動きをスムーズにつなげていくか実践し、さらにはそれを展開する方法を学ぶ。

【授業時間外学習】
ローインパクトステップとハイインパクトステップのプログラミング方法を復習する。(4.0hr)

第８回　メインエクササイズのプログラム作成・振付①
【　到達目標　】
グループワーク・・・メインエクササイズのプログラムを組み立て、振付を作成する。

【授業時間外学習】
安全で効果的なメインエクササイズのプログラムを組み立てて練習する。(4.0hr)

第９回　メインエクササイズのプログラム作成・振付②
【　到達目標　】
グループワーク・・・メインエクササイズのプログラムを完成する。

【授業時間外学習】
安全で効果的なメインエクササイズを完成させて練習する。(4.0hr)

第10回　グループワーク　指導技法①
【　到達目標　】
グループワーク・・・様々な指導技法を学び、グループ内で実践する。

【授業時間外学習】
キューイングについて復習し、繰り返し練習する。(4.0hr)

第11回　グループワーク　指導技法②
【　到達目標　】
グループワーク・・・様々な指導技法を学び、グループ内で実践する。

【授業時間外学習】
グループで作成したメインエクササイズをキューイングしながら動く練習をする。(4.0hr)

第12回　グループワーク　指導法(対面・背面指導)
【　到達目標　】
グループワーク・・・グループエクササイズにおける指導法(対面・背面指導)について学び実践する。

【授業時間外学習】
様々な指導法を用いてメインエクササイズを指導する練習をする。(4.0hr)

第13回　実技発表・評価①
【　到達目標　】
これまで取り組んできたプログラムを発表し、意見交換をする。

【授業時間外学習】
グループ毎に行ったメインエクササイズの発表内容を検討し練習する。(4.0hr)

第14回　実技発表・評価②
【　到達目標　】
プログラムの発表・意見交換を基に、各自の内容・構成・指導法を検討する。

【授業時間外学習】
明確な動きで解り易く指導ができたか意見交換を行い、練習する。(4.0hr)

第15回　筋コンディショニング・ストレッチの基本構成
【　到達目標　】
筋コンディショニング、ストレッチの基本構成について理解する。

【授業時間外学習】
基本の筋コンディショニングとストレッチを復習して練習する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

基本のローインパクトステップとハイインパクトステップを毎回復習し、習得する。グループワークにおいては積極的に参加し、構成を毎回ステップシートに記入し、全員で協力して完成を目指す。

【教科書・参考書など】

特に指定しない。

【成績評価方法】

授業における課題達成度(50%)、実技テスト(50%)で評価する。

科目名	舞踊分析法（舞踊技術論を含む）			担当者	松　澤　慶　信	
英文名	Analytic Methods of Dance					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	講義		科目ナンバー	DBE201		

【目的とねらい】

総論的考察をすすめていくが、時代を代表するあるいは作品概念を変えた作家や舞踊作品を具体的にとりあげつつも、その意味と意義をその時代の美学芸術学の思潮に丁寧に照らし合わせて検討していく、いわば思想としての舞踊を検証する講義である。舞踊作品の在り様在り方をめぐる存在論的美学を基礎におきつつ舞踊作品の構造をその時代の時代精神とともに探っていきたい。

【授業内容・到達目標など】

第１回　to perform

【　到達目標　】

performするとはどういうことか。演奏したり、演出したり、上演したりと、テクストを立ち上げるその行為全般をいうが、オースティンが言う「パフォーマティヴ」な意味を芸術に適応し考える。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第２回　舞踊のジャンル

【　到達目標　】

様々な舞踊ジャンルを取り上げて、その差異とそして共通性を抽出して、舞踊とは何か、ダンシングするとはどういうことかをとりあえず捻出したい。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第３回　芸術としての舞踊　art/ars/テクネー

【　到達目標　】

芸術とは何か。その語源を探ることで、実は18世紀以前の芸術のもつ多義性(たとえばartisticとartificial)と多様性から、ダンスの存立を探る。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第４回　18世紀の美学

【　到達目標　】

ヤスパースが言ったように、18世紀は「枢軸の時代」であり、近代的概念が一気に整備された時代だったが、美学もそして舞踊学も学としての反省を持つようになった、この時代を確認する。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第５回　18世紀「絵画の時代」とballet d'action

【　到達目標　】

美しい自然の模倣、物語ること、絵画的であること、イリュージョニズム。この4つの視点が18世紀に「近代」芸術を措定する。バレエがこの時代の芸術理念のグッドモデルであることを確認する。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第６回　17世紀バロック時代のダンス

【　到達目標　】

18世紀以前から始まるバレエの歴史を探ろう。1581年をバレエ元年とするが、次の17世紀の時代にはルイ14世の庇護のもと、バレエは宮廷バレエを経てコメディ・バレエという劇場芸術になる。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第７回　19世紀ロマン的なるものとロマンティック・バレエ

【　到達目標　】

ロマンティック・バレエと呼ばれるバレエとは何か。ここにわれわれは実はロマン的なるものという芸術の根幹にふれることになる。そしてこのロマン的なるものが思いの外、バレエの本質であることを確認する。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第８回　19世紀後半のクラシック・バレエ

【　到達目標　】

バレエの中心が19世紀後半にロシアに移った理由は社会学的にも幾つか挙げられるが、われわれ美学の徒には古典主義という概念を確認して、バレエのクラシシズムを押さえておきたい。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第９回　マリウス・プティパの業績

【　到達目標　】

現代もなおバレエというダンスの表現形式は、基本的にプティパ・パラダイムにあると言っても過言ではない。われわれは彼が確立した語法と表現構造によって舞踊作品を存立させている。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第10回　pas de deux

【　到達目標　】

彼のダンスの様式の一つにpas de deuxを確立したことが挙げられるだろう。物語論的にも作品の構造論的にもまさに見せ場としてのパ・ドゥ・ドゥに着目したい。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第11回　20世紀のバレエ改革　ディアギレフのバレエ・リュス

【　到達目標　】

19世紀に完成されたバレエが、もはや芸術ではなくエンターテインメント化していたのを、芸術に昇格させたのがディアギレフのバレエ・リュスに他ならない。その意味を20世紀芸術の文脈から探る。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第12回　20世紀バレエ

【　到達目標　】

バレエにとって20世紀とは何だったのか。フォルマリスティックなモダニスト・モダンとしての抽象バレエ、表現主義的な心理バレエ、そしてコンテンポラリー・バレエとは何か。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第13回　舞踊と音楽

【　到達目標　】

抽象バレエが明白にしたのは、パという語法がダンシングする構造だけではない。動きと音楽の関係をもさらけだしたのだった。物語ることももはやダンスの本質ではない。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第14回　感情と舞踊

【　到達目標　】

感情の所在地、Befindlichkeitとしての情態感情、そして感情移入。感情をめぐる緒論をダンスに当てはめて、感情がダンスの特性を解明するメルクマールになることを確認したい。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第15回　感情と舞踊

【　到達目標　】

18世紀バレエは18世紀の芸術のグッドモデルであった。それからバレエは後退していく。20世紀にバレエは復権したと言われる。どうしてそう言えるのか。アーツ自体の変貌からも明らかにしたい。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

※上記内容を理解することを本科目の到達目標とする。

【学習上の留意点】

基本的に予備知識は必要ない。受講者の知的好奇心が必須条件。もちろんこちら側もその好奇心をそそるように努めたいと思う。しかし授業へのそちら側からの積極的志向性をのぞむ。ダンスを通じた美学的思考を鍛えてほしい。

２年次後期開講の必修科目「舞台芸術論」の準備としても、是非受講してほしい。

【教科書・参考書など】

授業中に指示するが、参考書として、『ダンスは国家と踊る』（アニエス・イズリーヌ著）慶應義塾大学出版会と、『20世紀ダンス史』（ナンシー・レイノルズ他著）慶應義塾大学出版会をあげる。

【成績評価方法】

試験は試験期間中に別途実施。その試験の採点が100%評価となる。

科目名	生涯ダンス論			担当者	大橋 さつき	
英文名	Lifelong Dance					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	講義		科目ナンバー	DBE202		

【目的とねらい】

「人は誰でもダンスのもつ豊かな喜びを享受することができる」という考え方を理解できるように、講義を展開する。年齢や性別、文化、環境など、異なる条件ごとに、あるいは条件の違いを超えて、ダンスがもたらす喜び、ダンスが果たす役割について理解する。さらに、指導者やファシリテーターとして「いつでも、どこでも、だれとでも」ダンス体験を共有することができるための基本的な知識を習得する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　「生涯ダンス」の理念①
【　到達目標　】
スポーツと芸術とダンスの特性について「あそび」の視点から説明できるようにするための基礎的な概念を理解する。

【授業時間外学習】シラバスのなかで不明な語句をリストアップし、辞典などを参照して語の意味を理解しておく。(4.0hr)

第２回　「生涯ダンス」の理念②
【　到達目標　】
「ライフステージ」の概念や「わたしらしさ」を特徴づける多様な要素について知り、本講義を「生涯ダンス論」とする意味について理解する。

【授業時間外学習】ロジェ・カイヨワ『遊びと人間』による４つの遊びの特性について、各種スポーツと関連づけて理解しておく。(4.0hr)

第３回　子どもとダンス①
【　到達目標　】
乳幼児期の運動発達と身体表現について理解する。

【授業時間外学習】
「子育て支援」の概念と、日本における問題点について調べる。(4.0hr)

第４回　子どもとダンス②
【　到達目標　】
幼児期の模倣動作、リズム運動の発達について理解し、幼児期のダンス活動指導の要点を理解する。

【授業時間外学習】
保育園・幼稚園で行われる「表現」と関わる指導について調べる。(4.0hr)

第５回　青年期とダンス①
【　到達目標　】
青年期を過ごす自分たちの特性が、ダンスとどのように関わっているか理解する。

【授業時間外学習】各種ダンスのコンクールについて調べ、その特徴と評価の尺度などについてまとめる①。(4.0hr)

第６回　青年期とダンス②
【　到達目標　】
若者が生み出す文化やダンスと社会の影響関係について理解する。

【授業時間外学習】各種ダンスのコンクールについて調べ、その特徴と評価の尺度などについてまとめる②。①と②をまとめ、レポートとして提出する。(4.0hr)

第７回　壮年期とダンス①
【　到達目標　】
中高年の生活課題と、そこにダンスが果たす効果について理解する。

【授業時間外学習】スポーツクラブなど健康産業の場面で提供されるダンス関連プログラムにはどのようなものがあるか調べる。(4.0hr)

第８回　壮年期とダンス②
【　到達目標　】
両親の世代がどのようなダンス観を持っているかを理解し、プログラムづくりに役立てられる。

【授業時間外学習】父母世代にインタビューし、1980～1990年代の社会状況と当時の文化の特徴をまとめる。(4.0hr)

第９回　老年期とダンス①
【　到達目標　】
高齢者の生活課題と、そこにダンスが果たす効果について理解する。

【授業時間外学習】
ADLと認知症について調べる。(4.0hr)

第10回　老年期とダンス②
【　到達目標　】
祖父母以上の世代がどのようなダンス観を持っているかを理解し、プログラムづくりに役立てられる。

【授業時間外学習】父母世代にインタビューし、1950～60年代の社会状況と当時の文化の特徴をまとめる。第８回の成果とともにレポートとして提出する。(4.0hr)

第11回　障害とダンス①
【　到達目標　】
「障害」の概念について理解し、様々な人々の存在とその人たちのダンスについて具体的に想像することができる。

【授業時間外学習】
ICFについて調べ、その趣旨を説明できるようにする。(4.0hr)

第12回　障害とダンス②
【　到達目標　】
個別の「障害」を障壁とせず、共にダンスすることに価値を見いだすインクルーシブなダンス活動について、実践例等から理解する。

【授業時間外学習】
リハビリテーション、ノーマライゼーションの定義を調べる。(4.0hr)

第13回　地域とダンス①
【　到達目標　】
地域活性化、世代間交流、子育て支援など、地域でのダンスの実例に触れて、ダンス活動の持つ力について理解する。

【授業時間外学習】
地域で行われている世代間交流、異文化交流などのプログラムについて調べる。(4.0hr)

第14回　地域とダンス②
【　到達目標　】
生活や人生が展開する場としての「地域」という考え方を理解し、人々を結びつける道具、エンパワメントの道具としてのダンスについて、適切な考えを述べることができる。

【授業時間外学習】前回までの授業全体を振り返り、生涯学習の内容や道具としてダンスに特有の特徴を導きだす。(4.0hr)

第15回　だれもがダンスのもつ豊かな喜びを享受することができるために
【　到達目標　】
「生涯ダンス」の現状について再び概観し、これを振興する上で求められることについて、適切な考えを述べることができる。

【授業時間外学習】
ダンスと関わる進路にはどのようなものがあるか調べ、それに必要な条件を検討する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

授業はスライドや映像資料を用いながら進行する。授業でのディスカッションの素材を得るために、授業時間外学習においては図書やインターネットでの情報検索や、身近な人へのインタビューを求める。毎時、リアクション・ペーパーの提出を求める。理解度確認テストを行なう回がある。指定した回には、授業時間外学習の成果を提出する。

【教科書・参考書など】

必要に応じて印刷資料を配布する。

【成績評価方法】

授業時間外学習の成果(20%)と授業内の課題達成度(20%)、試験期間中に実施する試験の得点（60%）を併せて成績評価する。

科目名	衛生学・公衆衛生学			担当者	助　友　裕　子	
英文名	Hygiene and Public Health					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・必修	
授業形態	講義		科目ナンバー	DBE203		

【目的とねらい】

我々の健康は、毎日呼吸する空気や飲む水、地球環境や自然的環境、毎日の生活習慣や人間関係、地域や国の社会経済的要因などから強く影響を受けている。これらと健康の関わりを科学的に理解し（衛生学）、地域や国民の健康を実現するための対策について理解する（公衆衛生）ことが、この授業の目的である。これらの内容は、自立した社会生活を営むためや、学校にかかわるすべての人々の健康、学校そのもののあり方、職場や地域を取り巻く社会のあり方の基礎である。こうした基本的理解づくりがこの授業のねらいである。

【授業内容・到達目標など】

第１回　健康と公衆衛生
【　到達目標　】
(1)健康には様々な考え方があることを知る。
(2)公衆衛生の定義を知り、その成り立ちを理解する。

【授業時間外学習】
公衆衛生にかかわる身近なサービスについて調べておく。(4.0hr)

第２回　保健統計の活用と応用：健康はどのようにして測られるか
【　到達目標　】
(1)国民の健康状態を測る指標の多様性について理解する。

【授業時間外学習】
政府統計の総合窓口（e-Stat）で健康に関わる統計データを探しておく。(4.0hr)

第３回　疫学：その健康情報はどこからくるか
【　到達目標　】
(1)疫学の起源について知る。
(2)疫学による研究成果が健康情報となる過程を理解する。

【授業時間外学習】
喫煙の健康影響に関する記事・論文を調べておく。(4.0hr)

第４回　ヘルスプロモーション
【　到達目標　】
(1)ヘルスプロモーションの定義、活動方法について知る。

【授業時間外学習】
本学以外の友人や知人と健康づくりの方法について議論しレポートする。(4.0hr)

第５回　世界と日本の健康戦略
【　到達目標　】
(1)世界の健康戦略の流れを知る。
(2)世界と日本の健康戦略の流れを理解する。

【授業時間外学習】
教科書で健康指標の年次推移を示しているグラフを選び､説明できるようにしておく｡(4.0hr)

第６回　健康の社会的決定要因
【　到達目標　】
(1)健康の社会的決定要因とはどのようなものか理解する。

【授業時間外学習】
現在の自分の目標について、目標達成の過程における生活への影響をレポートする。(4.0hr)

第７回　生活の場と健康
【　到達目標　】
(1)健康に影響をおよぼすあらゆる生活の場について理解を深める。
(2)WHOのsettingsアプローチを理解する。

【授業時間外学習】
一週間のうちに自分が行った場所とその場所がもたらす健康影響を記録しておく。(4.0hr)

第８回　がん対策
【　到達目標　】
(1)がんが身近な疾病であることを理解する。
(2)我が国のがん対策の現状を知る。

【授業時間外学習】
がんに関する情報を収集しておく。(4.0hr)

第９回　感染症対策
【　到達目標　】
(1)感染症の成立の条件、予防の原理を理解する。
(2)主な感染症について理解する。

【授業時間外学習】
咳エチケットの方法とその理由について考えておく。(4.0hr)

第10回　環境保健
【　到達目標　】
(1)人間と環境のかかわりについて理解する。
(2)環境問題とその対策について知る。

【授業時間外学習】
地球環境の変化に関する記事・論文を調べておく。(4.0hr)

第11回　産業保健
【　到達目標　】
(1)労働者を取り巻く現状とその対策について知る。

【授業時間外学習】
働くことの意味について自分の考えをまとめておく。(4.0hr)

第12回　メンタルヘルス対策
【　到達目標　】
(1)精神疾患の現状とその対策について知る。

【授業時間外学習】
厚生労働省のメンタルヘルスwebsiteを閲覧しておく。URLは後日指示する。(4.0hr)

第13回　親子保健
【　到達目標　】
(1)我が国の母子保健の水準を知る。
(2)母子保健活動の動向について理解する。

【授業時間外学習】
自分の住んでいる自治体の母子保健サービスを調べておく。(4.0hr)

第14回　地域保健
【　到達目標　】
(1)地域の様々な保健活動を知る。
(2)健康なまちづくりについて理解する。

【授業時間外学習】
自分の住んでいる自治体の地域保健サービスを調べておく。(4.0hr)

第15回　災害時の公衆衛生
【　到達目標　】
(1)災害の種類とその備えについて知る。
(2)自地域の防災について関心を持ち、今できる防災活動について考える。

【授業時間外学習】
少子高齢社会の中で自他が健やかに生きるための方法についてレポートする。(4.0hr)

【学習上の留意点】

毎回の講義で、その回のキークエスチョンに関して、私見や講義内容を踏まえたミニレポートを提出する。これにより各回の授業内容を振り返る。授業の導入時と終了時で自分の意見がどう変化したのかも考慮に入れながら、授業内容について理解を深めてもらいたい。なお、この毎回のミニレポート内容については、講義内容を踏まえた受講者自身の気づきが記述されていることが重要である。ミニレポートは、ほぼ毎時間行い、次回の授業時に返却するとともに、必要に応じて授業内で優れた内容について全体共有する。

【実務経験のある教員による授業科目】

行政や公的機関等における公衆衛生学に関する講義・講演等の活動経験を活かし、地域や国民の健康を実現するための対策について講義を行う。

【教科書・参考書など】

『学生のための現代公衆衛生　第7版』　野中浩一編著　南山堂
このほかに適宜資料を配布する。

【成績評価方法】

授業中の課題達成度を30%、定期試験の結果を70%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	スポーツマネジメント			担当者	芳　地　泰　幸	
英文名	Sport Management					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	講義		科目ナンバー	DBE204		

【目的とねらい】

近年、スポーツ界においてマネジメントへの関心が高まっている。スポーツが経済的に自立することが迫られているとともに、スポーツによる経済社会の活性化、振興という期待があるからである。そこで、本講義では経営学の系譜を踏まえ、スポーツマネジメントの意味、役割、機能を今日的な状況を踏まえながら学際的に学ぶ。具体的には①スポーツとマネジメントの生成と発展、②スポーツ事業のマネジメント、③スポーツ組織と人材マネジメント、④スポーツ施設のマネジメントの大きく4つの視点からスポーツマネジメントの基本的な考え方や理論を習得する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　スポーツマネジメントの発展
【　到達目標　】
(1)スポーツの様々な捉え方について理解する。
(2)スポーツマネジメントの考え方、活動領域について理解する。

【授業時間外学習】
経営、管理、マネジメントとはどのような活動であるか、自分なりに整理する。(4.0hr)

第２回　マネジメントの誕生とスポーツのビジネス化
【　到達目標　】
(1)マネジメントの誕生（科学的管理法）ついて理解する。
(2)スポーツのビジネス化とその背景、要因について理解する。

【授業時間外学習】
スポーツのビジネス化の背景について身近な事例を調べる。(4.0hr)

第３回　スポーツビジネス（企業）の目的と責任
【　到達目標　】
(1)企業の目的について理解する。
(2)マネジメントの使命や役割、社会的責任について理解する。

【授業時間外学習】
スポーツ関連企業の経営理念や組織体制など、IR情報を調べる。(4.0hr)

第４回　スポーツマーケティングの意義と役割
【　到達目標　】
(1)マーケティングとセリングの違いを理解する。
(2)マーケティングにおける市場細分化とターゲッティングを理解する。

【授業時間外学習】
スポーツ企業がおこなっているマーケティング活動について具体的に調べる。(4.0hr)

第５回　マーケティング戦略とスポーツプロダクト
【　到達目標　】
(1)マーケティング戦略のプロセスとマーケティング・ミックスについて理解する。
(2)スポーツプロダクト（有形・無形）の捉え方について理解する。

【授業時間外学習】
ヒット商品を具体的に浮かべ、なぜ売れるかをその要因について整理する。(4.0hr)

第６回　スポーツ事業の経営戦略
【　到達目標　】
(1)代表的な環境分析の手法を理解する。
(2)基本的な経営戦略（競争戦略）について理解する。

【授業時間外学習】
成功している企業の経営戦略（競争戦略）について調べる。(4.0hr)

第７回　スポーツ組織のマネジメント
【　到達目標　】
(1)組織とは何かを理解する。
(2)組織成立の要件を理解する。

【授業時間外学習】
組織はどのようなものか、集団や群衆との違いについて整理する。(4.0hr)

第８回　スポーツ組織の人間的（情緒的）側面
【　到達目標　】
(1)経営管理における人間関係論を理解する。
(2)人材をマネジメントする際の情緒的側面の重要性を理解する。

【授業時間外学習】
組織における人間関係や規範（暗黙のルール）の影響について整理する。(4.0hr)

第９回　スポーツ組織のモチベーション・マネジメントⅠ
【　到達目標　】
(1)モチベーションとはなにかについて理解する。
(2)モチベーションの内容論について理解する。

【授業時間外学習】
何が満たされるとやる気になるのか、についてこれまでの経験を基に考えてみる。(4.0hr)

第10回　スポーツ組織のモチベーション・マネジメントⅡ
【　到達目標　】
(1)モチベーションの過程論（プロセス論）について理解する。
(2)身近な組織のモチベーション・マネジメントに向けた効果的な改善策を立案する。

【授業時間外学習】
どのようにモチベーションが生起し、変化するのか、考えてみる。(4.0hr)

第11回　スポーツ組織におけるリーダーシップ
【　到達目標　】
(1)リーダーシップの役割、機能について理解する。
(2)リーダーシップの代表的理論（特性論・行動理論）を理解する。

【授業時間外学習】
優れたリーダーはどのような特性を有しているのかについて整理する。(4.0hr)

第12回　組織変革とリーダーシップ
【　到達目標　】
(1)変革型リーダーシップについて理解する。
(2)組織におけるリーダーシップとマネジメントの違いについて理解する。

【授業時間外学習】
リーダーとマネジャーの違いについて、身近な事例から整理する。(4.0hr)

第13回　チーム作りとチームビルディング
【　到達目標　】
(1)チームビルディングの手法について理解する。
(2)チームワークを育むコミュニケーションについて理解する。

【授業時間外学習】
チームが機能するとはどのような状態か、身近な事例から整理する。(4.0hr)

第14回　スポーツ施設の運営と管理
【　到達目標　】
(1)我が国のスポーツ施設の現状を理解する。
(2)スポーツ施設の管理・運営に関する制度や法令を理解する。

【授業時間外学習】
身近なスポーツ施設の運営者と管理者について調べる。(4.0hr)

第15回　スポーツ施設のデザインとユーザビリティ
【　到達目標　】
(1)ユニバーサルデザイン（UD）の視点を理解する。
(2)ユーザビリティを高めるための改善手法を理解する。

【授業時間外学習】
誰もが快適に、安全に利用できる施設や空間の設計・デザイン等について整理する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

パワーポイントを使用して講義をおこなう。また、必要に応じて関連資料やVTR等の補助教材を用い、具体的事例からマネジメントに関する理解を深めていく。受講生は積極的に講義に参加するとともに自主的な予習・復習や情報収集に努めること。特に、講義で学んだ視点や理論、知識を身近な組織（部活動やアルバイト）に当てはめて考える、応用すること。毎回の講義後には学生の理解度や疑問点を把握するためのミニッツペーパー（レスポンスカード）を実施し、次回の講義時にフィードバックをおこなう。さらに、時間外での主体的な学びを促すための課題レポートも課し、評価コメントを付して受講生にフィードバックする。

【教科書・参考書など】

教科書は特に定めない。
＜参考書＞「スポーツマネジメント（改訂版）」原田宗彦、小笠原悦子（編著）大修館書店、2015年。
※その他の参考文献や参考資料は講義時に紹介する（適宜、配布する）。

【成績評価方法】

課題レポート（講義内での小レポート含む）を40%、定期試験の結果を60%として総合評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	救急処置法			担当者	夏　井　裕　明	
英文名	First Aid					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択	専門・選択	専門基礎・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	DBE205		

【目的とねらい】

本講義は臨床スポーツ医学の前編（外科系）として位置づけられる。健康運動指導士・健康運動実践指導者・日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の共通科目Ⅰ・Ⅲに関する内容を扱う。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション

【　到達目標　】

講義の目的、進め方、単位認定の方法について理解する。受講に際しての注意点を理解する。

【授業時間外学習】

シラバスを参考にして、授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第２回 B：女性とスポーツⅠ（受精から性成熟期まで）K：外傷総論Y：女性とスポーツ

【　到達目標　】

B：女性の一生のうち、性成熟期までのスポーツ医学的問題を理解する。
K：外傷とは何か、その受傷機転・症状・診断・治癒過程について理解する。
Y：女性の一生のうち、性成熟期までのスポーツ医学的問題を理解する。

【授業時間外学習】

スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 29 - 36　を読む。(4.0hr)

第３回　B：女性とスポーツⅡ（妊娠・出産から更年期まで）K：応急処置総論Y：成長・発達の一般原則

【　到達目標　】

B：女性の一生のうち、妊娠・出産および更年期におけるスポーツ医学的問題を理解する。
K：RICE処置の内容・方法・効果について理解する。
Y：Scamonの発育曲線を学び、成長・発達の一般原則を理解する。

【授業時間外学習】

スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 42 - 47　を読む。(4.0hr)

第４回 B：応急処置総論K：　頭部のスポーツ外傷Y：外傷総論

【　到達目標　】

B：RICE処置の内容・方法・効果について理解する。
K：意識障害の診かた、頭部外傷について理解する。
Y：外傷とは何か、その受傷機転・症状・診断・治癒過程について理解する。

【授業時間外学習】

スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 36 - 39、 55 - 58、 157 - 160　を読む。(4.0hr)

第５回　B：頭部のスポーツ外傷K：顔面のスポーツ外傷Y：応急処置総論

【　到達目標　】

B：意識障害の診かた、頭部外傷について理解する。
K：顔面外傷、鼻出血、歯牙損傷について理解する。
Y：RICE処置の内容・方法・効果および止血法について理解する。

【授業時間外学習】

スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 233 - 241　を読む。(4.0hr)

第６回　B：上肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（鎖骨から肩関節）K：上肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（鎖骨から肩関節）Y：頭部外傷に対する応急処置

【　到達目標　】

B：鎖骨から肩関節までのスポーツ外傷・障害について理解する。
K：鎖骨から肩関節までのスポーツ外傷・障害について理解する。
Y：意識障害の診かた、頭部外傷について理解する。

【授業時間外学習】

スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 62 - 72　を読む。(4.0hr)

第７回 B：上肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（上腕から手指）K：上肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（上腕から前腕）Y：上肢の外傷に対する応急処置

【　到達目標　】

B：上腕から手指までのスポーツ外傷・障害について理解する。
K：上腕から前腕までのスポーツ外傷・障害について理解する。
Y：発育発達期に起こりやすい上肢の外傷を理解し、それに対する応急処置を学ぶ。

【授業時間外学習】

スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 72 - 83　を読む。(4.0hr)

第８回　B：体幹のスポーツ外傷・障害（頸部から腰部）K：上肢のスポーツ外傷・障害Ⅲ（手関節から指）Y：下肢の外傷に対する応急処置

【　到達目標　】

B：頸部から腰部までのスポーツ外傷・障害について理解する。
K：手関節から指までのスポーツ外傷・障害について理解する。
Y：発育発達期に起こりやすい下肢の外傷を理解し、それに対する応急処置を学ぶ。

【授業時間外学習】

スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 83 - 89　を読む。(4.0hr)

第９回　B：下肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（膝関節）K：体幹のスポーツ外傷・障害Ⅰ（頸部から胸部）Y：学校生活における感染症対策

【　到達目標　】

B：膝のスポーツ外傷・障害について理解する。
K：頸部から胸部までのスポーツ外傷・障害について理解する。
Y：学校感染症の種類と特徴を学び、出席停止期間の根拠を理解する。

【授業時間外学習】

スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 58 - 61、 90　を読む。(4.0hr)

第10回 B：下肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（大腿、下腿、足部）K：体幹のスポーツ外傷・障害Ⅱ（腰部から骨盤）Y：循環器・腎疾患・代謝性疾患と学校生活管理

【　到達目標　】

B：大腿および下腿から足部までのスポーツ外傷・障害について理解する。
K：腰部のスポーツ外傷・障害について理解する。
Y：循環器疾患、腎疾患を理解し、学校生活管理指導票を学ぶ。

【授業時間外学習】

スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 89 - 100　を読む。(4.0hr)

第11回　B：内科的疾患とスポーツⅠ（循環器・呼吸器の急性疾患）K：下肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（膝の外傷）Y：呼吸器疾患に対する応急処置

【　到達目標　】

B：運動中の突然死、過換気症候群、運動誘発性喘息とその対策について理解する。
K：膝のスポーツ外傷について理解する。
Y：気管支喘息、運動誘発性喘息を理解し、喘息発作に対する応急処置を学ぶ。

【授業時間外学習】

スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 105 - 115　を読む。(4.0hr)

第12回 B：内科的疾患とスポーツⅡ（慢性疾患と感染症）K：下肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（膝の障害、大腿部）Y：アナフィラキシーに対する応急処置

【　到達目標　】

B：貧血と主な感染症について理解する。
K：膝のスポーツ障害と大腿部のスポーツ外傷について理解する。
Y：食物アレルギーを理解し、アナフィラキシー・ショックに対する応急処置を学ぶ。

【授業時間外学習】

スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 115 - 123　を読む。(4.0hr)

第13回　B：内科的疾患とスポーツⅢ（熱中症）K：下肢のスポーツ外傷・障害Ⅲ（大腿・下腿・足部）Y：熱中症の応急処置

【　到達目標　】

B：熱中症の要因・症状・応急処置・対策について理解する。
K：大腿および下腿から足部までのスポーツ外傷・障害について理解する。
Y：熱中症の要因・症状・応急処置・対策について理解する。

【授業時間外学習】

スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 100 - 105、 123 - 139　を読む。(4.0hr)

第14回　心肺蘇生法の理論

【　到達目標　】

心肺蘇生法の理論について理解する。

【授業時間外学習】

スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 213 - 220　を読む。(4.0hr)

第15回　心肺蘇生法実習

【　到達目標　】

心肺蘇生法実習を通じて、BLS（Basic Life Support）ができるようになる。

【授業時間外学習】

BLSヘルスケアプロバイダー　マニュアル　を読む。(4.0hr)

【学習上の留意点】

本科目は選択科目ではあるが、教員免許（B・K）、健康運動指導士（K）、健康運動実践指導者（K）、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者共通科目（K）、GFI（グループエクササイズ・フィットネス・インストラクター）（K)資格取得のための必修科目である。１年次開講の「機能解剖学」、「スポーツ生理学」を履修済みであることを前提とする。２年次後期開講の「スポーツ医学（K)」も併せて履修することが望ましい。

講義の最後に小テストを行い、講義内容の理解度を確認する。

第15回の心肺蘇生法実習は夏休みの補講・集中講義期間中に実施する。

【実務経験のある教員による授業科目】

医師としての臨床経験を活かし、競技スポーツや学校体育、社会体育におけるスポーツの実践や指導に関連する臨床スポーツ医学のうち、外科系の内容について講義を行う。

【教科書・参考書など】

参考書：「スポーツ指導者のためのスポーツ医学（第２版）」、小出清一他編、南江堂
「健康運動指導士養成講習会テキスト上・下」、公益財団法人　健康・体力づくり事業財団
「公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目Ⅰ・Ⅲ」、公益財団法人　日本スポーツ協会

【成績評価方法】

試験成績（100%）で成績を評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。

科目名	スポーツ史			担当者	都　筑　　真	
英文名	Sport History					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	講義		科目ナンバー	DBE206		

【目的とねらい】

本講義では、社会の変化に伴うスポーツのこれまでの変化について理解を深めることを目的とする。各時代毎ではなく、現代のスポーツを理解する上で重要と思われるテーマ毎に、これまでのスポーツの在り様を理解していくことを通じて、今後のスポーツの在り方を考察していくことをねらいとする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
(1)講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。

【授業時間外学習】
参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。(4.0hr)

第２回　スポーツ史を学ぶ意義
【　到達目標　】
(1)スポーツ史がどのような学問分野であるかを理解する。
(2)スポーツ史を学ぶ意義について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第３回　スポーツのルーツへのまなざし
【　到達目標　】
(1)スポーツのルーツが人間のどのような活動にあるかを理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第４回　各時代の社会におけるスポーツ
【　到達目標　】
(1)スポーツの時代毎の変化と現代のスポーツとの相違点を理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第５回　スポーツ種目の誕生と変容
【　到達目標　】
(1)われわれの身近にあるスポーツ種目がなぜ誕生し、どのように変化してきたのかを理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第６回　欧米スポーツの日本への移入
【　到達目標　】
(1)欧米スポーツの日本への導入・普及過程について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第７回　体操、身体教育、スポーツ教育
【　到達目標　】
(1)古代の体操、近代の身体教育、現代のスポーツ教育に関する理論と歴史的過程を理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第８回　スポーツの技術、戦術、ルールの歴史的変容
【　到達目標　】
(1)スポーツの技術、戦術、ルールがどのように変化してきたのかについて理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第９回　近代の戦争と体育・スポーツ
【　到達目標　】
(1)近代における体育・スポーツと戦争との関係について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第10回　オリンピックムーブメントと世界平和
【　到達目標　】
(1)オリンピックムーブメントがどのような運動であるかを理解する。
(2)オリンピックが国際親善や世界平和につながる理由について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第11回　日本のスポーツ振興政策とスポーツ基本法
【　到達目標　】
(1)日本のスポーツ振興政策を概観しながら、スポーツ基本法制定へと至る過程や理由について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第12回　スポーツ産業の歴史的発展とスポーツの経済効果
【　到達目標　】
(1)スポーツの発展に貢献しているスポーツに関連した「モノ」「場」「サービス」の歴史とスポーツの経済効果について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第13回　女性スポーツの展開と現在
【　到達目標　】
(1)女性にとってスポーツ文化がこれまでどのようなものであったのか、そして現在どのようなものとなっているかを理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第14回　スポーツとメディア
【　到達目標　】
(1)スポーツとメディアの歴史的関係やスポーツメディアの特性について理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第15回　スポーツと環境問題
【　到達目標　】
(1)スポーツと環境問題の関係を理解する。
(2)スポーツ界における環境保全の取り組みを理解する。

【授業時間外学習】
到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義では毎回、講義内容の理解を深めるために、小レポートを課す。
「スポーツ原論」と併せて履修することが望ましい。

【教科書・参考書など】

特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。
『体育・スポーツ史概論』(木村吉次編著、市村出版)と『スポーツの歴史と文化』(新井博／榊原浩晃編著、道和書院)を講義の参考書として利用すること。

【成績評価方法】

講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	体操			担当者	木皿久美子	
英文名	Gymnastics					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	実技		科目ナンバー	DBE104		

【目的とねらい】

中学校と高等学校の学習指導要領では７つの運動・スポーツ領域が提示されているが、その中で「体つくり運動」は、唯一、全ての学年で実施する最重要領域である。それは「体力を高める運動」と「体ほぐし運動」に大別されるが、本授業では「自己の体に気付き、体の調子を整えたり、仲間と交流したりするためのいろいろな手軽な運動や律動的な運動」とされる後者の適正な実施法の習得を主目的とし、適宜、指導法についても解説する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
授業展開とねらい、評価方法・学習上の留意点について理解する。
【授業時間外学習】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第２回　ストレッチ体操の基本
【　到達目標　】
体気付き、体ほぐしについて実践し、体を整える方法を知る。
【授業時間外学習】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第３回　ストレッチ体操と運動遊び①
【　到達目標　】
ペアでストレッチや運動遊びを行いながら、自分と相手の体と心に気付く。
【授業時間外学習】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第４回　ストレッチ体操と運動遊び②
【　到達目標　】
仲間とふれあうことで、体ほぐしのねらいを具体化できる。
【授業時間外学習】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第５回　手具体操（ボール）とトレーニング体操①
【　到達目標　】
ボールの特性を活かした運動を実践できる。（1～2名）
【授業時間外学習】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第６回　手具体操（ボール）とトレーニング体操②
【　到達目標　】
ボールの特性を活かした運動を実践できる。（3～10名）
【授業時間外学習】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第７回　手具体操（長縄とび）の特性について
【　到達目標　】
長縄跳びの特性を考え、実践できる。
【授業時間外学習】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第８回　手具体操（長縄とび）の発展と方法
【　到達目標　】
タイミングの良い運動と発展させた運動が実践できる。
【授業時間外学習】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第９回　手具体操（長縄とび）の効果について
【　到達目標　】
長縄跳びの特性と効果について理解し、正しく実践できる。
【授業時間外学習】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第10回　手具体操（短縄とび）の効果について
【　到達目標　】
短縄跳びの特性と効果について理解し、正しく実践できる。
【授業時間外学習】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第11回　リズム体操の基本
【　到達目標　】
様々なステップを実践することで、動きのリズムを習得する。
【授業時間外学習】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第12回　リズム体操：実技課題の実践①
【　到達目標　】
音楽のリズムと動きのリズムを調和させながら、フレーズの動きを実践できる。
【授業時間外学習】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第13回　リズム体操：実技課題の実践②　動きの修正
【　到達目標　】
一連の動きを自然な動きで実践できる。
【授業時間外学習】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第14回　リズム体操：実技課題の実践③
【　到達目標　】
これまで習得した動きの修正を行い、更にスムーズな一連の動きになるよう実践を重ねる。
【授業時間外学習】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第15回　体操の課題発表
【　到達目標　】
これまで習得した良い動きを、のびのびとした動作で発表できる。
【授業時間外学習】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

【学習上の留意点】

アクセサリー類や時計等、相手や自らの怪我を引き起こす危険性があるものは身につけない。
服装・身だしなみは実習にふさわしいものとする。長縄跳びの課題ではインシューズを使用する。

【教科書・参考書など】

必要に応じて、プリント教材を配布します。

【成績評価方法】

実技試験70%　　レポート30%

科目名	器械運動			担当者	森　井　大　樹	
英文名	Apparatus Exercise					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	実技		科目ナンバー	DBE105		

【目的とねらい】

達成スポーツとしての器械運動では、さまざまな運動が行われる。その運動は「技」と呼ばれ、「技」は運動構造によって易しいものからむずかしいものへと体系的に分類されている。その体系にしたがって基本的な技を正しく習得すると発展的な技の習得も容易となる。本授業では、器械運動の基本的な技について、その基礎技能も含めいろいろな段階的練習方法を通して身につけていく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　マット運動の基礎技能
【　到達目標　】
(1)器械運動に必要な動きと練習方法を理解する。
(2)マット運動の基礎技能の習熟を図る。

【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第２回　マット運動（倒立の基礎・接転系の技）①
【　到達目標　】
(1)倒立の基礎知識・技能を習得する。
(2)前転、後転の基礎知識・技能を習得する。

【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第３回　マット運動（倒立の基礎・接転系の技）②
【　到達目標　】
(1)倒立の静止技能および歩行技能を習得する。
(2)前転、後転の変形技を習得する。

【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第４回　マット運動（倒立の基礎・接転系の技）③
【　到達目標　】
(1)倒立前転の技能を習得する。
(2)伸膝後転の技能を習得する。

【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第５回　マット運動（倒立の基礎・接転系の技）④
【　到達目標　】
(1)倒立前転の技能テスト
(2)伸膝後転の技能テスト

【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第６回　マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）①
【　到達目標　】
(1)側方倒立回転習得のための基礎知識・技能を習得する。
(2)ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。

【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第７回　マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）②
【　到達目標　】
(1)側方倒立回転の技能を習得する。
(2)ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。

【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第８回　マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）③
【　到達目標　】
(1)側方倒立回転の技能テスト
(2)ハンドスプリングの技能を習得する。

【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第９回　マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）④
【　到達目標　】
(1)ハンドスプリングの技能テスト

【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第10回　とび箱運動（反転系の技の基礎技能）
【　到達目標　】
(1)反転系の技の基礎知識・技能を習得する。

【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第11回　とび箱運動（反転系の技・開脚とび）
【　到達目標　】
(1)開脚とびの技能を習得する。
(2)開脚とびの技能テスト

【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第12回　とび箱運動（反転系の技・閉脚とび）
【　到達目標　】
(1)閉脚とびの技能を習得する。
(2)閉脚とびの技能テスト

【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第13回　鉄棒運動（支持回転系の技）①
【　到達目標　】
(1)鉄棒運動の基礎知識・技能を習得する。

【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第14回　鉄棒運動（支持回転系の技）②
【　到達目標　】
(1)支持回転系の技の技能を習得する。
(2)支持回転系の技能テスト

【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第15回　課題の達成度と身体知
【　到達目標　】
(1)技の習得に必要な身体知について理解する。
(2)達成できた動きの身体知について理解する。

【授業時間外学習】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

【学習上の留意点】

課題として取り上げられた技は、体育教員として身につけておきたい最低限のものである。授業では、それぞれの技の感覚を順を追って習得していく。すでに、課題をできる受講生にとっては、あらためて動きができるための「道しるべ」を確認することになり、中学・高等学校時に器械運動の授業を受けていない学生にとっては、新たな「身体知」を獲得する場となる。積極的な参加を望む。

【教科書・参考書など】

＜参考書＞
「教師のための器械運動指導法シリーズ：マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友（大修館書店）

【成績評価方法】

課題技の達成度　100%

科目名	陸上競技			担当者	大橋　祐二・中野　美沙	
英文名	Track and Field					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	実技		科目ナンバー	DBE106		

【目的とねらい】

陸上競技は走・跳・投運動による最大達成を競う種目である。多くの種目の中から、走種目として100m走、跳種目として走り幅跳び、投種目として砲丸投げを取り上げ、それぞれの種目を実習し、基本技能を習得する過程を経験することと、それぞれの種目の学習方法について理解することを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業内容の説明（採点表）

【　到達目標　】

100m走、走り幅跳び、砲丸投げの種目特性を理解する。単位認定の条件（達成記録、習熟度）を確認する。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第２回　100m走の走り方：中間疾走

【　到達目標　】

短距離走の走り方として、中間疾走を行う中で、まず支持局面を意識して実践してみる。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第３回　クラウチングスタートのしかた

【　到達目標　】

自分にあったクラウチングスタートの方法を身につける。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第４回　スタート～加速のしかた

【　到達目標　】

クラウチングスタートからトップスピードを作り出す加速局面で、問題点を把握してその改善を図る。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第５回　スタート、加速疾走、中間疾走

【　到達目標　】

100m走記録測定の準備として、100mという距離を走る体験をする。その中で、前半と後半の身体への負担がどのようであるかを実感し、特に後半の走り方をイメージできるようにする。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第６回　100m走記録測定

【　到達目標　】

100m走の記録測定を行う。達成記録がどのレベルにあるかを把握する。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第７回　走り幅跳びの基本技術とルール

【　到達目標　】

走り幅跳びの一連の動きを実習しながら、基本技術及びルールを身につける。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第８回　短助走跳躍

【　到達目標　】

短助走跳躍を実践する中で、自分にあった効果的な踏み切り技術を探り当てる。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第９回　全助走跳躍

【　到達目標　】

自分におあったおおよその助走距離を見つけ、同時に踏み切り板に足が合う正確な距離を見つけ出す。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第10回　走り幅跳び記録測定１

【　到達目標　】

走り幅跳びの記録測定を行う。達成距離がどのレベルにあるかを把握する。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第11回　走り幅跳び記録測定２

【　到達目標　】

前回の達成距離を更新するために、改善点を見つけ出しより高いレベルにチャレンジする。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第12回　砲丸投げの基本技術とルール

【　到達目標　】

砲丸投げの基本技術であるつき出し動作のドリルを実習することによって、つき出しの動き方を確認する。同時に、砲丸投げのルールを理解する。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第13回　メディシンボールによるつき出し

【　到達目標　】

メディシンボールによるつき出し、砲丸を用いてのつき出しを繰り返し行うことによって、合理的なつき出し動作を身につける。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第14回　ホップ、グライドからの投げ

【　到達目標　】

つき出しがより力強く行われるように、サークル内でホップ、ステップの「助走」をつけて行う。うまく加速できる方法を見つけ出す。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第15回　砲丸投げ記録測定

【　到達目標　】

砲丸投げの記録測定を行う。その記録がどのレベルにあるかを把握する。

【授業時間外学習】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

【学習上の留意点】

過去の運動経験を生かし、より高いレベルの記録を達成するようにして欲しい。そのためには、陸上競技の専門性を理解し、その中で自分の運動経験を生かすようにすることが必要である。

【教科書・参考書など】

『教師のための運動学』金子明友・監修　吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）

【成績評価方法】

各種目の実技試験における達成記録による評価を70%、動きの習熟度やルール等に関するテストによる評価を30%として評価する。

科目名	水泳			担当者	北　川　幸　夫	
英文名	Swimming					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	実技		科目ナンバー	DBE107		

【目的とねらい】

水の特性に慣れることからはじめ、４種目泳法の各種技術練習を通して水泳の基本技能を修得すると共に、水泳運動の学習方法を理解する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　水慣れ

【　到達目標　】

水に入る、浮く、沈む、歩く、走る、跳ぶ、泳ぐ等を通して、水の特性に慣れる。

【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール､背泳ぎ､平泳ぎ､バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第２回　けのび、グライダー姿勢、クロールの導入

【　到達目標　】

正しいけのびの型を理解し、修得する。グライダー姿勢を理解し、修得する。クロールのバタ足を修得する。

【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール､背泳ぎ､平泳ぎ､バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第３回　クロールの泳法実習

【　到達目標　】

クロールのキックおよびストロークを修得する。
クロールの呼吸法を修得する。

【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール､背泳ぎ､平泳ぎ､バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第４回　クロールの泳法実習と背泳ぎの導入

【　到達目標　】

クロールにおいて随時呼吸を行い、正しいフォームを修得する。
背泳ぎの導入としての背浮きを修得する。

【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール､背泳ぎ､平泳ぎ､バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第５回　背泳ぎの泳法実習

【　到達目標　】

背泳ぎのキックおよびストロークを修得する。
背泳ぎの呼吸法を修得する。

【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール､背泳ぎ､平泳ぎ､バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第６回　クロールと背泳ぎのまとめ（泳法の確認）

【　到達目標　】

クロールおよび背泳ぎにおいて､競技規則に則った正しいフォームを修得しているか確認する。

【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール､背泳ぎ､平泳ぎ､バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第７回　平泳ぎの導入と泳法実習

【　到達目標　】

平泳ぎのキックを修得する。
あおり足とかえる足の違いを理解する。

【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール､背泳ぎ､平泳ぎ､バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第８回　平泳ぎの泳法実習とバタフライの導入

【　到達目標　】

平泳ぎのストロークを修得し、手足のタイミングを整える。
バタフライのキックを修得する。

【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール､背泳ぎ､平泳ぎ､バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第９回　バタフライの泳法実習

【　到達目標　】

バタフライの呼吸法を修得する。
バタフライのストロークを修得し、手足のタイミングを整える。

【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール､背泳ぎ､平泳ぎ､バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第10回　平泳ぎおよびバタフライのまとめ（泳法の確認）

【　到達目標　】

平泳ぎおよびバタフライにおいて、競技規則に則った正しいフォームを修得しているか確認する。

【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール､背泳ぎ､平泳ぎ､バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第11回　周辺技術（スタートおよびターン）の修得①

【　到達目標　】

水面上からの飛び込み型スタートを段階的に修得する。
クロールおよび平泳ぎのターンを修得する。

【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール､背泳ぎ､平泳ぎ､バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第12回　周辺技術（スタートおよびターン）の修得②

【　到達目標　】

水面上からの飛び込み型スタートを段階的に修得する。
クロールおよび平泳ぎのターンを修得する。

【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール､背泳ぎ､平泳ぎ､バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第13回　４泳法のまとめとクロールのトレーニング

【　到達目標　】

４泳法の競技規則に則ったフォームを再確認する。
100mクロールに向けたトレーニングを行う。

【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール､背泳ぎ､平泳ぎ､バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第14回　４泳法のまとめと平泳ぎのトレーニング

【　到達目標　】

４泳法の競技規則に則ったフォームを再確認する。
100m平泳ぎに向けたトレーニングを行う。

【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール､背泳ぎ､平泳ぎ､バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第15回　100mクロールおよび100m平泳ぎの確認

【　到達目標　】

100mクロールおよび100m平泳ぎを泳ぐ。

【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール､背泳ぎ､平泳ぎ､バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

【学習上の留意点】

プールでの安全管理および安全対策の理解の一環として、アクセサリー類の着用は不可とする。
水泳は、普段の生活とは異なる水中環境下での運動となるため、様々な身体への影響が生じる。そのため、実習への参加に際し、健康状態に配慮することが必要である。

【教科書・参考書など】

参考書：「水泳指導教本」　日本水泳連盟編、大修館書店

【成績評価方法】

１.泳法試験(70%)、２.クロールおよび平泳ぎの泳力試験(30%)とする。
評価は、上記に加えて授業における課題達成度を含め、総合的に判定する。

科目名	バスケットボール			担当者	佐々木直基	
英文名	Basketball					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	実技		科目ナンバー	DBE108		

【目的とねらい】

バスケットボールのゲームを行うために必要とされる基礎的な個人技術を習得し、その上でグループ・チーム戦術へと発展させ、ゲームの中で習得した個人技術、グループ・チーム戦術を発揮することが目的である。さらに、ルールを理解することも目的である。習得した個人技術、グループ・チーム戦術を実際に指導するための基礎作りが本実習のねらいとなる。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業のねらいと進め方
【　到達目標　】
(1)授業のねらいと進め方、バスケットボールの特性を理解する。
(2)導入としてコーディネーショントレーニングの必要性を理解し、実践する。

【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第２回　基礎的な個人技術　コントロール
【　到達目標　】
(1)ボディコントロール（フットワークとハンドワークを含む）の技術を理解し、習得する。
(2)ボールコントロール（ボールハンドリング）の技術を理解し、習得する。
(3)ミニゲームを実践する。
【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第３回　基礎的な個人技術　ワンハンドシュート①
【　到達目標　】
(1)ゴールに近い場所でのワンハンドシュートの技術を習得する。
(2)ミニゲームを実践する。

【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第４回　基礎的な個人技術　セットシュートとジャンプシュート
【　到達目標　】
(1)セットシュートとジャンプシュートの違いを理解する。
(2)セットシュートとジャンプシュートそれぞれの技術を習得する。
(3)ミニゲームを実践する。
【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第５回　基礎的な個人技術　パスとキャッチ
【　到達目標　】
(1)ボールキャッチの技術を習得する。
(2)いろいろなパスの技術を習得する。
(3)ミニゲームを実践する。
【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第６回　基礎的な個人技術　レイアップシュート①
【　到達目標　】
(1)ドリブルからのレイアップシュートの技術を習得する。
(2)ミニゲームを実践する。

【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第７回　基礎的な個人技術　ドリブル
【　到達目標　】
(1)ドリブルのチェンジ･オブ･ディレクションの技術を習得する。
(2)ドリブルのチェンジ･オブ･ペースの技術を習得する。
(3)ミニゲームを実践する。
【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第８回　基礎的な個人技術　リバウンド
【　到達目標　】
(1)オフェンスリバウンドの技術を習得する。
(2)ミニゲームを実践する。

【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第９回　基礎的な個人技術　フリースロー①
【　到達目標　】
(1)ゲームの中でフリースローが起こる状況について理解する。
(2)フリースローの技術を習得する。
(3)ゲームを実践する。
【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第10回　グループ戦術　パス&ラン
【　到達目標　】
(1)グループ戦術としてのパス＆ランの原則を理解する。
(2)パス＆ランのグループ戦術を習得する。
(3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。
【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第11回　チーム戦術　ドライブ&合わせ
【　到達目標　】
(1)グループ戦術としての１対１（ドライブ）とそこからの合わせの原則を理解する。
(2)ドライブ＆合わせのグループ戦術を習得する。
(3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。
【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第12回　基礎的な個人技術　ワンハンドシュート②
【　到達目標　】(1)ゴールに近い場所でのワンハンドシュートの技術を習得する。
(2)いろいろなワンハンドシュート（フック系・フローター系）の技術を実践する。
(3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。
(4)ルールを理解する。
【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第13回　基礎的な個人技術　レイアップシュート②
【　到達目標　】(1)ドリブルからのレイアップシュートの技術を習得する。
(2)いろいろなレイアップシュート（バックシュート系・ステップの変化）の技術を実践する。
(3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。
(4)ルールを理解する。
【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第14回　基礎的な個人技術　フリースロー②
【　到達目標　】(1)フリースローの技術を習得する。
(2)ゲームの状況下でのフリースローを実践する。
(3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。
(4)ルールを理解する。
【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第15回　スキルの総合的検証
【　到達目標　】
(1)本実習で習得した基礎的な個人技術ができる。

【授業時間外学習】各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る。また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

【学習上の留意点】

実習の授業となるため服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。アクセサリー類は決して身につけない。本実習はすべてグループ毎に活動するので、ただ参加するのではなく、積極的にグループの中で活動し、さらにはリーダーシップを取って授業を受ける。また、バスケットボールのルールを理解し、ゲームでは審判を行うこともあるので、ゲームの知識・理解を深めるように努める。

【教科書・参考書など】

参考書
「バスケットボール指導教本改訂版　上・下巻」（公財）日本バスケットボール協会編（大修館書店）

【成績評価方法】

平常授業での到達目標に対する到達度を70%、スキルテストを30%として評価する。

科目名	バレーボール			担当者	ﾖｰｺ・ｶﾘﾝ・ｾﾞｯﾀｰﾗﾝﾄﾞ	
英文名	Volleyball					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	実技		科目ナンバー	DBE109		

【目的とねらい】

バレーボールでは個人の基礎技能(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・スパイク・サーブ)の定着を図り、バレーボールゲームをおこなう上で必要な基礎技術・戦術を理解・実践し、それらをチームとしての戦術へと発展させていきスムーズなゲームの完成を目指す。またルールやゲームの進め方および審判法を理解し、ゲームの運営について学ぶことも目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　バレーボールの歴史と発展
【　到達目標　】
(1)バレーボールの起源、発展、ルールの変遷等を理解する。
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第２回　基礎技能の習得Ⅰ(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス)
【　到達目標　】
(1)各パスをおこなうための体の使い方を理解する。
(2)ボールを正確にコントロールする能力を身につける。
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第３回　基礎技能の応用(各種レシーブ・トス)
【　到達目標　】
(1)強いボールに対する対応、移動しながらの技能を身につける。
(2)方向転換していろいろな方向へコントロールできる。
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第４回　基礎技能の習得Ⅱ(サーブ)
【　到達目標　】
(1)アンダーハンドサーブ、フローターサーブの打ち方をマスターする。
(2)狙ったコースへコントロールできる。
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第５回　基礎技能の習得Ⅲ(スパイク)
【　到達目標　】
(1)助走のステップ、スイングを身につける。
(2)タイミングを合わせてボールを打つことができる。
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第６回　集団技能の理解と集団での技術・戦術
【　到達目標　】
(1)基礎技能と集団技能の結びつきについて理解する。
(2)集団で発揮する技術・戦術を理解する。
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第７回　基本戦術の習得Ⅰ(3段攻撃)
【　到達目標　】
(1)「レシーブ→トス→スパイク」の流れを理解・実践する。
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第８回　基本戦術の習得Ⅱ(フォーメーション)
【　到達目標　】
(1)基礎的な守備フォーメーションを理解・実践する。
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第９回　ゲームの進め方・ルール・審判法の理解
【　到達目標　】
(1)ゲームを行う上での主なルールを理解する。
(2)主審・線審の役割とシグナル方法を理解する。
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第10回　ゲーム実践Ⅰ
【　到達目標　】
(1)オフィシャルルールで実践する。
(2)すべてのポジションの役割を経験する。
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第11回　個人技能の評価方法と技能修正方法
【　到達目標　】
(1)オフィシャルルールで実践する。
(2)すべてのポジションの役割を経験する。
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第12回　個人技能の評価方法と技能修正方法
【　到達目標　】
(1)個人技能の評価方法を理解し、実践できる。
(2)個人技能の正しい方法への修正をすることができる。
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第13回　バレーボールのポジションとその役割の理解
【　到達目標　】
(1)セッター・リベロ・スパイカーについて理解・実践する。
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第14回　ゲーム実践Ⅲ
【　到達目標　】
(1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。
(2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第15回　ゲーム実践Ⅳ
【　到達目標　】
(1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。
(2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

【学習上の留意点】

実習の授業なので、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。特にアクセサリー類の着用は禁止とし、また髪が長い者は必ず束ねて授業に参加すること。バレーボールはチームスポーツである。そのため、基本的にグループ単位で活動するので、自分勝手な行動はせずに、グループの活動が効率良くできるように努めること。

不明な点はそのままにせず、教員に質問する等解決のための努力を怠らないようにすること。

【教科書・参考書など】

教科書は特になし。

【成績評価方法】

基礎技能の実技テストを80%、ゲーム実践の達成度を20%として評価する。

科目名	比較舞踊学			担当者	渡　辺　　碧	
英文名	Comparative Theory of Dance					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	講義		科目ナンバー	DBE301		

【目的とねらい】

舞踊には様々な種類がある。舞踊といえば、西洋舞踊を思い浮かべがちであるが、果たして自国の舞踊について、皆さんはどれ程、熟知しているだろうか。この授業では特に、西洋舞踊と日本の舞踊の比較を通して、多彩な舞踊文化を持つ、日本の舞踊の重要性や必要性を理解することを目的とする。さらに民族・民俗を含め、日本の舞踊の価値を相対化させて問うことをねらいとする。また、「舞踊とは何か」という本質的な問題にも踏み込んでいく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション－舞踊の種類と形態、自国の舞踊を考える
【　到達目標　】
この授業の目的とねらいを理解する。この世に存在する舞踊の種類と形態を把握し、日頃から身近な西洋舞踊だけでなく、様々な種類があることを理解する。

【授業時間外学習】
事前に舞踊の種類がどれだけあるかを調べる。(4.0hr)

第２回　時代ごとによる芸能様式－西洋舞踊の歴史①
【　到達目標　】
時代の流れを踏まえながら､西洋舞踊の歴史を再確認するとともに､それに伴った大まかな日本な日本の時代ごとによる歴史的概要を理解する。

【授業時間外学習】
舞踊史について、事前に復習しておく。(4.0hr)

第３回　時代ごとによる芸能様式－西洋舞踊の歴史②
【　到達目標　】
時代の流れを踏まえながら、西洋舞踊の歴史を再確認するとともに、それに伴った大まかな日本の時代ごとによる歴史的概要を理解する。

【授業時間外学習】
日本の時代ごとの歴史的概要を復習しておく。(4.0hr)

第４回　日本の伝統芸能の特性
【　到達目標　】
日本の伝統芸能の特性について理解する。日本の伝統芸能が、歴史的・文化的背景と密接に関わっていることを理解する。

【授業時間外学習】
西洋と日本の歴史的・文化的背景について調べる。(4.0hr)

第５回　日本の伝統舞踊－「舞」と「踊り」、「民族」と「民俗」
【　到達目標　】
「舞」とは、「踊」とは何かを理解する。西洋舞踊のそれとは､特に何が異なるかを理解する。古典舞踊（民族）と民俗舞踊との違いを理解する。世界の民族・民俗舞踊の種類、日本の民族舞踊について理解する。
【授業時間外学習】
事前に日本の古典舞踊、民族舞踊の種類には何があるかを調べる。(4.0hr)

第６回　日本の古典舞踊－舞楽
【　到達目標　】
古典舞踊の舞楽を理解する。

【授業時間外学習】
授業で扱ったもの以外の舞楽の作品を鑑賞し、舞楽への理解を深める。(4.0hr)

第７回　日本の古典舞踊－能楽
【　到達目標　】
古典舞踊の能楽を理解する。

【授業時間外学習】
授業で扱ったもの以外の能楽を鑑賞し、能楽への理解を深める。(4.0hr)

第８回　歌舞伎
【　到達目標　】
歌舞伎の概要を理解する。

【授業時間外学習】
事前に歌舞伎の作品にはどのようなものがあるかを調べる。(4.0hr)

第９回　文楽
【　到達目標　】
文楽の概要を理解する。

【授業時間外学習】
授業で扱ったもの以外の文楽の作品を鑑賞し、文楽への理解を深める。(4.0hr)

第10回　民俗舞踊
【　到達目標　】
民俗舞踊（神楽・田楽／風流・獅子芸能）を理解する。

【授業時間外学習】
全国の民俗舞踊には何があるかを調べる。(4.0hr)

第11回　日本舞踊
【　到達目標　】
日本舞踊の概要を理解する。

【授業時間外学習】
事前に日本舞踊の種類と流派を調べる。(4.0hr)

第12回　江戸時代以降の日本の舞踊―日本への洋舞輸入
【　到達目標　】
日本に存在する多彩な舞踊文化について理解し、その内容を把握する。西洋舞踊がどのように日本に受容されたかを理解する。

【授業時間外学習】
日本の洋舞の歴史を事前に調べる。(4.0hr)

第13回　日本の舞踊史と西洋舞踊史
【　到達目標　】
時代の流れを踏まえつつ、日本の舞踊史と西洋舞踊史を理解し、比較できる。

【授業時間外学習】
日本舞踊史と西洋舞踊史のそれぞれの特徴、相違点を整理する。(4.0hr)

第14回　日本舞踊の様式
【　到達目標　】
日本舞踊の様式（演技・演出・音楽・装置・衣裳・化粧・かつらなど）を概観、考察し、西洋舞踊と比較する。

【授業時間外学習】
日本の舞踊の様式の特徴と西洋舞踊との相違点を整理する。(4.0hr)

第15回　西洋舞踊と日本舞踊
【　到達目標　】
これまでに学んだ日本に存在する舞踊について総括し、日本舞踊と西洋舞踊を比較することが出来る。比較することにより、日本の舞踊の重要性を認識し、伝承していく意義を理解する。

【授業時間外学習】
授業で取り扱わなかった舞踊と日本の舞踊を比較する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

授業は、主にスライドと映像資料を用いて行う。授業で指定する回によっては、課題提出やプレゼンテーション、口頭発表、小課題を求めることがある。小課題については、次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。シラバスはあくまでも計画であり、順番が前後したり、内容が変更となる場合がある。

【教科書・参考書など】

適宜、参考資料を配付する。
「ダンス・バイブル：コンテンポラリー・ダンス誕生の秘密を探る」（乗越　たかお/河出書房新社）　「日本舞踊辞典」（郡司　正勝/東京堂出版）
「舞踊形式論　表現と可能性」（旗野　恵美/HCI PUBULICATIONS）

【成績評価方法】

授業内レポート、課題提出、プレゼンテーションなど20%、小課題20%、筆記テスト60%で総合的に評価する。

科目名	舞踊美学			担当者	松　澤　慶　信	
英文名	Dance Aesthetics					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	講義		科目ナンバー	DBE302		

【目的とねらい】

美学とは、1)対象としての美について、2)主体側の美的体験、3)芸術学、の3つの側面から考察される学問領域と方法論を有している。この考えにたてば、舞踊を対象とする舞踊美学という学問が措定されていいだろう。あるいは舞踊を考察する思想を総括的に舞踊美学と呼んでもいい。舞踊固有の現象をどこまで浮き彫りにできるだろうか。われわれは感性的なるものの顕現としての舞踊を理性的に考察するその葛藤を真摯に受けとめたい。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
この授業では何を目指し探求するのかを概説する。
【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第２回　美学とは何か
【　到達目標　】
美学という学問の領域と方法論を概説して、舞踊美学の可能性への準備とする。
【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第３回　美的なるものと感性的なるもの
【　到達目標　】
言語論理による悟性や理性ではない感性的なるものと、美的なるものを明らかにする。
【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第４回　美的価値の体験と美的な価値体験
【　到達目標　】
美的価値を有する美的対象を価値判断することと、主体側の美的な価値判断はどのように交差するのか。
【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第５回　芸術という現象とその学問
【　到達目標　】
感性的なるものの顕現としての芸術という現象および芸術作品を対象にする学問とは何か。
【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第６回　舞踊という現象
【　到達目標　】
舞踊とは何か。日常のアクションや行動と舞踊はどう違うのか。ダイレクトにその本質を探る。
【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第７回　舞踊美なるもの
【　到達目標　】
舞踊という現象が浮き上がらせる美的価値とはどのような性質を有するのか。その特性にせまる。
【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第８回　舞踊の芸術体験と身体論
【　到達目標　】
普通の美的享受体験におさまらない舞踊の芸術体験とは何か。この課題には身体をどう取り扱うという本質的問題が横たわる。
【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第９回　身体の全体把捉
【　到達目標　】
身体を把捉するとはどういうことか。視覚と直観と触覚的な全体把捉を保証する論理は相互主観性に頼らざるをえない。
【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第10回　共振性
【　到達目標　】
意味論的意味のバイアスを受けずに身体が享受体験する在り方は共振性に他ならない。これが舞踊体験の本質である。
【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第11回　Gesamtkunstwerkとしての舞踊
【　到達目標　】
パフォーミング・アーツとしての舞踊は本来総合芸術であった。その作品の在り様在り方の変遷をたどる。
【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第12回　舞踊の溶解力
【　到達目標　】
意味論的意味というバイアスを避けられないなら、どのように舞踊は言葉ではない表現媒体の特性を確保するのか。
【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第13回　舞踊の曖昧性とロマン的なるもの
【　到達目標　】
舞踊は意味の指示性を考えれば、言葉と違って曖昧である。この曖昧性こそがむしろ舞踊の本質である。それをロマン的という。
【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第14回　自己言及的な舞踊
【　到達目標　】
舞踊ジャンルの特性を自己言及的に遡及していき、そのピュアな本質を探ること。そこに現れる舞踊にしか現れないものを探る。
【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第15回　コンテンポラリー・ダンスの位相と行方
【　到達目標　】
現代のダンスであるコンテンポラリー・ダンスはメタ的なポストモダン・ダンスを経て、今どこに存立しているのか。ここにダンスの本質を探究する。
【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

基本的に文献研究である。日本語だけでなく英語文献などの舞踊について書かれた資料を読み解いて、舞踊を思想化していきたい。熱心で積極的な受講姿勢をのぞむ。

【教科書・参考書など】

授業中に指示するが、参考書として、『ダンスは国家と踊る』（アニエス・イズリーヌ著）慶應義塾大学出版会と、『20世紀ダンス史』（ナンシー・レイノルズ他著）慶應義塾大学出版会をあげる。

【成績評価方法】

試験は試験期間中に別途実施。その試験の採点が100%評価となる。

科目名	舞踊創作原論			担当者	松　澤　慶　信	
英文名	Theory of Creating Dance					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	講義		科目ナンバー	DBE303		

【目的とねらい】

ダンシングするとはどういうことか、身体が時空間を分節する中でその現存をどのように開示していくのか。このような根本的な問いかけを、受講者が自覚し発見していくことができるような具体的な方法論を呈示したい。身体を動かしてきた経歴を有する者が一緒になって、この究極の目的（テロス）を目指して、今一度、自らの身体を振り返って省察し直してほしいと願う。そのためにこの講義では身体を動かす契機としてのテクストを考える。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション

【　到達目標　】

この授業の位置づけを確認したい。構造論的方法ではなく、物語論的意味論的テクストによって、作品を作ることを確認する。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第２回　創作のmethodology

【　到達目標　】

創作とはそもそもどういうことか。具体的な創作方法だけではなく、その作業手順や方法そのものを省察する方法論を検討したい。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第３回　具体的なmethodの模索

【　到達目標　】

次に具体的にどのように意味論的意味内容を動きに転換していくのかという作業を受講者各人に提案してもらう。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第４回　作業手順の確認

【　到達目標　】

次に具体的作業に入ってからの手順を具体的に模擬的に想定して考えること。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第５回　その作業の実践方法の確認Ⅰ

【　到達目標　】

ダンサーを選んで、実際にどう相手に創作意図や意味を伝え、どう相手が動くのか、そのための有効な手段や手順を模索すること。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第６回　その作業の実践方法の確認Ⅱ

【　到達目標　】

相手とのコミュニケーションを詰めること。言葉だけでなく、どこまで図によって伝えられるのか。舞踏譜の可能性も探る。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第７回　文学テクスト（詩）の選択

【　到達目標　】

作品の骨格にテクストを利用することの意味をまず考える。そして舞踊化するに相応しいテクストとは何か。実際にテクストを捜す。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第８回　文学テクスト（詩）の解釈

【　到達目標　】

その捜したテクストを発表する際に、テクスト作者の評伝、そのテクストが創作された時代、創作秘話、そして選者の自由な解釈、など解釈の定立化をはかる。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第９回　テクストの解釈と発表Ⅰ

【　到達目標　】

受講者各人が選んだテクストの紹介発表、講評。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第10回　テクストの解釈と発表Ⅱ

【　到達目標　】

受講者各人が選んだテクストの紹介発表、講評。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第11回　テクストの解釈と発表Ⅲ

【　到達目標　】

受講者各人が選んだテクストの紹介発表、講評。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第12回　illusionismとダンスⅠ　確認

【　到達目標　】

illusionismとは感情移入のように、登場人物に受け手側の感情を仮託して、物語の展開に一喜一憂することではない。あくまでも傍観することである。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第13回　illusionismとダンスⅡ　創作

【　到達目標　】

つまりパフォームされたテクストを、あるいはテクストのパフォーマンスを冷静に鳥瞰することである。パントマイムによって筋が開陳されていくのではないダンシングによる表現が何かを追求する。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第14回　illusionismとダンスⅡ　発表

【　到達目標　】

いかにダンシングすることでテクストを表現するのか。ダンスにとって究極の問題に取り組むことである。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第15回　総括

【　到達目標　】

具体的な作業手順から、その原理や理念までをもう一度振り返って、実際の振付の便としてほしい。ここに半期を総括する。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

※上記内容を理解することを本科目の到達目標とする。

【学習上の留意点】

振付経験は問わない。しかし真摯に創作の方法と方法論に向き合うことが必要である。先入観をむしろ捨てさせたい。

２年次後期開講の「舞踊分析法演習」と３年次後期開講の「舞台演出論」を受講してほしい。３つを受講して、創作することの原理とノウハウを自覚してほしい。

【教科書・参考書など】

授業中に指示する。

【成績評価方法】

レポートを課すなどして、授業ごとの理解を問う。レポート評価100%。

科目名	ミュージカル論			担当者	宮　下　睦　美	
英文名	Introduction to Musical					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	講義		科目ナンバー	DBE304		

【目的とねらい】

ここで言う「ミュージカル」とはブロードウェイ・ミュージカルを指すものであり、「誕生」から「現在」までを総合的に学習する。ミュージカルは、旧ヨーロッパの社会的・宗教的なしがらみを逃れて新大陸へ移り住んだアメリカ人が、オペレッタにレビューやボードビルの要素を織り交ぜて生み出した総合芸術でありそこには生きることや自由であることの喜びが溢れている。すなわちミュージカルとは、喜びを高らかに謳いあげる芸術なのである。この授業では、映像等の資料を使い、歌やダンスなどの実践を交えながら、20～21世紀を象徴する総合芸術としてのミュージカルを音楽的側面を中心に指導していきたい。

【授業内容・到達目標など】

第１回　「ブロードウェイ・ミュージカルの誕生」①
【　到達目標　】
(1)ミュージカルとは何かを資料を見ながら概要を理解する。
(2)ミュージカルソングを歌って経験する。

【授業時間外学習】
資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)

第２回　「ブロードウェイ・ミュージカルの誕生」②
【　到達目標　】
(1)オペラからオペラ・ブッファ（コミックオペラ）の始まりを資料から理解する。
(2)アメリカン・オペレッタについて理解する。
(3)トニー賞について理解し、作品賞受賞作品を鑑賞する。　※これは毎時間行う。
【授業時間外学習】
オペラブッファ、オペレッタ、アメリカン・オペレッタについて復習しておく。(4.0hr)

第３回　「ブロードウェイ・ミュージカルの誕生」③
【　到達目標　】
(1)ミンストレル、ヴォードヴィルの始まりを資料から理解する。
(2)バーレスク、レヴューの始まりについて歴史的内容から理解する。
(3)ジーグフェルド・フォーリーズの隆盛について当時の作品から理解する。
【授業時間外学習】
それぞれのジャンルの内容を復習しておく。(4.0hr)

第４回　「ブロードウェイ・ミュージカルの誕生」④
【　到達目標　】
(1)タイムズスクエア誕生～資料から理解を深める。
(2)シューバート3兄弟の功績について理解する。
(3)ブロードウェイ初期の5大作曲家についてその音楽を聴き、ミュージカル音楽への理解を深める。
【授業時間外学習】
それぞれの作曲家の作品を復習しておく。(4.0hr)

第５回　「ブロードウェイ・ミュージカルの誕生」⑤
【　到達目標　】
(1)ブックミュージカルの誕生。作品「ショウボート」について理解する。
(2)ミュージカルコメディーのヒット～ジョージ・M・コーハン、ジョシュア・ローガンについて音楽からそれぞれの特徴を理解する。
【授業時間外学習】
ブック・ミュージカルとは何かを復習しておく。(4.0hr)

第６回　「ブロードウェイ・ミュージカルの繁栄」①
【　到達目標　】
(1)リチャード・ロジャース＆オスカー・ハマースタインⅡについて何故人々を魅了したかを知る。
(2)「ファンシー・フリー」が残したもの。～「ON THE TOWN」とこれまでのものとの違いを知る。
(3)ミュージカルソングを実際に体験する。
【授業時間外学習】
ロジャース＆ハマースタインの作品を復習しておく。(4.0hr)

第７回　「ブロードウェイ・ミュージカルの繁栄」②
【　到達目標　】
(1)ｼﾞｪﾛｰﾑ・ﾛﾋﾞﾝｽ登場によってどんな変化が起きたのか議論し､それについて発表する。
(2)「ファンシー・フリー」が残したもの。～「ON THE TOWN」とこれまでのものとの違いを知る。
(3)ミュージカルソングを実際に体験する。
【授業時間外学習】
ロビンスの特徴について復習しておく。(4.0hr)

第８回　「ブロードウェイ・ミュージカルの繁栄」③
【　到達目標　】
(1)「ウェスト・サイド・ストーリー」を深く知り、レナード・バースタインの目指したものを理解する。
(2)音楽の特徴と振付スタイルはどこが人々を魅了し反映したか理解する。
【授業時間外学習】
作品の特徴を復習しておく。(4.0hr)

第９回　「ブロードウェイ・ミュージカルの繁栄」④
【　到達目標　】
(1)ボブ・フォッシー登場によってこれまでとは何が違うのか理解する。
(2)アメリカン・シアトリカル・ジャズダンス～アイソレーションの進化について知る。

【授業時間外学習】
フォッシースタイル、ジャック・コールについて復習しておく。(4.0hr)

第10回　「ブロードウェイ・ミュージカルの繁栄」⑤
【　到達目標　】
(1)ボブ・フォッシーの作品を実際に体験し、理解を深める。

【授業時間外学習】
フォッシースタイルの特徴について復習しておく。(4.0hr)

第11回　「ブロードウェイ・ミュージカルの黄金期」
【　到達目標　】
(1)「コーラスライン」～マイケル・ベネットの目指したものを理解する。
(2)「コーラスライン」を体感する～♪ワン
これらの作品の特徴になっているダンスの構成を、具体的動きを体験し理解する。
【授業時間外学習】
振付家それぞれの特徴について復習しておく。(4.0hr)

第12回　「ブロードウェイ・ミュージカルの低迷」
【　到達目標　】
(1)ロングランというシステム
(2)ロンドン産ミュージカルの進出
アンドリュー・ロイド・ウェバーの出現からミュージカルが進んできた道への理解を深める。
【授業時間外学習】
ウェバー作品の特徴について復習しておく。(4.0hr)

第13回　「ロンドン・ミュージカル」
【　到達目標　】
(1)「ミス・サイゴン」
(2)「レ・ミゼラブル」
キャメロン・マッキントッシュに関する映像を鑑賞しその内容を理解する。
【授業時間外学習】ロンドン・ミュージカルとブロードウェイ・ミュージカルの違いを自分なりにまとめる。(4.0hr)

第14回　「ブロードウェイ・ミュージカルの復活」
【　到達目標　】
(1)ディズニー・カンパニー、ブロードウェイへ。
(2)「美女と野獣」「ライオンキング」のヒット、ロングランへ。
アラン・メンケンの楽曲を歌い、ミュージカルの歌を体現しその特徴を理解する。
【授業時間外学習】
アラン・メンケンの曲について復習しておく。(4.0hr)

第15回　「まとめ」
【　到達目標　】
(1)全15回の講義を振り返り、復習と確認をする。
(2)トニー賞作品賞受賞作品を映像から知る。
後期末試験について予告し、これまで学習したミュージカルの芸術性や社会性について探る。
【授業時間外学習】
ミュージカルの芸術性や社会性について再考する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

授業ではDVDによって映像を見ることもありますが、基本的に筆記用具、ノートは準備してください。
声を出したり、身体を動かすこともあります。

【教科書・参考書など】

教科書は特になし。適宜、テキスト、参考資料を配布。※資料保存用のクリアファイルなどを各自準備して下さい。

【成績評価方法】

本講義全体への取り組み方10%、授業の理解度75%（筆記75%）、授業レポート15%として評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	学校保健			担当者	沢田真喜子	
英文名	School Health					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	DBE305		

【目的とねらい】

学校保健安全法に基づく保健教育、保健管理、保健組織活動及び安全教育、安全管理の必要性と現代的課題について理解し、その目的と具体的な取組に関する基礎的知識を身につけることをねらいとする。特に、学校管理下で発生する事件や事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解すること、子どもの現代的健康課題の実情と子どもの健康を取り巻く課題に対応する保健教育及び保健管理の取組について理解することを通して、地域や関連専門機関との連携を基盤とした学校保健安全活動についての理解を深めることを目指す。

【授業内容・到達目標など】

第１回　学校保健安全法とその意義

【　到達目標　】

学校保健の意義、改正された学校保健安全法を基に全ての教職員が推進する必要性について理解する。

【授業時間外学習】

テキスト第1章1節を読み、p1「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第２回　学校保健行政

【　到達目標　】

学校保健の行政組織と特徴について理解し、学校保健行政の現状と課題について、資料をもとに比較・分析し、組織体制について理解する。

【授業時間外学習】

テキスト第1章2節を読み、p1「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第３回　学校保健の組織活動と教職員等の責任

【　到達目標　】

学校保健に関する組織活動の必要性、学級担任、養護教諭、保健主事、校長等管理職の役割と学校医、学校歯科医、学校薬剤師及びその他の専門職の役割について、理解する。

【授業時間外学習】

テキスト第1章3～5節を読み､p1「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む｡(4.0hr)

第４回　保健学習と保健指導

【　到達目標　】

実践する力につながる保健の知識の習得について、学習指導要領に基づく保健学習と学校における保健指導の位置づけについて理解する。

【授業時間外学習】テキスト第2～3章を読み、p35・83「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第５回　教育課程に基づく保健指導

【　到達目標　】

教育課程に基づく性に関する指導について、変遷やねらい、指導に当たっての配慮事項、様々な機会に行われる性に関する指導と課題について理解する。

【授業時間外学習】

テキスト第4章を読み、p91「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第６回　学校安全の意義と管理

【　到達目標　】

学校安全の意義、学校における安全管理・安全教育について、児童生徒の事故及び災害の実態をもとに理解する。

【授業時間外学習】

テキスト第13章を読み、p235「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第７回　教育課程に基づく安全教育

【　到達目標　】

保健学習及び特別活動には限定されない安全教育について、小学校、中学校の内容をもとに理解し、家庭、地域、関連機関と連携した安全教育の方法について考えることができる。

【授業時間外学習】

テキスト第7章を読み、p123「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第８回　児童生徒の健康状態の把握

【　到達目標　】

健康観察の意義と方法、健康相談及び個別の保健指導の在り方、保健調査と健康診断について理解し、校内連携及び専門職や保護者との連携方法について考えることができる。

【授業時間外学習】

テキスト第8章を読み、p139「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第９回　児童生徒の発育発達

【　到達目標　】

現代の子どもの発育発達の特徴、児童生徒の体力の現状と課題について理解した上で、被災地における幼児、児童生徒の体力・運動能力向上のための取組みについて整理し、学校保健活動に組み込む方法を考えることができる。

【授業時間外学習】

テキスト第7章を読み、p123「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第10回　児童生徒の健康状態の把握

【　到達目標　】

健康診断結果に基づく、児童生徒にみられる疾病・異常、現代的健康課題の特徴について理解する。

【授業時間外学習】

テキスト第9章1節を読み､p159「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第11回　学校生活管理指導表を活用した対応

【　到達目標　】

学校生活管理指導表について、心疾患、腎臓・糖尿病疾患、アレルギー疾患の特徴を踏まえ、学校生活管理指導表を活用した指導と対応について理解する。

【授業時間外学習】テキスト第9章2～3節を読み、p123「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第12回　児童生徒のメンタルヘルスケア

【　到達目標　】

児童生徒の自殺、いじめ、不登校の実態について各種統計調査結果をもとに理解し、児童生徒の心の問題への対応における基本的な考え方を考えることができる。

【授業時間外学習】テキスト第10章1～3節を読み、p183「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第13回　いじめ防止対策と教職員の責任

【　到達目標　】

いじめ防止対策に関する国の施策、学校長や教職員の責任・役割等について理解し、いじめ自殺等の過去の事例をもとに教職員の責任と役割について考える。

【授業時間外学習】テキスト第10章2～4節を読み、p183「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第14回　特別に配慮を要する児童生徒と特別支援教育

【　到達目標　】

特別支援教育の理念及び現状と課題について理解し、その推進のための体制づくりについて、医療福祉、その他の関連専門機関との連携事例を踏まえ理解する。

【授業時間外学習】テキスト第11章1節を読み、p201「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

第15回　特別に配慮を要する児童生徒への健康上の支援

【　到達目標　】

障害のある児童生徒への健康上の支援のあり方について、学校保健安全上の諸課題から考え理解する。

【授業時間外学習】テキスト第11章2節を読み、p201「学習のポイント」をまとめ「演習課題」に取り組む。(4.0hr)

【学習上の留意点】

児童生徒の健康と安全を守り、高めることのできる教員としての資質や能力の基盤となるよう、主体的な学習に取り組むことを期待する。具体的には、学校保健や学校安全に関連する法律や指針を参照したり、統計資料をもとに比較し問題点を抽出したりできるようペアワークや課題学習を取り入れ、教科書及び配布資料にもとづき講義内容の要点をパワーポイントで示しながら進めていく。授業時間外学習においては、文部科学省や厚生労働省等のホームページや資料を閲覧し、ニュース等から情報を収集する等の課題意識をもって理解を深めてもらいたい。

【実務経験のある教員による授業科目】

養護教諭および助産師としての実務経験を活かし、学校保健および学校安全に関する教員としての役割や、課題に対応するための実践的指導力および組織的対応力について講義を行う。

【教科書・参考書など】

教科書は、第１回授業前に掲示し、参考書は授業時に適宜紹介する。

【成績評価方法】

授業内容の習得度（10%）、課題レポート（30%）、試験（60%）の加重平均にて総合的に評価する。
試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	精神保健			担当者	角　田　和　也	
英文名	Mental Health of Adolescence					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	DBE306		

【目的とねらい】

昨今、「メンタルヘルス」「心の健康」という言葉を、日常生活の中でよく耳にするようになった。社会全体が個々の精神面の健康状態を以前よりも大切にしていこうとする風潮にあるとともに、不登校やうつによる自殺の増加といった現実的な問題に直面していることも背景にあると考えられる。こうした状況の中で、今日私たちが直面している自身および子どもたちの心の健康の問題について、その実態を学ぶとともに対処方法を検討していく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション／「精神保健」とは
【　到達目標　】
(1)「精神保健」の意義を理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第２回　「精神的健康」と現代社会
【　到達目標　】
(1)社会問題にもなっている「心の健康」にかかわる事象について、その実態を理解するとともにその要因について理解する。
【授業時間外学習】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第３回　ライフサイクルと精神保健①　出生前期に受ける影響
【　到達目標　】
(1)ライフサイクルの視点から、要因の１つである出生前期の心の健康について理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第４回　ライフサイクルと精神保健②　乳児期に受ける影響
【　到達目標　】
(1)ライフサイクルの視点から、要因の１つである乳児期の心の健康について理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第５回　ライフサイクルと精神保健③　幼児期に受ける影響
【　到達目標　】
(1)ライフサイクルの視点から、要因の１つである幼児期の心の健康について理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第６回　ライフサイクルと精神保健④　学童期に受ける影響
【　到達目標　】
(1)ライフサイクルの視点から、要因の１つである学童期の心の健康について理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第７回　ライフサイクルと精神保健⑤　思春期に受ける影響
【　到達目標　】
(1)ライフサイクルの視点から、要因の１つである思春期の心の健康について理解する。
【授業時間外学習】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第８回　生活環境と精神保健①　家族から受ける影響
【　到達目標　】
(1)生活環境の視点から、要因の１つである「家族」の質的変化について理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第９回　生活環境と精神保健②　食生活から受ける影響
【　到達目標　】
(1)生活環境の視点から、要因の１つである食生活の影響について理解するとともに、望ましい食生活についても理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第10回　生活環境と精神保健③　住環境から受ける影響
【　到達目標　】
(1)生活環境の視点から、要因の１つである住居の影響について理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第11回　生活環境と精神保健④　空気環境から受ける影響
【　到達目標　】
(1)生活環境の視点から、要因の１つである空気環境について理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第12回　生活環境と精神保健⑤　睡眠から受ける影響①
【　到達目標　】
(1)生活環境の視点から、要因の１つである睡眠の影響について理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第13回　生活環境と精神保健⑥　睡眠から受ける影響②
【　到達目標　】
(1)引き続き、睡眠の影響について理解するとともに、望ましい睡眠のあり方についても理解する。
【授業時間外学習】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第14回　発達障がい①
【　到達目標　】
(1)発達障がいの種類やその特徴を理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第15回　発達障がい②
【　到達目標　】
(1)引き続き、発達障がいの特徴を理解するとともに、発達障がい児（者）の心の健康を保持するために必要な支援・援助のあり方について理解する。
【授業時間外学習】
課題レポートの作成。(4.0hr)

【学習上の留意点】

①基本的には、毎回、板書の代わりにPCおよびプロジェクターを使用して授業を行います。板書に費やす時間を省略するのが主なねらいです。
②授業内容の理解を深めることを目的とした課題レポートの作成を、授業時間外学習で課します。この作成したレポートは後日提出してもらい、評価に反映させていきます（下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します）。課題レポートの結果は、次回以降の授業の内容に反映させ、授業内容の説明を通じてフィードバックします。
③期末試験は、授業で伝えた内容の理解度を確認するためだけではなく、その知識をもとにした実践力を問うためにも実施しています。受講の際にメモをとるだけでなく、普段からの自主的な学習・復習が単位取得には必要です。

【教科書・参考書など】

・１回目の授業時に、本授業用に作成したテキストを販売します。受講する学生は、必ず購入してください。
・テキストには、各回ごと、授業内容に基づいた参考文献を示してありますので、そちらを参考にしてください。

【成績評価方法】

・提出物の評価……50%　　期末試験の結果……50%
・試験は試験期間中に別途実施します。

科目名	保健科教育法Ⅰ			担当者	助　友　裕　子	
英文名	Teaching Methods in Health Education Ⅰ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	DTE306		

【目的とねらい】

保健科教育について、その特質を理解するとともに、保健体育科教員としての資質を身につけることが目的である。本科目では、学習指導要領の位置づけや内容、指導上の留意点、学習評価の考え方についての基礎的な知識を身につけることをねらいとする。

学習指導案の作成と模擬授業の実施およびその振り返りを通じて、授業改善の視点を身に付け、授業設計の向上に取り組むことのできる技術の習得をめざす。

【授業内容・到達目標など】

第１回　保健科教育とは（概論）
【　到達目標　】
保健科教育、健康教育の意義と方向性について理解を深める。
【授業時間外学習】
保健体育科（保健分野）ならびに科目保健を教える上で不安な点を整理しておく。(4.0hr)

第２回　現代社会における健康問題および他教科等との関連
【　到達目標　】
現代の健康問題の動向と保健科教育におけるそれらの位置について考察し、発展的な学習内容について探求する。
【授業時間外学習】
中央教育審議会答申を読んでおく。(4.0hr)

第３回　保健の目標と内容
【　到達目標　】
小学校、中学校、高等学校学習指導要領における保健の目標や内容の違いを理解し、全体構造を把握する。
【授業時間外学習】
中・高の学習指導要領解説の保健体育科（保健分野）と科目保健の項を読んでおく。(4.0hr)

第４回　保健の指導計画
【　到達目標　】
指導計画作成の意義、種類、作成上の基本および指導上の留意点について理解するとともに、学習指導案の構成を理解する。
【授業時間外学習】
学習指導案で取り上げる単元の選定、教材研究を行う。(4.0hr)

第５回　保健科教育の実際Ⅰ
【　到達目標　】
知識を活用する学習活動を通じて、生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性、保健科教育の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解する。
【授業時間外学習】
学習指導案の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第６回　保健科教育の実際Ⅱ
【　到達目標　】
ブレインストーミングなど具体的な指導方法を習得し、生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性、保健科教育の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解する。
【授業時間外学習】
学習指導案の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第７回　保健の学習評価
【　到達目標　】
評価の意義、局面、観点、規準などについて理解する。
【授業時間外学習】
学習指導案の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第８回　教材研究Ⅰ
【　到達目標　】
保健科教育と背景となる学問領域との関係性を踏まえた上で、教材研究の目的、過程、方法について理解する。
【授業時間外学習】
学習指導案の作成、副教材の作成を進める。(4.0hr)

第９回　教材研究Ⅱ
【　到達目標　】
保健科教育と背景となる学問領域との関係性を踏まえた上で、保健の指導計画に応じた教材研究の工夫について理解を深める。
【授業時間外学習】
学習指導案の作成、副教材の作成を進める。(4.0hr)

第10回　保健科教育のための研究方法
【　到達目標　】
保健科教育における実践研究の動向や発展的な学習内容の事例を知り、現場ニーズに応じた保健科教育の工夫について理解を深める。
【授業時間外学習】
学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第11回　小学校の保健の授業
【　到達目標　】
中学校と高等学校の保健の基礎となる小学校の内容および指導上の留意点について理解する。
【授業時間外学習】
学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第12回　中学校の保健の授業
【　到達目標　】
個人生活における健康・安全に関する内容および指導上の留意点について説明できる。
【授業時間外学習】
学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第13回　高等学校の保健の授業
【　到達目標　】
個人及び社会生活における健康・安全に関する内容及び指導上の留意点について説明できる。
【授業時間外学習】
学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第14回　学習指導案の作成
【　到達目標　】
１時間の学習指導案を作成できるようにする。
【授業時間外学習】
学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第15回　保健の授業研究
【　到達目標　】
模擬授業の様子を観察し、授業技術のポイントを理解するとともに、発展的な学習内容を探求したり授業設計の向上に取り組むことができる。
【授業時間外学習】
授業で記入した「保健の授業研究」を復習し、模擬授業のイメージ形成を図る。(4.0hr)

【学習上の留意点】

おもにパワーポイントや配布資料で要点を示し、詳細は口頭にて説明する。高い意識を持ち、毎回の授業に積極的に参加することで、将来自らが授業づくりの担い手になることへの強い認識が求められる。このことから、授業への出席が大前提となる。遅刻や無断欠席、授業中の私語は慎むことが必須である。

【実務経験のある教員による授業科目】

行政や公的機関等における公衆衛生学に関する講義・講演等の活動経験のある教員が、保健科教育の具体的な指導方法、授業づくり、評価などについて、学習指導要領に基づき基礎的な知識について講義を行う。

【教科書・参考書など】

森良一編著『保健科教育法』東洋館出版社
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編』（最新版）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（最新版）　中学校と高等学校で使用した保健の教科書を各自準備する。このほかに適宜資料を配布する。

【成績評価方法】

原則として、授業中の課題達成度50%と定期試験の結果50%（試験は試験期間中に別途実施）として評価する。

科目名	保健科教育法Ⅱ			担当者	沢田真喜子	
英文名	Teaching Methods in Health Education Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	DTE307		

【目的とねらい】

保健科教育について、その特質を理解するとともに、保健体育科教員としての資質を身につけることが目的である。本科目は、保健科教育法Ⅰと既修の健康科学論、衛生学・公衆衛生学、学校保健などによる知識を応用し、ICTや教材研究への効果的な活用、生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計、学習指導案の構成を理解する。学習指導案の作成と模擬授業の実施およびその振り返りを通じて、授業改善の視点を身に付け、授業設計の向上に取り組むことのできる技術の習得をめざす。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション（模擬授業の手順、授業への心構えなど）
【　到達目標　】
作成した学習指導案をもとに、構成及び生徒の実態に応じた具体的な授業設計について理解を深め、改善できる。

【授業時間外学習】保健科教育法Ⅰで作成した学習指導案を用いて、生徒の学ぶ意欲を高めるような工夫、思考・判断を深めるような工夫についてまとめる。(4.0hr)

第２回　学習指導要領解説と保健の授業研究①
【　到達目標　】
学習指導要領解説と保健の教科書を比較し、学習内容の取り上げられ方の理解を深めるとともに、具体的な授業設計に生かす。

【授業時間外学習】
学習指導要領解説を熟読し、不明な点を明らかにし内容を把握しておく。(4.0hr)

第３回　模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学習】模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。(4.0hr)

第４回　模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学習】模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。(4.0hr)

第５回　模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学習】模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。(4.0hr)

第６回　学習指導要領解説と保健の授業研究②
【　到達目標　】
学習指導要領解説と保健の教科書を比較し、学習内容の系統性と取り上げられ方の理解を深めるとともに、具体的な授業設計に生かす。

【授業時間外学習】学習指導要領解説を熟読し、不明な点を明らかにし、内容の系統性・順序性を把握しておく。(4.0hr)

第７回　模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学習】模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。(4.0hr)

第８回　模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学習】模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。(4.0hr)

第９回　模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学習】模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。(4.0hr)

第10回　模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学習】模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。(4.0hr)

第11回　模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学習】模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。(4.0hr)

第12回　模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学習】模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。(4.0hr)

第13回　模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学習】模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。(4.0hr)

第14回　模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学習】模擬授業の準備とともに、所定の期限内に学習指導案および授業者用レポートを提出する。(4.0hr)

第15回　保健の授業運営のまとめ
【　到達目標　】
自他の模擬授業を振り返り、保健授業における課題、発問、板書計画、情報機器活用等の授業スキルや教師の役割について説明できる。

【授業時間外学習】
模擬授業で得たフィードバックをもとに、学び続ける教員としての役割をまとめる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

班ごとに割り当てられた模擬授業の準備・実施を通して保健の授業に必要な技術を習得する。高い意識を持ち、毎回の授業に積極的に参加することで、将来自らが授業づくりの担い手になることへの強い認識が求められる。このことから、授業への出席が大前提となる。遅刻や無断欠席、授業中の私語は慎むことが必須である。

【実務経験のある教員による授業科目】

養護教諭および助産師としての実務経験を活かし、保健科の授業を担当できる技術の習得を目的とし、既修の科目や知識を応用した模擬授業を実施し、実践的に指導を行う。

【教科書・参考書など】

森良一編著『保健科教育法』東洋館出版社
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編』（最新版）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（最新版）　中学校と高等学校で使用した保健の教科書を各自準備する。このほかに適宜資料を配布する。

【成績評価方法】

授業中の課題達成度50%と定期試験の結果50%（試験は試験期間中に別途実施）として評価する。

科目名	体育科教育法Ⅰ	担当者	高　橋　修　一
英文名	Teaching Methods in Physical Education Ⅰ		

単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	DTE308		

【目的とねらい】

本講義では、保健体育科における、中学校体育分野、高等学校科目体育に関する目標・内容・方法を総合的に学んでいく。具体的には、講義、体育授業のVTR視聴、模擬授業、指導案作成等を通して、学校体育が置かれている現状をはじめとして、生徒にとって意味のある「良い体育授業」を計画、実践するための基礎的知識と技術を習得することがねらいとなる。また、模擬授業の反省会等を通して、授業改善や教師としての実践的力量を高めるための体育授業の効果的な反省方法も習得していく。これらの学習を通して、「授業で勝負することのできる保健体育教師」、「学び続けることのできる保健体育教師」という教師観の確立を目指す。

【授業内容・到達目標など】

第１回　本講義の目的、学校体育の現状、被教育体験期の体育授業イメージとの照合
【　到達目標　】
(1)本講義の目的を理解し、学習の見通しを立てることができる。
(2)被教育体験の体育授業イメージを想起することができる。
【授業時間外学習】
体育教育法Ⅰ・Ⅱにおける1年間の授業時間外学習の計画を立てる。(4.0hr)

第２回　保健体育科の目標論
【　到達目標　】
(1)体育目標の歴史的変遷、目標構造を理解する。
【授業時間外学習】
体育目標の歴史的変遷、目標構造について学習する。(4.0hr)

第３回　保健体育科の教育課程論(1)：学習指導要領の内容(1)
【　到達目標　】
(1)学習指導要領の性格を理解する。
(2)学習指導要領における運動部活動と体育授業の関連性や位置付けについて理解する。
(3)次期学習指導要領の要点を理解する。
【授業時間外学習】
学習指導要領の性格について予習・復習する。(4.0hr)

第４回　保健体育科の教育課程論(2)：学習指導要領の内容(2)
【　到達目標　】
(1)中学校学習指導要領の内容構成を理解する。
【授業時間外学習】
中学校学習指導要領の内容構成について予習・復習する。(4.0hr)

第５回　保健体育科の教育課程論(3)：学習指導要領の内容(3)
【　到達目標　】
(1)高等学校学習指導要領の内容構成を理解する。
【授業時間外学習】
高等学校学習指導要領の内容構成について予習・復習する。(4.0hr)

第６回　体育授業の教材・教具論（1）（ICTの活用を含む）
【　到達目標　】
(1)体育授業における教材・教具の果たす役割を具体的に説明できる。
(2)体育授業におけるICTの活用の役割について具体的に説明できる。
【授業時間外学習】素材－目標－学習内容－教材―教具の関係性及び、ICTの役割について予習・復習する。(4.0hr)

第７回　体育授業の教材・教具論（2）（ICTの活用を含む）
【　到達目標　】
(1)体育授業における効果的な教材や教具について具体例を用いて説明できる。
(2)体育授業におけるICTの活用について、具体例を挙げながら説明できる。
【授業時間外学習】
効果的な教材・教具及び、ICT活用の具体例を挙げておく。(4.0hr)

第８回　体育授業の学習指導方法論(1)（アクティブラーニングの視点を含む）
【　到達目標　】
(1)体育教師の4大教師行動について理解できる。
(2)アクティブラーニングの利点と学習指導方法への応用の仕方について説明できる。
(3)特別の支援を必要とする生徒を配慮した学習指導方法について理解できる。
【授業時間外学習】
体育教師の4大教師行動、アクティブラーニングについて予習・復習する。(4.0hr)

第９回　体育授業の学習指導方法論(2)（アクティブラーニングの視点を含む）
【　到達目標　】
(1)体育授業における学習指導のポイントを理解し、具体的に説明できる。
(2)アクティブラーニングを取り入れた体育授業の学習指導方法について具体的に説明できる。
(3)特別の支援を必要とする生徒を配慮した学習指導方法の具体例を挙げることができる。
【授業時間外学習】
学習指導のポイント及び、アクティブラーニングを理解し、具体例を挙げておく。(4.0hr)

第10回　体育授業の観察、分析、評価
【　到達目標　】
(1)期間記録、相互作用行動を記録する意義を理解する。
(2)テスト映像で適切に記録することができる。
【授業時間外学習】
体育授業を観察・分析することの意義や視点について予習・復習する。(4.0hr)

第11回　マイクロティーチング（1）
【　到達目標　】
(1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。
(2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。
(3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。
【授業時間外学習】
マイクロティーチングの計画、反省を行う。(4.0hr)

第12回　マイクロティーチング（2）
【　到達目標　】
(1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。
(2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。
(3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。
【授業時間外学習】
マイクロティーチングの計画、反省を行う。(4.0hr)

第13回　マイクロティーチング（3）
【　到達目標　】
(1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。
(2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。
(3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。
【授業時間外学習】
マイクロティーチングの計画、反省を行う。(4.0hr)

第14回　マイクロティーチング（4）
【　到達目標　】
(1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。
(2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。
(3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。
【授業時間外学習】
マイクロティーチングの計画、反省を行う。(4.0hr)

第15回　マイクロティーチングまとめ
【　到達目標　】
(1)効果的な指導、教材・教具について効果的に反省できる。
【授業時間外学習】マイクロティーチングの経験を踏まえ、改めて良い体育授業の特徴について考察する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

教育実習において、学校現場の生徒に少なからぬ影響を与えることを十分に自覚し、教職免許を取るのにふさわしい態度で講義に臨むこと。毎回の講義は相互に関連しているので、講義内容について集中してノートをとり、予習・復習を行っていくことが必要になる。グループでの指導案作成、模擬授業、テスト、レポートにも積極的に取り組むことが大切である。

【教科書・参考書など】

高橋健夫編著『体育科教育学入門』大修館書店(2010年)
文部科学省『中学校学習指導要領解説－保健体育編－』（2018年）東山書房
文部科学省『高等学校学習指導要領解説－保健体育編／体育編－』（2019年）東山書房

【成績評価方法】

模擬授業や指導案作成等のグループによる活動の課題達成度と提出物20%、テスト80%として評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。

科目名	体育科教育法Ⅱ			担当者	須　甲　理　生	
英文名	Teaching Methods in Physical Education Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	DTE309		

【目的とねらい】

本講義では、保健体育科における、中学校体育分野、高等学校科目体育に関する目標・内容・方法を総合的に学んでいく。具体的には、講義、体育授業のVTR視聴、模擬授業、指導案作成等を通して、学校体育が置かれている現状をはじめとして、生徒にとって意味のある「良い体育授業」を計画、実践するための基礎的知識と技術を習得することがねらいとなる。また、模擬授業の反省会等を通して、授業改善や教師としての実践的力量を高めるための体育授業の効果的な反省方法も習得していく。これらの学習を通して、「授業で勝負することのできる保健体育教師」、「学び続けることのできる保健体育教師」という教師観の確立を目指す。

【授業内容・到達目標など】

第１回　体育の授業づくり論(1)：単元計画、指導案の作成手順(1)
【　到達目標　】
(1)単元計画及び指導案作成の原理、原則を理解する。
【授業時間外学習】
学習指導案作成の意義や方法について予習・復習する。(4.0hr)

第２回　体育の授業づくり論(2)：単元計画、指導案の作成手順(2)
【　到達目標　】
(1)単元計画及び指導案作成の手続きを理解し、説明できる。
【授業時間外学習】
学習指導案作成の意義や方法について予習・復習する。(4.0hr)

第３回　体育の授業づくり論(3)：教材づくりの視点
【　到達目標　】
(1)教材づくりの視点を理解し、具体的に説明できる。
【授業時間外学習】学習指導案における授業の明確な目標を設定し、その目標達成のための教材を計画する。(4.0hr)

第４回　体育の授業づくり論(4)：指導と評価の一体化
【　到達目標　】
(1)指導計画への評価の組み込み方を理解する。
【授業時間外学習】
具体的な指導と評価の計画を立てる。(4.0hr)

第５回　体育の授業づくり論(5)：単元計画、指導案、教材・教具の作成(1)
【　到達目標　】
(1)適切な計画を立てるためにグループ内で積極的に討論できる。
【授業時間外学習】
グループ内で議論しながら学習指導案を作成する。(4.0hr)

第６回　体育の授業づくり論(6)：単元計画、指導案、教材・教具の作成(2)
【　到達目標　】
(1)グループ内で適切な計画を立てることができる。
【授業時間外学習】
グループ内で議論しながら学習指導案を作成する。(4.0hr)

第７回　模擬授業の反省会 (1)
【　到達目標　】
(1)模擬授業の観察データから授業の改善点を説明できる。
【授業時間外学習】e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)

第８回　模擬授業の反省会(2)
【　到達目標　】
(1)模擬授業の観察データから授業の改善点を説明できる。
【授業時間外学習】e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)

第９回　模擬授業の反省会(3)
【　到達目標　】
(1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。
(2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。
【授業時間外学習】e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)

第10回　模擬授業の反省会(4)
【　到達目標　】
(1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。
(2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。
【授業時間外学習】e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)

第11回　模擬授業の反省会(5)
【　到達目標　】
(1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。
(2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。
【授業時間外学習】e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)

第12回　優れた実践に学ぶ(1)：体育授業VTRの視聴と解説(1)
【　到達目標　】
(1)優れた体育授業のVTRから、効果的な指導のポイントをあげることができる。
【授業時間外学習】
模擬授業と優れた授業実践を比較し、自身の課題について考察する。(4.0hr)

第13回　優れた実践に学ぶ(2)：体育授業VTRの視聴と解説(2)
【　到達目標　】
(1)優れた体育授業のVTRから、効果的な教材・教具について説明できる。
【授業時間外学習】
模擬授業と優れた授業実践を比較し、自身の課題について考察する。(4.0hr)

第14回　体育授業の存在意義
【　到達目標　】
(1)体育授業の存在意義について説明できる。
【授業時間外学習】
体育授業の存在意義について考察する。(4.0hr)

第15回　スポーツ基本法、スポーツ基本計画、スポーツ立国戦略からみた体育授業
【　到達目標　】
(1)我が国のスポーツ政策における体育授業の位置付けを理解する。
【授業時間外学習】
我が国のスポーツ政策における体育授業の位置付けを理解する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

教育実習において、学校現場の生徒に少なからぬ影響を与えることを十分に自覚し、教職免許を取るのにふさわしい態度で講義に臨むこと。毎回の講義は相互に関連しているので、講義内容について集中してノートをとり、予習・復習を行っていくことが必要になる。グループでの指導案作成、模擬授業、テスト、レポートにも積極的に取り組むことが大切である。

【教科書・参考書など】

高橋健夫編著『体育科教育学入門』大修館書店（2010年）
文部科学省『中学校学習指導要領解説－保健体育編－』（2018年）東山書房
文部科学省『高等学校学習指導要領解説－保健体育編／体育編－』（2019年）東山書房

【成績評価方法】

模擬授業や指導案作成等のグループによる活動の課題達成度と提出物20%、テスト80%として評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。

科目名	舞踊音楽演習（パーカッション）			担当者	櫻　田　素　子	
英文名	Seminar in Dance Music (Percussion)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	演習		科目ナンバー	DBE207		

【目的とねらい】

舞踊と共にある音楽について、さまざまなパーカッション（打楽器）の演奏を通じて学ぶ。各種のリズムやリズム・アンサンブルを学ぶことによって、リズム表現の技術を磨き、各音楽ジャンルに固有の感覚を養うとともに、リズムの構成法、各楽器の持つ特徴、リズムをアンサンブルで演奏する際に必要なコミュニケーション力について知識と理解を深め、自身の舞踊作品に反映できるようになることを目標とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　イントロダクション:様々なパーカッション、リズムの基本
【　到達目標　】
「パーカッション」と呼ばれている楽器群の種類と発音構造、奏法について理解し、リズム、拍子、テンポなどについての基本概念を学ぶ。

【授業時間外学習】
リズム、拍子、テンポなどについての基本を復習する。(4.0hr)

第２回　リズム・アンサンブル演奏の基本
【　到達目標　】
演奏するために必要な、リズムやフレーズを捉える感覚を、西アフリカのアンサンブルを題材に口頭伝承によって習得し、学ぶ。シェイカー、ベル、素手で叩く太鼓などの基本的な奏法を学ぶ。
【授業時間外学習】
実習したリズム・アンサンブルの課題曲を、手や身体を用いて奏しながら復習する。(4.0hr)

第３回　西洋音楽のリズム感(1):単純拍子と複合拍子、アクセントとシンコペーション
【　到達目標　】
リズムの基本形、特に拍のまとまりと分割の感覚を学ぶ。また、アクセントとシンコペーションの概念と、それがどのようにリズムを構築しているかについて理解する。リズム表記の方法についても学ぶ。
【授業時間外学習】
実習した課題のリズムについて、分析しながら復習する。(4.0hr)

第４回　西洋音楽のリズム感(2):応用
【　到達目標　】
事前に学んだ技術を応用し、ポピュラー音楽によく用いられるリズム各種を学ぶ。
スネアドラム、タム、シンバルなどの基本的な奏法を学ぶ。

【授業時間外学習】学んだ各リズムについて、特徴を確認しながら復習し、関連する音楽を各自調べて聴いてみる。(4.0hr)

第５回　リズム・アンサンブルを学ぶ～中南米の打楽器アンサンブル(1)
【　到達目標　】
中南米の打楽器アンサンブルについてリズムを学ぶ。クラベス、マラカス、ボンゴ、コンガ、マリンバなどの基本的な奏法を学ぶ。

【授業時間外学習】
学んだリズムと課題曲について復習し、関連する音楽を各自調べて聴いてみる。(4.0hr)

第６回　リズム・アンサンブルを学ぶ～中南米の打楽器アンサンブル(2)
【　到達目標　】
中南米の打楽器アンサンブルについて、リズムのバリエーションを学ぶ。

【授業時間外学習】
実習したリズムと課題曲について､楽器を奏しているイメージを持ちながら復習する。(4.0hr)

第７回　リズム・アンサンブルを学ぶ～中南米の打楽器アンサンブル(3)
【　到達目標　】
中南米の打楽器アンサンブルについて、リズムのバリエーションとその展開方法を学ぶ。

【授業時間外学習】
実習したリズムと課題曲について、暗譜で演奏できるように復習する。(4.0hr)

第８回　リズム・アンサンブルを学ぶ～中南米の打楽器アンサンブル(4)
【　到達目標　】
中南米の打楽器アンサンブルについて、リズムの総復習。グループごとに実技テストを行なう。

【授業時間外学習】
課題のリズムと課題曲について予習し､授業後は関連する音楽を各自調べ､聴いてみる。(4.0hr)

第９回　リズム・アンサンブルを学ぶ～ミニマル・ミュージック(1)
【　到達目標　】
アクセントの位置を変えずに、パートごとにその構成を変えることで新たなリズム・アンサンブルを作ることができることを学ぶ。インドネシア・バリ島のケチャのリズムとスティーヴ・ライヒ作曲「クラッピング・ミュージック」を題材とする。
【授業時間外学習】
実習した課題のリズムと課題曲を、リズムの仕組みを確認しながら復習する。(4.0hr)

第10回　リズム・アンサンブルを学ぶ～ミニマル・ミュージック(2)
【　到達目標　】
インドネシア・バリ島のケチャのリズムとスティーヴ・ライヒ作曲「クラッピング・ミュージック」について、アンサンブルの展開方法を学ぶ。グループごとに実技テストを行う。

【授業時間外学習】課題曲について予習し、授業後は関連する音楽を各自調べ、リズム分析をしながら聴いてみる。(4.0hr)

第11回　リズム・アンサンブルを学ぶ～ミニマル・ミュージック(3)
【　到達目標　】
インドネシア・バリ島のケチャのリズムとスティーヴ・ライヒ作曲「クラッピング・ミュージック」について、アンサンブルの展開方法を学ぶ。グループごとに実技テストを行う。

【授業時間外学習】
課題曲について予習し、授業後は関連する音楽を各自で調べ聴いてみる。(4.0hr)

第12回　リズム・アンサンブルを学ぶ～サンバ(1)
【　到達目標　】
ブラジルのリズム・アンサンブル「サンバ」のリズムと、そのバリエーションを学ぶ。
サンバの基本楽器の奏法を学ぶ。

【授業時間外学習】
実習したリズムと課題曲について､楽器を奏しているイメージを持ちながら復習する。(4.0hr)

第13回　リズム・アンサンブルを学ぶ～サンバ(2)
【　到達目標　】
サンバのリズムのバリエーションと、その展開方法を学ぶ。
サンバの基本楽器の奏法を学ぶ。

【授業時間外学習】
実習したリズムと課題曲について復習し、関連する音楽を各自調べて聴いてみる。(4.0hr)

第14回　リズム・アンサンブルを学ぶ～サンバ(3)
【　到達目標　】
サンバのリズムに変化をつけ、展開する方法を学ぶ。
グループで楽曲進行をコントロールできるようにする。

【授業時間外学習】実習したリズムと課題曲について、暗譜し、自分でコントロールしながら演奏できるように復習する。(4.0hr)

第15回　リズム・アンサンブルを学ぶ～サンバ(4)
【　到達目標　】
サンバのリズムの総復習。グループごとに実技テストを行う。

【授業時間外学習】課題のリズムと課題曲について予習し、授業後は関連する音楽を、各自調べて聴いてみる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

授業のほとんどが実技である。各自、あるいは各グループ毎に、授業内および授業外で練習を積み重ね、演奏に必要な能力を高めるために研鑽すること。楽器を演奏する際にはつけ爪や長い爪は邪魔になり、ケガをすることがあるので、爪の手入れをしておくこと。実技に臨む際に必要な知識については、パワーポイントを用いた説明や視聴覚資料の提示により理解を深める。各課題毎に授業内実技テストを行ない、また、テスト後に講評を行なう。

【教科書・参考書など】

授業内にプリントを配布。

【成績評価方法】

授業における課題達成度(50%)、実技テスト(授業内実施、50%)で評価する。

科目名	表現運動学演習（演技）			担当者	桐　山　知　也	
英文名	Seminar in Expressive Movements (Acting)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	演習		科目ナンバー	DBE307		

【目的とねらい】

自身の身体への気付きとその運用方法の基礎の習得。また、劇場表現におけるテクスト（主に戯曲）のよみ方の実践を通し作品創造の初段階を学ぶ、もしくはその初段階を学ぶことによってテクストをよむことの有効性を学ぶ。これらのことを発展させ、身体による空間認識、身体とテクストとの関係性についても学ぶ。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス「演技者にとって使える身体とは？」 【　到達目標　】 授業の目的について理解をする。 本授業の進め方について理解する。 【授業時間外学習】 多くのテクスト、実際の公演に触れておく。(4.0hr)	**第９回　テクストをよむ1** 【　到達目標　】 テクストの成り立ちの基礎を学ぶ。 上記について多大な影響を与えたであろう19世紀末から20世紀初頭の演劇運動の概要を学ぶ。 【授業時間外学習】 多くのテクスト、実際の公演に触れておく。(4.0hr)
第２回　意志をもった身体運用 【　到達目標　】 いくつかの歩行によって、重心、視野、目的等を意識した身体の在り方を学ぶ。 【授業時間外学習】多くのテクスト、実際の公演に触れておく。／自身或いは他者の身体の在り様を観察する。(4.0hr)	**第10回　テクストをよむ2** 【　到達目標　】 前回に引き続き、19世紀末から20世紀初頭の演劇運動の概要を学ぶ。 【授業時間外学習】 多くのテクスト、実際の公演に触れておく。(4.0hr)
第３回　自身の身体への気付き 【　到達目標　】 歩行等の身体運用によって自身の身体のクセを知る。 【授業時間外学習】多くのテクスト、実際の公演に触れておく。／自身或いは他者の身体の在り様を観察する。(4.0hr)	**第11回　テクストをよむ3** 【　到達目標　】 実際にテクストを使用し、テクストの構造を読み解く方法を学ぶ。 【授業時間外学習】多くのテクスト、実際の公演に触れておく。／課題となるテクストの熟読と熟考を求める。(4.0hr)
第４回　他者の身体への気付き 【　到達目標　】 歩行等の身体運用によって他者の身体のクセを知る。 【授業時間外学習】多くのテクスト、実際の公演に触れておく。／自身或いは他者の身体の在り様を観察する。(4.0hr)	**第12回　テクストをよむ4** 【　到達目標　】 テクストの構造を身体化する基礎的なテクニックを学ぶ。 【授業時間外学習】多くのテクスト、実際の公演に触れておく。／課題となるテクストの熟読と熟考を求める。(4.0hr)
第５回　身体による即興1 【　到達目標　】 自身、或いは他者の身体への気付きからキャラクターを創造する。 キャラクターを創造する過程で自身のキャラクターを再認識する。 【授業時間外学習】多くのテクスト、実際の公演に触れておく。／自身或いは他者の身体の在り様を観察する。(4.0hr)	**第13回　作品創作** 【　到達目標　】 集団でテクストの構造を読み解き、創作プランを決定する。 上記作業を通し集団創作におけるテクストの有効性を学ぶ。 【授業時間外学習】多くのテクスト、実際の公演に触れておく。／課題となるテクストの熟読と熟考を求める。(4.0hr)
第６回　身体による即興2 【　到達目標　】 自身の創造したキャラクターによる即興の方法の基礎を学ぶ。 他者の創造したキャラクターとの即興を通して身体的特徴の有効性について学ぶ。 【授業時間外学習】多くのテクスト、実際の公演に触れておく。／自身或いは他者の身体の在り様を観察する。(4.0hr)	**第14回　作品創作** 【　到達目標　】 創作プランに沿って、集団創作の実際を学ぶ。 質感の獲得によるアンサンブルの形成過程について理解する。 【授業時間外学習】多くのテクスト、実際の公演に触れておく。／課題となるテクストの熟読と熟考を求める。(4.0hr)
第７回　身体による空間認識 【　到達目標　】 自身の身体と空間の関係性について学ぶ。 表現における質感への気付き。 【授業時間外学習】 多くのテクスト、実際の公演に触れておく。(4.0hr)	**第15回　作品発表と講評** 【　到達目標　】 作品発表と講評を通して、自身並びに集団の習熟度と課題を認識する。 講評を通し、自身（集団）の作品やその意図等について言語化する能力を身につける。 【授業時間外学習】多くのテクスト、実際の公演に触れておく。／課題となるテクストの熟読と熟考を求める。(4.0hr)
第８回　身体による空間創造（アンサンブルの形成） 【　到達目標　】 集団（自身と他者の身体）と空間の関係性について学ぶ。 集団表現における質感への気付き。 【授業時間外学習】 多くのテクスト、実際の公演に触れておく。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

身体を動かすことが多くなる為、それに相応しい服装で臨むこと。
本授業は集中講義であり、グループでのディスカッションや創作作業が多くある。そのことからも全授業に出席することが必須である。

【教科書・参考書など】

教科書　特に無し
参考書　授業内で指示する（参考資料や課題は適宜配布する）

【成績評価方法】

各授業における課題の達成度（授業体への貢献含む）70%、作品創作の評価30%の割合で総合的に成績評価をする。

科目名	舞踊音楽演習（ヴォイス・トレーニング）			担当者	辛島安妃子	
英文名	Seminar in Dance Music (Voice Training)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	演習		科目ナンバー	DBE308		

【目的とねらい】

呼吸法や正しい姿勢、体のしくみを理解しながら発声法を学び、舞台で通る歌声を習得していくことを目的とする。基礎となる声楽教本を用い、併せてオペラ、ミュージカルや世界各国の名曲を取り上げ、応用として観客に伝えるための表現法を学ぶ。授業内で発表することにより実践力も身につける。

【授業内容・到達目標など】

第１回　声と体のしくみについて
【　到達目標　】
歌は全身運動である。声と体のしくみを理解する。
【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をすること。(4.0hr)

第２回　発声法と発声練習について
【　到達目標　】
腹式呼吸や声を響かせる方法を学ぶ。
【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)

第３回　コールユーブングン・コンコーネを歌う
【　到達目標　】
声楽教本でリズムや音程、フレーズ感について学ぶ。
【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)

第４回　合唱・重唱（日本の名曲）
【　到達目標　】
合唱または重唱で日本歌曲を歌う。
【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)

第５回　合唱・重唱（世界の名曲）
【　到達目標　】
合唱または重唱で世界各国の歌曲を歌う。
【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)

第６回　独唱（日本・世界の名曲）
【　到達目標　】
発声法を踏まえ名曲の独唱を試みる。
【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)

第７回　イタリア歌曲を歌う
【　到達目標　】
イタリア語の読みや歌詞の意味を理解し、表現法を学ぶ。
【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)

第８回　映画音楽、オペラなどいろいろなジャンルの名曲を歌う①
【　到達目標　】
こどもの歌から映画音楽、シャンソンなどあらゆる世代に長く愛されている名曲を歌う。またオペラとミュージカルの違いについて学ぶ。
【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)

第９回　映画音楽、オペラなどいろいろなジャンルの名曲を歌う②
【　到達目標　】
こどもの歌から映画音楽、シャンソンなどあらゆる世代に長く愛されている名曲を歌う。またオペラとミュージカルの違いについて学ぶ。
【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)

第10回　ミュージカルの名曲を歌う①
【　到達目標　】
ミュージカルの名曲を日本語、英語で歌う。
【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)

第11回　ミュージカルの名曲を歌う②
【　到達目標　】
動きながら歌う方法について学ぶ。
【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)

第12回　発表会（本番）に向けてのプランニングについて
【　到達目標　】
グループごとに発表会の立案、計画、準備をする。
【授業時間外学習】
発表会に向けて歌と台詞読みの練習をすること。(4.0hr)

第13回　グループごとの演目準備①
【　到達目標　】
グループごとに発声を確認しながら練習する。
【授業時間外学習】
発表会に向けて歌と台詞読み、演技の練習をすること。(4.0hr)

第14回　グループごとの演目準備②
【　到達目標　】
グループごとに作品の内容を理解し、表現工夫をする。
【授業時間外学習】
発表会に向けて歌と台詞読み、演技の練習をすること。(4.0hr)

第15回　発表会
【　到達目標　】
観客の前で演じることで実践力を養う。
【授業時間外学習】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をすること。(4.0hr)

【学習上の留意点】

歌もスポーツと同じで全身運動である。1日怠ると筋肉の動きが戻ってしまうので、なるべく毎日歌うことを心がける。

【教科書・参考書など】

その都度、楽譜を配布する。

【成績評価方法】

授業内での実技および授業内発表における演奏60%、授業における課題達成度40%で評価する。

科目名	新体操			担当者	橋爪みすず	
英文名	Rhythmic Gymnastics					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	実技		科目ナンバー	DBE110		

【目的とねらい】

新体操は手具の操作をしながら、徒手要素（ジャンプ・バランス・ローテーション）を組み合わせることが必須とされている。本授業では、手具と徒手要素の基礎について学び、身体の動きと手具操作の調和を音楽と一緒に実践する。また、音楽のリズムを感じ、流動的な動きの中に豊かな表現力や手具技術の習得を目指す。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
授業展開とねらい、評価方法・学習上の留意点について理解する。
新体操の概要を理解する。

【授業時間外学習】
新体操に関する書籍を読み、理解を深める。(1.0hr)

第２回　新体操の特性
【　到達目標　】
新体操に必要な柔軟性・バランス・調整力・筋力などを高める。

【授業時間外学習】
新体操の体力トレーニングについて調べておく。(1.0hr)

第３回　新体操の基礎運動①
【　到達目標　】
正しい基本姿勢および柔軟な動き・バランスを実践し、基礎技術を身につける。

【授業時間外学習】
新体操の基礎的要素（柔軟・バランス）について理解を深める。(1.0hr)

第４回　新体操の基礎運動②
【　到達目標　】
正しい基本姿勢およびジャンプ・ローテーションを実践し、基礎技術を身につける。

【授業時間外学習】
新体操の基礎的要素（柔軟・バランス）について理解を深める。(1.0hr)

第５回　フープ：基本操作の実践
【　到達目標　】
回す、くぐる、転がす、投げるなどの基本操作からフープの特性を理解する。

【授業時間外学習】
フープの特性を調べておく。(1.0hr)

第６回　フープ：徒手要素と手具操作
【　到達目標　】
身につけた徒手要素（ジャンプ・バランス・ローテーション）とフープの手具操作を組み合わせて実践できる。

【授業時間外学習】
フープの基礎技術要素を調べておく。(1.0hr)

第７回　フープ：音楽との調和
【　到達目標　】
徒手要素とフープの手具操作との組み合わせをフレーズにし、音楽のリズムに合わせて実践できる。

【授業時間外学習】
メディア等を活用し、フープの基礎技術について理解を深める。(1.0hr)

第８回　ボール：基本操作の実践
【　到達目標　】
突く、転がす、投げるなどの手具の基本操作から、ボールの特性を理解する。

【授業時間外学習】
ボールの特性を調べておく。(1.0hr)

第９回　ボール：徒手要素と手具操作
【　到達目標　】
身につけた徒手要素（ジャンプ・バランス・ローテーション）とボールの手具操作を組み合わせて実践できる。

【授業時間外学習】
ボールの基礎技術要素を調べておく。(1.0hr)

第10回　ボール：音楽との調和
【　到達目標　】
徒手要素とボールの手具操作との組み合わせをフレーズにし、音楽のリズムに合わせて実践できる。

【授業時間外学習】
メディア等を活用し、ボールの基礎技術について理解を深める。(1.0hr)

第11回　ボール：フレーズの組み立て
【　到達目標　】
曲調に合ったステップや動きを取り入れながら、フレーズを実践できる。

【授業時間外学習】
メディア等を活用し、ボールの基礎技術について理解を深める。(1.0hr)

第12回　ボール：実技課題の実践①
【　到達目標　】
身につけたフレーズを音楽に合わせ、作品を実践できる。

【授業時間外学習】
実技課題の評価と反省を行い、問題点を抽出する。(1.0hr)

第13回　ボール：実技課題の実践②　学習方法の理解
【　到達目標　】
手具操作と身体の動きが明確になり、技術を習得できる。

【授業時間外学習】
実技課題の評価と反省を行い、問題点を抽出する。(1.0hr)

第14回　ボール：実技課題の実践③
【　到達目標　】
音楽と体のリズムに合わせたタイミングの良い手具操作を身につけながら、動きのつなぎがスムーズになるよう、更に実践を重ねる。

【授業時間外学習】
実技課題の評価と反省を行い、問題点を抽出する。(1.0hr)

第15回　ボール：作品の発表
【　到達目標　】
作品の発表を行う。

【授業時間外学習】
実技課題の評価と反省を行い、修正すべき点を検討する。(1.0hr)

【学習上の留意点】

アクセサリー類や時計は、相手や自らの怪我を引き起こす危険性や、手具により破損する可能性があるため、決して身につけない。服装・身だしなみは実習にふさわしいものとし、フォームの見えにくい服装は好ましくない。（パーカー・スウェットは着用しない）
種目毎に実技試験と授業内容に関するレポートを作成し、理解度の確認を行う。結果は授業時に解説によりフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

教科書の指定はなし。
必要に応じて、プリント教材を配布します。

【成績評価方法】

実技試験70%、レポート30%

科目名	フォークダンス			担当者	山　梨　雅　枝	
英文名	Folk Dance					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	実技		科目ナンバー	DBE111		

【目的とねらい】

本科目では、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きを通じて仲間と踊る楽しさを体得しながら、指導法も習得する。グループに分かれて新しいフォークダンスを創作し、発表する。生涯ダンスや舞踊教育の指導に役立てる。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション（授業展開・ねらい・評価方法・調査）
【　到達目標　】
授業展開、ねらい、評価方法の説明、フォークダンスの経験調査を行う。

【授業時間外学習】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第２回　フォークダンスの基本、学習指導要領の位置づけ
【　到達目標　】
フォークダンスの基本や学習指導要領の位置づけについて学ぶ。

【授業時間外学習】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第３回　基本的なステップの習得
【　到達目標　】
フォークダンスの基本的なステップを学び習得する。

【授業時間外学習】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第４回　各国のフォークダンスの習得①
【　到達目標　】
各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。

【授業時間外学習】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第５回　各国のフォークダンスの習得②
【　到達目標　】
各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。

【授業時間外学習】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第６回　各国のフォークダンスの習得③
【　到達目標　】
各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。

【授業時間外学習】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第７回　各国のフォークダンスの習得④
【　到達目標　】
各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。

【授業時間外学習】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第８回　各国のフォークダンスの習得⑤
【　到達目標　】
各国のフォークダンスのステップや動きを習得する。

【授業時間外学習】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第９回　各国のフォークダンスの習得⑥
【　到達目標　】
各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。

【授業時間外学習】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第10回　各国のフォークダンスの習得⑦
【　到達目標　】
各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。

【授業時間外学習】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第11回　フォークダンス①～⑦の復習
【　到達目標　】
これまで学んだフォークダンスを復習し、知識や技術を身につける。

【授業時間外学習】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第12回　グループに分かれて、新しいフォークダンスの創作①
【　到達目標　】
グループに分かれて、自分たちのフォークダンスをつくる。

【授業時間外学習】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第13回　グループに分かれて、新しいフォークダンスの創作②
【　到達目標　】
グループに分かれて、自分たちのフォークダンスをつくる。

【授業時間外学習】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第14回　作品発表、みんなで踊るⅠ
【　到達目標　】
作品を発表し、発表者自身が動きを指導してみんなで踊る。

【授業時間外学習】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第15回　作品発表、みんなで踊るⅡ
【　到達目標　】
作品を発表し、発表者自身が動きを指導してみんなで踊る。

【授業時間外学習】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

【学習上の留意点】

既存のフォークダンスやレクリエーションダンスは、ステップや音の取り方に注意して正確に踊れるようにする。創作フォークダンスでは、男女を意識したステップで、各グループで対象年齢を設定して創作する。

【教科書・参考書など】

指定なし。

【成績評価方法】

既存のフォークダンスを覚える（実技試験）50%、ねらいに応じた創作フォークダンスの発表（実技と授業内容記録紙）50%。

科目名	ソフトボール			担当者	笹　倉　清　則	
英文名	Softball					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
授業形態	実技		科目ナンバー	DBE112		

【目的とねらい】

ベースボール型球技であるソフトボールは投・打・走・捕の運動が含まれるスポーツ種目である。本授業では、ソフトボールのルールおよび基本的な技術、戦術を理解、習得することでゲームを行えるようにする。また生徒への指導を視野に入れ、指導方法や練習方法、安全上の留意点についても身につける。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
本授業の目的や評価の方法、具体的な内容、天候による実施内容の変更など授業に関わる留意点を理解する。またソフトボールのルールについて理解する。

【授業時間外学習】
ソフトボールについてルールや試合映像を事前に学習する。(1.0hr)

第２回　ソフトボールの基本的な技術　投と捕
【　到達目標　】
ソフトボールの基本的な投げ方と安全な捕球の仕方を理解し、習得する。
また、ポジションによる投動作の違いも理解する。

【授業時間外学習】
ソフトボールにおけるキャッチボールについて事前に調べておく。(1.0hr)

第３回　ソフトボールの基本的な技術　打撃
【　到達目標　】
バットの握り方、スイングの仕方について理解し、習得する。
ティーバッティングなどの基本的なドリルを行い、ボールをバットの芯に当てることを習得する。
【授業時間外学習】
ソフトボールの打撃について調べ、イメージを掴んでおく。(1.0hr)

第４回　ソフトボールの守備　打球の捕球
【　到達目標　】
ゴロやフライの捕球の仕方について理解し、習得する。
キャッチボールを行いながら、ゴロやフライの状況を作り出しグラブの使い方を習得する。

【授業時間外学習】ソフトボールではどのような打球の種類があるのかを映像などを通して理解しておく。(1.0hr)

第５回 ソフトボールの守備　連携
【　到達目標　】
内外野の守備位置を理解し、打球を捕球してから送球することを実践し、習得する。
ランナーの有無や打球の種類によってアウトにする方法が選択できるようになる。

【授業時間外学習】ソフトボールにおけるアウトの状況を事前学習し、守備の連携について理解しておく。(1.0hr)

第６回　ソフトボールの攻撃　打順と攻撃の狙い
【　到達目標　】
攻撃における打順の意味を理解し、それぞれの場面における打撃の狙いや走塁について実践を通して理解し、習得する。

【授業時間外学習】
ソフトボールにおける攻撃の戦術について事前に学習し、理解しておく。(1.0hr)

第７回　ゲーム実践①　ミニゲーム
【　到達目標　】
ゲームを通して、攻守の作戦の立案やより良いゲームを行うための課題を理解する。

【授業時間外学習】
ソフトボールのゲームの流れを映像などを通して理解しておく。(1.0hr)

第８回　集団の防御技術　内外野の連携
【　到達目標　】
カバーリングやベースカバーなど守備におけるボールを持たない人の動きを理解し、実践できるようにする。

【授業時間外学習】
守備位置や連携した送球の状況について事前学習し、理解しておく。(1.0hr)

第９回　戦術的な攻撃　バントや走塁を用いた攻撃
【　到達目標　】
バントやヒットエンドランなどの戦術を理解し、実践できるようにする。

【授業時間外学習】
ソフトボールにおける攻撃の戦術について事前に学習しておく。(1.0hr)

第10回　ゲーム実践②　初級者に合わせたルールでのミニゲーム
【　到達目標　】
投球位置や攻守交代のルールを調整したゲームを行い、初級者でも楽しめるゲームについて理解し、実践できるようにする。

【授業時間外学習】
初級者の躓くポイントについて事前に想定をしておく。(1.0hr)

第11回　ゲーム実践③　通常のルールでのゲーム（チーム活動）
【　到達目標　】
ゲーム経験を踏まえて、個人やチームの課題を検討、抽出することができるようになる。
その上で、課題を克服する練習方法について考えることができる。

【授業時間外学習】
ゲームにおけるポジションごとの役割について事前に学習しておく。(1.0hr)

第12回　課題に応じた練習　（チーム活動）
【　到達目標　】
前回の試合で出た課題について、個人やチームで練習を行い、試合に向けた準備ができるようになる。

【授業時間外学習】
個人やチームの課題に対する練習方法について検討しておく。(1.0hr)

第13回　ゲーム実践④　通常のルールでのゲーム（チーム活動）
【　到達目標　】
課題に対して行った練習を生かしながら、ゲームを行い、さらに改善点を見つけることができる。

【授業時間外学習】
個人やチームの課題を今一度整理し、より良いゲームができるように準備しておく。(1.0hr)

第14回 ゲーム実践⑤　通常のルールでのゲーム（チーム活動）
【　到達目標　】
課題に対して行った練習を生かしながら、ゲームを行い、さらに改善点を見つけることができる。

【授業時間外学習】
個人やチームの課題を今一度整理し、より良いゲームができるように準備しておく。(1.0hr)

第15回　スキルチェックとまとめ
【　到達目標　】
授業を通して理解、習得した内容について表現することができる。

【授業時間外学習】
授業全体を通して取り組んできた内容について振り返りを行う。(1.0hr)

【学習上の留意点】

実習が中心となるため、適した服装を準備し、アクセサリーなどは身につけず安全に配慮すること。屋外での活動が多いため、体調管理を徹底し日差しや熱中症対策を各自で行うこと。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

技術や戦術的な達成度50%、ルール理解や練習方法の検討について50%の割合で評価を行う。

科目名	柔道			担当者	佐　藤　雄　哉	
英文名	Judo					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
授業形態	実技		科目ナンバー	DBE113		

【目的とねらい】

スポーツ種目の一つである柔道の基礎技能（受身の仕方、投げ技、固め技など）を習得する。併せて柔道の歴史的発展についての知識も学習する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション（授業展開について）
【　到達目標　】
授業の全体像を把握する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第２回　柔道の基本動作、受身（後受身）、固め技（袈裟固、乱取）
【　到達目標　】
正確な動作を習得し、安全確保について理解する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第３回　受身（横受身・前回受身）、固め技（袈裟固の逃れ方、乱取）
【　到達目標　】
正確な動作を習得し、安全確保について理解する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第４回　受身（前回受身）、固め技（崩れ袈裟固め、横四方固、乱取）
【　到達目標　】
正確な動作を習得し、安全確保について理解する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第５回　投げ技の基本動作（姿勢、組み方、進退動作、崩しー作りー掛け）、投げ技（膝車）
【　到達目標　】
基本動作を理解し、正確な動作を習得する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第６回　投げ技（膝車、小内刈）、固め技（上四方固、乱取）
【　到達目標　】
投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第７回　投げ技（大外刈り、背負投）、固め技（縦四方固、乱取）
【　到達目標　】
投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第８回　投げ技（釣込腰、払腰）、固め技（各種抑え技の逃れ方、乱取）
【　到達目標　】
投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第９回　受身試験
【　到達目標　】
正確な動作を習得し、安全確保について理解する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第10回　投げ技（大腰）、固め技（関節技、乱取）
【　到達目標　】
投げ技・固め技の理論を理解し、正確な動作を習得する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第11回　投げ技（払い腰、約束練習）、固め技（絞め技、乱取）
【　到達目標　】
投げ技・固め技の理論を理解し、正確な動作を習得する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第12回　投げ技（体落とし、約束練習）、固め技（様々な姿勢での攻防、乱取）Ⅰ
【　到達目標　】
基本動作を用いて相手の動きに応じた攻防ができる。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第13回　投げ技（連絡技、乱取）、固め技（様々な姿勢での攻防、乱取）Ⅱ
【　到達目標　】
基本動作を用いて相手の動きに応じた攻防ができる。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第14回　試験（投げ技、固め技）
【　到達目標　】
正確な動作を身につけ、柔道に関して理解する。
【授業時間外学習】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第15回　簡易な試合
【　到達目標　】
柔道全般を理解する。
【授業時間外学習】
参考書と学習指導要領を用いて指導法の理解を深める。(1.0hr)

【学習上の留意点】

安全面に留意する。授業の際は、集中して取り組むこと。また、「何故？」という課題、疑問を持って授業に参加すること。
状況に応じて映像教材や資料を提示し、論理的な技術体系の解説を施しながら柔道に対する理解を深めていく。本講義を理解するためには、感覚的な技術の習得と併せて、論理的な技術体系の理解が重要である。レポートや理解度確認テストを通して明らかとなった課題を解説、フィードバックし、課題の解決に取り組むことが求められる。

【教科書・参考書など】

木村昌彦著『よくわかる柔道受け身のすべて』ベースボールマガジン社、木村昌彦著『いちばんわかりやすい！柔道の教科書』土屋書店、
木村昌彦著『女子のための柔道の教科書』土屋書店、文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（最新版）

【成績評価方法】

レポート（30%）と試験（70%）で評価する。

科目名	スポーツ社会学			担当者	溝　口　紀　子	
英文名	Introduction to Sociology of Sport					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	DBE309		

【目的とねらい】

スポーツの歴史や文化史を通して、スポーツの社会的役割、文化的意義について考察する。グローバル社会の多様な側面や文化的特徴についてスポーツという切り口から理解を深める。「人種・民族」「ジェンダー」「暴力」「マスメディア」「ドーピング」「政治」の視点からスポーツがどのように社会や人と関わりを持っているのかを社会学の視点から考察する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ガイダンス（授業の進め方　スポーツ権）
【　到達目標　】
スポーツ社会学におけるスポーツのとらえ方、考え方及び社会学の学問的性格について理解する。
【授業時間外学習】
現代社会におけるスポーツの抱える問題について、自分なりに整理し書き出してみる。(4.0hr)

第２回　遊びとスポーツ　－「ホモ・ルーデンス」・「遊びと人間」を読み解く－
【　到達目標　】
スポーツの定義、遊び、eスポーツについて理解する。
【授業時間外学習】
eスポーツについて調べる。(4.0hr)

第３回　スポーツの近代化と武道の誕生
【　到達目標　】
スポーツの誕生から近代スポーツの誕生、そして現在のグローバル化社会におけるスポーツの急速な変容について理解する（小レポートを実施）。
【授業時間外学習】武士道、武道の違いについて、文献やインターネット等で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)

第４回　スポーツとナショナリズム
【　到達目標　】
スポーツと政治の親和性について考えていく。ナショナリズムや国家的なスポーツ政策について、メディアとの関係性も踏まえて理解する。
【授業時間外学習】スポーツと政治の関係性に関して文献で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)

第５回　スポーツと体育
【　到達目標　】
スポーツと教育の関係性について、社会学的観点から議論できるようになる。スポーツと体育の関係性、課外活動における諸問題等も社会学的観点から理解する(小レポートを実施）。
【授業時間外学習】
自分のスポーツ経験・体験について、教師や指導者との関係性に関してまとめてみる。(4.0hr)

第６回　冷戦とスポーツ五輪とボイコット
【　到達目標　】
スポーツが政治とどのように結びつくのか、冷戦時代を例にボイコットについて取り上げる。
【授業時間外学習】
五輪ボイコットに関して文献で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)

第７回　スポーツと映像文化について
【　到達目標　】
民族の祭典、美の祭典の映画鑑賞、スポーツ文化について取り上げる。
【授業時間外学習】
「民族の祭典、美の祭典」について調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)

第８回　スポーツと事故リスク、安全配慮について
【　到達目標　】
スポーツと事故、安全配慮について、社会学的観点から議論できるようになる。スポーツと体育の関係性、課外活動における諸問題等も社会学的観点から理解する(小レポートを実施）。
【授業時間外学習】
自分のスポーツ経験・体験について、教師や指導者との関係性に関してまとめてみる。(4.0hr)

第９回　1964年東京オリンピック
【　到達目標　】
1964年東京五輪の当時の時代背景、スポーツ政策はいかに進められたかを理解する。
【授業時間外学習】
1964年の東京五輪について調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)

第10回　スポーツの文化触変
【　到達目標　】
1964年の東京五輪がその後日本人の生活にどのような影響を及ぼしたかを議論する。
【授業時間外学習】
自分の住む地域の地域スポーツの実態に関して調査する。(4.0hr)

第11回　スポーツとジェンダー
【　到達目標　】
女性アスリートのメディア・イメージやパターナリズムの理解から、スポーツにおけるジェンダーの課題と展望について論じることができるようにする（小レポート実施）。
【授業時間外学習】スポーツに限定せず、自分が経験した、または社会に存在するジェンダーバイアスに関して整理する。(4.0hr)

第12回　メディアスポーツ
【　到達目標　】
メディアスポーツが文化として成立するための文化的構成要素とその社会的担い手の特徴や変化をめぐる課題について理解する。
【授業時間外学習】
メディアスポーツとは何か、これまでの講義内容からまとめてみる。(4.0hr)

第13回　スポーツと倫理－ドーピングの問題性とスポーツの本質
【　到達目標　】
ドーピング問題とは何かについて理解し、スポーツにおけるドーピング問題を社会秩序の観点から論じることができるようにする。
【授業時間外学習】
パラドーピング、日本選手のドーピング事件を調べる。(4.0hr)

第14回　スポーツと体罰
【　到達目標　】
スポーツと社会的逸脱の関係性について、ドーピング問題、スポーツと暴力等の問題をもとに理解を深めていく。
【授業時間外学習】
体罰の問題に関して、特に関心のある領域に関して小レポートをまとめる。(4.0hr)

第15回　これからの社会とスポーツの使命・可能性
【　到達目標　】
スポーツが担うべきミッションについて各自が理解し、今後の展望について、社会学的観点から独自の議論を展開できるようになる。
【授業時間外学習】
スポーツ社会学のパースペクティブについて理解し、整理する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

1.個別的な種目を離れて、スポーツの全体を捉えるようにする。
2.テキストの難しい言葉については、あらかじめ読み方と意味を調べておく。
3.現代スポーツの動きや問題について関心を持つようにする。
4.静かな授業環境を維持するためのルール、マナー、エチケットに各自が留意する。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しないが、必要に応じて、資料等を配布する。
参考図書：「現代スポーツのパースペクティブ」菊幸一他編著（大修館書店）2006 、「性と柔一女子柔道史から問うー」溝口紀子著（河出書房新社）2013、「よくわかるスポーツ文化論」 井上俊・菊幸一編著（ミネルヴァ書房）2012、「日本の柔道　フランスのJUDO」溝口紀子著（高文研）2015

【成績評価方法】

1.試験：60%（試験は試験期間中に別途実施。持込不可）
2.授業中の小レポート（3回）及びリアクションペーパーへの記述内容：40%
3.良好な出席状況は、当然の前提である。

科目名	表現運動学			担当者	宮　本　乙　女	
英文名	Dance Movement Studies					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門・必修		
授業形態	講義		科目ナンバー	DMR101		

【目的とねらい】

舞踊表現における主要な技能である「踊る」「創る」「観る」のそれぞれの特徴や構造、また相互の有機的連関について認識を深める。また、舞踊における身体やダイナミックイメージとしての舞踊運動の特性についても理解を深め、舞踊活動を豊かに展開するための基礎認識を形成することを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション、ダンスとは何か
【　到達目標　】
ダンスとはどのように定義されているのか、先行文献から学ぶと共に自分にとってダンスとは何なのかを考察する。

【授業時間外学習】
ダンスの定義について検索してみる。(4.0hr)

第２回　ダンスの歴史、種類、舞踊における動きとは
【　到達目標　】
ダンスの発生の歴史や種類について理解する。
ダンスの動きの構造を、時間、空間、力の面から把握する。

【授業時間外学習】
自分のこれまで体験したダンスを時間、空間、力の面から見直す。(4.0hr)

第３回　「人間発達と表現運動」その1　幼児～小学生
【　到達目標　】
幼児期から小学校期の舞踊運動とイメージについて理解する。
学習指導との関連も理解する。

【授業時間外学習】
人間の発達と表現運動について、自分の舞踊歴、学習歴と比較して考察する。(4.0hr)

第４回　「人間発達と表現運動」その2　中学生～大学生
【　到達目標　】
中学、高校、大学期の舞踊運動とイメージについて理解する。
学習指導との関連も理解する。

【授業時間外学習】
人間の発達と表現運動について、自分の舞踊歴、学習歴と比較して考察する。(4.0hr)

第５回　表現運動と男性・女性
【　到達目標　】
様々な舞踊作品の中で、男女がどのように表現されているかを学ぶ。

【授業時間外学習】
授業で視聴したダンス作品以外で男性、女性がどのように表現されているか考察する。(4.0hr)

第６回　ダンス教育とジェンダー
【　到達目標　】
人間の性のとらえ方、ダンス教育におけるジェンダーについて考察する。

【授業時間外学習】
自分の体験した学校教育の中でジェンダーの視点から課題となる事柄を考察する。(4.0hr)

第７回　「ダンスの構造」その1　運動の変化と連続
【　到達目標　】
「対極の動きの連続」という視点で、ダンスの動きを考える。
自身の体験した舞踊作品をその視点から考察する。

【授業時間外学習】
授業で扱った以外の作品について対極の動きの連続を考察する。(4.0hr)

第８回　「ダンスの構造」その2　運動の質と表現性
【　到達目標　】
舞踊の動きの質と、そこから引き起こされる感情価、情調について考察する。

【授業時間外学習】
ダンス作品の感想や批評文などを収集し、どんな言葉で書かれているかを検討する。(4.0hr)

第９回　「ダンスの構造」その3　「群」の表現性
【　到達目標　】
「群」という視点で、ダンスの動きを考える。
舞踊作品をその視点から考察する。

【授業時間外学習】
ダンス以外の表現についても群の効果という視点から検討する。(4.0hr)

第10回　「踊る・創る・観る」その1　創る…仮定期
【　到達目標　】
舞踊の「踊る」「創る」「観る」の3つの技能特性を理解する。
創る活動の、仮定期の特徴を理解する。

【授業時間外学習】
仮定期のブレインストーミングを参考に、自分の作舞体験を当てはめてみる。(4.0hr)

第11回　「踊る・創る・観る」その2　創る…仮定期から探索期へ
【　到達目標　】
創る活動の、探索期の特徴を理解する。探索期にどの様な指導の手立てが必要かを考察する。

【授業時間外学習】
教育現場を想定して、探索期の指導を検討する。(4.0hr)

第12回　「踊る・創る・観る」その3　創る…探索期から達成期へ
【　到達目標　】
創る活動の、達成期の特徴を理解する。

【授業時間外学習】
達成期としてのリハーサルや、仕上げ、場当たりの意味を考察する。(4.0hr)

第13回　「踊る・創る・観る」その4　踊る…リズムを考える
【　到達目標　】
人間の体とリズム、間のリズムなど、リズムを切り口に文献を読み解きながら、理解する。

【授業時間外学習】
配付された文献の残りの部分を読んで考察を深める。(4.0hr)

第14回　「踊る・創る・観る」その5　観る…鑑賞と評価
【　到達目標　】
舞踊を鑑賞することと、評価することについて理解する。

【授業時間外学習】
どんな動きがダンスの良い動きなのかを自分なりに説明できるようにする。(4.0hr)

第15回　舞踊表現の特性
【　到達目標　】
授業全体を振り返り、舞踊表現の特性を確認する。
踊り手としての心構えを論じた古典に触れる。

【授業時間外学習】
15回の授業プリントをもう一度整理して内容の理解を深める。(4.0hr)

【学習上の留意点】

授業では、文献や、映像資料なども使用しながら進めていく。各自の舞踊活動と結びつけ、毎回の授業で展開される内容を積み重ねて舞踊の動きや身体についての理解を深めるようにする。クラス内討論や、グループ討論を行い、相互評価によるフィードバックを行いながら、より理解を深めていくので課題や討論などに積極的に取り組んでほしい。学習カードにより毎時間の小課題に取り組むが、次の時間に解説をしてフィードバックする。

【実務経験のある教員による授業科目】

中学校教諭（保健体育）としての実務経験を活かし、舞踊表現の基礎である踊る・創る・観る、それぞれの特徴の理解と、発達段階の特性と舞踊などについて、舞踊活動を豊かに展開するための基礎認識を形成することを目的に講義を行う。

【教科書・参考書など】

毎時間、レジュメと資料を配付して授業を行う。

【成績評価方法】

毎回の授業の課題達成度（授業内ミニレポートの記述）及び授業内討論での発言内容、活動内容30%、期末試験70%として評価する。試験は、試験期間中に別途実施する。

科目名	舞踊学原論			担当者	八木ありさ	
英文名	The Principles of Dance Study					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門・必修		
授業形態	講義		科目ナンバー	DMR102		

【目的とねらい】

歴史的・地域的に多様な展開を示す「舞踊」を系統的にとらえ、その人間生活に対する意義・役割・機能を考える。舞踊の、教育や芸術などにおける位置づけ、演劇や音楽などの近接領域との関係を理解し、「舞踊学」の理論的側面と実践的側面の概観を得る。また、舞踊学専攻での自らの学修、さらには今後の「舞踊」の姿に関する展望を得る。

【授業内容・到達目標など】

第１回　日常における運動表現と舞踊

【　到達目標　】

日常にみられる表出や、再現、表現運動と舞踊のつながり、差異を理解する。

【授業時間外学習】シラバスのなかで不明な語句をリストアップし、辞典などを参照して語の意味を理解しておく。(4.0hr)

第２回　舞踊の分類（１）運動の特徴を中心に

【　到達目標　】

舞踊の起源をたどりながら、舞踊の基本的運動の特徴を整理して具体例とともに理解する。

【授業時間外学習】

日本以外の民族・地域で伝承されている舞踊について、その由来と特徴を調べる。(4.0hr)

第３回　舞踊の分類（２）社会的機能を中心に

【　到達目標　】

多様に展開する舞踊を、社会的機能から、祭儀性の舞踊、遊戯性の舞踊、審美性の舞踊などに分類し、具体例とともに特徴を理解する。

【授業時間外学習】日本で伝承されている舞踊について、その由来と特徴を調べ、先週の成果と比較する。(4.0hr)

第４回　中世文化と舞踊

【　到達目標　】

中世に庶民の間で踊られていた舞踊の特徴と、社会状況との関連を理解する。
村民と流浪民の存在、芸能集団の始まりなどについて理解する。

【授業時間外学習】

歴史の教科書などで、日本やヨーロッパの「中世」という時代の特徴を概観する。(4.0hr)

第５回　宮廷文化とバレエ

【　到達目標　】

バレエが発祥し、フランスを中心に支配層の保護のもとに次第に発展していく過程を理解する。

【授業時間外学習】

ヨーロッパ・ルネサンス期の文化について､その特徴と､代表的な芸術作品を調べる。(4.0hr)

第６回　日本の伝統芸能の成熟

【　到達目標　】

外来文化と在来芸能が融合して伝統芸能としての位置づけを確立してゆく経緯と、その代表といえる「猿楽」「歌舞伎」の特徴を理解する。

【授業時間外学習】

能と歌舞伎それぞれの代表的作品の内容を調べ、作品解説を書く。(4.0hr)

第７回　バレエの革新

【　到達目標　】

ロシアでのクラシックバレエの確立と、バレエ内部から起こった革新を理解する。

【授業時間外学習】

ニジンスキーが振り付けた作品のうち一つを選び、作品解説を書く。(4.0hr)

第８回　日本における西洋舞踊の受容

【　到達目標　】

明治維新とともに欧米文化を導入しようとした日本の状況と、そこでの舞踊の受け止められ方や実践状況を理解する。

【授業時間外学習】

江戸末期～明治初期に来日し、日本の様子を観察・報告した欧米人の記録を読む。(4.0hr)

第９回　近代舞踊革命とモダンダンス

【　到達目標　】

19世紀末にバレエを否定して起こった新しい舞踊の考え方と作品、その影響を理解する。
イサドラ・ダンカン、ロイ・フラー、ルース・セント・デニスなどの活動を知る。

【授業時間外学習】

世紀末芸術の特徴について調べ、一例としてダンカン作品の解説を書く。(4.0hr)

第10回　表現主義舞踊

【　到達目標　】

ドイツを中心とする表現主義舞踊の展開を理解する。
ルドルフ・ラバン、ダルクローズ、デルサルト、マリー・ウィグマン、グレト・パルッカらの活動とその影響を知る。

【授業時間外学習】欧米で初期のモダンダンスを学んだ日本人舞踊家を調べ、本学と関わりの深い人物についてまとめる。(4.0hr)

第11回　モダンダンスの確立と展開

【　到達目標　】

アメリカにおけるモダンダンスの確立と展開を理解する。
グラハム、ホートン、リモンなどの提起した表現技術の考え方を理解する。

【授業時間外学習】ヴィグマン、グラハムの作品をそれぞれ一つ選び、主題や動きの特徴に注目した作品解説を書く。(4.0hr)

第12回　人間や社会の理解の変化とポスト・モダンダンスの出現

【　到達目標　】

1960年代からアメリカで起こったダンスの主張とその波及状況を理解する。

【授業時間外学習】

コンタクトインプロヴィゼーションの成立について調べる。(4.0hr)

第13回　日本のポスト・モダンダンス「暗黒舞踏」

【　到達目標　】

社会に対して思想を発信する仕掛けとしてのダンスの可能性を知る。
舞踊における自文化・異文化の交流とグローバル化について理解する。

【授業時間外学習】サブ・カルチャー、アンダーグラウンドなどの概念について調べ、ダンスや演劇との関わりを知る。(4.0hr)

第14回　「いま　ここ」を生きる人のコンテンポラリーダンス

【　到達目標　】

ボーダレスとなってきた舞踊と周辺領域の関係を見ながら、現代社会における舞踊の価値について理解する。

【授業時間外学習】各自にとって最も価値の高いと考えるコンテンポラリーダンス作品を紹介する資料を作成する。(4.0hr)

第15回　Dance for All

【　到達目標　】

生涯学習社会とダンス・舞踊の関わりについて理解する。
舞踊家の育成および、一般の人々のための舞踊教育の現状を理解する。

【授業時間外学習】

各自の舞踊歴を振り返り、これまでに受けてきた舞踊教育の特徴を整理する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

授業では、スライドや映像資料を用いながら、歴史的地域的な舞踊の展開を概説していく。授業で指定した回では、【授業時間外学習】で示している課題も含め、ノート提出を求める。毎時、リアクション・ペーパーの提出を求め、記述内容にコメントを加えて返却する。

【教科書・参考書など】

適宜、資料を配布する。

【成績評価方法】

毎回提出する授業内レポート(20%)、授業時間外学習報告を含むノート作成状況(20%)、試験期間中に実施する試験の得点(60%)を併せて成績評価する。

科目名	シアターダンステクニック			担当者	坂　本　秀　子	
英文名	Theater Dance Technique					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門・必修		
授業形態	演習		科目ナンバー	DMR103		

【目的とねらい】

劇場は、照明などで演技がくっきりと浮き出て見えるように設計されていて、日常の空間とは異なった様相を帯びている。従って、稽古場や体育館で踊る場合とは異なり、プロフェッショナルの常識のようなものが存在する。それを学ぶのが、この講座である。

【授業内容・到達目標など】

第１回　作品の説明とビデオ鑑賞（作品Ａ）
【　到達目標　】
作品のおおまかなイメージをつかむ。
【授業時間外学習】
全体のイメージトレーニングを行う。(4.0hr)

第２回　振りを学ぶ①
【　到達目標　】
基本テクニックに留意しながら、明確に覚える。
【授業時間外学習】
振りの順番を確認する。(4.0hr)

第３回　振りを学ぶ②
【　到達目標　】
細かい部分のチェックもしながら、振りを覚える。
【授業時間外学習】
特に注意された箇所を思い出しておく。(4.0hr)

第４回　振りを学ぶ③
【　到達目標　】
全体を通して踊ることで、気持ちの流れやエネルギーの配分についても、研究する。舞台の使い方を意識して、通し練習する。
【授業時間外学習】
全体のイメージトレーニングを行う。(4.0hr)

第５回　踊って批評を受ける、互いに問題点を発見しあう①
【　到達目標　】
少人数ずつ踊り、アドバイスを受ける。仲間の踊りを鑑賞することで、新たな課題を発見する。
【授業時間外学習】
新たな課題を確認し、イメージを膨らませる。(4.0hr)

第６回　作品の説明とビデオ鑑賞、振りを学ぶ（作品Ｂ）
【　到達目標　】
作品のおおまかなイメージをつかむ。基本テクニックに留意しながら、明確に覚える。
【授業時間外学習】
全体のイメージトレーニングを行う。(4.0hr)

第７回　振りを学ぶ④
【　到達目標　】
細かい部分のチェックもしながら、振りを覚える。
【授業時間外学習】
振付の復習。(4.0hr)

第８回　振りを学ぶ⑤
【　到達目標　】
全体を通して踊ることで、気持ちの流れやエネルギーの配分についても、研究する。
【授業時間外学習】
全体の流れを感じ、イメージを膨らませる。(4.0hr)

第９回　踊って批評を受ける、互いに問題点を発見しあう②
【　到達目標　】
少人数ずつ踊り、アドバイスを受ける。仲間の踊りを鑑賞することで、新たな課題を発見する。
【授業時間外学習】
新たな課題を発見し、イメージを膨らませる。(4.0hr)

第10回　作品の説明とビデオ鑑賞、振りを学ぶ（作品Ｃ）
【　到達目標　】
作品のおおまかなイメージをつかむ。基本テクニックに留意しながら、明確に覚える。
【授業時間外学習】
全体のイメージトレーニングを行う。(4.0hr)

第11回　振りを学ぶ⑥
【　到達目標　】
細かい部分のチェックもしながら、振りを覚える。
【授業時間外学習】
振付の復習。(4.0hr)

第12回　振りを学ぶ⑦
【　到達目標　】
全体を通して踊ることで、気持ちの流れやエネルギーの配分についても、研究する。舞台の使い方を意識して通し練習する。
【授業時間外学習】
全体の流れを感じ、イメージを膨らませる。(4.0hr)

第13回　踊り込み、吟味
【　到達目標　】
何回も通して練習し、動きの集中力を強化していく。客席からの見え方と演者の意識の相違について考える。
【授業時間外学習】
音楽を聴きながら、舞台上の自分をイメージする。(4.0hr)

第14回　踊って批評を受ける、感想を述べあう
【　到達目標　】
少人数ずつ踊り、アドバイスを受ける。仲間の踊りを鑑賞することで、新たな課題を発見する。
【授業時間外学習】
新しい課題を心にとどめる。(4.0hr)

第15回　今後の課題を設定し、実現のための構想を練る
【　到達目標　】
今後の課題を発見し、実現するための構想を練る。
【授業時間外学習】
課題を意識した練習方法を考える。(4.0hr)

【学習上の留意点】

基礎的なテクニックを獲得し、作品を魅力的に踊り通すことができるようにしたい。そのための精神的な強さ、集中力も鍛え、自分で工夫したり練習する習慣も身につけていく。これからの４年間の基盤となる授業なので、真剣に受講して欲しい。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

平常授業での課題40%、到達時の確認課題60%。試験は別途実施する。

科目名	舞踊創作・振付法			担当者	坂　本　秀　子	
英文名	Theory of Dance Composition and Choreography					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・必修		
授業形態	講義		科目ナンバー	DMR201		

【目的とねらい】
舞踊作品という概念、作品成立のための諸条件等、基本的な理論を学ぶ。

【授業内容・到達目標など】

第１回　作品創作の動機について
【　到達目標　】
あらゆる例題を取り上げながら、作品創作の動機を探る。作品や作者のバックグラウンドについても、考察する。

【授業時間外学習】
作品創作の動機について考え、身近な作品を例に考察する。(4.0hr)

第２回　テーマ、抽象・具象について
【　到達目標　】
テーマの決定のしかた、抽象作品、具象作品などの特性を理解する。

【授業時間外学習】
他の芸術分野について、テーマ、抽象、具象について調べる。(4.0hr)

第３回　題名について
【　到達目標　】
題名の考え方、決め方について理解を深める。

【授業時間外学習】
他の芸術分野について、題名の考え方や決め方について調べる。(4.0hr)

第４回　作品の大まかなイメージ（動き、構成）
【　到達目標　】
動きと構成の関係について理解する。作品の動きにふさわしい構成とは、どんなものかを考える。

【授業時間外学習】
作品の動きにふさわしい構成について、身近な作品を例に考察する。(4.0hr)

第５回　作品の大まかなイメージ（衣裳、照明、音響）
【　到達目標　】
舞台で上演する作品は、総合芸術であることを理解し、音響、衣裳、照明のあり方について学ぶ。

【授業時間外学習】
興味のある作品を取り上げ、衣裳、音響、照明について考察する。(4.0hr)

第６回　モチーフ、フレーズについて
【　到達目標　】
作品の主張の最小単位と言えるモチーフ、フレーズのとらえ方について理解する。

【授業時間外学習】
興味のある作品を取り上げ、モチーフ、フレーズについて考察する。(4.0hr)

第７回　教材ＶＴＲ「作品のモチーフ」を見る
【　到達目標　】
教材ＶＴＲによる研究・分析を行う。

【授業時間外学習】
作品のモチーフを一つ考えてみる。(4.0hr)

第８回　動きの変化・発展
【　到達目標　】
動きの変化・発展のしかたについて学び、実演しながら理解する。

【授業時間外学習】
変化、発展のしかたについて復習する。(4.0hr)

第９回　隊形の種類、移動、変化
【　到達目標　】
隊形の種類を把握し、作品の中での効果的な移動のしかた、変化の方法について学ぶ。

【授業時間外学習】
隊形の種類、移動、変化のしかたについて、身近な作品を例に考察する。(4.0hr)

第10回　組み合わせ、比例、均等
【　到達目標　】
隊形の組み合わせについて考える。

【授業時間外学習】
隊形の組み合わせについて復習する。(4.0hr)

第11回　時間構成について
【　到達目標　】
作品の時間構成について学ぶ。全体から見た理想的な時間配分について考える。

【授業時間外学習】
作品の時間構成について、身近な作品を例に考察する。(4.0hr)

第12回　教材ＶＴＲ「作品の出来上がるまで」を見る
【　到達目標　】
例題となる教材ＶＴＲから、作品の出来るまでを理解する。

【授業時間外学習】
作品の完成するまでの流れをイメージしてみる。(4.0hr)

第13回　反複、伏線、クライマックスについて
【　到達目標　】
作品におけるクライマックスとは何か、また、その効果的なつくり方などについて考える。

【授業時間外学習】
他の芸術分野では、クライマックスをどのように捉えているかを考察する。(4.0hr)

第14回　コントラスト、リズム、調和について
【　到達目標　】
作品のコントラスト、リズム、調和について考える。

【授業時間外学習】
コントラスト、リズム、調和について、身近な作品を例に考察する。(4.0hr)

第15回　今後の課題の設定
【　到達目標　】
最も興味深いテーマを取り上げ、更に研究を深める。

【授業時間外学習】
自分で課題を見つけ、解決のための方法を考案する。(4.0hr)

【学習上の留意点】
授業ノートを工夫して作成し、今後の舞踊活動のための資料保存版となるようにしたい。各自が自習や調査などを行い、オリジナルノートを作成することを目標とし、理解度の確認を行なう。

【教科書・参考書など】
適宜、プリント等配布。

【成績評価方法】
ノート提出60%、授業内レポート40%。

科目名	舞踊方法学			担当者	髙野美和子	
英文名	Dance Methodology					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・必修		
授業形態	講義		科目ナンバー	DMR202		

【目的とねらい】

すぐれたダンサーや振付家、指導者になるための基礎として、様々な舞踊の運動特性と表現形式についての正確な理解や、身体のメカニズムに対する深い認識が必要である。この授業では、様々な舞踊作品、振付家や指導者、ダンサーに関する資料、文献などを通じて、舞踊の「運動」の種類とその特性、表現体としての身体のメカニズムとそのトレーニング方法、指導法、舞踊表現を成立させる関連事項について理論的に学ぶ。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
舞踊方法学で取り扱う領域と研究内容を理解する。
【授業時間外学習】
授業内容の関連資料を探し、目を通す。(4.0hr)

第２回　舞踊の種類と運動の特性①
【　到達目標　】
様々な舞踊運動の特性を理解する。
【授業時間外学習】
授業内容の要点を整理する。(4.0hr)

第３回　舞踊の種類と運動の特性②
【　到達目標　】
とりあげる舞踊運動を見ながら、運動の特性やメカニズムを説明することができる。
【授業時間外学習】
授業内容の要点を整理する。(4.0hr)

第４回　表現体としての身体とそのメカニズム
【　到達目標　】
表現体としての踊るからだのメカニズムについて理解する。
【授業時間外学習】
授業内容の要点を整理する。(4.0hr)

第５回　ラバン・システム
【　到達目標　】
ラバン（Laban）の動作分析、舞踊記譜法について理解する。
【授業時間外学習】
ラバンに関する資料を基に、授業内容の要点を整理し、理解を深める。(4.0hr)

第６回　プロダンサーの仕事
【　到達目標　】
プロフェッショナルに活動するダンサーの仕事について理解する。
【授業時間外学習】
授業内容の要点を整理し、映像資料に登場する用語や舞踊家について調べる。(4.0hr)

第７回　ボディ・コンディショニング
【　到達目標　】
踊るからだのメンテナンス、コンディショニングについて理解する。
【授業時間外学習】
授業内容の要点を整理し、ボディ・コンディショニング関連の資料を収集する。(4.0hr)

第８回　「遊び」の理論からのアプローチ
【　到達目標　】
舞踊の中にある「遊び」の要素を確認し、様々な現場での応用の可能性を理解する。
【授業時間外学習】
カイヨワの「遊びと人間」を参考に、授業内容の要点を整理する。(4.0hr)

第９回　インプロヴィゼーションからクリエーションへ
【　到達目標　】
即興的な活動から創作へつながるプロセスを理解し、指導現場への可能性を理解する。
【授業時間外学習】
授業内容の要点を整理し、授業中に触れた即興に関する文献に目を通す。(4.0hr)

第10回　様々な指導の現場とコミュニティ・ダンス
【　到達目標　】
様々な指導現場について理解するとともに、コミュニティ・ダンスの可能性を探り、現状を認識する。
【授業時間外学習】
授業内容を整理すると共に、身近にあるコミュニティ・ダンスについて調べる。(4.0hr)

第11回　対象者に応じた指導方法①
【　到達目標　】
学齢期におけるダンス指導（幼・小）について学び、その指導法を理解する。
【授業時間外学習】
授業内容の要点を整理する。(4.0hr)

第12回　対象者に応じた指導方法②
【　到達目標　】
学齢期におけるダンス指導（中・高）について学び、その指導法を理解する。
【授業時間外学習】
授業内容の要点を整理する。(4.0hr)

第13回　対象者に応じた指導方法③
【　到達目標　】
インクルーシブなダンスの現場について理解し、その可能性を探る。
【授業時間外学習】
授業内容の要点を整理し、インクルーシブなダンスについて調べる。(4.0hr)

第14回　コンテンポラリーダンスの可能性
【　到達目標　】
コンテンポラリーダンスの様々な現場における今後の展望を探り、理解する。
【授業時間外学習】
授業内容の要点を整理し、コンテンポラリーダンスについて調べる。(4.0hr)

第15回　授業内容の振り返り
【　到達目標　】
本講義にてとりあげた内容について振り返り、レポート作成の準備をする。
授業の理解度を確認する。
【授業時間外学習】
授業全体を振り返り、レポートを作成する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

毎回の授業中、その回の講義、資料、映像を踏まえた小レポートの提出が求められるため、集中して授業に取り組む姿勢が必要である。小レポートから授業の理解度を確認し、次の授業にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

教科書は特に指定しない。

【成績評価方法】

毎回の授業の活動内容および授業中に提出する小レポートを70%、授業内小テストと期末に提出するレポートを30%の割合として評価する。

科目名	舞台芸術論			担当者	松　澤　慶　信	
英文名	Performing Art Theory					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・必修		
授業形態	講義		科目ナンバー	DMR203		

【目的とねらい】

劇場芸術としての舞踊作品を中心にとりあげて講義をすすめていくが、舞踊はもはや踊らないで、身体の「在り様在り方」を現前するパフォーマンス・アーツとして存立するようになってから久しい。この昨今の状況に応じて、多種多様な舞踊作品を開示していきたい。その際に、舞踊作品の在り方について、20世紀の美学芸術学的な問題や概念を使って解明していく。基本的に20世紀そして21世紀へのアーツとしてのダンス論である。

【授業内容・到達目標など】

第１回　パフォーミング・アーツとパフォーマンス・アーツ

【　到達目標　】

パフォーミング・アーツとしてのダンスから、パフォーマンス・アーツとしてのダンスへの変遷が、この講座のαにしてΩである。この変貌の根幹の思想を半期をかけて追求していく。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第２回　言葉言語と身体知

【　到達目標　】

述定的形容詞によるカテゴライズな論理化、ロゴスによる概念化。言葉言語による「理解」のエピステーメーではない、テクネーとしての身体知による「了解」。ダンスの核心にせまる。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第３回　20世紀ダンス

【　到達目標　】

21世紀に生きるわれわれは20世紀のダンスを総括しなければならない。20世紀にこそ、バレエにしてもダンスにしても、芸術舞踊としての地位は確保され、それが芸術自体を推進することにもなった。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第４回　modernism

【　到達目標　】

20世紀アーツを構築する概念は二つ、formalismとexpressionismという背反する二重性にある。この二重性を追求して、モダニズムを明らかにして20世紀という時代を、そしてアートを探求したい。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第５回　表現主義舞踊とmodern dance

【　到達目標　】

バレエを否定して始まったモダン・ダンスは、バレエの特性であるパを否定したというだけでない。舞踊芸術という作品構造の省察とともに表出的表現のグッドモデルを提供する。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第６回　modernist modernとしてのformalismと抽象

【　到達目標　】

キング・オブ・モダニズムはモダニスト・モダンとしてのフォルマリズムである。ここから見えてくることは構造であり、グリーンバーグが言うような意味での作品の本質である。それは何か。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第７回　postmodernの戦略 in dance

【　到達目標　】

今なおポストモダンをわれわれは問題にする。20世紀のダンスはモダニズムとポストモダニズムに集約されるからである。ポストモダンな戦略が20世紀ダンスの様相を拡大させた。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第８回　記号論的戯れと相対主義

【　到達目標　】

「舞踊の溶解力」とは意味論的意味内容の指示機能が弱いことに端を発する。舞踊は言葉言語のようによく「わからない」からこそおもしろいし、記号論的に戯れるという存在根拠を持つ。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第９回　deconstructive

【　到達目標　】

脱構築は「内部からの解体」であることと「解体する対象が明確」であることに尽きる。思想の具体例に芸術をあげることは正しい。中でもダンスは適任だと言いたい。その好例をここでも披露する。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第10回　minimalism

【　到達目標　】

ポストモダン・ダンスとしてのミニマル・ダンスがやがて、ミニマル・ミュージックを使ったダンス全般をそう呼ぶようになった時には、そのダンスはもはやポストモダンではなくなった。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第11回　retrospective

【　到達目標　】

ダンスにおける懐古主義とは何か。われわれはダンスにノスタルジーを見るのだろうか。存在のハイマートにダンスは存立するのか。安易な懐古趣味ではない存在の本質を見極めたい。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第12回　contemporary dance

【　到達目標　】

結局コンテンポラリー・ダンスとポストモダン・ダンスとはどう違うのか。前者の美学は後者で言い尽くせると私は考える。コンテンポラリー・ダンスはまず国家的な政策であった。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第13回　テクニック論

【　到達目標　】

テクニックの語源であるテクネーが経験知による身体知であることは、アリストレスの「ニコマコス倫理学」にすでにある。この問題は知の本来を反省する。「技」の問題から始めよう。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第14回　21世紀ダンス

【　到達目標　】

21世紀のダンスとは何か。ポストモダンを経てわれわれは今どこに向かうのか。もう一度20世紀の問題を確認し、21世紀になって起こってきている問題を具体的に取り上げよう。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第15回　問題の所在

【　到達目標　】

前回取り上げた問題は実はわれわれにとって切実な問題なのか。否定的な意味で問題なのか、次のダンスを考える上での分析対象として問題なのか。それへの取り組み方自体を検証しよう。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

※上記内容を理解することを本科目の到達目標とする。

【学習上の留意点】

基本的に予備知識は必要ない。受講者の知的好奇心が必須条件。もちろんこちら側もその好奇心をそそるように努めたいと思うが、そちら側の積極的志向性をのぞむ。ダンスを通じた美学的思考を鍛えてほしい。

２年次前期開講の「舞踊分析法」を是非履修してこの授業にのぞんでほしい。

【教科書・参考書など】

授業中に指示するが、参考書として、『ダンスは国家と踊る』（アニエス・イズリーヌ著）慶應義塾大学出版会と、『20世紀ダンス史』（ナンシー・レイノルズ他著）慶應義塾大学出版会をあげる。

【成績評価方法】

試験は試験期間中に別途実施。その試験の採点が100%評価となる。

科目名	舞踊音楽論			担当者	森　　立子	
英文名	Music for Dance					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・必修		
授業形態	講義		科目ナンバー	DMR204		

【目的とねらい】

この授業では、西洋音楽の基礎的諸概念を確認しつつ、舞踊における音楽の役割、効果について考えていく。毎回、特定のトピックをとりあげ、これに関連する楽曲を紹介した上で、それが舞踊作品の中でどのように機能しているかを考察していく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　拍子とは何か
【　到達目標　】
西洋芸術音楽における「拍子」の概念について理解する。
【授業時間外学習】
授業時に指定した曲を聴いてくる。(4.0hr)

第２回　変拍子
【　到達目標　】
「変拍子」の概念と、変拍子を用いた主要な作品について理解する。
【授業時間外学習】
授業時に指定した曲を聴いてくる。(4.0hr)

第３回　変奏曲とは何か
【　到達目標　】
「変奏曲」のさまざまなあり方について、楽曲を鑑賞しながら理解する。
【授業時間外学習】
授業時に指定した曲を聴いてくる。(4.0hr)

第４回　楽音と非楽音
【　到達目標　】
「楽音」、「非楽音」の概念と、非楽音を使用したさまざまな楽曲について理解する。
【授業時間外学習】
授業時に指定した曲を聴いてくる。(4.0hr)

第５回　ミニマル・ミュージックと舞踊
【　到達目標　】
「ミニマル・ミュージック」の概念と、これを使用した舞踊作品について理解する。
【授業時間外学習】
授業時に指定した曲を聴いてくる。(4.0hr)

第６回　楽器の象徴性
【　到達目標　】
西洋においてそれぞれの楽器に伝統的に付加されてきた「イメージ」について理解し、楽曲の中でそれがどのように活用されているのかを分析する。
【授業時間外学習】
授業時に指定した曲を聴いてくる。(4.0hr)

第７回　行進曲と舞踊
【　到達目標　】
行進曲の基本的な構造について理解し､いくつかの楽曲を鑑賞しながらその実際の例にあたる。
【授業時間外学習】
授業時に指定した曲を聴いてくる。(4.0hr)

第８回 編曲とは何か
【　到達目標　】
「編曲」の概念と、さまざまな編曲の手法について理解する。
【授業時間外学習】
授業時に指定した曲を聴いてくる。(4.0hr)

第９回　即興の諸側面
【　到達目標　】
西洋芸術音楽における様々な「即興」について、実例を鑑賞しながら理解する。
【授業時間外学習】
授業時に指定した曲を聴いてくる。(4.0hr)

第10回　物語と音楽（１）
【　到達目標　】
「標題音楽」、音楽における「引用」について学ぶ。
【授業時間外学習】
授業時に指定した曲を聴いてくる。(4.0hr)

第11回 物語と音楽（２）
【　到達目標　】
「ライトモティーフ」の概念について学び、いくつかの楽曲を鑑賞しながらその実際の例にあたる。
【授業時間外学習】
授業時に指定した曲を聴いてくる。(4.0hr)

第12回　映像と音楽
【　到達目標　】
映像作品において音楽がどのような機能を担っているのかについて、実際に映像を見ながら分析し、理解する。
【授業時間外学習】
授業時に指定した曲を聴いてくる。(4.0hr)

第13回　オペラと舞踊（１）
【　到達目標　】
オペラにおける舞踊のあり方について、主に18世紀までの作品を考察することにより理解する。
【授業時間外学習】
授業時に指定した曲を聴いてくる。(4.0hr)

第14回　オペラと舞踊（２）
【　到達目標　】
オペラにおける舞踊のあり方について、19世紀以降の作品を考察することにより理解する。
【授業時間外学習】
授業時に指定した曲を聴いてくる。(4.0hr)

第15回　音楽の視覚化
【　到達目標　】
音楽を視覚化する試みについて、バロック時代以降の複数の例を考察する。
【授業時間外学習】
授業時に指定した曲を聴いてくる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

音楽という科目の性格上、CD・DVDなど視聴覚教材を多用した授業展開になるため、欠席しないことが大前提となる。
各テーマの終了時にコメントカードを書いてもらう予定。このコメントカードに書かれた内容も成績評価の対象とする。

【教科書・参考書など】

授業の際に随時紹介する。

【成績評価方法】

テーマごとに課すコメントカードの内容30%、学期末レポート70%の割合で評価する。

科目名	創作Ⅰ			担当者	松　山　善　弘	
英文名	Choreography Ⅰ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・必修		
授業形態	演習		科目ナンバー	DMR205		

【目的とねらい】

舞踊の創作は多様化してきた。テーマのあるもの、趣向を見せるもの、抽象的なもの、音楽的なもの、コラボレーション、マルチメディアを使った創作など、これらの振付を学び、振付の様式を学ぶ。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業進行についてのオリエンテーション（DVDを使用）
【　到達目標　】
授業進行について理解する。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第２回　与えられた条件で振り付ける
【　到達目標　】
与えられた条件で、自由に即興できるようになる。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第３回　与えられた言葉を基に、グループで作品をつくってみる
【　到達目標　】
言葉を基に、自由に発想を広げられるようになる。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第４回　創作に必要な過程を学ぶ（テーマ選び、モチーフ作りetc）
【　到達目標　】
テーマ選び、モチーフ作りについて理解し習得する。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第５回　創作に必要な過程を学ぶ（構成、音楽etc）
【　到達目標　】
構成方法、選曲等について理解する。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第６回　創作に必要な過程を学ぶ（まとめ）
【　到達目標　】
創作に必要な過程を理解し、習得する。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第７回　実際にソロの作品を創作する１
【　到達目標　】
自由な発想で作品創りに臨めるようになる。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第８回　実際にソロの作品を創作する２
【　到達目標　】
自由な発想で作品創りに臨めるようになる。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第９回　実際にソロの作品を創作する３
【　到達目標　】
自由な発想で作品創りに臨めるようになる。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第10回　実際にソロの作品を創作する４
【　到達目標　】
自由な発想で作品創りに臨めるようになる。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第11回　作品の発表と合評１
【　到達目標　】
作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。
【授業時間外学習】
発表された作品について、自分なりの評価をしてみる。(4.0hr)

第12回　作品の発表と合評２
【　到達目標　】
作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。
【授業時間外学習】
発表された作品について、自分なりの評価をしてみる。(4.0hr)

第13回　作品の発表と合評３
【　到達目標　】
作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。
【授業時間外学習】
発表された作品について、自分なりの評価をしてみる。(4.0hr)

第14回　作品の発表と合評４
【　到達目標　】
作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。
【授業時間外学習】
発表された作品について、自分なりの評価をしてみる。(4.0hr)

第15回　作品の発表と合評５
【　到達目標　】
作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。
【授業時間外学習】発表された作品について、自分なりの評価をするとともに、自分の作品に関しても再度分析する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

固定観念にとらわれず、自由な発想で授業に臨んで下さい。

【教科書・参考書など】

特にありません。

【成績評価方法】

時間毎のレポート４０％、創作実習６０％の割合で総合的に評価する。

科目名	野外上演法			担当者	渡辺　碧	
英文名	Outdoor Performance					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・必修		
授業形態	演習		科目ナンバー	DMR206		

【目的とねらい】

舞踊におけるマスゲームとしての作品づくりを通して、舞台芸術としての舞踊の表現との違いを学ぶ。

マスゲームの集団美、表現美を追求するとともに集団の中で個人としての責任と協調性を養う。また、将来自分が指導者となった際に、集団の指揮が取れ、指導ができるようになることを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション（グループ構成、テーマ設定、マスゲーム概要など）
【　到達目標　】
15時間の流れを理解する。マスゲームの概要を理解する。テーマ設定（3部構成）をする。各グループに分かれて、お互いを理解する。

【授業時間外学習】
グループでテーマについて、文献を用いて下調べをする。(4.0hr)

第２回　選曲と動きのモチーフづくり①
【　到達目標　】
①テーマに基づき選曲をする。
②各グループでモチーフづくりを行い、それぞれグループ内で発表出来る。

【授業時間外学習】
選曲した曲を編集する。今までのマスゲーム作品を研究する。(4.0hr)

第３回　選曲と動きのモチーフづくり②
【　到達目標　】
各グループでモチーフづくりを行い、それぞれグループ内で発表出来る。

【授業時間外学習】
今日の発表での課題について再検討し、改善点を洗い出す。(4.0hr)

第４回　グループで作品づくり①
【　到達目標　】
各グループで出来上がったモチーフを元に作品づくりを行い、それぞれのグループ内で発表出来る。

【授業時間外学習】
今日の発表での課題について再検討し、改善点を洗い出す。(4.0hr)

第５回　グループで作品づくり②
【　到達目標　】
各グループで出来上がったモチーフを元に作品づくりを行い、それぞれのグループ内で発表出来る。グループ作品発表に向けて、作品を踊り込む。

【授業時間外学習】
今日の発表での課題について再検討し、改善点を洗い出す。(4.0hr)

第６回　グループで作品づくり③
【　到達目標　】
各グループで出来上がったモチーフを元に作品づくりを行い、それぞれのグループ内で発表出来る。次回のグループ作品発表に向けて、作品を完成させ、クオリティを高める。

【授業時間外学習】
次回のグループ発表に向けて練習する。(4.0hr)

第７回　グループ作品発表、鑑賞、評価
【　到達目標　】
①各グループの作品を発表する。②テーマに合っている作品を選出する。③選出されたグループの作品を理解し、自分がその作品の一部分となって、作品に参加することを理解する。

【授業時間外学習】選出されたグループは、次回からの振りうつしのスケジュールと具体的な構成プランを立て、それに伴う振付を考える。(4.0hr)

第８回　1部の振りうつしと指導法
【　到達目標　】
3部構成のうちの1部の振付グループは、他のグループに振りをうつし、指導を行う。指導する側は作業をスムーズに行う。指導を受ける側は、与えられた振付を正しく踊ることが出来る。

【授業時間外学習】振付を復習し、振りうつし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次回の授業に活かす。(4.0hr)

第９回　1部、2部の振りうつしと指導法
【　到達目標　】
3部構成のうちの1部、2部の振付グループは、他のグループに振付をうつし、指導を行うことが出来る。指導する側は作業をスムーズに行うことが出来、指導を受ける側は与えられた振付を正しく踊ることが出来る。
【授業時間外学習】振付を復習し、振りうつし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次回の授業に活かす。(4.0hr)

第10回　2部の振りうつしと指導法
【　到達目標　】
3部構成のうちの2部の振付グループは、他のグループに振付をうつし、指導を行うことが出来る。指導する側は作業をスムーズに行うことが出来、指導を受ける側は与えられた振付を正しく踊ることが出来る。
【授業時間外学習】振付を復習し、振りうつし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次回の授業に活かす。(4.0hr)

第11回　3部の振りうつしと指導法
【　到達目標　】
3部構成のうちの3部の振付グループは、他のグループに振付をうつし、指導を行うことが出来る。指導する側は作業をスムーズに行うことが出来、指導を受ける側は与えられた振付を正しく踊ることが出来る。
【授業時間外学習】振付を復習し、振りうつし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次回の授業に活かす。(4.0hr)

第12回　3部の振りうつし及び全体構成の見直し・調整①
【　到達目標　】
1、2、3部の振りうつしがほぼ完成となり、各部のつなぎ部分を考案する。また、そのつなぎの部分を指導することが出来、踊りを習得することが出来る。

【授業時間外学習】振付を復習し、振りうつし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次回の授業に活かす。(4.0hr)

第13回　全体構成の見直し・調整②、通し練習①
【　到達目標　】
1、2、3部間の調整を行い、すべての振付を正しく踊ることが出来る。

【授業時間外学習】振付を復習し、振りうつし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次回の授業に活かす。調整された作品全体を見直す。(4.0hr)

第14回　通し練習②
【　到達目標　】
野外で上演することを念頭におき、出はけを含め、通して踊ることが出来る。

【授業時間外学習】野外で上演することをイメージして、全体を見直す。さらにクオリティを高めるための手段を実践する。(4.0hr)

第15回　野外で上演
【　到達目標　】
実際、グラウンドにおいて、観客の中で上演することが出来る。

【授業時間外学習】
上演に関してと、これまでの授業に対する反省と感想をまとめる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

必修科目のため110名近くが受講する。決して人任せにせず、全員が作品づくりに積極的に参加すること。また舞台上演法とは異なり、野外で上演することを常に意識し、理解する（上演場所の大きさ・出演人数・観客層・演出・振付内容・作品構成など）。第7回の「グループ作品発表」、第15回「野外で上演」では、各グループに対して、口頭で作品およびこれまでの創作過程についてのフィードバックを行う。

作品が固まる時期には、衣裳・メイク考案も同時進行で行う。多くの受講者は野外での上演が初の試みとなるため、その状況をよく把握して発表に挑むこと。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

授業における課題達成度40%、学習意欲・関心・積極性・作品への貢献度40%、レポート20%を総合的に評価する。

科目名	タップダンス			担当者	藤井真梨子	
英文名	Tap Dance					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門・選択		
授業形態	実技		科目ナンバー	DME101		

【目的とねらい】

ミュージカルには欠かせないダンスバリエーションの一つであるタップダンスの世界を心技、身体を通して学ぶ。特にタップダンスの基礎知識及びタップテクニックを実技授業を中心に学ぶ。更にタップテクニックのみに捉われず、感性豊かな自己表現がいかに重要かを学び将来へと繋げる。

【授業内容・到達目標など】

第１回　タップダンス入門
【　到達目標　】
ダンスとしてのタップの位置付け、タップダンスの歴史を理解する。
【授業時間外学習】
タップダンスへの興味。ダンスとしてとらえる。タップダンスに注目する。(1.0hr)

第２回　タップダンス基礎Ⅰ
【　到達目標　】
タップダンスに必要な膝の使い方の理解を深め基礎ステップの習得、リズムの取り方を理解する。
【授業時間外学習】
膝を使ってのステップ復習。(1.0hr)

第３回　タップダンス基礎Ⅱ
【　到達目標　】
膝を使って基礎ステップの原理を理解する。
【授業時間外学習】
膝を使ってのステップ復習。(1.0hr)

第４回　タップダンス基礎Ⅲ
【　到達目標　】
基礎Ⅱをより深め応用ステップへのアプローチへ繋げる。
【授業時間外学習】
膝を使うことへの理解を深める。(1.0hr)

第５回　タップダンス基礎Ⅳ
【　到達目標　】
基礎ステップの簡単な応用へ理解を深めていく。
【授業時間外学習】
基礎ステップの復習。(1.0hr)

第６回　タップダンス基礎Ⅴ
【　到達目標　】
リズムバリエーションへの理解をする。
【授業時間外学習】
基礎ステップの復習をしてリズムバリエーションへ繋げる。(1.0hr)

第７回　タップダンス初級
【　到達目標　】
表現としての上半身の使い方への理解をする。
【授業時間外学習】
ステップとアームスの連動の復習。(1.0hr)

第８回　タップダンス中級
【　到達目標　】
聴覚へ訴え、なおかつ視覚へも訴える事への理解をする。
【授業時間外学習】
音、サウンド、音色の復習。(1.0hr)

第９回　タップテクニカル
【　到達目標　】
複雑化していくリズムの理解及び習得を目指していく。
【授業時間外学習】
リズムバリエーションの復習。(1.0hr)

第10回　タップダンス上級
【　到達目標　】
リズム、音、音色、タッチ、表現に対して理解を深めていく。
【授業時間外学習】
表現を深めていく復習。(1.0hr)

第11回　課題曲への挑戦Ⅰ
【　到達目標　】
習得したステップを課題曲にのせメロディーとリズムの融合を体感する。
【授業時間外学習】
メロディーに乗ることへの復習。(1.0hr)

第12回　課題曲への挑戦Ⅱ
【　到達目標　】
表現としての課題曲を楽しく又楽しんで踊る。
【授業時間外学習】
上半身、下半身、全身での表現の復習。(1.0hr)

第13回　タップダンスの「エンターテイメント」性に触れる
【　到達目標　】
自己表現としてのタップダンスを現代のタップダンスに融合させて楽しむ。
【授業時間外学習】
様々な音楽に合わせることへの復習。(1.0hr)

第14回　ミュージカル、シアタータップへの理解
【　到達目標　】
ミュージカル映画、舞台、DVD等の鑑賞。
【授業時間外学習】
ミュージカル映画等を通して、鑑賞レポートにより、タップダンスの理解を深める。(1.0hr)

第15回　自己表現としてのタップダンス
【　到達目標　】
発表する事により自己表現を深めていく。
【授業時間外学習】鑑賞レポート「タップダンスと私」を提出し、自己表現の一つとしてのタップダンスを理解していく。(1.0hr)

【学習上の留意点】

タップダンスの基礎を用語とともにしっかり身につける。従ってジャズスニーカーにて体をしっかり支え、なおかつきちっとタップサウンドが生み出せるよう反復練習をする。音が出てくる事を体感、実感できることを学ぶ。

【教科書・参考書など】

DVD、ミュージカル映画・舞台ビデオ、等を習得資料としていく。

【成績評価方法】

タップ基礎知識テスト30%、課題曲タップダンス実技テスト70%として評価する。

科目名	コンタクト・ワーク			担当者	松　山　善　弘	
英文名	Contact Work					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門・選択		
授業形態	実技		科目ナンバー	DME102		

【目的とねらい】

重力の法則にのっとりながら、重心を維持せず、オフバランスで互いの身体を支え合って動きが展開し、さらにはパートナーとの動きの力を取り込むことによって、重心をはぐらかし、むしろ勢いに乗ってひとつの身体ではなし得ない妙技や形を創り出していくコンタクトワークを体験する事によって、既成の舞踊概念にとらわれない創造性を身につける。

【授業内容・到達目標など】

第１回　身体間のコンタクトポイントを変化させて動きを生み出す１ 【　到達目標　】 コンタクト・ワークの法則について理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)	**第９回　空間を360度方位で使いきる１** 【　到達目標　】 より広い範囲で空間を感じ取れるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)
第２回　身体間のコンタクトポイントを変化させて動きを生み出す２ 【　到達目標　】 人と組むことによってコンタクト・ワークの法則をより深く理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)	**第10回　空間を360度方位で使いきる２** 【　到達目標　】 より広い範囲で空間を感じ取れるようになり、その範囲の中を自由に動けるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)
第３回　皮膚を通して感じる１ 【　到達目標　】 体の表面で感じた事をそのまま動きに変える事が出来るようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)	**第11回　弾みをつけて動き、体重と動きの流れを重視する１** 【　到達目標　】 弾みをつけて効率よく動いていく事をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)
第４回　皮膚を通して感じる２ 【　到達目標　】 体の表面で感じた事をそのまま動きに変える事が出来るようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)	**第12回　弾みをつけて動き、体重と動きの流れを重視する２** 【　到達目標　】 弾みをつけて効率よく動いていく事をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)
第５回　身体全体を使って転がる１ 【　到達目標　】 身体全体で転がる事をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)	**第13回　あるがままに自由にダンスをうまれさせる１** 【　到達目標　】 人、あるいは物とコンタクトしながら連続したフレーズを作れるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)
第６回　身体全体を使って転がる２ 【　到達目標　】 身体全体で転がる事をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)	**第14回　あるがままに自由にダンスをうまれさせる２** 【　到達目標　】 人、あるいは物とコンタクトしながら連続したフレーズを作れるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)
第７回　内側から動きを体験する１ 【　到達目標　】 表面からだけではなく、内面から浮かんでくる感覚を感じ取れるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)	**第15回　あるがままに自由にダンスをうまれさせる３** 【　到達目標　】 人、あるいは物とコンタクトしながら一つの作品を作れるようになる。 【授業時間外学習】 全体の復習とまとめをし、コンタクト・ワークについて理解する。(1.0hr)
第８回　内側から動きを体験する２ 【　到達目標　】 表面からだけではなく、内面から浮かんでくる感覚を感じ取れるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)	

【学習上の留意点】

人、あるいは物と接触しながら動きを作り出していくので、自分がコンタクトしているものに対して、細心の注意をはらいながら動く事を忘れないようにして下さい。

【教科書・参考書など】

「コンタクト・インプロヴィゼーション―交感する身体」シンシア・J. ノヴァック　フイルムアート社

【成績評価方法】

レポート３０％、演習作品７０％の割合で総合的に評価する。

科目名	ボディ・コンディショニング			担当者	今田康二朗	
英文名	Physical Conditioning					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	講義		科目ナンバー	DME201		

【目的とねらい】

身体に対する、外側(＝形)からのアプローチをではなく、身体内側からのコーディネーション、分析、そして動きを研究、習得する。同時にそのメインテナンスと能力向上方法を体験し、その重要性と実践方法を考える。また呼吸がいかに身体、身体運動、さらにはダンスに対しての影響を認識するのか、その重要性と活用法を考察、実践する。そして、全身の関節を活性化すること、つまりは普段あまりアクティブではない関節を動かしてあげることにより、身体ムーブメントのボキャブラリーを広げ、かつ、動かしてやることによって筋力と、全身コーディネーションを構築する。以上の点を踏まえ、これらの知識をいかにダンスに反映させるかという点について重点を置く。

【授業内容・到達目標など】

第１回 身体を内側から観察し、問題意識を高める。

【　到達目標　】

様々な呼吸パターンを含むエクササイズを実際に体験し、そのコーディネーションを体験する。その後、ワークグループに分かれ、それらがどのような影響を身体にもたらしたかを研究する。

【授業時間外学習】

授業前後に自己の身体を観察し、その身体の変化を書き出す。(4.0hr)

第２回　ダンスムーブメントにおける筋肉、骨の役割と運動

【　到達目標　】

ダンスにおいて、最低限知っておくべき解剖学に触れ、自身の内側からの身体認識を高める。

【授業時間外学習】実際のダンスレッスンにおいて、特に大腰筋に注目し、腰椎、骨盤と股関節、大腿骨との関係を考える。(4.0hr)

第３回　脊椎の基本運動

【　到達目標　】

脊椎の基本運動について学び、積極的にそれらを実践する。
普段慣れているムーブメントを脊椎の基本運動という点から分析、観察する。

【授業時間外学習】

日常生活における脊椎の運動を脊椎の基本運動からの視点で観察する。(4.0hr)

第４回　肩帯、脊椎、骨盤の関係性

【　到達目標　】

肩帯と骨盤の関係性を脊椎を通して分析、認識する。さらには、それぞれに連なる四肢の運動との関連性について観察、研究する。

【授業時間外学習】

日常生活における腰椎の運動を肩帯及び骨盤の関係から観察する。(4.0hr)

第５回　肩帯の構造とその運動

【　到達目標　】

肩帯について学び、それに対するエクササイズを習い、実践する。その上で、それらをいかにダンスに反映させ、最大限の運動領域を、身体に負担をかけることなく実践していくことについて、ワークグループに分かれて研究する。

【授業時間外学習】

授業内容を踏まえた上で、肩帯にフォーカスを当て、ダンスクラスを実践する。(4.0hr)

第６回　骨盤の構造とその運動

【　到達目標　】

骨盤について学び、それに対するエクササイズを習い、実践する。その上で、それらをいかにダンスに反映させ、最大限の運動領域を、身体に負担をかけることなく実践していくことについて、ワークグループに分かれて研究する。

【授業時間外学習】

授業内容を踏まえた上で、骨盤にフォーカスを当て、ダンスクラスを実践する。(4.0hr)

第７回　　呼吸の重要性と呼吸法の種類

【　到達目標　】

人間活動の原点である呼吸について学び、いろいろな種類の呼吸法をワークグループごとに研究、体験する。

【授業時間外学習】日常生活のなかで、どのような状況の時にどのような呼吸をしているのか観察、認識する。呼吸という普段無意識におこなう運動に対して、発見をする。(4.0hr)

第８回　運動と呼吸の関連性および循環器系について

【　到達目標　】

異なる呼吸法がいかに異なる影響を身体に及ぼすかについてワークグループごとに体験し、観察をする。

【授業時間外学習】前回の授業時間外学習を踏まえ、普段の生活における様々な状況を２０個書き出し、それぞれの際にどのような呼吸をしているのか一覧にする。(4.0hr)

第９回　呼吸と身体運動のシンクロナイゼーション

【　到達目標　】

前回の内容を踏まえ、いかに呼吸と運動を関連づけるかについてワークグループごとに研究、実践する。

【授業時間外学習】

実際のダンスレッスンを通して、呼吸法という観点からムーブメントを最適化する。(4.0hr)

第10回　アクティブ・ストレッチングの概念と重要性

【　到達目標　】

アクティブ・ストレッチングとパッシブ・ストレッチングの概念を理解し、なぜ、前者がダンサーやスポーツ選手にとって必要なのかを理解し、実践する。

【授業時間外学習】普段各自が行っているストレッチを１０種類程度あげ、アクティブ・ストレッチングかパッシブ・ストレッチングの二つに分類する。(4.0hr)

第11回　リニア(２Ｄ)なムーブメントと三次元的(３Ｄ)ムーブメント

【　到達目標　】

リニア・ムーブメントと三次元的ムーブメントを比較し、その概念がどのように全身のムーブメントに影響を与えるかについて理解する。

【授業時間外学習】リニア・ムーブメントと三次元的ムーブメントをそれぞれ１０種類以上あげ、一覧にする。映像でも可。(4.0hr)

第12回　ムーブメントにおける全身コーディネーションの重要性について

【　到達目標　】

全身コーディネーションについて十分に理解し、それがどのようにムーブメントに影響し、結果的には身体の強さやコントロールを導くことができるか理解する。

【授業時間外学習】全身コーディネーションによるムーブメントとアイソレーションによるムーブメントをそれぞれ３０秒程度で実際に作ってみる。(4.0hr)

第13回　ダンサーに多くみられる身体的故障とその対策

【　到達目標　】

ダンサーのけがには理解不足からくるものも多い。それを理解し、さらにどのようにしてそういったものを避けていくのかについて理解する。

【授業時間外学習】過去に経験したけがを再発させないためには、どのような取り組みをすればいいのか考察する。(4.0hr)

第14回　ダンスにおけるインテリジェント・ムーブメント

【　到達目標　】

これまでの内容を振り返り、それらをダンスに反映させるためのエクササイズを体験かつ、実践し、理解をする。その後、ワークグループごとにそのダンスにおける活用法について研究、議論する。

【授業時間外学習】それぞれがすでに踊った経験のある振り付けから、30秒程度を抜き出し、それを評価、そして、身体に負担になる部分をいかに改善できるか考察する。(4.0hr)

第15回　実践とフィードバック

【　到達目標　】

5-6人程度のグループに分かれる。授業外時間外学習で用いた振り付けをそれぞれが発表し、それについて改善点や、問題点をグループディスカッション、フィードバックする。

【授業時間外学習】

毎日の授業、レッスン、リハーサルにこれまでの知識を反映させる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

自分や他者の身体に触れること（他者が自分の体に触れること＝ハンズオン）もある。配慮が必要な場合には、授業開始前に申し出ること。上記のようにワークグループに分かれてのディスカッションや実践研究を多く含む。積極的に自身の意見や観点を伝えること、かつ他の学生の主張を尊重し、それを踏まえた上で実践研究することが求められる。レポートは各授業ごとの記録、考察、発見等を記した上、総括としてこの科目で学習した内容をいかに今後活用していくかという実践目標を加えた形とする。これは授業内容確認という側面よりむしろ、セルフフィードバックとしての役割に重きを置く。

GYROTONIC® 及び GYROKINESIS® 方法論に基本を置く。GYROTONIC® and GYROKINESIS® are registered trademarks of Gyrotonic Sales Corp. and are used with their permission.

【教科書・参考書など】

各自ヨガマットと、大型のバスタオルを持参のこと。

【成績評価方法】

実技試験70%、レポート課題30%として評価する。

科目名	舞踊分析法演習			担当者	松　澤　慶　信	
英文名	Seminar in Analytic Methods of Dance					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	演習		科目ナンバー	DMR202		

【目的とねらい】

representationあるいは感情表出が舞踊表現だと考えるような、意味論的意味に今もなお従属させられている舞踊作品の在り方に疑義を呈し、その呪縛を果敢に断ち切ることが、この授業の目的である。

この挑戦の可能性を根底から支える理念は、舞踊の存在理由に関わる、身体と空間、身体と音楽との関係、つまりどのような時間分節と空間分節をもって、身体はそれらと相見えるのかを見極めることにある。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション

【　到達目標　】

この授業の位置づけを確認したい。物語論的意味論的意味から作品を作るのではなく、あくまでもフォルマリスティックな構造論的契機から作品を作ることを確認する。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第２回　動きの言葉の採集

【　到達目標　】

動くことを同定する動きに関する言葉を採集する。しかしそれをシャッフルして、単に動くための契機として扱う。動きのヴォキャブラリーを捜すためである。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第３回　動きの言葉からの実践

【　到達目標　】

上記した言葉の語彙から動きの語彙へと転換して、その動きの語彙を使ってシークエンスを作る。そしてその並べ方をどうすれば全体が現れてくるのかを見る。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第４回　構成　振り移し

【　到達目標　】

上記した全体的構造を意識して作った振付を、今度は第三者に振り移す作業に入る。どうやって相手に伝えるか。身体の動きのキャッチボールを反省する。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第５回　カノンとヴァリエーション

【　到達目標　】

動きの構成であるフォーメィションを、動きを繰り返すカノンと、一つの動きから少しずつ変形させていくヴァリエーションとによって展開する。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第６回　音合わせ

【　到達目標　】

音楽というよりも音そのものに合わせて動く訓練。音楽の時間分節と動きの時間分節を呼応させる作業であり、動きの時間分節の自立性を阻止して音にあえて従属させる作業である。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第７回　身体部位コンタクト・ワーク

【　到達目標　】

身体の部位を表と裏に分けて、全部で25ほどのポイントをそこに刻印して、無作為に選んだその番号にそってデュエットの二人が交互に接触するようにする。その上で流れを作ること。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第８回　空間配置と幾何学的formation

【　到達目標　】

基本的にはまずオーソドックスな幾何学的な図形、線や円の中心による対称形を確認することから始める。その上で少しずつそれをずらしていき、やがては自由な空間を獲得すること。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第９回　chance operationⅠ

【　到達目標　】

床空間を同じ面積の四角形で16分割してナンバリングする。ペーパー上で1分間に移動するルールを作る。その作成された時間・空間の分節にそって、実際にその床空間を移動する。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第10回　chance operationⅡ

【　到達目標　】

チャンス・オペレーションとして機能させるために、床空間のナンバリングを作成図を終えてからする、あるいはその作成図を無作為に選んだ第三者に渡して空間を移動するようにする。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第11回　total cordinationⅠ

【　到達目標　】

上記のチャンス・オペレーションによって移動するフォーメィションが、グルーピングしたダンサーによって、どう変わってくるか。その集団による群舞を確認すること。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第12回　total cordinationⅡ

【　到達目標　】

チャンス・オペレーションによって作成されたフォーメィションを、無作為に選ばれたグループが動く中に、しかし何らかの全体性統一性が現れてくることの確認をしたい。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第13回　作品発表Ⅰ

【　到達目標　】

この授業で取り組んできた、動きの採集、語彙作り、構成、フォーメィション作業を各人が有効に利用して、作品を作ること。どの方法に重きを置いて作業するかも各人の自由。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第14回　作品発表Ⅱ

【　到達目標　】

作品発表を行う。鑑賞されることを前提に創作すること。観客の視線が作品を鍛える。見る・見られることを通じて、作品の完成度を高めることと、見ることの自覚を持つこと。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第15回　講評

【　到達目標　】

各人の作品の講評を全員で行って、方法だけでなく、その作業手順、方法論そのものを振り返る。創作するとは結局どういうことか。身体の営為を広くとらえたい。それもダンスなのだ。

【授業時間外学習】

講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

※上記内容を理解することを本科目の到達目標とする。

【学習上の留意点】

振付経験は問わない。むしろ無垢な身体がここでの方法に立ち向かうことをのぞむ。

３年次前期開講の「舞踊創作原論」と３年次後期開講の「舞台演出論」と両方とも履修して、全体でダンスを創作することが身体の営為であることを自覚してほしい。

【教科書・参考書など】

授業中に指示する。

【成績評価方法】

各項目での達成度をその都度見て考慮する。発表内容による評価100%。

科目名	舞踊音楽制作			担当者	浅　野　　淳	
英文名	Accompaniment and Composition					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	演習		科目ナンバー	DME203		

【目的とねらい】

舞踊と音楽は、無音も含めて切り離せない関係を持つといえるだろう。モダンからコンテンポラリーまで、実際の作品を例として取り上げながら、その表現における多様性、可能性を探ることによって、舞踊と音楽の関係性についての知識と理解を深めるとともに、音楽の選曲、編集、そして音素材を使用しての音楽の構成を、実際に体験することによって、舞踊創作及び音楽の創作における発想力と表現力を養うことを目指す。

【授業内容・到達目標など】

第１回　音楽とダンスについて：無音と音楽
【　到達目標　】
無音、静寂、音の始まりと終わり、曲間等について。音の与える影響について理解を深める。
【授業時間外学習】講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)

第２回　ダンスと音楽編曲、編集、効果について
【　到達目標　】
作品や実例を通しての理解。
【授業時間外学習】講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)

第３回　ダンスと音楽の多様性１（効果、エフェクト）
【　到達目標　】
音素材に効果＝エフェクトをかけた実例を通して、その与える影響を学ぶ。
【授業時間外学習】講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)

第４回　ダンスと音楽の多様性２（ミニマル・ミュージック他）
【　到達目標　】
ダンスで比較的頻繁に使用される、ミニマル・ミュージックと呼ばれる音楽の構造や理念、実際の使用例を通して理解を深める。
【授業時間外学習】講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)

第５回　ダンスと音楽の多様性３（ミニマル・ミュージック以降）
【　到達目標　】
前回からの続き、より多様な表現を探る。
【授業時間外学習】講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)

第６回　ダンスと音楽の多様性４（ノイズ、インダストリアル他）
【　到達目標　】
雑音や効果音を音として使用した作品をみてゆく。
【授業時間外学習】講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)

第７回　実習１：音楽ソフトの使用法、実践
【　到達目標　】
実際にPCで音楽ソフトを使用して操作法を学ぶ。
【授業時間外学習】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、２回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)

第８回　実習２：音楽編集の実践１
【　到達目標　】
用意された音楽素材を利用しての編集の実習。
【授業時間外学習】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、２回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)

第９回　実習３：音楽編集の実践２
【　到達目標　】
前回の続き。エフェクト等の使用法も含めた実習。
【授業時間外学習】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、２回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)

第10回　実習４：音楽編集の仕上げとファイルの提出
【　到達目標　】
編集した音源ファイルの仕上げと提出。
【授業時間外学習】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、２回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)

第11回　実習５：音楽構成の実践１
【　到達目標　】
用意された短い音（断片や効果音）を使用して、ダンスのための音楽として構成する。
【授業時間外学習】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、２回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)

第12回　実習６：音楽構成の実践２
【　到達目標　】
前回の続き。様々な手法にのっとっての模索、試行錯誤をしてもらい、音楽としての仕上げを目指す。
【授業時間外学習】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、２回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)

第13回　実習７：音楽構成の実践３
【　到達目標　】
前回の続き。音楽をどのように構成して仕上げるか、方針を固める。場合によっては別の音源での構成も目指す。
【授業時間外学習】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、２回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)

第14回　実習８：音楽構成の仕上げとファイルの提出
【　到達目標　】
構成した音源ファイルの仕上げと提出を目指す。
【授業時間外学習】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、２回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)

第15回　実習９：提出ファイルの検証
【　到達目標　】
提出された２種のファイルの中から具体的な音源をいくつか聴いて、どのように出来上がったのかを検証し、全体のまとめとする。
【授業時間外学習】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、２回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)

【学習上の留意点】

PCで音楽ソフトを使用しての実習なので、最低、PCで文字（全角及び半角）を打てる程度にはPCに慣れておくことが望ましい。また、前半の講義で実習のための効果等についての説明も随時加えるので、各自、積極的にノートやメモを取ることが望ましい。毎回、講義の最後に講義の内容に関するミニ・レポートを提出してもらい理解度を確認、次回に補足の解説を行う。

また、後半の実習において情報処理室で使用するPCの台数に限りがあるため、受講希望者が多数の場合、前期学期末にレポートを提出してもらい受講者数の調整を行なうこととするので予め留意しておいてほしい。

【教科書・参考書など】

実習の際、配布する音楽ソフトの使用法についてのプリント
（実習時に適宜参照してもらうので毎回忘れずに持ってくること。）

【成績評価方法】

実習で制作する音楽ファイル（編集と構成の２種）：70%、講義時に提出するミニ・レポート：30%

科目名	ダンスカレント			担当者	青木タクヘイ・宇野　敦子	
英文名	Lighting and Sound for Dance					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	演習		科目ナンバー	DME204		

【目的とねらい】

この授業では作品を実際に公演するための制作的に大きな枠組み作りをし、それにともなう実践的な技術（照明・舞台装置などの舞台技術のノウハウ）の習得を目指す。

【授業内容・到達目標など】

第１回　音響機材の取り扱い方の習得① 【　到達目標　】 音響機材の仕様を確認して、それを学生自らが具体的に設置して使用できるようにする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)	**第９回　音響効果の確認③** 【　到達目標　】 具体的に音響機材を操作して、音がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)
第２回　音響機材の取り扱い方の習得② 【　到達目標　】 音響機材の仕様を確認して、それを学生自らが具体的に設置して使用できるようにする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)	**第10回　照明効果の確認①** 【　到達目標　】 具体的に照明機材を操作して、光がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)
第３回　音響機材の取り扱い方の習得③ 【　到達目標　】 音響機材の仕様を確認して、それを学生自らが具体的に設置して使用できるようにする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)	**第11回　照明効果の確認②** 【　到達目標　】 具体的に照明機材を操作して、光がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)
第４回　照明機材の取り扱い方の習得① 【　到達目標　】 照明機材の仕様を確認して、それを学生自らが具体的に設置して使用できるようにする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)	**第12回　照明効果の確認③** 【　到達目標　】 具体的に照明機材を操作して、光がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)
第５回　照明機材の取り扱い方の習得② 【　到達目標　】 照明機材の仕様を確認して、それを学生自らが具体的に設置して使用できるようにする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)	**第13回　グループ分けをして、各グループで作品を発表するための音響・照明プランを立てる①** 【　到達目標　】 具体的に作品を仕上げるために、音響・照明をどう操作し使用するかの計画を立てて準備ができる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)
第６回　照明機材の取り扱い方の習得③ 【　到達目標　】 照明機材の仕様を確認して、それを学生自らが具体的に設置して使用できるようにする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)	**第14回　グループ分けをして、各グループで作品を発表するための音響・照明プランを立てる②** 【　到達目標　】 具体的に作品を仕上げるために、音響・照明をどう操作し使用するかの計画を立てて準備ができる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)
第７回　音響効果の確認① 【　到達目標　】 具体的に音響機材を操作して、音がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)	**第15回　作品発表と反省** 【　到達目標　】 いよいよ作品の発表である。そのためにリハーサルをして本番に臨むことにする。そして上演後に各人が反省点を自覚して公表できる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)
第８回　音響効果の確認② 【　到達目標　】 具体的に音響機材を操作して、音がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

グループワークとなるので、ある一定の学生だけが動くのではなく、学生全員が動くように注意する。他のグループの発表の際には、しっかりとメモを取り、記入する。集中講義で行う。

【実務経験のある教員による授業科目】

舞踊舞台の演出における音響および照明に関する実務経験のある教員が、実際に公演するために必要な舞台技術のノウハウを実践的に指導を行う。

【教科書・参考書など】

授業中に指示する。

【成績評価方法】

授業内の実践と計画発表及び発表作品の実効性100%で評価する。

科目名	モダンダンスⅢ			担当者	松　山　善　弘	
英文名	Modern Dance Ⅲ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	実技		科目ナンバー	DME205		

【目的とねらい】
各種モダンダンステクニックのメソッドに触れるとともに、自己の身体意識を目覚めさせ、より進んだテクニックの学習を通して、動きのボキャブラリーの拡大をはかる。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業進行についてのオリエンテーション（DVDを使用）
【　到達目標　】
モダンダンスⅢの授業の進め方について理解する。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第２回　モダンダンスⅠ・Ⅱで習得したエクササイズを更に発展させる１
【　到達目標　】
モダンダンスⅠ・Ⅱで行ったエクササイズを再確認し、行う事ができる。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第３回　モダンダンスⅠ・Ⅱで習得したエクササイズを更に発展させる２
【　到達目標　】
モダンダンスⅠ・Ⅱで行ったエクササイズを再確認し、行う事ができる。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第４回　モダンダンスⅠ・Ⅱで習得したエクササイズを更に発展させる３
【　到達目標　】
更に発展したエクササイズをマスターする。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第５回　モダンダンスⅠ・Ⅱで習得したエクササイズを更に発展させる４
【　到達目標　】
更に発展したエクササイズをマスターする。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第６回　ダンスに必要な要素を習得する（リラクゼーション）
【　到達目標　】
各種リラクゼーションテクニックをマスターする。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第７回　ダンスに必要な要素を習得する（歩行テクニック）
【　到達目標　】
各種歩行テクニックをマスターする。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第８回　ダンスに必要な要素を習得する（回転テクニック）
【　到達目標　】
各種回転テクニックをマスターする。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第９回　ダンスに必要な要素を習得する（跳躍テクニック）
【　到達目標　】
各種跳躍テクニックをマスターする。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第10回　ダンスに必要な要素を習得する（連続したテクニック）
【　到達目標　】
各種連続したテクニックをマスターする。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第11回　課題テクニックの習得（タイミング）
【　到達目標　】
課題テクニックを通して、ダンスに必要なタイミングについて理解する。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第12回　課題テクニックの習得（アクセント）
【　到達目標　】
課題テクニックを通して、ダンスに必要なアクセントについて理解する。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第13回　課題テクニックの習得（呼吸）
【　到達目標　】
課題テクニックを通して、ダンスに必要な呼吸法について理解する。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第14回　課題テクニックの習得（クライマックス）
【　到達目標　】
課題テクニックを通して、ダンスに必要なクライマックスへのもって行き方について理解する。
【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第15回　課題テクニックの総合的習得
【　到達目標　】
モダンダンスⅢで学んだ事を総合的に理解する。
【授業時間外学習】
全体の復習とまとめをし、モダンダンスについてさらに理解を深める。(1.0hr)

【学習上の留意点】
モダンダンスⅠ・Ⅱから、更に深く自分の身体と向かい合い、さらに効果的に身体を通した表現ができるように、集中して受講して下さい。

【教科書・参考書など】
特にありません。

【成績評価方法】
時間毎のレポート７０％、実技試験３０％の割合で総合的に評価する。

科目名	モダンダンスⅣ			担当者	坂　本　秀　子	
英文名	Modern Dance Ⅳ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	実技		科目ナンバー	DME206		

【目的とねらい】

「モダンダンスⅢ」を更に進めたテクニックを学ぶ。専門家の作品を踊ることで高度なテクニックを習得し、作品全体に流れる精神を掌握することで、表現力を高めていく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　作品の説明とビデオ鑑賞（教材Ａ）
【　到達目標　】
創作意図を理解し、作品のイメージをつかむ。
【授業時間外学習】
作品の世界を想像し、イメージを固める。(1.0hr)

第２回　振りを学ぶ①
【　到達目標　】
振りを短時間で、正確に覚えられるように集中する。
【授業時間外学習】
振りの復習をする。(1.0hr)

第３回　振りを学ぶ②
【　到達目標　】
次第に細かい部分の工夫もしながら、全体を通して踊れるようにしていく。
【授業時間外学習】
振りの復習、細かい注意の思い出しなどをする。(1.0hr)

第４回　振りを学ぶ③
【　到達目標　】
踊り込みをして、作品の精神が貫通できるようにする。
【授業時間外学習】
全体を通してのイメージトレーニングを行う。(1.0hr)

第５回　踊って批評を受ける、互いに今後の課題を発見しあう①
【　到達目標　】
踊って批評を受ける。今後の課題を自主的に見いだしていく。
【授業時間外学習】
課題の確認と習得するための練習方法の考案。(1.0hr)

第６回　作品の説明とビデオ鑑賞（教材Ｂ）、振りを学ぶ④
【　到達目標　】
創作意図を理解し、作品のイメージをつかむ。
【授業時間外学習】
作品の世界を想像し、イメージを固める。(1.0hr)

第７回　振りを学ぶ⑤
【　到達目標　】
振りを短時間で、正確に覚えられるように集中する。
【授業時間外学習】
振りの復習をする。(1.0hr)

第８回　振りを学ぶ⑥
【　到達目標　】
次第に細かい部分の工夫もしながら、全体を通して踊れるようにしていく。
【授業時間外学習】
振りの復習、細かい注意の思い出しなどをする。(1.0hr)

第９回　振りを学ぶ⑦
【　到達目標　】
踊り込みをして、作品の精神が貫通できるようにする。
【授業時間外学習】
全体を通してのイメージトレーニングを行う。(1.0hr)

第10回　踊って批評を受ける、互いに今後の課題を発見しあう②
【　到達目標　】
踊って批評を受ける。今後の課題を自主的に見いだしていく。
【授業時間外学習】
課題の確認と習得するための練習方法の考案。(1.0hr)

第11回　作品の説明とビデオ鑑賞（教材Ｃ）、振りを学ぶ⑧
【　到達目標　】
創作意図を理解し、作品のイメージをつかむ。
【授業時間外学習】
作品の世界を想像し、イメージを固める。(1.0hr)

第12回　振りを学ぶ⑨
【　到達目標　】
振りを短時間で、正確に覚えられるように集中する。
【授業時間外学習】
振りの復習をする。(1.0hr)

第13回　振りを学ぶ⑩
【　到達目標　】
次第に細かい部分の工夫もしながら、全体を通して踊れるようにしていく。
【授業時間外学習】
振りの復習、細かい注意の思い出しなどをする。(1.0hr)

第14回　フィーリングやアクセントなど踊り方の吟味
【　到達目標　】
作品を踊り込んでいく過程で、重要な事柄について学ぶ。
【授業時間外学習】
自分らしさを加えて、作品の完成度を高められるように考える。(1.0hr)

第15回　踊って批評を受ける、今後の課題の発見
【　到達目標　】
踊って批評を受ける。学んだ事柄をもとに新たに課題を発見する。
【授業時間外学習】
課題の確認と習得するための練習方法の考案。(1.0hr)

【学習上の留意点】

タイプの異なる３つの作品を教材として取り上げ、細やかに進めていく。振りを覚えることに加えて、各自が作品のイメージをとらえて、より深みのある個性的な世界を構築して欲しい。そのための練習方法やポイントなどについても探っていく。そして、踊ることだけにとどまらず、書物や絵画、詩集などで、作品のイメージを増幅し、どんなことにも興味を持って取り組んで欲しい。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

平常授業での課題40%、到達時の確認課題60%。試験は別途行なう。

科目名	クラシックバレエⅢ			担当者	渡辺　碧・曺　旼永	
英文名	Classical Ballet Ⅲ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	実技		科目ナンバー	DME207		

【目的とねらい】

1年生で身に付けた基礎基盤のバレエよりも、さらに高度なテクニックに挑み、技術力と表現力の両方を高めていくことを目的とする。改めて正しい身体配置・身体使いについて学ぶことにより、怪我の少ない身体のつくり方を体得する。また、ポアント技法についても理解し、特に足の骨の身体配置についても体得する。最終的には、ポアントを履いた状態での正しい身体の使い方を体得すること、または理解することを目標とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション（目標設定）
【　到達目標　】
昨年度、１年間を振り返り、自分の受講するレベルを決定できる。この授業における目標設定が出来る。

【授業時間外学習】
クラシックバレエⅠ、Ⅱで学んだこと（バレエ用語の意味を含む）を復習する。(1.0hr)

第２回　エクササイズ(基礎)①
【　到達目標　】
1年生の復習を兼ねて、改めて正しい身体配置を確認する。特に骨盤の正しい配置を意識して踊ることが出来る。

【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第３回　エクササイズ(基礎)②
【　到達目標　】
1年生の復習を兼ねて改めてアン・デ・オール（ターン・アウト）を確認する。特に骨盤の正しい配置と、骨盤周辺の筋肉の使い方を意識して踊ることが出来る。

【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第４回　エクササイズ(基礎)③
【　到達目標　】
1年生の復習を兼ねてアプローン、エレヴェッションについて確認する。背骨、コア（インナーマッスル）の正しい使い方を意識して踊ることが出来る。

【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第５回　ポアント技法の説明、ポアントのエクササイズ(基礎)①
【　到達目標　】
ポアントの選び方、履き方を理解し、ポアント技法の特徴を理解できる。足の骨の構造、筋肉の仕組みについて理解できる。これまでの学習を踏まえ、ポアントの基礎として、アテール、ドゥミ・ポアント、ポアントが理解できる。
【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第６回　ポアントのエクササイズ(基礎)②
【　到達目標　】
ポアントの基礎としてアテール、ドゥミ・ポアント、ポアントの区別がつき実践できる。
正しい身体配置を崩さずに、踊ることを体得する。

【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第７回　ポアントのエクササイズ(基礎)③
【　到達目標　】
ポアントの基礎としてプリエ、アテール、ドゥミ・ポアント、ルルベ､ジャンプの区別がつき、実践できる。正しい身体配置を崩さずに、踊ることを体得する。

【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第８回　ポアントのエクササイズ(基礎)④
【　到達目標　】
ポアントの基礎としてピケ・ポアントとタンルベ・ルルベの区別がつき、実践できる。
正しい身体配置を崩さずに、踊ることを体得する。

【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第９回　ポアントのエクササイズ(応用)①
【　到達目標　】
簡単なコンビネーションが実践できる。正しい身体配置を崩さずに踊ることを体得する。

【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第10回　ポアントのエクササイズ(応用)②
【　到達目標　】
前回に引き続き、さらに内容を発展させて実践できる。正しい身体配置を崩さずに踊ることをを体得する。

【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第11回　練習課題と反復練習①
【　到達目標　】
半期のまとめである練習課題を習い、覚える。

【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第12回　練習課題と反復練習②
【　到達目標　】
練習課題を深く理解し、正しく踊ることが出来る。

【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第13回　練習課題と反復練習③
【　到達目標　】
練習課題を正しく踊ることが出来、自分の改善点を見つけることが出来る。

【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第14回　練習課題と反復練習④
【　到達目標　】
練習課題を正しく踊ることが出来､さらに踊りを良くするために必要な技術や表現を体得する。

【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第15回　課題発表、自己評価、フィードバック
【　到達目標　】
練習課題を発表し、第1回目の授業に設定した目標をどれだけ達成しているかが理解できる。
教員からのフィードバックに対して、今後の目標を設定することが出来る。

【授業時間外学習】
教員からのフィードバックに対する具体的な対策を練り、実践する。(1.0hr)

【学習上の留意点】

授業を受講する際、基本レオタードとタイツのみを着用して、自身の身体のラインをしっかりと認識する。髪の毛などの身だしなみを整える。シューズなどの忘れ物をした場合は減点対象とする。ポアントシューズは受講者全員装着することを強制しないが、ポアントによる効果について知識を深めるようにする。

大人数での実技授業となるため、ただ受け身で授業を受講するのではなく、一人一人が明確な目標設定を行い、受講するよう求める。授業の進行を妨げる受講者がいる場合には、単位認定を行わない。第15回の「課題の発表、自己評価、フィードバック」では、フィードバックを求める学生一人一人に対して口頭でフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

ポアントシューズについてのプリントなどを適宜配付。

【成績評価方法】

授業における課題達成度・理解度、学習意欲・関心・積極性・レポート40%、実技テスト60%を総合的に評価する。

科目名	クラシックバレエⅣ			担当者	渡辺　碧・曺　旼永	
英文名	Classical Ballet Ⅳ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	実技		科目ナンバー	DME208		

【目的とねらい】

クラシックバレエⅢを更に発展させるために、テクニック、表現のそれぞれの質を上げ、既存の古典ヴァリエーションに挑戦する。この授業を受講することにより、これまでのクラシックバレエの基礎を復習・確認するとともに、それが実践できるようになることを目的とする。特に上半身と下半身の動きのコーディネーション力を高めることに焦点を当て、正しい身体配置で、ヴァリエーションの役柄を理解した表現力豊かな踊りが実践出来るようになることを目標とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
最後のクラシックバレエ実技科目となるため、「これまで」、そして「これから」のバレエとの向き合い方を検討すると共に、それぞれの目標を確認し、この授業での目標設定が出来る。自分に合った受講クラスを決定できる。
【授業時間外学習】
クラシックバレエⅠ～Ⅲで学んだことを復習する。(1.0hr)

第２回　エクササイズ(基礎)①
【　到達目標　】
クラシックバレエⅠ～Ⅲの復習を兼ねて身体配置を確認できる。
【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第３回　エクササイズ(基礎)②
【　到達目標　】
クラシックバレエⅠ～Ⅲの復習を兼ねて、アン・デ・オール（ターン・アウト）を中心に確認する。
【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第４回　エクササイズ(基礎)③
【　到達目標　】
クラシックバレエⅠ～Ⅲの復習を兼ねて、アプローンを中心に確認する。
【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第５回　エクササイズ(基礎)④
【　到達目標　】
クラシックバレエⅠ～Ⅲの復習を兼ねて、エレヴェッションを中心に確認する。
【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第６回　エクササイズ(応用)①
【　到達目標　】
あらゆるコンビネーションをすぐに覚える事が出来、正しい身体配置で踊ることが出来る。特に正しい上半身使いを意識して踊ることが出来る。
【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第７回　エクササイズ(応用)②
【　到達目標　】
あらゆるコンビネーションをすぐに覚える事が出来、正しい身体配置で踊ることが出来る。特に上半身と下半身のコーディネーションを意識して踊ることが出来る。
【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第８回　ヴァリエーションAB
【　到達目標　】
古典ヴァリエーションABの振りを覚えることができる。
【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第９回　ヴァリエーションABの反復練習①
【　到達目標　】
ヴァリエーションABの空間使いを覚えることができる。
【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第10回　ヴァリエーションABの反復練習②
【　到達目標　】
ヴァリエーションABの音楽を正確に捉えることができる。
【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第11回　ヴァリエーションABの反復練習③
【　到達目標　】
ヴァリエーションABの振りを正確に踊ることができる。特に音楽性と空間使いを意識して踊ることができる。
【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第12回　ヴァリエーションABの反復練習④
【　到達目標　】
ヴァリエーションABの役柄をしっかりと理解し、求める表現性をしっかりと踊りの中に取り込むことができる。
【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第13回　ヴァリエーションABの発表にむけた模擬練習
【　到達目標　】
少人数で、ヴァリエーションABを踊ることが出来る。1人でも踊ることが出来るよう、自分が苦手とする部分を理解できる。
【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第14回　ヴァリエーションABの発表
【　到達目標　】
これまでの授業を踏まえ、ヴァリエーションABを一人で踊ることが出来る。
ヴァリエーションABに対しての教員からのフィードバックを理解し、今後の課題を検討する。
【授業時間外学習】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う(1.0hr)

第15回　これまでの理解度の確認と今後の検討
【　到達目標　】
オリエンテーション時に立てた目標に対して、自分がこの授業においてどれだけ達成できたかを検討する。これまで得た知識を再度確認し、整理することができる。
【授業時間外学習】
これまでの授業を振り返り、自分とバレエとの今後の関わり方を検討する。(1.0hr)

【学習上の留意点】

授業を受講する際、基本レオタードとタイツのみの着用として、自身の身体のラインをしっかりと認識する。髪の毛などの身だしなみを整える。シューズなどの忘れ物をした場合は減点対象とする。ヴァリエーションABを選択する際、それぞれのレベルに適した課題となるようにする事。

大人数での実技授業となるため、ただ授業を受講するのではなく、一人一人が明確な目標設定を行い、受講するよう求める。授業の進行を妨げる受講者がいる場合には、単位認定を行わない。

第14回「 ヴァリエーションABの発表」、第15回「これまでの理解度の確認と今後の検討」では、フィードバックを求める一人一人に口頭でフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

適宜、授業内で示します。

【成績評価方法】

授業における課題達成度・理解度、関心・意欲・積極性・レポート40%、実技テスト60%を総合的に評価する。

科目名	ジャズダンスⅢ			担当者	港　ゆ　り　か	
英文名	Jazz Dance Ⅲ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	実技		科目ナンバー	DME209		

【目的とねらい】

ジャズダンス、ヒップホップダンスのダウンビートのリズム感を身につけ、ジャズダンスに必要な基礎技法を習得する。身体表現の意識を高め、表現者としての感性を養い、可能性を広げていく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
さまざまなジャンルの中のジャズダンスとは。
今の時代に求められている表現法などを理解する。

【授業時間外学習】
各自、授業で得た知識を再度確認をする。(1.0hr)

第２回　ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(2×8)リズム重視
【　到達目標　】
パラレルポジションをキープしたパラレルターンを理解し、シングルターンが出来るようになる。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第３回　ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(3×8)リズム重視
【　到達目標　】
パラレルターンをシングルからダブルへ。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第４回　ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(4×8)リズム重視、到達度の確認
【　到達目標　】
振付したコンビネーションを、さまざまなリズムを使い分けて踊ることが出来る。リズム重視の到達度の確認。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第５回　ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(2×8)ライン重視
【　到達目標　】
パラレルターン(シングル)からシェネへ、続けて繰り返し回ることが出来る。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第６回　ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(3×8)ライン重視
【　到達目標　】
パラレルターン(ダブル)からシェネへ、続けて繰り返し回ることが出来る。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第７回　ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(4×8)ライン重視、到達度の確認
【　到達目標　】
振付したコンビネーションを、音の中で正しいラインへ確実に入り、表現することが出来る。ライン重視の到達度の確認。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第８回　ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(2×8)スローテンポ
【　到達目標　】
クロスフロアーのバリエーション(1)
短い振付の中でダブルターンが確実に出来る。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第９回　ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(3×8)スローテンポ
【　到達目標　】
クロスフロアーのバリエーション(2)
短い振付の中でダブルターン＋シェネが確実に出来る。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第10回　ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(4×8)スローテンポ、到達度の確認
【　到達目標　】
振付したコンビネーションを、確実なテクニックと、豊かな表現力で踊ることが出来る。スローテンポの到達度の確認。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第11回　ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(2×8)ミディアムスロー
【　到達目標　】
インサイドターンを理解し、繰り返し回ることが出来る。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第12回　ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(3×8)ミディアムスロー
【　到達目標　】
短い振付とインサイドターンの組み合わせを、ぶれない軸で踊ることが出来る。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第13回　ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(4×8)ミディアムスロー、到達度の確認
【　到達目標　】
振付したコンビネーションを、ダイナミックにぶれない軸で踊ることが出来る。ミディアムスローの到達度の確認。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第14回　振付(ロングコンビネーション)１
【　到達目標　】
振付の中で、曲を理解し、自分なりの表現法を見付けることが出来る。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第15回　振付(ロングコンビネーション)２
【　到達目標　】
リズム、ライン、スローテンポ、ミディアムスローの確実なテクニックはもちろん、コンビネーションの表現法として個性を出しながら、 豊かに魅せ、伝えることが出来る。

【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

【学習上の留意点】

週１回の授業ではクセも取れず、頭では理解していても、実践出来るレベルになるのは難しい。ジャンルによって、体の使い方に違いがあることを繰り返し説明し、必ず「見る」という方法の重要性を伝えていき、自分を客観視出来るレベルまで上げていく必要がある。

【教科書・参考書など】

特に指定しない。

【成績評価方法】

授業内での実践40%、到達度の確認テストの結果60%として評価する。

科 目 名	シアタージャズダンス			担当者	畔 柳 小 枝 子	
英 文 名	Theater Jazz Dance					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	実技		科目ナンバー	DME210		

【目的とねらい】

エクササイズ、ストレッチ、クロスフロアー、コンビネーションの順にレッスントレーニングを行う。各自のスキルアップが目標である。
この授業では、ダンスの基礎トレーニング、ジャズダンスに大切なリズム感を養いパフォーマーとして洗練された動きを身につける。
身体・精神共にコントロールし踊る事を通して感受性豊かな表現力を磨く。

【授業内容・到達目標など】

第１回　エクササイズ・アイソレーション重視。コンビネーション①
【　到達目標　】
正しいポジションを保ちながらストレッチすることができる。コンビネーションの練習。
【授業時間外学習】
エクササイズ・コンビネーション①の復習・練習。(1.0hr)

第２回　エクササイズ・アイソレーション重視。コンビネーション①
【　到達目標　】
正しいポジションでストレッチ・エクササイズを行うことができる。
コンビネーションの練習。
【授業時間外学習】
エクササイズ・コンビネーション①の復習・練習。(1.0hr)

第３回　ストレッチ・軸・バランス重視。コンビネーション①
【　到達目標　】
自分自身の筋力・柔軟性を知り、更にトレーニングを行う。コンビネーションの練習。
【授業時間外学習】
授業中の注意を確認し、トレーニングを行う。コンビネーション①の復習。(1.0hr)

第４回　ストレッチ・軸・バランス重視②
【　到達目標　】
自分自身の筋力・柔軟性を知り、やり方、使い方を見直し更にトレーニングを行う。
【授業時間外学習】
コンビネーション①の復習及び特訓。(1.0hr)

第５回　コンビネーション①重視
【　到達目標　】
コンビネーション①の音に合わせ細かく分析し表現方法を考える。
【授業時間外学習】
コンビネーション①の各自の注意点を確認し、反省点を認識する。(1.0hr)

第６回　クロスフロアー重視（ステップ・ターン・ジャンプ）コンビネーション②
【　到達目標　】
ステップ・ターン・ジャンプの際、身体の使い方を意識する。コンビネーションの練習。
【授業時間外学習】
クロスフロアーの練習。コンビネーション②の復習。(1.0hr)

第７回　クロスフロアー重視（ステップ・ターン・ジャンプ）コンビネーション②
【　到達目標　】
ステップ・ターン・ジャンプをスムーズに繋ぎ見せる事ができる。コンビネーションの練習。
【授業時間外学習】
クロスフロアーの練習。コンビネーション②の復習。(1.0hr)

第８回　トレーニング・リズムとアクセント　コンビネーション②
【　到達目標　】
アクセント・リズムが見える。コンビネーションの練習。
【授業時間外学習】
アクセントに注意し表現方法を考え、コンビネーション②の復習。(1.0hr)

第９回　舞台上での表現。コンビネーション②
【　到達目標　】
立ち姿・脚さばき・手の表情に気を配る事ができる。
【授業時間外学習】脚さばき、アームスの使い方を意識し、美しいポーズに注意してコンビネーション②の復習。(1.0hr)

第10回　コンビネーション②重視
【　到達目標　】
コンビネーション②の音に合わせ表現する事ができる。
【授業時間外学習】
表現方法を考えながら、コンビネーション②の練習。(1.0hr)

第11回　カウントや音の中での表現。コンビネーション③
【　到達目標　】
できる限り全身を使って表現する。身体、表現方法のコントロールについて考える。
【授業時間外学習】
全身の動く幅を広げ、柔軟性・筋トレを行う。コンビネーション③の練習。(1.0hr)

第12回　カウントや音の中での表現。コンビネーション③
【　到達目標　】
早い・遅い音の中で洗練された動きをする。コンビネーション③の練習。
【授業時間外学習】
クロスフロアー・コンビネーション③の復習・練習。(1.0hr)

第13回　変拍子。コンビネーション③重視
【　到達目標　】
10・12カウントや変拍子のとり方が実践できる。コンビネーション③の練習。
【授業時間外学習】
クロスフロアー・コンビネーション③の復習。トレーニングを行う。(1.0hr)

第14回　音に合わせて表現
【　到達目標　】
音色に合わせて踊り、表現する。コンビネーション④の練習。
【授業時間外学習】
クロスフロアー・コンビネーション④の復習。トレーニングを行う。(1.0hr)

第15回　コンビネーション④重視
【　到達目標　】
コンビネーション④の音に合わせて踊り、表現する。
【授業時間外学習】
各自の不得手な点に注意しトレーニングを行う。(1.0hr)

【学習上の留意点】

・稽古着は着用。
・最低限、授業外での各自柔軟・筋肉トレーニングは行うこと。
・授業内容は進み方により変更する場合があります。
・フィードバックは授業後や小テスト後にして下さい。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

小テスト50％・期末試験50％の結果で評価。

科目名	コンテンポラリーダンスⅢ			担当者	岩淵多喜子	
英文名	Contemporary Dance Ⅲ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	実技		科目ナンバー	DME211		

【目的とねらい】

コンテンポラリーダンスⅠ、Ⅱで養った技術、知識を基礎として、更に発展させたテクニックについての理解と習得を行う。特にリリーステクニック、フロアーテクニックを基礎とし、体のアライメントへの意識、呼吸と動きの関連、重心と空間認識などについての応用的な理解を深め、多様なコンテンポラリーダンスの領域に対応するための知識、技術の習得を目的とする。また作品鑑賞レポートを通してコンテンポラリーダンスの多様性への理解を深める。

【授業内容・到達目標など】

第１回 【　到達目標　】 コンテンポラリーダンスの概念を理解し、今後の授業の内容と進行について理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習する。(1.0hr)	**第９回** 【　到達目標　】 フロアーへのアプローチ、体のアライメントの意識、呼吸との関連、フォールとリカバーなどを自分で意識的にコントロールできるようにテクニックへの理解を深める。 様々な動きに対応するための正しい技術を定着させる。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)
第２回 【　到達目標　】 基本エクササイズの流れを習得する。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習する。(1.0hr)	**第10回** 【　到達目標　】 フロアーへのアプローチ、体のアライメントの意識、呼吸との関連、フォールとリカバーなどを自分で意識的にコントロールできるようにテクニックへの理解を深める。 様々な動きに対応するための正しい技術を定着させる。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)
第３回 【　到達目標　】 エクササイズの流れを習得する。 具体的なエクササイズを通し、フロアーテクニックと体のアライメントについて理解を深める。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)	**第11回** 【　到達目標　】 フロアーへのアプローチ、体のアライメントの意識、呼吸との関連、フォールとリカバーなどを自分で意識的にコントロールできるようにテクニックへの理解を深める。 様々な動きに対応するための正しい技術を定着させる。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)
第４回 【　到達目標　】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 具体的なエクササイズを通し、フロアーテクニックと体のアライメント、フォールとリカバーについて理解を深める。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)	**第12回** 【　到達目標　】 フロアーへのアプローチ、体のアライメントの意識、呼吸との関連、フォールとリカバーなどを自分で意識的にコントロールできるようにテクニックへの理解を深める。 様々な動きに対応するための正しい技術を定着させる。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)
第５回 【　到達目標　】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し、意識するポイントについて明確に行えるようにする。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)	**第13回** 【　到達目標　】 様々な要素の入った一連の振付フレーズを個々の動きの要素を意識しながらスムーズに行えるようにする。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)
第６回 【　到達目標　】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し、意識するポイントについて明確に行えるようにする。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)	**第14回** 【　到達目標　】 様々な要素の入った一連の振付フレーズを個々の動きの要素を意識しながらスムーズに行えるようにする。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)
第７回 【　到達目標　】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)	**第15回** 【　到達目標　】 様々な要素の入った一連のフレーズを個々の動きの要素を意識しながらスムーズに行えるようにする。またこれまでの授業内容で扱ったテクニックや知識を総括し、今後の個々の課題を明確にする。 【授業時間外学習】 授業で扱った技術、知識を復習し、レポートにまとめる。(1.0hr)
第８回 【　到達目標　】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。 【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)	

【学習上の留意点】

実践を通しての知識、技術の習得となるため、万全の状態で授業に臨めるように常に体のケア、怪我への留意を行うこと。また、授業は前回までの内容を土台にして進行していくため、個々で知識、技術の整理、復習を行うこと。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

評価基準は、実技課題70パーセント、レポート課題30パーセントとし、総合的に評価する。

科目名	インプロヴィゼーション			担当者	髙野美和子	
英文名	Improvisation					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	実技		科目ナンバー	DME212		

【目的とねらい】

ダンサーとして自己の動きの発展、拡大を図るのみならず、創作・振付のために重視されている即興をまなび、体得する。自分自身の動きの特徴や癖などを認識し、さらに、新しい動きの探求・拡大を図ることを目的とする。また、創作や振付の上でも重要となる、空間、時間、力性などに関する感覚を養い、新しい創作の糧となる材料を追求することを目指す。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション　インプロヴィゼーションとは
【　到達目標　】
舞踊における即興の特徴、概念を理解し、自分自身の即興の解釈を説明できる。
【授業時間外学習】
授業で学習した内容をまとめ、関連資料等を収集する。(1.0hr)

第２回　時間の知覚、把握
【　到達目標　】
即興時の時間の感覚、間のとり方、意識とからだのあり方を体得する。
【授業時間外学習】
授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)

第３回　空間の知覚、把握
【　到達目標　】
即興時の空間の感覚、方向や軌跡の認識、意識とからだのあり方を体得する。
【授業時間外学習】
授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)

第４回　キネスフィアの理解
【　到達目標　】
キネスフィア（kinesphere）を理解し即興を通じて体得する。
【授業時間外学習】
授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)

第５回　動きの質感①
【　到達目標　】
動きの質感を明確にしながら、ソロ、デュオで即興的に対話しながら踊る。
【授業時間外学習】
授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)

第６回　動きの質感②
【　到達目標　】
いくつかの質感の異なる動きを取り入れながら、即興の可能性を追究する。
【授業時間外学習】
授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)

第７回　コンタクト・インプロヴィゼーション①
【　到達目標　】
床、人と自分のからだの接点、重さ、重心を感じながら、いくつかのコンタクトの方法を体感する。
【授業時間外学習】
コンタクト・インプロヴィゼーションに関する参考文献を読む。(1.0hr)

第８回　コンタクト・インプロヴィゼーション②
【　到達目標　】
床、人と自分のからだの接点、重さ、重心を感じながら、即興的にコンタクトを導入して踊ることを体得する。
【授業時間外学習】
授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)

第９回　チャンス・オペレーション
【　到達目標　】
チャンス・オペレーションの特徴を理解し、実践できる。
【授業時間外学習】
チャンス・オペレーションの概念を文献等で理解しておく。(1.0hr)

第10回　イメージとのかかわり
【　到達目標　】
視覚、言葉などのイメージと動き・ダンスがどうかかわれるのか、可能性を探求し、実践できる。
【授業時間外学習】
授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)

第11回　音とのかかわり
【　到達目標　】
音や曲と動き・ダンスが即興的にどう関われるのか、可能性を探求し、実践できる。
【授業時間外学習】
授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)

第12回　物、装置とのかかわり
【　到達目標　】
物、装置と動き・ダンスがどう関われるのか、可能性を探求し、実践できる。
【授業時間外学習】
授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)

第13回　構成、枠組みのなかでの即興①
【　到達目標　】
グループ毎に即興の設定（構成、枠組み）を企て、実践できる。
【授業時間外学習】
グループでおこなう即興の設定を考え、記述しておく。(1.0hr)

第14回　構成、枠組みのなかでの即興②
【　到達目標　】
グループ毎に即興の設定（構成、枠組み）を企て、実践、改良しまとめ、説明することができる。
【授業時間外学習】
授業で実践した即興の設定を記述し、レポートの準備を始める。(1.0hr)

第15回　授業内容の振り返り
【　到達目標　】
各回の実践、体得したことを振り返り、理解したことを言語化（レポート作成）することができる。
【授業時間外学習】
全授業で取り組んだ内容を振り返り、レポートを作成する。(1.0hr)

【学習上の留意点】

インプロヴィゼーションは個々の主体的な姿勢が重要であるとともに、自身のからだと他者のからだ、その場で起こっている現象を注意深く観察する姿勢が大切である。個々の集中力が授業全体の集中力につながるので、毎時間、気力と体力を万全にして臨むこと。各時間の中でからだが感じた様々な感覚を振り返りつつ、ノートにまとめるなど言語化する作業を行うことが望ましい。毎時間、授業に対する振り返りを個人記録ノートに記入、提出し、次回の授業にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

参考書：「インプロヴィゼーション」, Bailey, Derek著, 竹田賢一訳（1981）, 工作舎
“The Moment of Movement ”, Lynne Anne Blom and L.Tarin Chaplin (1988)University of Pittsburg Press
「コンタクト・インプロヴィゼージョン」, Novack,Synthia J 著, 立木燁子・菊池淳子訳(2000) フィルムアート社

【成績評価方法】

毎回の授業課題の理解、達成度を80%、レポート課題を20%として評価する。

科目名	舞台演出論			担当者	松　澤　慶　信	
英文名	Theory of Stage Directing					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	講義		科目ナンバー	DME301		

【目的とねらい】

舞踊作品であれ演劇作品であれ、観客が住まう日常空間とは異なる虚構の物語空間をいかに舞台上に現出させるのか。しかしその物語的空間は、もはや必ずしも従来の大きな「物語」や「筋」を物語るトポスである必要はない。そこに日常性を介入させつつ、日常性を戦略にした、またその日常性を異化効果としてとりこみ、日常の背後に隠れ潜む「非日常」を浮き彫りにする。そのような虚構の物語空間を実際に現出させるための方法と方法論的反省を、絵画や音楽という表現媒体との比較芸術学からこころみたい。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
ここで展開する授業内容の紹介。ダンシングでもなく振付でもなく、演出するとはどういうことか。パフォーミング・アーツではなくパフォーマンス・アーツを現前させる営為を問う。

【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第２回　作業手順の確認
【　到達目標　】
実際に演出するにあたって何が必要か、何をするのかを、確認する。

【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第３回　様々な感情の確認
【　到達目標　】
感情とはどのようなものがあるのか。感情をどう処理するのか。そして感情はどうやって表現するのか。

【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第４回　テクストの作成
【　到達目標　】
感情を表現するためのテクストを考える。物語の筋を考えても良いし、情景や雰囲気を重視しても良い。意味論的意味内容の諸相を確認すること。

【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第５回　テクストのパフォーマンス化
【　到達目標　】
上記でできたテクストを、それではどうやってパフォーマンスにするのか。具体的な作業手順を想定すること。

【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第６回　visualテクストの探索
【　到達目標　】
言葉によるテクストではなく、visualな表現媒体によるテクストはどうだろうか。ダンスも見ることによって存立する視覚芸術である。このような作品存立に共通な視点は役に立つのだろうか。
【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第７回　絵画の発表Ⅰ
【　到達目標　】
たとえば絵画の静止したフォルムと、ダンスの動くフォルム、つまり時間的経過が加わるダンスはこのフォルムを時間分節のフォルムに適応できないだろうか。

【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第８回　絵画の発表Ⅱ
【　到達目標　】
実際に絵画を選出して、その絵画の持つ内容を確認する。形や色が何を表しているのか。この絵画は物語や筋を表しているのか。その形式の位相がこの絵画の魅力ではないのか。

【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第９回　絵画の発表Ⅲ
【　到達目標　】
実際にみんなの前で発表してもらい、表現媒体に固有の形成法則とは何か、つまり舞踊が表現するのはいったい何かという究極の問題に迫ってみたい。

【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第10回　音楽との関係の模索
【　到達目標　】
視覚的要素によってではなく、今度は聴覚的要素が作品内容をどう規制しまた助成するのか。その可能性を模索する。

【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第11回　歌詞のある音楽の調査Ⅰ
【　到達目標　】
歌詞のある歌は、音楽固有のメロディやリズムという時間的分節が舞踊の構造を決定するのではない。歌詞の意味が作品を同定してしまう。

【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第12回　歌詞のある音楽の調査Ⅱ
【　到達目標　】
どのような音楽が舞踊には適しているのか。そもそも適しているとはどういうことか。音楽に合うことが良い作品の条件なのか。作品に合うとはどういうことか。

【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第13回　歌詞のある音楽の調査Ⅲ
【　到達目標　】
音楽を発表してもらって検討していきたい。単純に踊りやすい曲捜しは楽しいことだろう。

【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第14回　歴史的考察
【　到達目標　】
舞踊と音楽との関係でコペルニクス的転回をしたのはダンカンの試みである。彼女の舞踊に対する姿勢と考えを、彼女の言説からたどってみたい。

【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第15回　総括
【　到達目標　】
テクストとは何か。テクストをパフォームするのが演出であったことを忘れてはならない。そのテクストが物語なのか、絵画なのか、音楽なのか。ダンスを構成する主要要素を確認する。

【授業時間外学習】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

※上記内容を理解することを本科目の到達目標とする。

【学習上の留意点】

ダンスを創作することの根本を問う。基本的に予備知識や経験は必要ない。それを誇ることはむしろ弊害である。
２年次後期開講の「舞踊分析法演習」と３年次前期開講の「舞踊創作原論」と両方ともに受講することをのぞむ。

【教科書・参考書など】

授業中に指示する。

【成績評価方法】

授業中の達成をその都度レポートなどで求める。レポート評価100%。

科目名	現代の舞踊論			担当者	巣山賢太郎	
英文名	Dance Theory of Today					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	講義		科目ナンバー	DME302		

【目的とねらい】

「歴史／社会／創造」をキーワードに、以下の観点から講義と実践により学び、舞踊の意味や社会的役割、職業としての可能性について考えます。
1）バレエの成立へと至る西欧舞踊史を、文献と実践の両面から学びます。視野を広げ、表現を豊かにします。
2）舞踊の持つ社会的な意味を理解することにより、現代社会における舞踊の位置づけ、可能性・必要性などを主体的に考察します。
3）日本における洋舞受容から現代までの歴史を概観し、自らの立場を省察、将来のヴィジョンへと繋げていきます。

【授業内容・到達目標など】

第１回　自分の歴史
【　到達目標　】
本講義の導入として、自分自身の舞踊歴・活動歴を振り返り、自らの関心の方向性、現時点での課題や将来像など、問題意識を明確にする。

【授業時間外学習】
明確にされた問題について、関連する資料を調べるなどして考察を深めておく。(4.0hr)

第２回　ヨーロッパの社会とダンス
【　到達目標　】
15世紀から19世紀までの西欧史を概観し、西欧社会におけるダンスの意味・役割を知る。
バレエ成立に至る社会的背景に関心を持つ。

【授業時間外学習】
15世紀から19世紀までの西欧史を、舞踊との関連で把握できるように整理しておく。(4.0hr)

第３回　研究と実践　1：ルネサンス時代のダンスと音楽
【　到達目標　】
16世紀の舞踊文献の記述をもとに、舞踊の再構築（実践）を試みる。
ブランル、パヴァーヌ、ガイヤルド等を実習する。

【授業時間外学習】
「立つ」「歩く」「跳ぶ」などの基本的な動作について、ポイントを整理する。(4.0hr)

第４回　研究と実践　2：17世紀イギリスの社会とダンス
【　到達目標　】
1650年代から出版が始まり、その後の社交舞踏に影響を与えたカントリーダンスを実習する。

【授業時間外学習】社交舞踏において重視される身体性とは何か。現代的なダンスのイメージと比較してみる。(4.0hr)

第５回　研究と実践　3：17世紀～18世紀、フランスの社会とダンス
【　到達目標　】
絶対王政下の社会とダンスについて、史料に基づき実習する。
宮廷舞踏であるメヌエット、ガヴォット等を体験し、音楽との関わりにも関心を持つ。

【授業時間外学習】
クラシックバレエの基礎を成す足のポジションについて､本来の意味をよく確認する。(4.0hr)

第６回　バレエと宮廷舞踏
【　到達目標　】
宮廷バレエからオペラ、バレエへの展開を学ぶ。
現代のオペラ、バレエ、シルク（サーカス）、ミュージカルなどと比較しながら理解する。

【授業時間外学習】
ダンスの歴史とともに、同時代の音楽、美術、文学などにも関心を広げて調べてみる。(4.0hr)

第７回　初期バレエの振付作品実習
【　到達目標　】
1700年代の記譜をもとに、記録に残された最初期のバレエ振付作品を実習する。

【授業時間外学習】
舞踊の記譜・記録方法について、様々な例を調べてみる。(4.0hr)

第８回　初期バレエの振付作品実習
【　到達目標　】
前回の実習を経て、記譜の読解から発展させ、表現の可能性を模索する。

【授業時間外学習】
自分の表現の特徴や傾向について考える。(4.0hr)

第９回　サロンとステージ
【　到達目標　】
19世紀の社交舞踏から、ワルツとポロネーズを中心に実習する。
社交舞踏のレパートリーと舞台作品の関連についても見ていく。

【授業時間外学習】
舞台作品と社交舞踏それぞれについて、現代社会でのあり方について考えてみる。(4.0hr)

第10回　日本における洋舞受容とその後の歴史
【　到達目標　】
社交ダンスとバレエを軸に、日本の環境に目を向け、現代における課題を発見する。

【授業時間外学習】
興味のあるトピックについて掘り下げて調べる。(4.0hr)

第11回　歴史的舞踊の復興
【　到達目標　】
18世紀までの宮廷舞踏は19世紀以降どのように取り上げられてきたか、その例を辿る。
ナショナリズムなど社会的な背景とも関連づけて見ていく。

【授業時間外学習】
作品の復元・再演、改作、翻案などの概念について考える。(4.0hr)

第12回　課題を選ぶ：リコンストラクション、クリエイション、リサーチ
【　到達目標　】
講義で触れてきた様々な観点をふまえ、提示された選択肢を参考にしながら、自分の取り組む立場を決め、課題の方向性を絞る。

【授業時間外学習】
自分の選択に即して課題に取り組む。(4.0hr)

第13回　課題に取り組む
【　到達目標　】
リコンストラクション、クリエイション、リサーチなど各々の立場から課題の進捗を発表し、相互の取り組みを理解し尊重し、意見を出し合う。

【授業時間外学習】
自分の課題に対して、別な視点から見直してみる。(4.0hr)

第14回　課題を仕上げる
【　到達目標　】
前回の意見交換を踏まえ、課題の仕上げに取り組む。

【授業時間外学習】
仕上がりに対して、客観的な立場から見直してみる。(4.0hr)

第15回　課題発表
【　到達目標　】
課題を完成させ、発表し、ディスカッションを行う。

【授業時間外学習】発表した課題について､ディスカッションを踏まえたレポートを作成する。
併せて初回講義に意識したことを振り返り、改めて今後の課題を見いだす。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義には動きやすい服装で参加してください。筆記用具は必携です。

【教科書・参考書など】

参考書：「バレエとダンスの歴史―欧米劇場舞踊史」（鈴木晶編著、平凡社、2012年）を用います。

【成績評価方法】

最終発表（50%）とレポート（50%）により評価します。

科目名	ダンスセラピー論			担当者	八木ありさ	
英文名	Theory and Method of Dance Therapy					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	講義		科目ナンバー	DME303		

【目的とねらい】

心理療法の一手法としてのダンス・セラピー（ダンス／ムーブメント・セラピー）の理論的背景を理解し、手法として用いられるダンスや身体表現活動により生まれる心身の体験と対人関係の変容、言語化によるフィードバックの特徴を体験的に学ぶ。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ダンス・セラピーの理論的背景①
【　到達目標　】
「ダンス・セラピー」の考え方が生まれた経緯を、社会的背景とともに学び、ダンス・セラピーの定義について理解する。
【授業時間外学習】19世紀末～20世紀初頭の欧米文化の発展とモダンダンスの出現の経緯について概観する。(4.0hr)

第２回　鏡の世界
【　到達目標　】
模倣が交流をもたらす可能性を持つことを理解し、模倣を超えて共通の体験が生み出される瞬間を体得する。
【授業時間外学習】
社会脳あるいはミラーニューロンについて調べ、その働きについて理解する。(4.0hr)

第３回　空間と距離
【　到達目標　】
私たちが基本的に持っている空間の感覚が集団や社会のなかでどのような働きをするかを学び、「距離感」の働きを理解する。
【授業時間外学習】
エドワード T. ホールによる「プロクセミクス」について調べ、理論を理解する。(4.0hr)

第４回　形や運動の質（時間・空間・力）
【　到達目標　】
基本科目で学んできたラバンの運動理論を参考に、動きの外観と内観について比較し、多様な運動質を反映できるようにする。また、これらの運動質が特定のイメージと結びつくことを理解する。
【授業時間外学習】１年次必修講義「舞踊学原論」で学んだルドルフ・フォン・ラバンの運動理論「エフォートシステム」について改めて調べ、その構造を理解する。(4.0hr)

第５回　身体部位の象徴性①
【　到達目標　】
身体各部の持つ機能や動きの特性と生命体としての合理、そうした身体部位にもたらされているイメージとの関連について学び、身体表現の多義性を理解する。
【授業時間外学習】
人体の構造（解剖学）を復習し、主要各部の機能を理解する。(4.0hr)

第６回　身体部位の象徴性②
【　到達目標　】
身体各部の持つ機能や動きの特性を系統発生、個体発生の両面から捉え、進化や発育発達と身体表現の関わりを理解する。
【授業時間外学習】
「象徴」の仕組みと機能について理解し、発育発達との関わりを理解する。(4.0hr)

第７回　描画とダンス・セラピー
【　到達目標　】
非言語表現の１つである「絵」をとりあげ、その特性を学ぶと共に、描画に表れるダンス前後の心的変化を体験的に理解する。
【授業時間外学習】
「芸術療法」の種類を調べ、それぞれの特徴を理解する。(4.0hr)

第８回　民族舞踊とセラピー
【　到達目標　】
文化ごとに育った舞踊の違い、人間文化と舞踊の関わりについて理解を深める。隊形やリズムがもたらす気分の違いを体験的に理解する。
【授業時間外学習】アジアとヨーロッパなど異なる文化の中にある民族舞踊をそれぞれ一つずつ取り上げ、来歴と、踊り方の特徴を調べて比較する。(4.0hr)

第９回　ダンス・セラピーの理論的背景②
【　到達目標　】
「ダンス・セラピー」の効果の確認方法を概観し、実習での体験と関係づけて理解する。
【授業時間外学習】
「自己概念」の概念について調べ、自己有効感や自尊感情の機能を理解する。(4.0hr)

第10回　熱狂的なダンスと感情解放
【　到達目標　】
ティッシュペーパーを用いた熱狂的なダンスを通じて、ダンスやイメージを通じた感情解放の構造を理解する。
【授業時間外学習】「カタルシス」の概念について調べ、スポーツ、演劇、音楽などとの関わりを理解する。(4.0hr)

第11回　グループ・セラピーのダイナミズム
【　到達目標　】
多様な人が共にいることで生じる有機的な反応の連鎖について理解する。
【授業時間外学習】
「集団」の概念について調べ、その機能を理解する。(4.0hr)

第12回　イメージ、ファンタジー、見立ての世界
【　到達目標　】
動きの中で生み出されるイメージを発展させ、統合してゆくプロセスについて理解する。
【授業時間外学習】
「感情」の成り立ちを調べ、多様な感情の種類と生活上の問題とを結びつけて理解する。(4.0hr)

第13回　言語化の持つ意味①
【　到達目標　】
非言語的活動を支える言語の役割を学ぶ。また、適切な言葉がけの要点を理解する。
【授業時間外学習】非言語コミュニケーションのチャンネルをリストアップし、それぞれの特徴を概観する。(4.0hr)

第14回　言語化の持つ意味②
【　到達目標　】
カウンセリングの構造を理解する。
これを基に、他者の表現についてコメントをする際の要点を理解する。
【授業時間外学習】
「マイクロ・カウンセリング」について調べ、構造を知る。(4.0hr)

第15回　ダンス・セラピーの可能性と限界
【　到達目標　】
授業全体を振り返り、ダンス・セラピーが効果を発揮するのはどのような場合か、
また避けるとするならどのような場合かについて理解する。
【授業時間外学習】
14回の授業全体を振り返り、各自の理解の程度と学習内容に関する疑問点を整理する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義と体験学習を併せて行なうので、動きやすい服装で臨むこと。授業の趣旨はダンス・セラピーの理論と方法論を理解することであって「セラピー」そのものの実践ではない。しかし、演習の中では自分や他の参加者の内面に触れる場面もあるので、その時々の思いや体験を互いに大切にできるよう、誠意を持って取り組んでほしい。毎時、リアクション・ペーパーの提出を求め、提出内容にコメントを加えて返却する。

なお、この科目は日本ダンス・セラピー協会認定「ダンスセラピー・リーダー」の資格取得を目指す学生には必修科目である。

【教科書・参考書など】

適宜、印刷資料を配布する。
参考書：『ダンス・セラピーの理論と方法』　八木ありさ著　彩流社出版(2008)
　　『ダンス・セラピーの理論と実践』　平井タカネ監修　ジアース教育新社出版(2012)

【成績評価方法】

授業内で確認する内容理解や課題の達成度（60%）と、個人レポート課題の得点（40%）を併せて成績評価する。

科目名	マルチメディア・パフォーマンス			担当者	髙野美和子	
英文名	Multimedia Performance					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	演習		科目ナンバー	DME304		

【目的とねらい】

マルチメディア・パフォーマンスは、音や映像など様々なメディアとともに上演されている。この授業では、様々なメディア（主に映像や音）の特徴や効果およびPCによる編集、加工処理方法を学び、どのようにそれらをダンスのなかに取り込むことができるのか、その可能性を探りつつ、マルチメディア・パフォーマンスが成立していく過程を、実践を通じて学んでいく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション（マルチメディア・パフォーマンスとは）
【　到達目標　】
過去の作品を観ながら、マルチメディア・パフォーマンスの概要と背景、授業でとりあげる内容について理解する。
【授業時間外学習】
授業の要点をまとめ、第5回に提出する映像作品のアウトラインを考える。(4.0hr)

第２回　ビデオ撮影、映像編集の方法
【　到達目標　】
映像作品制作のためのビデオ撮影およびPCによる映像編集の方法を理解する。
【授業時間外学習】
授業の復習を行うと共に、提出用映像作品の構成を考える。(4.0hr)

第３回　ビデオ撮影、映像編集の方法と実践
【　到達目標　】
2回目に引き続き映像撮影編集の方法を実践を通じて理解する。
【授業時間外学習】
授業の復習を行うと共に、提出用映像作品の構成を練る。(4.0hr)

第４回　映像編集、録音、音編集の方法と実践（映像作品制作）
【　到達目標　】
映像編集と並行して、録音、音編集の方法を学び、短い映像作品を制作する。
【授業時間外学習】
授業の復習を行うと共に、提出用映像作品の手直しを行う。(4.0hr)

第５回　映像編集、録音、音編集の方法と実践（映像作品制作、提出）
【　到達目標　】
映像、音編集の実践を通じて制作した映像作品を提出する。
【授業時間外学習】
第6回のグループ制作の構想を考える。(4.0hr)

第６回　グループ別によるコンセプト、テーマの話し合い
【　到達目標　】
グループ毎にマルチメディア・パフォーマンス作品のコンセプトやテーマについて話し合い、グループ作品の方向性を理解、説明できる。
【授業時間外学習】
グループ制作に必要な材料を準備する。(4.0hr)

第７回　グループ別による映像、音、振付制作活動①
【　到達目標　】
グループ作品のコンセプトに沿って、映像、音、照明、振付等のプランを立て、役割分担しながら、計画的に制作を進める。
【授業時間外学習】
グループ制作で担当する作業の準備を進める。(4.0hr)

第８回　グループ別による映像、音、振付制作活動②
【　到達目標　】
7回目同様、グループ制作活動を計画的に進め実践できる。
【授業時間外学習】
グループ制作を行う。(4.0hr)

第９回　グループ別による映像、音、振付制作活動③
【　到達目標　】
8回目同様、グループ制作活動を計画的に進め実践できる。
【授業時間外学習】
グループ制作を行う。(4.0hr)

第10回　グループ別による映像、音、振付制作活動④
【　到達目標　】
9回目同様、グループ制作活動を計画的に進め実践できる。
【授業時間外学習】
グループ制作を行う。(4.0hr)

第11回　グループ別による映像、音、振付制作活動⑤
【　到達目標　】
作品の中の各メディアのバランスを調整しながら、作品全体をまとめ上げることができる。
【授業時間外学習】
発表に向けた照明、音響、映像、振付等の調整を行う。(4.0hr)

第12回　発表スペースでのグループ作品制作①
【　到達目標　】
発表スペースにて使用機材の準備・片づけも含め、グループ作品制作を計画的に進めることができる。
【授業時間外学習】
発表用の各メディアの準備を進める。(4.0hr)

第13回　発表スペースでのグループ作品制作②
【　到達目標　】
発表スペースにて使用機材の準備・片づけも含め、グループ作品制作を計画的に進めることができる。
【授業時間外学習】
発表作品の練習を行う。(4.0hr)

第14回　発表スペースでのグループ作品制作・準備
【　到達目標　】
次週のグループ作品発表に向けて、機材・片づけも含め、協力しながら作品リハーサルを実践できる。
【授業時間外学習】
発表作品の練習を行う。(4.0hr)

第15回　グループ作品発表、感想、講評
【　到達目標　】
グループ作品を発表するとともに、各グループの発表を鑑賞し、作品について振り返り、合評しあうことができる。
【授業時間外学習】
グループ発表の振り返りと他グループの感想をまとめる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

短い時間の中で多くの機材を使用しながら授業をしていくため、機材の取り扱いをきちんとしながら、計画的に毎時間の課題を進めていくことが求められる。毎時間、授業に対する振り返りを個人記録ノートに記入、提出し、次回の授業にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

個々の映像作品およびグループ作品の達成度を80%、各メディア機材の使用方法理解度を20%の割合として評価する。

科目名	レパートリー研究			担当者	石　川　浩　子	
英文名	Repertory Investigation					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	演習		科目ナンバー	DME305		

【目的とねらい】

ジャズダンスは年々、海外アーティストやメディア等が生む流行の影響などもあり、従来のバレエのテクニックを取り入れた、俗にシアター系と言われるオーソドックスなスタイルだけでなく、ヒップホップ等のストリート系を取り入れたものや、ミュージカル風のものなど、多様なスタイルが生まれ、形にとらわれずに個性豊かに表現できるダンスとして進化し続けている。学生には、自信が研究したいジャズダンスのスタイルを選び、研究し、ジャズダンスへの理解をより深めることを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
授業の進め方を理解する。

【授業時間外学習】
自分が知っている限りのジャズダンスの種類を調べてくる。(4.0hr)

第２回　多様化したジャズダンスの研究
【　到達目標　】
現在のジャズダンスの種類を話し合い、自分が研究したジャズダンスのスタイル考える。

【授業時間外学習】
次回研究することを決めてくる。(4.0hr)

第３回　研究グループ（ジャズダンスのスタイル）の決定
【　到達目標　】
研究するグループを決め、また、各グループで研究したいジャズダンスのスタイルを決めて話し合う。

【授業時間外学習】
研究対象にしたジャズダンスのスタイルについて調べる。(4.0hr)

第４回　研究①
【　到達目標　】
自分達の選んだジャズダンスのスタイルについて、各グループで話し合い、レポートにまとめる。

【授業時間外学習】
研究対象としたジャズダンスのスタイルについて調べる。(4.0hr)

第５回　研究②
【　到達目標　】
前回に続き､自分達の選んだジャズダンスのスタイルについて各グループで話し合い､レポートにまとめる。

【授業時間外学習】
研究対象としたジャズダンスのスタイルについて調べる。(4.0hr)

第６回　創作①
【　到達目標　】
各グループで、作品創作のため、イメージや方向性、曲などについて話し合う。

【授業時間外学習】
使用したい曲を探してくる。(4.0hr)

第７回　創作②
【　到達目標　】
各グループで、作品創作のため、イメージや方向性、曲などを決定する。

【授業時間外学習】
創作する作品について研究する。(4.0hr)

第８回　創作③
【　到達目標　】
各グループごとに、作品を創作する。

【授業時間外学習】
創作する作品について研究する。(4.0hr)

第９回　創作④
【　到達目標　】
各グループごとに、作品を創作する。

【授業時間外学習】
創作する作品について研究する。(4.0hr)

第10回　創作⑤
【　到達目標　】
各グループごとに、作品を創作する。

【授業時間外学習】
創作する作品について研究する。(4.0hr)

第11回　作品中間発表
【　到達目標　】
各グループの作品を発表、全員で合評する。

【授業時間外学習】
創作する作品について研究する。(4.0hr)

第12回　作品創作⑥
【　到達目標　】
各グループごとに、作品を創作する。

【授業時間外学習】
創作する作品について研究する。(4.0hr)

第13回　作品創作⑦
【　到達目標　】
各グループごとに、作品を創作する。

【授業時間外学習】
創作する作品について研究する。(4.0hr)

第14回　作品創作発表（評価対象とする）
【　到達目標　】
最終練習後、発表し、全員で合評する。

【授業時間外学習】
創作した作品のレポート提出のための資料をそろえる。(4.0hr)

第15回　最終確認　レポート作成
【　到達目標　】
選んだジャズダンスのスタイルと作品創作について、各グループで話し合い、最後にレポートにまとめる。

【授業時間外学習】
創作した作品のレポートをまとめる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

固定観念にとらわれない柔軟な創造力が求められる。個人であれ、グループであれ、積極的に取り組む必要があります。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

授業への取り組み方40%、レポート20%、作品発表40%の割合で総合的に評価する。

科目名	レパートリー研究			担当者	岩淵多喜子	
英文名	Repertory Investigation					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	演習		科目ナンバー	DME305		

【目的とねらい】

舞踊の歴史の中で優れた評価を受けた作品を取り上げ、そこで踊られるダンスのテクニックや振付法を実践的に学ぶ。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業進行についてのオリエンテーション
【　到達目標　】
レパートリー作品という概念及び授業の進行について理解する。
【授業時間外学習】過去の著名な作品の映像を鑑賞し、作品のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第２回　レパートリー作品を学ぶ「The Rite of Spring」①
【　到達目標　】
「The Rite of Spring」(振付：岩淵)を題材にコンセプト、振りを学ぶ。
岩淵のレパートリー作品「The Rite of Spring」を題材に、新たなボキャブラリーの獲得、コンセプトと動きの関連性などを実際の振りを学ぶことを通して身に付ける。
【授業時間外学習】過去の著名な作品の映像を鑑賞し、作品のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第３回　レパートリー作品を学ぶ「The Rite of Spring」②
【　到達目標　】
「The Rite of Spring」(振付：岩淵)を題材にコンセプト、振りを学ぶ。
岩淵のレパートリー作品「The Rite of Spring」を題材に、新たなボキャブラリーの獲得、コンセプトと動きの関連性などを実際の振りを学ぶことを通して身に付ける。
【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第４回　レパートリー作品を学ぶ「1hour before Sunset」①
【　到達目標　】
「1hour before Snset」(振付：岩淵)を題材にコンセプト、振りを学ぶ。
岩淵のレパートリー作品「1hour before Sunset」を題材に、新たなボキャブラリーの獲得、コンセプトと動きの関連性などを実際の振りを学ぶことを通して身に付ける。
【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第５回　レパートリー作品を学ぶ「1hour before Sunset」②
【　到達目標　】
「1hour before Snset」(振付：岩淵)を題材にコンセプト、振りを学ぶ。
岩淵のレパートリー作品「1hour before Sunset」を題材に、新たなボキャブラリーの獲得、コンセプトと動きの関連性などを実際の振りを学ぶことを通して身に付ける。
【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第６回　著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ①
【　到達目標　】
学びたい作品を選択する。
ピナ・バウシュ、ウイリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループに分かれて作品の振り起こしと分析を行う。
【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第７回　著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ②
【　到達目標　】
選択した作品の振りや構成の特徴を学ぶ。
ピナ・バウシュ、ウイリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループに分かれて作品の振り起こしと分析を行う。
【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第８回　著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ③
【　到達目標　】
選択した作品の振りや構成の特徴を学ぶ。
ピナ・バウシュ、ウイリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループに分かれて作品の振り起こしと分析を行う。
【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第９回　著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ④
【　到達目標　】
選択した作品の振りや構成の特徴を学ぶ。
ピナ・バウシュ、ウイリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループに分かれて作品の振り起こしと分析を行う。
【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第10回　著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ⑤
【　到達目標　】
選択した作品の振りや構成の特徴を学ぶ。
ピナ・バウシュ、ウイリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループに分かれて作品の振り起こしと分析を行う。
【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第11回　著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ⑥
【　到達目標　】選択した作品の振りや構成の特徴を身体的に表現できるようにする。
ピナ・バウシュ、ウイリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループに分かれて作品の振り起こしと分析を行い、オリジナル作品に近い形で再現できるようにする。
【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第12回　著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ⑦
【　到達目標　】
選択した作品の振りや構成の特徴を身体的に表現できるようにする。
選択した作品について、作品のコンセプト、背景、特徴についての口頭発表、実演発表、振りや作品の特徴をワークショップ形式で他のグループの人に伝える。
【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第13回　著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ⑧
【　到達目標　】
選択した作品の振りや構成の特徴を身体的に表現できるようにする。
選択した作品について、作品のコンセプト、背景、特徴についての口頭発表、実演発表、振りや作品の特徴をワークショップ形式で他のグループの人に伝える。
【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第14回　著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ⑨
【　到達目標　】
作品の分析の精度を高め、選択した作品を再現できるようにする。
前回の発表から得たフィードバックをもとに、作品の振り起こし、分析の精度を高める。
【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第15回　著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ⑩
【　到達目標　】
選択した作品の特徴を身体的、論理的に理解し、表現できるようにする。
グループごとに、選択した作品の口頭発表、実演発表を行い、各レパートリー作品の特徴について分析し、理解を深める。
【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う(4.0hr)

【学習上の留意点】

国内外の著名な振付家のレパートリー作品を学ぶことを通して、振りを覚えるだけではなく、その背景となっている作家の思想等にも目をむけて、より深くレパートリーを研究するようにする。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

評価基準は、実技課題70%、レポート課題30%とし、総合的に評価する。

科目名	レパートリー研究			担当者	渡　辺　　碧	
英文名	Repertory Investigation					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	演習		科目ナンバー	DME305		

【目的とねらい】

チャイコフスキー三大バレエの一つであり、クラシックバレエの代表作品でもある、『白鳥の湖』を取り上げる。本授業では、世界各地の様々な振付家・演出家による『白鳥の湖』の中から、マリウス・プティパ版、ウラジミール・プルメイステル版、ユーリ・グリゴローヴィチ版を扱う。各版のメソッドや振付・演出などを、映像を元に分析し比較することで、それぞれの作品の真髄を追求することを目的とする。グループワークで研究をすることにより、共同研究の方法・在り方を学び、コミュニケーション能力を高める。また口頭発表およびプレゼンテーション（以下、プレゼンとする）の能力をつけることをねらいとする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
この授業の目的を理解する。各版を理解し、グループ分けをする。今後の予定の確認をする。

【授業時間外学習】
世界各地の様々な振付家・演出家による『白鳥の湖』の種類を調べる。(4.0hr)

第２回　『白鳥の湖』の歴史
【　到達目標　】
バレエの歴史において、『白鳥の湖』の位置づけを理解出来る。どのようにして『白鳥の湖』が生まれたのかを理解する。

【授業時間外学習】
バレエの歴史を再度学び、復習する。第3回のプレゼンの準備をする。(4.0hr)

第３回　マリウス・プティパについて
【　到達目標　】
振付家マリウス・プティパについて理解し、プレゼン出来る。

【授業時間外学習】マリウス・プティパが活躍した当時のバレエ史を復習する。第4回の準備をする。(4.0hr)

第４回　ウラジミール・プルメイステルについて
【　到達目標　】
振付家ウラジミール・プルメイステルについて理解し、プレゼン出来る。

【授業時間外学習】ウラジミール・プルメイステルが活躍した当時のバレエ史を復習する。第5回のプレゼンの準備をする。(4.0hr)

第５回　ユーリ・グリゴローヴィチについて
【　到達目標　】
振付家ユーリ・グリゴローヴィチについて理解し、プレゼン出来る。

【授業時間外学習】ユーリ・グリゴローヴィチが活躍した当時のバレエ史を復習する。第6回のプレゼンの準備をする。(4.0hr)

第６回　マリウス・プティパ版のストーリーと演出
【　到達目標　】
マリウス・プティパ版のストーリーと演出を理解し、プレゼン出来る。

【授業時間外学習】
第7回のプレゼンの準備をする。(4.0hr)

第７回　ウラジミール・プルメイステル版のストーリーと演出
【　到達目標　】
ウラジミール・プルメイステル版のストーリーと演出を理解し、プレゼン出来る。

【授業時間外学習】
第8回のプレゼンの準備をする。(4.0hr)

第８回　ユーリ・グリゴローヴィチ版のストーリーと演出
【　到達目標　】
ユーリ・グリゴローヴィチ版のストーリーと演出を理解し、プレゼン出来る。

【授業時間外学習】
第9回の発表の準備をする。(4.0hr)

第９回　マリウス・プティパ版第2幕、隊形分析と発表
【　到達目標　】
マリウス・プティパ版『白鳥の湖』第2幕の隊形分析をする。また振りを模倣し、踊りを発表出来る。

【授業時間外学習】
第10回の発表の準備をする。(4.0hr)

第10回　ウラジミール・プルメイステル版第2幕、隊形分析と発表
【　到達目標　】
ウラジミール・プルメイステル版『白鳥の湖』第2幕の隊形分析をする。また振りを模倣し、踊りを発表出来る。

【授業時間外学習】
第11回の発表の準備をする。(4.0hr)

第11回　ユーリ・グリゴローヴィチ版第2幕、隊形分析と発表
【　到達目標　】
ユーリ・グリゴローヴィチ版『白鳥の湖』第2幕の隊形分析をする。また振りを模倣し、踊りを発表出来る。

【授業時間外学習】
第12回の発表の準備をする。(4.0hr)

第12回　マリウス・プティパ版第4幕、隊形分析と発表
【　到達目標　】
マリウス・プティパ版『白鳥の湖』第4幕の隊形分析をする。また振りを模倣し、踊りを発表出来る。

【授業時間外学習】
第13回の発表の準備をする。(4.0hr)

第13回　ウラジミール・プルメイステル版第4幕、隊形分析と発表
【　到達目標　】
ウラジミール・プルメイステル版『白鳥の湖』第4幕の隊形分析をする。また振りを模倣し、踊りを発表出来る。

【授業時間外学習】
第14回の発表の準備をする。(4.0hr)

第14回　ユーリ・グリゴローヴィチ版第4幕、隊形分析と発表
【　到達目標　】
ユーリ・グリゴローヴィチ版『白鳥の湖』第4幕の隊形分析をする。また振りを模倣し、踊りを発表出来る。

【授業時間外学習】
これまでの各版の『白鳥の湖』を振り返り、まとめる。(4.0hr)

第15回　他の創意工夫された『白鳥の湖』を鑑賞・考察
【　到達目標　】
各版の『白鳥の湖』の特徴を考察、比較し説明することが出来る。また他の創意工夫された『白鳥の湖』を鑑賞し、作品の奥深さを理解する。

【授業時間外学習】
15回の授業を振り返り、授業の反省・感想をまとめる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

この演習はグループワークが主であり、資料作成・プレゼンの準備などを受講者が積極的に協力して、全員で行えるようにする事。プレゼンの際には、資料配付、DVD上映、パワーポイント、板書などを駆使し、聴衆の理解度を高めるよう努める。毎回の資料や、プレゼンの内容が事前に準備されていないと授業が進行しないという事を、受講者全員が理解し、与えられた課題に責任を持って取り組む事。

作品模倣は、DVDに登場する出演人数よりも縮小版に作り替えて発表するため、事前準備を徹底して行い、発表当日は衣装を着て行ってもよい。身だしなみはきちんとすること。毎回、リアクションペーパーを配布し、各版との比較を行う。プレゼン内容、リアクションペーパーについては、適宜、解説ならびにフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

適宜、参考資料を各自で配付する。
「永遠の白鳥の湖」（森田　稔／新書館）　「踊る世紀」（鈴木　晶／新書館）

【成績評価方法】

授業における課題達成度40%、レポート40%、学習意欲・関心・積極性20%を総合的に評価します。

科目名	舞踊指導演習（舞踊家・一般成人指導法）			担当者	馬 場 ひ か り	
英文名	Seminar in Dance Teaching Method (Teaching Method for Instructors and Adults)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	演習		科目ナンバー	DME213		

【目的とねらい】

舞踊の意義と目的を理解し、舞踊理念に基づいた舞踊方法学を研究する。具体的な指導案を作成し、グループ演習による指導体験を通し舞踊方法学を実践的に習得すると共に、舞踊教育の今後の課題、問題点を社会的、文化芸術的な側面で考察する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　舞踊の意義と理念

【　到達目標　】

舞踊とは何か、舞踊の社会的、芸術的意義を学び、基本的舞踊理念を学ぶ。

【授業時間外学習】

舞踊の何を（what）、いかに（how）、何故（why）学ぶか、の３つのWの考察をする。(4.0hr)

第２回　舞踊のジャンル、そのメソッドとテクニック

【　到達目標　】

様々な舞踊のジャンルにおける指導の特性、モダンダンスの様々なスタイル、そのメソッドとテクニックを理解・研究する。

【授業時間外学習】

アメリカのモダンダンスの歴史をリサーチする。(4.0hr)

第３回　舞踊のジャンル、そのメソッドとテクニック

【　到達目標　】

様々な舞踊のジャンルにおける指導の特性、モダンダンスの様々なスタイル、そのメソッドとテクニックを理解・研究する。

【授業時間外学習】

舞踊のジャンルを挙げ、その特性を考察する。(4.0hr)

第４回　指導案の作成

【　到達目標　】

指導案作成の留意点を考え、指導の流れ、構成する内容を考案し、タイムテーブルを作成する。

【授業時間外学習】

モダンダンスのテクニックの種類とその特性を研究する。(4.0hr)

第５回　舞踊指導例１ モダンダンス（一般成人）

【　到達目標　】

一般成人のためのモダンダンスのクラスを、ウォームアップから、クールダウンまで、実際に演習する。

【授業時間外学習】

一般成人のための舞踊のテクニックを研究する。(4.0hr)

第６回　舞踊指導例２ モダンダンス、コンテンポラリーダンス（舞踊家）

【　到達目標　】

舞踊家のためのモダンダンス、コンテンポラリーダンスのクラスを構成するエクササイズ、コンビネーションを研究、演習する。

【授業時間外学習】

舞踊家のための舞踊のテクニックを研究する。(4.0hr)

第７回　舞踊創作、インプロヴィゼーションの指導

【　到達目標　】

舞踊テクニッククラスの中での創作、インプロヴィゼーションの導入、その指導法の研究について理解する。

【授業時間外学習】

指導に取り入れる創作の（振付法）基礎を研究する。(4.0hr)

第８回　グループ演習とディスカッション

【　到達目標　】

4～6人のグループを作り、各グループで、指導案をもとに、60分の疑似クラスを行う。終了後の約20分間、指導内容について、指導グループと、受講者とで、ディスカッションをする。

【授業時間外学習】

グループ毎に、クラス構成を考案し、発表の準備をする。(4.0hr)

第９回　グループ演習とディスカッション

【　到達目標　】

4～6人のグループを作り、各グループで、指導案をもとに、60分の疑似クラスを行う。終了後の約20分間、指導内容について、指導グループと、受講者とで、ディスカッションをする。

【授業時間外学習】

グループ毎にクラス構成を考案し、発表の準備をする。(4.0hr)

第10回　グループ演習とディスカッション

【　到達目標　】

4～6人のグループを作り、各グループで、指導案をもとに、60分の疑似クラスを行う。終了後の約20分間、指導内容について、指導グループと、受講者とで、ディスカッションをする。

【授業時間外学習】

グループ毎にクラス構成を考案し、発表の準備をする。(4.0hr)

第11回　グループ演習とディスカッション

【　到達目標　】

4～6人のグループを作り、各グループで、指導案をもとに、60分の疑似クラスを行う。終了後の約20分間、指導内容について、指導グループと、受講者とで、ディスカッションをする。

【授業時間外学習】

グループ毎にクラス構成を考案し、発表の準備をする。(4.0hr)

第12回　グループ演習とディスカッション

【　到達目標　】

4～6人のグループを作り、各グループで、指導案をもとに、60分の疑似クラスを行う。終了後の約20分間、指導内容について、指導グループと、受講者とで、ディスカッションをする。

【授業時間外学習】

グループ毎にクラス構成を考案し、発表の準備をする。(4.0hr)

第13回　グループ演習とディスカッション

【　到達目標　】

4～6人のグループを作り、各グループで、指導案をもとに、60分の疑似クラスを行う。終了後の約20分間、指導内容について、指導グループと、受講者とで、ディスカッションをする。

【授業時間外学習】

グループ毎にクラス構成を考案し、発表の準備をする。(4.0hr)

第14回　舞踊教育の社会的、文化的側面における課題と展望

【　到達目標　】

グループ演習の成果と講義の内容に関連して、現代が直面する舞踊教育の課題、問題点などを社会的、文化的側面から考察する。

【授業時間外学習】

日本と世界の舞踊教育の違いについて研究する。(4.0hr)

第15回　舞踊教育の社会的、文化的側面における課題と展望

【　到達目標　】

舞踊教育の社会的側面として、コミュニティー・ダンスなどの実例を基に、舞踊方法学の応用を学ぶ。

【授業時間外学習】

コミュニティダンス、障がい者のためのダンスをリサーチする。(4.0hr)

【学習上の留意点】

グループ演習に関しては、その準備として、授業時間外での意見交換、練習などの時間を作る。各演習（発表）後に、発表者と受講者とのディスカッションを行い、フィードバックとして、小レポートを提出する。レポートは、グループ内で共有し、問題点などを解決するのに役立てる。

【教科書・参考書など】

特に使用しない。

【成績評価方法】

グループ演習での指導実技の評価30%、レポート70%。

科目名	創作Ⅱ			担当者	岩淵多喜子	
英文名	Choreography Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	演習		科目ナンバー	DME306		

【目的とねらい】

舞踊作品の創作に必要な様々な手法についての知識を得るとともに、オリジナリティのある固有のダンス語彙を生み出していく方法について、ソロ、デュオ、グループ作品について実践的に学ぶ。

【授業内容・到達目標など】

第１回　授業進行についてのオリエンテーション
【　到達目標　】
舞踊作品の創作についての概念を学び、今後の授業の進行について理解する。
【授業時間外学習】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第２回　ネガティブスペース、ポジティブスペースの理解
【　到達目標　】
ネガティブスペース、ポジティブスペースの考え方について理解する。
ネガティブスペース、ポジティブスペースの考え方について理解し、短いフレーズを題材に創作を行う。
【授業時間外学習】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第３回　ネガティブスペース、ポジティブスペースの応用
【　到達目標　】
ネガティブスペース、ポジティブスペースの応用方法について学ぶ。
ネガティブスペース、ポジティブスペースの応用について、パートナーがいる状態といない状態の差異等を学ぶ。
【授業時間外学習】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第４回　9ポイントの理解と応用
【　到達目標　】
9ポイントの考え方とその応用方法について理解する。
ラバンの9ポイントの考え方を理解し、基本となる短いフレーズを創作し、基本フレーズをもとに、ダイナミクス、空間の変化を加え、その応用方法について学ぶ。
【授業時間外学習】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第５回　トランスフォーメーションの理解と応用
【　到達目標　】
トランスフォーメーションの考え方を理解する。
短いフレーズをもとに、体軸、空間、体の部位を変化させることによりフレーズの応用の可能性を探る。
【授業時間外学習】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第６回　テーマからの創作法　－言葉からのアプローチー①
【　到達目標　】
言葉を場面創造に置き換える手法について学ぶ。
詩をもとに、そこから得たインスピレーションをインスタントコンポジションの手法を用い、作品の場面創造に利用する方法について学ぶ。
【授業時間外学習】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第７回　テーマからの創作法　－言葉からのアプローチー②
【　到達目標　】
言葉を動きの語彙の創出に生かす手法について学ぶ。
詩をもとに短いソロを創作する。言葉からのインスピレーションを個の動きのボキャブラリーに利用する方法について学ぶ。
【授業時間外学習】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第８回　テーマからの創作法　－絵からのアプローチー①
【　到達目標　】
絵をもとに、そのダンス化の手法について学ぶ。
静止画をもとに、その絵がもつテーマ、特徴を読み取り、動きの語彙や場面創造の可能性について学ぶ。
【授業時間外学習】
創作法についての理解を文献等で深める(4.0hr)

第９回　テーマからの創作法　－絵からのアプローチー②
【　到達目標　】
絵をもとに、そのダンス化の手法について学ぶ。
静止画をもとに、その絵がもつテーマ、特徴を読み取り、動きの語彙や場面創造の可能性について学ぶ。
【授業時間外学習】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第10回　テーマからの創作法　－音楽からのアプローチー①
【　到達目標　】
音楽をもとに、そのダンス化の手法について学ぶ。
課題曲をもとに、その音楽がもつ音楽的構造、テーマ等を理解し、動きの語彙や場面創造の可能性について学ぶ。
【授業時間外学習】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第11回　テーマからの創作法　－音楽からのアプローチー②
【　到達目標　】
音楽をもとに、そのダンス化の手法について学ぶ。
課題曲をもとに、その音楽がもつ音楽的構造、テーマ等を理解し、動きの語彙や場面創造の可能性について学ぶ。
【授業時間外学習】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第12回　自由創作①
【　到達目標　】
テーマの設定と具体的なアプローチの決定を行う。
これまで授業で扱ってきた様々な手法をもとに、グループごとでテーマを設定し、作品への具体的なアプローチの仕方を決める。
【授業時間外学習】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第13回　自由創作②
【　到達目標　】
ラフスケッチからより具体的な作品に立ち上げる。
前回設定したテーマやアプローチの仕方をもとに創作を進める。
【授業時間外学習】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第14回　自由創作③　－推敲と踊りこみー
【　到達目標　】
完成度を高める。
作品を推敲し、踊りこみを行い完成度を高める。
【授業時間外学習】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第15回　自由創作　－発表と総括ー
【　到達目標　】
作品を発表レベルにまで高める。
グループごとに作品の実演発表を行い、作品の立ち上げ→創作（作品化）→発表を経験し、舞踊作品の創作について総合的に理解を深める。
【授業時間外学習】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

【学習上の留意点】

授業の内容は個やグループによる創作活動が主になるため、自己の体調、スケジュール管理をしっかり行い、主体的に取り組む姿勢が求められる。

【教科書・参考書など】

授業中に参考資料を配布。

【成績評価方法】

評価基準は、実技課題70パーセント、レポート課題30パーセントとし、総合的に評価する。

科目名	テクニック＆レパートリー			担当者	平　山　素　子	
英文名	Technique & Repertory					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	実技		科目ナンバー	DME307		

【目的とねらい】

現在、最も注目されている内外のアーティストの振付作品を実際に学ぶ。単に踊るだけでなく、振付が行われる過程、作品のコンセプト、意図などについて、振付家本人から直接学び、また、踊る側のダンサーとして、これらをさらに掘り下げる作業を通して、よりプロフェッショナルな世界に触れることを目的とする。最終的に1月に行う舞踊学専攻卒業公演内で作品を発表する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　*ガイダンス*	**第９回　振付・作品創作実技２**
【　到達目標　】 授業の進め方を理解する。	【　到達目標　】 作家の作品を踊る事によって優れた創作法について理解し、実際の創作法をマスターする。
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)	【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)
第２回　技術習得実技１	**第10回　振付・作品創作実技３**
【　到達目標　】 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。	【　到達目標　】 作家の作品を踊る事によって優れた創作法について理解し、実際の創作法をマスターする。
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)	【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)
第３回　技術習得実技２	**第11回　振付・作品創作実技４**
【　到達目標　】 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。	【　到達目標　】 作家の作品を踊る事によって優れた創作法について理解し、実際の創作法をマスターする。
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)	【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)
第４回　技術習得実技３	**第12回　振付・作品創作実技５**
【　到達目標　】 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。	【　到達目標　】 作家の作品を踊る事によって優れた創作法について理解し、実際の創作法をマスターする。
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)	【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)
第５回　技術習得実技４	**第13回　振付・作品創作実技６**
【　到達目標　】 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。	【　到達目標　】 作家の作品を踊る事によって優れた創作法について理解し、実際の創作法をマスターする。
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)	【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)
第６回　技術習得実技５	**第14回　振付・作品創作実技７**
【　到達目標　】 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。	【　到達目標　】 作家の作品を踊る事によって優れた創作法について理解し、実際の創作法をマスターする。
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)	【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)
第７回　技術習得実技６	**第15回　作品上演についての重要事項の確認**
【　到達目標　】 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。	【　到達目標　】 全体の確認をする事によって、更に深く創作法について理解する。
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)	【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)
第８回　振付・作品創作実技１	
【　到達目標　】 作家の作品を踊る事によって優れた創作法について理解し、実際の創作法をマスターする。	
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)	

【学習上の留意点】

内容の詳細については授業中に指示する。授業にあたってはオーディションを行うこともある。

【教科書・参考書など】

その都度指示します。

【成績評価方法】

授業への取り組み方・参加度５０％、実技平常点５０％の割合で総合的に評価する。

科目名	スペイン舞踊			担当者	東　陽子	
英文名	Spanish Dance					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	実技		科目ナンバー	DME103		

【目的とねらい】
フラメンコ特有の変拍子と音楽との一体感を習得し、舞踊表現に発展させる。

【授業内容・到達目標など】

第１回　コンパス(リズム)の習得①
【　到達目標　】
サパテアード(足)の種類を知り、コンパス(リズム)を打つ。
【授業時間外学習】
フラメンコ音楽を聴く。(1.0hr)

第２回　コンパス(リズム)の習得②
【　到達目標　】
パルマ(手拍子)でコンパス(リズム)を打つ。
【授業時間外学習】
フラメンコ音楽を聴く。(1.0hr)

第３回　身体の使い方の習得①
【　到達目標　】
ブラソ(腕)、マノ(手)の動きを習得する。
【授業時間外学習】
フラメンコ音楽を聴く。(1.0hr)

第４回　身体の使い方の習得②
【　到達目標　】
サパテアード（足）にブラソ(腕)、マノ(手)の動きをのせる。
【授業時間外学習】
フラメンコ音楽を聴く。(1.0hr)

第５回　身体の使い方の習得③
【　到達目標　】
重心の重さを身につける。
【授業時間外学習】
フラメンコ音楽を聴く。(1.0hr)

第６回　コンパス(リズム)、身体の使い方の応用①
【　到達目標　】
パルマ(手拍子)、ハレオ(掛声)にのって踊り合う。
【授業時間外学習】
フラメンコ音楽を聴き、コンパス(リズム)を明確に感じる。(1.0hr)

第７回　コンパス(リズム)、身体の使い方の応用②
【　到達目標　】
コンパス(リズム)を使って全身で表現する。
【授業時間外学習】
フラメンコ音楽を聴き、コンパス(リズム)を明確に感じる。(1.0hr)

第８回　コンパス(リズム)、身体の使い方の応用③
【　到達目標　】
テンポを変えてリズム感良く踊る。
【授業時間外学習】
フラメンコ音楽を聴き、コンパス(リズム)を明確に感じる。(1.0hr)

第９回　振付け①
【　到達目標　】
様々な動きをコンパス(リズム)にのせて踊る。
【授業時間外学習】
課題曲を聴く。(1.0hr)

第10回　振付け②
【　到達目標　】
カンテ（歌）、ギターのコンパス（リズム）を理解する。
【授業時間外学習】
課題曲を聴く。(1.0hr)

第11回　振付け③
【　到達目標　】
カンテ（歌）、ギターのノリをつかんで踊る。
【授業時間外学習】
課題曲を聴く。(1.0hr)

第12回　振付け④
【　到達目標　】
流れに意識を持つ事ができるようにする。
【授業時間外学習】
課題曲を聴き、コンパス(リズム)の流れをつかむ。(1.0hr)

第13回　振付け⑤
【　到達目標　】
振付けを明確にする。
【授業時間外学習】
課題曲を聴き、コンパス(リズム)の流れをつかむ。(1.0hr)

第14回　振付け⑥
【　到達目標　】
自身の一曲にする。
【授業時間外学習】
課題曲を聴き、コンパス(リズム)の流れをつかむ。(1.0hr)

第15回　一曲を完成
【　到達目標　】
一人で表現できるようにする。
【授業時間外学習】
課題曲を聴き、コンパス(リズム)の流れをつかむ。(1.0hr)

【学習上の留意点】
毎回授業内で提示される重要ポイントを理解し、自身の身体で表現できるように深める。授業内での講師のデモンストレーション後に各自同じポイントを表現してもらい解説によるフィードバックを行う為、意欲的に授業に出席し授業最終日の実技試験につなげる。

【教科書・参考書など】
特になし。

【成績評価方法】
フラメンコの理解度：60%
振付けの完成度：40%

科目名	日本舞踊			担当者	西川箕乃助	
英文名	Nihon Buyo (Japanese Classical Dance)					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	実技		科目ナンバー	DME104		

【目的とねらい】

まず最初に着物（浴衣でも可）の正しい着方、お辞儀の他、和装の時の正しい立ち居振る舞いを身につけたい。その後、日本舞踊の歩き方、扇の扱い方などの基本動作を習得した上で、女踊り「潮来出島」「藤娘」の踊り地、男踊り「雨の五郎」の踊り地、「玉や」の踊り地を習得する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　日本舞踊の基本動作、立ち居振る舞いの説明と実践
【　到達目標　】
日本舞踊の基本動作と立ち居振る舞いについて理解し、習得する。
【授業時間外学習】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第２回　女踊り「潮来出島」の振りの習得
【　到達目標　】
女踊り「潮来出島」の振りを習得する。
【授業時間外学習】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第３回　女踊り「潮来出島」の振りの習得
【　到達目標　】
女踊り「潮来出島」の振りを習得する。
【授業時間外学習】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第４回　「潮来出島」の習熟度チェックのための実技発表
【　到達目標　】
「潮来出島」の実技発表を通して習熟度を確認し、「潮来出島」の振りを習得する。
【授業時間外学習】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第５回　男踊り「雨の五郎」の踊り地の振りの習得
【　到達目標　】
男踊り「雨の五郎」の踊り地の振りを習得する。
【授業時間外学習】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第６回　男踊り「雨の五郎」の踊り地の振りの習得
【　到達目標　】
男踊り「雨の五郎」の踊り地の振りを習得する。
【授業時間外学習】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第７回　「雨の五郎」の習熟度チェックのための実技発表
【　到達目標　】
「雨の五郎」の実技発表を通して習熟度を確認し、「雨の五郎」の振りを習得する。
【授業時間外学習】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第８回　女踊り「藤娘」の踊り地の振りの習得
【　到達目標　】
女踊り「藤娘」の踊り地の振りを習得する。
【授業時間外学習】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第９回　女踊り「藤娘」の踊り地の振りの習得
【　到達目標　】
女踊り「藤娘」の踊り地の振りを習得する。
【授業時間外学習】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第10回　女踊り「藤娘」の踊り地の振りの習得
【　到達目標　】
女踊り「藤娘」の踊り地の振りを習得する。
【授業時間外学習】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第11回　「藤娘」の習熟度チェックのための実技発表
【　到達目標　】
「藤娘」の実技発表を通して習熟度を確認し、「藤娘」の振りを習得する。
【授業時間外学習】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第12回　男踊り「玉や」の踊り地の振りの習得
【　到達目標　】
男踊り「玉や」の踊り地の振りを習得する。
【授業時間外学習】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第13回　男踊り「玉や」の踊り地の振りの習得
【　到達目標　】
男踊り「玉や」の踊り地の振りを習得する。
【授業時間外学習】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第14回　「玉や」のび習熟度チェックのための実技発表
【　到達目標　】
「玉や」の実技発表を通して習熟度を確認し、「玉や」の振りを習得する。
【授業時間外学習】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第15回　日本舞踊と洋舞の比較を討議
【　到達目標　】
授業で学んだ日本舞踊について理解することができる。
【授業時間外学習】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

【学習上の留意点】

・受講の際は必ず着物（浴衣でも可）を着ること。時計、指輪、ネックレスなどの貴金属の着用は不可。
・授業に出席することが大前提である。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

授業における課題達成度（50%）、個々の習熟度（50%）で評価する。

科目名	学校教育ダンス			担当者	宮　本　乙　女	
英文名	Dance Teaching Method in School					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	実技		科目ナンバー	DME214		

【目的とねらい】

学校教育におけるダンス授業の指導法に焦点をあて、学齢期生徒の心身の発達に合わせたダンス授業の指導内容と方法について、実践を通じて理解する。具体的には、学習指導要領に基づいたダンス授業の基本的な単元計画のあり方や指導法、評価法について学習する。また、ダンス指導に必要な指導言語、伴奏楽器の使い方、音楽の選択、板書の工夫などについても学習する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション、フォークダンス①②
【　到達目標　】
授業の概要、ダンス教育の意義について理解する。
取り組みやすい外国のフォークダンスの踊り方と指導法を学ぶ。

【授業時間外学習】
配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)

第２回　オリエンテーション、導入のしかた・題材①、リズムの示範実習
【　到達目標　】
授業の概要、ダンス教育の意義について理解する。
導入の単元より、現代的なリズムのダンスを学ぶ。

【授業時間外学習】
配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)

第３回　創作ダンス・題材②、ひと流れの動きを引き出す示範実習
【　到達目標　】
ダンスとの出逢いの授業。ものを使ってひと流れの動きの指導法を学ぶ。
ひと流れの動きを引き出す実習を体験する。

【授業時間外学習】
配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)

第４回　創作ダンス・題材③、極限を引き出す示範実習
【　到達目標　】
対極の動きの連続を手がかりにした基本的な題材から指導法を学ぶ。
極限を引き出す示範方法を実習する。

【授業時間外学習】
配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)

第５回　創作ダンス・題材④、リズム太鼓の使い方実習
【　到達目標　】
群の動きを手がかりにした基本的な題材から指導法を学ぶ。
リズム太鼓の使い方を始め、伴奏楽器の使用法について実習する。

【授業時間外学習】
配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)

第６回　創作ダンス・題材⑤、授業内発表会の持ち方
【　到達目標　】
身近な生活や日常動作を手がかりにした基本的な題材の指導法と、簡単な授業内発表会の指導法を学ぶ。

【授業時間外学習】
配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)

第７回　作品の鑑賞と現代的なリズムのダンス・題材⑥
【　到達目標　】
リズムを手がかりにして自由に自分のダンスを踊る題材の指導法と、簡単な踊り合いの指導法を学ぶ。
作品の鑑賞と評価法について学ぶ。
【授業時間外学習】
配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)

第８回　現代的なリズムのダンス・題材⑦、発表会のバリエーション
【　到達目標　】
リズムを手がかりにして自由に自分のダンスを踊る題材の指導法と、授業内での簡単な踊り合い、見せ合いの指導法を学ぶ。

【授業時間外学習】
配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)

第９回　即興を生かしたイメージから広げるダンス・題材⑧
【　到達目標　】
人と関わり、お互いの力を生かしあいながら、即興的に踊る体験と、簡単なクラス作品作りの指導法を学ぶ。

【授業時間外学習】
配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)

第10回　フォークダンス③、外国のフォークダンスの指導方法
【　到達目標　】
外国のフォークダンスの踊り方と指導法を学ぶ。
示範と声かけの仕方を実習する。
指導法実習に向け、学習指導案の書き方について学ぶ。指導ＤＶＤを視聴する。
【授業時間外学習】
指導法実習で行う課題を教科書により検討する。(1.0hr)

第11回　創作ダンス・題材⑨
【　到達目標　】
絵画のイメージをきっかけとした作品作りを体験する。
グループ創作をクラス作品に構成する方法を学ぶ。
指導法実習で取り組むべき内容について学ぶ。
【授業時間外学習】
指導法実習で行う課題について、自分の指導のシナリオを完成させる。(1.0hr)

第12回　グループ作品作りに対する指導方法を学ぶ。指導法実習の準備活動
【　到達目標　】
簡単なデッサンからグループ創作をするときの教師の指導法を学ぶ。
自分で選んだ題材の指導について、太鼓のたたき方や声のかけ方を検討する。
指導法実習のシミュレーションを行う。
【授業時間外学習】
指導法実習の指導案を練習し、掲示物を作成する。(1.0hr)

第13回　指導法実習①
【　到達目標　】
作成した指導案に基づいた指導法の実習を行う。

【授業時間外学習】
教科書を復習し、指導法実習を振り返っておく。(1.0hr)

第14回　指導法実習②
【　到達目標　】
作成した指導案に基づいた指導法の実習を行う。

【授業時間外学習】
教科書を復習し、指導法実習を振り返っておく。(1.0hr)

第15回　指導法実習③、ダンス学習の評価のポイント
【　到達目標　】
指導法の実習のあと、これまでの学習を振り返り、ダンス授業の指導方法と評価のポイントを理解する。

【授業時間外学習】
これまでのノート、資料を整理し、教科書も用いて全体を復習しておく。(1.0hr)

【学習上の留意点】

中学校でのダンス指導法を学びつつ、高等学校や小学校などでの指導や、社会体育、レクリエーションなどさまざまな場面での指導において、応用できるような力をつけてほしい。ティームティーチング方式によるグループ学習を行い、相互評価によるフィードバックを行いながら、指導法を実践的に身につける。舞踊専攻学生として、自分自身の実技力をどのように活かして現場での初心者指導を行うのか、実技、理論共に身につけていくことを望んでいる。授業の際は、各自、Ａ４版の授業ノートを用意すること。服装は指導者としてふさわしい服装で臨むこと。表現運動学において学んだ、「発達段階とダンス」、「ダンスの創作過程」を復習しておくと良い。

【実務経験のある教員による授業科目】

中学校教諭（保健体育）としての実務経験を活かし、学習指導要領に基づいたダンス授業の基本的な単元計画のあり方や指導法、評価方法等について、実技を中心に指導を行う。

【教科書・参考書など】

教科書として「明日からトライ！ダンスの授業」全国ダンス・表現運動授業研究会編（大修館書店）を使う。毎時間、授業内で使用する。

【成績評価方法】

課題達成度(授業における実技の課題達成度、指導法実習等)70%、知識理解(学習カード・指導法実習指導案)30%の割合で評価する。

科目名	舞踊史学			担当者	松　澤　慶　信	
英文名	Dance History					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門・選択		
授業形態	講義		科目ナンバー	DME308		

【目的とねらい】

英語文献を講読・輪読して進める。毎回受講者全員に翻訳してきてもらい、それを発表した後に、徹底的にその解釈と和訳に検討を加えて、完成とする。それができない人は受講を控えること。その上で芸術史学としての舞踊史学そのものを問う。

【授業内容・到達目標など】

第１回　翻訳するということ

【　到達目標　】

英文をこれでしか読めないという読み方で読むためのルールが文法だが、そのように読んで内容を理解した後に、その内容を正確に第三者にもわかる日本語に書き直す作業が翻訳である。

【授業時間外学習】

配布プリントを読む。(4.0hr)

第２回　芸術思想と芸術現象

【　到達目標　】

芸術思想とは、芸術現象（具体的な作品も含めて）をどう読むかという読み方を方法論的に検討するための思想に他ならない。したがって芸術が思想を同定していくこともある。

【授業時間外学習】

次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)

第３回　美的受容体験の様式史としての舞踊史学

【　到達目標　】

舞踊作品が残存しないのに、舞踊史学は存立するのか。この問題の解決策は、作品そのものに重きを置く制作論ではなく、受容側の受けとめ方を様式化する作業に他ならない。

【授業時間外学習】

次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)

第４回　歴史におけるターニング・ポイント

【　到達目標　】

それ以前と以降であきらかに歴史が変わったというターニング・ポイントは必ずある。しかし何をもって歴史が変わったと考えるのか。ここにその人の歴史観がある。

【授業時間外学習】

次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)

第５回　パラダイム

【　到達目標　】

パラダイムとは流布している代表的な考え方である。しかしそれは価値論的には通俗的で凡庸になるが、学問的にはまずこの通説を押さえるべきである。その上で新しい地平を開拓せよ。

【授業時間外学習】

次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)

第６回　辺境変革説

【　到達目標　】

ターニング・ポイントであれパラダイム・チェンジであれ、新しい波は実はパラダイムが中心となっているトポスではなく、その周辺から一気に起こってくる。「田舎者」の力を見くびらないこと。

【授業時間外学習】

次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)

第７回　天才

【　到達目標　】

大胆な歴史の変革はパラダイムの中心ではなくむしろ周辺にいるアマチュアから起こると考えられているが、それは得てして体系化されず単発で終わる。しかし一気に完成させるのが天才である。

【授業時間外学習】

次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)

第８回　物語と歴史

【　到達目標　】

historyであれGeschichteであれ、歴史とは物語である。客観的事実の羅列ではない。そもそも資料の採集の時点ですでに歴史家の視点というバイアスがかかっていることを忘れてはならない。

【授業時間外学習】

次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)

第９回　作品史

【　到達目標　】

芸術史が究極、美的受容体験の様式史ではあるが、もちろん作品そのものをないがしろにしてはいけない。作品にどう接するか。作品を前にしてわれわれはそこからささやかれる声を聞くこと。

【授業時間外学習】

次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)

第10回　人物伝

【　到達目標　】

絵画が基本的に人物を描く物語画であったように、人間への関心が芸術学の対象であることは否めない。ヴァザーリの列伝は今も芸術学資料の基本である。人間学としての芸術学を目指す。

【授業時間外学習】

次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)

第11回　20世紀のキーパーソン

【　到達目標　】

20世紀という時代を探るにあたって人物を中心にみることは具体的作業手順として有効であろう。われわれはまだ同時代に生きる息吹を、体臭を感得できるからだ。歴史は空気である。

【授業時間外学習】

次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)

第12回　思想史としての舞踊史

【　到達目標　】

芸術は時代を映す鑑である。ヘーゲルはこのことを時代精神と言った。われわれはこの時代精神を概念化して、それを思想と呼ばねばならない。思想にまで昇華させて時代を見据えなければならない。

【授業時間外学習】

次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)

第13回　方法論的反省

【　到達目標　】

y＝ｆ（x）の変数ｘを変えて導入してｙ値を求めるという、関数ｆそのものを反省しないのは考察に値しない。単なる手の運動である。屋上屋を架すという。芸術学は事実学ではないのである。

【授業時間外学習】

次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)

第14回　演劇史

【　到達目標　】

周辺的な類似学として参照する学問に演劇史を特化して挙げておきたい。この演劇学には古典的な意味での演劇はもちろんだが、しかし演劇そのものをメタ的に考察するパフォーマンスの美学を含む。

【授業時間外学習】

次回授業のための予習を行うこと。予習のための資料は授業時に配布予定。(4.0hr)

第15回　舞踊史学再考

【　到達目標　】

舞踊史学をめぐる様々な問題提起を整理したい。芸術史学の一つとしての舞踊史学ではなく、舞踊史学が今までの芸術史学に再構成を促すような視点や方法論を提出する気概を持ちたい。

【授業時間外学習】

これまでの輪読部分の翻訳（決定稿）を、各自で完成させる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

毎回翻訳して和訳までしてきて授業にのぞむこと。何も準備してこずに予習もしないで参加する者は出席とは認めない。英語の理解力のレヴェルは様々だろうから、それは考慮するが、自分でとことんまで調べてくること。そして自分なりの歴史観をもってほしい。

【教科書・参考書など】

授業中に指示するが、参考書として、『ダンスは国家と踊る』アニエス・イズリーヌ著　慶應義塾大学出版会と、『20世紀ダンス史』ナンシー・レイノルズ他著　慶應義塾大学出版会をあげる。

【成績評価方法】

毎回の出席に際して、予習をどこまでやってきているかによって採点する。予習の度合いによる評価100%。

科目名	ダンス制作論			担当者	松　山　善　弘	
英文名	Theory of Dance Production					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門・選択		
授業形態	講義		科目ナンバー	DME309		

【目的とねらい】

ダンス制作は、踊ったり振付をしたりする作業とは違うが、実はcreativeな仕事である。演目、振付家の選定、スタッフの確定などproduceをすることや、助成金の申請、劇場予約、出演交渉、宣伝・切符の配布から当日パンフレットの制作まで、サービス業に関わる広範囲な業務を含む。この授業では、自分たちで実際に公演を打つことをシミュレートして実体験できるようにもする。しかし今のダンスに問題意識を持つこと。これがすべてである。制作を学ぶことによって、実際に舞台に立つにあたって、実は大勢のスタッフに支えられている公演であることを自覚できれば、それだけでも充分に意味があると言えるだろうが、受講者の中から実際に制作の道に出てくる者がいれば、それこそは望外の幸せである。

【授業内容・到達目標など】

第１回　プロデュースとは何か

【　到達目標　】

製作ではなく制作と記すプロデュースとは何か。作品を作る環境や条件を整備して、作家の王国を作ることである。制作という営為をなぜ大学で学ぶのかを理解する。

【授業時間外学習】

授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第２回　現代のダンス状況の調査と展望を踏まえた制作

【　到達目標　】

プロデュースとは公演を打つことを言うだけではない。どのような公演を打ち、それがダンス界にどういう意味と影響を持つか、その方向性を見定めるcreativeな営為であるという事を理解する。

【授業時間外学習】

授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第３回　振付家、ダンサーの選出・交渉　作品の方向性の確認

【　到達目標　】

誰にどのようにどこでどうやって、などの具体的な戦略をたてなければならない。これが制作の一番重要な問題である。制作とは事務レベルの仕事だけではないという事を理解する。

【授業時間外学習】

授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第４回　会場の選定

【　到達目標　】

会場設定が重要なことは、その公演のイメージや売りという意味だけでなく、切実に会計に響いてくる問題だからである。客入りを見越してプランをたてなければならないという事を理解する。

【授業時間外学習】

授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第５回　スタッフの確定

【　到達目標　】

スタッフとは舞台の進行を全体的にチェックする舞台監督、照明を担当する照明係、音を担当する音響係、という舞台を運営して行く者たちを言う。したがってこのスタッフ選びが作品に影響を及ぼすという事を理解する。

【授業時間外学習】

授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第６回　マネージメントとは何か

【　到達目標　】

マネージメントとプロデュースとはほとんど同意だが、ここでは事務レベルの仕事を指すと考える。creativeな作業というよりも、どう進行していくかをチェックする営業的仕事であるということを理解する。

【授業時間外学習】

授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第７回　予算の設定

【　到達目標　】

すべての根幹はやはり予算にある。チケット収入だけで公演が成立しないなら、どこから助成金を引き出すのか、ノルマ制にするのか。支出は何か。具体的な内容について理解する。

【授業時間外学習】

授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第８回　メセナと助成団体

【　到達目標　】

助成とは何か。そういう助成をするメセナはどういう仕事であり、そのためにはどういう倫理や規範を持ってのぞむのか。助成基金を出す団体組織について理解する。

【授業時間外学習】

授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第９回　助成金の申請方法

【　到達目標　】

具体的に助成金の申請をシミュレートしてみる。申請書に書かれている項目はかえって自分たちの公演の意味や位置づけを反省させてくれる。今後の実践にも役立てる。

【授業時間外学習】

授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第10回　宣伝戦略

【　到達目標　】

結局、観客動員が予算においても、評価においても、公演を決定づける要因である。それはパフォーマーの志気にも影響する。そのためにはどうやって観客を動員するのかの宣伝方法を確認する。

【授業時間外学習】

授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第11回　当日パンフレットの作成

【　到達目標　】

公演の顔に当たるものがチラシであり当日パンフレットである。しかもこれら紙媒体は記録としても残るので、その意味は思いの外に大きい。当日パンフレットの作成には細心の注意が必要であるという事を理解する。

【授業時間外学習】

授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第12回　切符の管理と販売、当日業務の確認

【　到達目標　】

当日業務の中心はやはりチケットの処理にある。狭いロビーだとその混み具合によって開演時間にも影響する。しかし他にもスタッフへのケイタリング、会場との連絡など、やることは一杯ある。このことについて理解する。

【授業時間外学習】

授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第13回　舞踊批評の批評

【　到達目標　】

批評とは何か。そして舞踊の批評とは何か。作家やパフォーマーは作品を正しくわかっているのだろうか。そもそも正しい理解や解釈とは何か。観る側の論理があっていい。それを確認する。

【授業時間外学習】

授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第14回　舞踊批評を書く

【　到達目標　】

実際に舞踊批評を書いてみよう。書くことで、作り手には見えていなかったことが発見できるかもしれない。見ることは実は作品を作ることと同じほどにcreativeな作業であることを理解する。

【授業時間外学習】

授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第15回　卒業公演について

【　到達目標　】

実際に創作し鑑賞したわれわれの卒業公演を、創作に対する批評だけでなく、制作の視点からも反省してみたい。観客の立場から見てみることも､制作にとっては必要な視点だということを理解する。

【授業時間外学習】

授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

【学習上の留意点】

毎時間ごとに、架空の公演を想定したレポートを作成してもらいます。そのレポートを通じて制作についてさらに理解を深めて下さい。

【教科書・参考書など】

授業中に指示する。

【成績評価方法】

授業ごとのレポート４０％、ダンス制作に関する総合的なレポート６０％の割合で総合的に評価する。

科目名	舞台上演法			担当者	石　川　浩　子	
英文名	Performance and Theater Workshop					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門・選択		
授業形態	演習		科目ナンバー	DME401		

【目的とねらい】

舞踊公演は長い歴史を持ち、民族・地域により多様性がある。しかしどのような舞踊であろうと観客を得た場合の上演ではそのための準備が必要である。この授業ではダンスの舞台上演までの作業を明らかにし、職業的知見を獲得することを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
舞台上演法の授業の進め方について理解する。
【授業時間外学習】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第２回　制作について
【　到達目標　】
制作の仕事について理解する。
【授業時間外学習】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第３回　照明シートの書き方
【　到達目標　】
照明プランの立て方、照明シートの書き方を理解し習得する。
【授業時間外学習】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第４回　作品づくり１
実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。
【授業時間外学習】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第５回　作品づくり２
【　到達目標　】
実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。
【授業時間外学習】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第６回　作品づくり３
【　到達目標　】
実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。
【授業時間外学習】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第７回　作品づくり４
【　到達目標　】
実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。
【授業時間外学習】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第８回　有志作品選考
【　到達目標　】
有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演の際の作品選択の方法を理解する。
【授業時間外学習】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第９回　作品づくり５
【　到達目標　】
実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。
【授業時間外学習】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第10回　作品づくり６
【　到達目標　】
実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。
【授業時間外学習】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第11回　中間発表
【　到達目標　】
作品を発表しあうことによって、舞台で上演する作品として足りない所を発見し、更に修正していく必要があるということを理解する。
【授業時間外学習】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第12回　作品づくり７
【　到達目標　】
実際の舞台で上演する作品として仕上げていく方法を、作品づくりを通してマスターする。
【授業時間外学習】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第13回　公演準備１
【　到達目標　】
公演に必要な準備を確認し、理解する。
【授業時間外学習】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第14回　公演準備２
【　到達目標　】
公演に必要な準備を確認し、理解する。
【授業時間外学習】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第15回　公演準備３
【　到達目標　】
舞台上演上必要なことを、あらゆる方向から理解する。
【授業時間外学習】
舞台をつくる上で必要なことを復習する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

４年間の学習の総まとめとして、実際の舞台で公演する事を目的とする。毎時間参加は当然の条件である。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

レポート20%、授業への取り組み方60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。

科目名	舞台上演法			担当者	岩淵多喜子	
英文名	Performance and Theater Workshop					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門・選択		
授業形態	演習		科目ナンバー	DME401		

【目的とねらい】

この授業では作品創作の実践を通して、テクニカル的な要素（照明、音響、舞台美術等）、制作的な作業を含めた総合芸術としての舞踊作品を成立させるために必要なプロセス、要素を検証し、総合芸術としての舞踊作品を上演するために必要な職業的知見を獲得することを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション 【　到達目標　】 授業の目的について理解する。 舞台上演法の授業の進め方について理解する。 【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)	**第９回　作品づくり４** 【　到達目標　】 作品をよりよく推敲するための今後の課題とアプローチについて検証する。 前回の検証をもとに、作品を修正、推敲し、舞台での上演に必要な要素を適宜取り込みながら、仕上げていく方法をマスターする。 【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)
第２回　テクニカルシートの書き方(照明、音響プラン) 【　到達目標　】 テクニカルシートの書き方を理解する。 テクニカルシートの書き方（照明、音響プラン）について理解、習得する。 【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)	**第10回　作品づくり５** 【　到達目標　】 作品を推敲し、完成度を高める。 作品を修正、推敲し、舞台での上演に必要な要素を適宜取り込みながら、仕上げていく方法をマスターする。 【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)
第３回　制作について 【　到達目標　】 制作の役割について理解する。 舞台を上演するための制作的な仕事、マネージメント、プロデュース、広報、現場での役割等について理解、習得する。 【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)	**第11回　中間発表２** 【　到達目標　】 作品を推敲し、完成度を高める。 作品の途中経過を発表し、より完成度を高めるための修正点を明らかにする。 【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)
第４回　作品づくり１ 【　到達目標　】 作品の核となるテーマや手法について定める。 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。 【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)	**第12回　作品づくり６** 【　到達目標　】 作品を推敲し、完成度を高める。 作品を推敲し、完成度を高め、公演に必要な準備を確認し理解する。 【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)
第５回　作品づくり２ 【　到達目標　】 作品の核となるテーマや手法について定める。 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。 【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)	**第13回　公演準備１** 【　到達目標　】 衣装や美術などを含め、公演に向けて総合的な作品の完成度を高める。 作品を推敲し、完成度を高め、公演に必要な準備を確認し理解する。 【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)
第６回　作品づくり３ 【　到達目標　】 作品の核となるテーマや手法について定める。 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。 【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)	**第14回　公演準備２** 【　到達目標　】 衣装や美術などを含め、公演に向けて総合的な作品の完成度を高める。 作品を推敲し、完成度を高め、公演に必要な準備を確認し理解する。 【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)
第７回　中間発表１ 【　到達目標　】 作品の創作過程を人に見せることにより客観的に把握する。 途中経過を実演し、作品の核となるアイデア、モチーフ、構成の基礎が成りたっているかどうか検証する。 【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)	**第15回　公演準備３** 【　到達目標　】 最終的な推敲、踊りこみを行い完成度の高い作品に仕上げる。 舞台上演において必要な事を、あらゆる方向から理解、実践する。 【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)
第８回　有志作品選考 【　到達目標　】 様々な作品を見ることで、作品を鑑賞し、評価する力を養う。 有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演の際の作品選択の方法を理解する。 【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)	

【学習上の留意点】

４年間の学習の総まとめとして、実際の舞台で公演する事を目的としています。毎時間参加が条件です。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

レポート20%、授業ごとの課題の達成度60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。

科目名	舞台上演法			担当者	坂　本　秀　子	
英文名	Performance and Theater Workshop					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門・選択		
授業形態	演習		科目ナンバー	DME401		

【目的とねらい】

舞踊公演は長い歴史を持ち、民族・地域により多様性がある。しかしどのような舞踊であろうと観客を得た場合の上演ではそのための準備が必要である。この授業ではダンスの舞台上演までの作業を明らかにし、職業的知見を獲得することを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
舞台上演法の授業の進め方について理解する。
【授業時間外学習】
授業の進め方をイメージし、身体と心の準備をして、自分なりの覚悟を持つ。(4.0hr)

第２回　制作について
【　到達目標　】
制作の仕事について理解する。
【授業時間外学習】
制作の仕事について、大切な事柄を復習する。(4.0hr)

第３回　照明シートの書き方
【　到達目標　】
照明プランの立て方、照明シートの書き方を理解し習得する。
【授業時間外学習】
照明プランの立て方、照明シートの書き方について、大切な事柄を復習する。(4.0hr)

第４回　作品づくり１
【　到達目標　】
実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。
【授業時間外学習】
作品創作の復習。(4.0hr)

第５回　作品づくり２
【　到達目標　】
実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。
【授業時間外学習】
作品創作の復習。(4.0hr)

第６回　作品づくり３
【　到達目標　】
実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。
【授業時間外学習】
作品創作の復習。(4.0hr)

第７回　作品づくり４
【　到達目標　】
実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。
【授業時間外学習】
作品創作の復習。(4.0hr)

第８回　有志作品選考
【　到達目標　】
有志作品の選考に全員が参加し、上演作品を客観的に見ることの大切さを会得する。
【授業時間外学習】
作品鑑賞を通して、自己の作品を振り返る。(4.0hr)

第９回　作品づくり５
【　到達目標　】
実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。
【授業時間外学習】
作品創作の復習。(4.0hr)

第10回　作品づくり６
【　到達目標　】
実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。
【授業時間外学習】
作品創作の復習。(4.0hr)

第11回　中間発表
【　到達目標　】
作品を互いに発表し、それぞれが全公演の中の1作品であるという意識を高め、衣裳や内容に重複や不足がないかをチェックする。
【授業時間外学習】
総合芸術であることの認識を持ち、全体を振り返り課題を見つける。(4.0hr)

第12回　作品づくり７
【　到達目標　】
実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。
【授業時間外学習】
作品創作の復習。(4.0hr)

第13回　公演準備１
【　到達目標　】
公演に必要な事柄を確認し、準備を行う。
【授業時間外学習】
制作面、上演面の両方を振り返り、最終チェックを行う。(4.0hr)

第14回　公演準備２
【　到達目標　】
公演に必要な事柄を確認し、準備を行う。
【授業時間外学習】
制作面、上演面の両方を振り返り、最終チェックを行う。(4.0hr)

第15回　発表、評価を得る。他のグループ作品の鑑賞
【　到達目標　】
互いに発表し、評価を得る。また、他のグループ作品も鑑賞する。
【授業時間外学習】
総合学習、まとめ。(4.0hr)

【学習上の留意点】

４年間の学習の総まとめとして、実際の舞台で公演する事を目的としています。毎時間参加が条件です。

【教科書・参考書など】

特にありません。

【成績評価方法】

レポート20%、授業における課題達成度60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。

科目名	舞台上演法			担当者	髙野美和子	
英文名	Performance and Theater Workshop					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門・選択		
授業形態	演習		科目ナンバー	DME401		

【目的とねらい】

この授業では、4年間の総まとめとして、大舞台でのダンス公演を目的とした舞踊作品創作とその練習、舞台制作について学び、舞台上演までの様々な知識について実践的に体得することを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
舞台上演法の授業の進め方について理解する。

【授業時間外学習】
作品発表までの見通しを立て、計画する。(4.0hr)

第２回　制作について
【　到達目標　】
制作の仕事について理解する。

【授業時間外学習】
公演に必要な制作の仕事を具体的に検討する。(4.0hr)

第３回　照明シートの書き方
【　到達目標　】
照明プランの立て方、照明シートの書き方を理解し習得する。

【授業時間外学習】
作品に必要な照明案を具体的に検討する。(4.0hr)

第４回　作品づくり①
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学習】
作品制作を行う。(4.0hr)

第５回　作品づくり②
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学習】
作品制作を行う。(4.0hr)

第６回　作品づくり③
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学習】
作品制作を行う。(4.0hr)

第７回　作品づくり④
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学習】
作品制作を行う。(4.0hr)

第８回　有志作品選考
【　到達目標　】
有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演の際の作品選択の方法を理解する。

【授業時間外学習】
指導者からのフィードバックを基に作品を改良する。(4.0hr)

第９回　作品づくり⑤
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学習】
指導者からのフィードバックを基に作品を改良する。(4.0hr)

第10回　作品づくり⑥
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学習】
指導者からのフィードバックを基に作品を改良する。(4.0hr)

第11回　中間発表
【　到達目標　】
作品を発表しあう事によって、舞台で上演する作品として足りない所を発見し、更に修正していく必要があるという事を理解する。

【授業時間外学習】
指導者からのフィードバックを基に作品を改良する。(4.0hr)

第12回　作品づくり⑦
【　到達目標　】
実際の舞台で上演する作品として、仕上げていく方法を作品づくりを通してマスターする。

【授業時間外学習】
ランスルーを重ねる。(4.0hr)

第13回　公演準備①
【　到達目標　】
公演に必要な準備を確認し、理解する。

【授業時間外学習】
ランスルーを重ね、公演当日の場当たりのシミュレーションを行う。(4.0hr)

第14回　公演準備②
【　到達目標　】
公演に必要な準備を確認し、理解する。

【授業時間外学習】
公演当日のスケジュールを立てる。(4.0hr)

第15回　まとめ
【　到達目標　】
舞台上演上必要な事を、あらゆる方向から理解する。

【授業時間外学習】
公演を振り返り、反省点をまとめる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

毎時間必ず出席し、公演までのグループ・ワークに積極的に参加することが条件である。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

レポート20%、授業内容の習得度60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。

科目名	舞台上演法			担当者	松　山　善　弘	
英文名	Performance and Theater Workshop					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門・選択		
授業形態	演習		科目ナンバー	DME401		

【目的とねらい】

舞踊公演は長い歴史を持ち、民族・地域により多様性がある。しかしどのような舞踊であろうと観客を得た場合の上演ではそのための準備が必要である。この授業ではダンスの舞台上演までの作業を明らかにし、職業的知見を獲得することを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
舞台上演法の授業の進め方について理解する。

【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第２回　制作について
【　到達目標　】
制作の仕事について理解する。

【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第３回　照明シートの書き方
【　到達目標　】
照明プランの立て方、照明シートの書き方を理解し習得する。

【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第４回　作品づくり１
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第５回　作品づくり２
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第６回　作品づくり３
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第７回　作品づくり４
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第８回　有志作品選考
【　到達目標　】
有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演の際の作品選択の方法を理解する。

【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第９回　作品づくり５
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第10回　作品づくり６
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第11回　中間発表
【　到達目標　】
作品を発表しあう事によって、舞台で上演する作品として足りない所を発見し、更に修正していく必要があるという事を理解する。

【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第12回　作品づくり７
【　到達目標　】
実際の舞台で上演する作品として、仕上げていく方法を作品づくりを通してマスターする。

【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第13回　公演準備１
【　到達目標　】
公演に必要な準備を確認し、理解する。

【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第14回　公演準備２
【　到達目標　】
公演に必要な準備を確認し、理解する。

【授業時間外学習】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第15回　舞台上演に関する必要事項の確認
【　到達目標　】
舞台上演上必要な事を、あらゆる方向から理解する。

【授業時間外学習】
全体の復習とまとめをし、舞台で作品を上演する方法について理解を深める。(4.0hr)

【学習上の留意点】

４年間の学習の総まとめとして、実際の舞台で公演する事を目的としています。毎時間参加が条件です。

【教科書・参考書など】

特にありません。

【成績評価方法】

レポート２０％、授業内での活動成果６０％、発表作品２０％の割合で総合的に評価する。

科目名	舞台上演法			担当者	渡　辺　　碧	
英文名	Performance and Theater Workshop					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門・選択		
授業形態	演習		科目ナンバー	DME401		

【目的とねらい】

この授業では、大学生活の4年間の集大成として、大きな劇場で公演を開催することを念頭に、舞踊作品の振付・創作とそれに伴うリハーサル、そして舞台制作など、舞踊作品上演に関する様々な技術と知識について実践的に学び、これらを体得することを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
舞台上演法の授業の進め方について理解する。

【授業時間外学習】
授業の進め方に基づいて、今後の大まかなスケジュールを立てる。(4.0hr)

第２回　制作について
【　到達目標　】
舞台を上演する上で必要な制作の仕事を理解する。

【授業時間外学習】
舞台制作に関わる文献を参考に、制作に関する情報を集める。(4.0hr)

第３回　ブレインストーミング（作品づくり１）
【　到達目標　】
自分たちが創りたいと思う作品のテーマなどについて話し合いを行う。

【授業時間外学習】
様々な文献、映像などから情報を収集する。(4.0hr)

第４回　作品づくり２
【　到達目標　】
テーマについてさらに検討し、テーマを表現するための手法（全体的なイメージ）について話し合う。

【授業時間外学習】
様々な文献、映像などから情報を収集する。(4.0hr)

第５回　作品づくり３
【　到達目標　】
作品テーマを決定し、衣装、装置、音楽などのグランドデザインを検討する。

【授業時間外学習】
作品テーマに関わる情報を、文献や映像などから収集する。(4.0hr)

第６回　作品づくり４
【　到達目標　】
舞台で上演することを念頭に、表現したいテーマに沿って創作・振付を行う。使用する音楽を決定する。

【授業時間外学習】
作品テーマに関わる情報を、文献や映像などから収集する。(4.0hr)

第７回　作品づくり５
【　到達目標　】
創作・振付をグループごとに行い、互いにこれを見せ合うことが出来る。実際に創作・振付を複数グループで行うことにより、自分たちが表現したいことが形となっているかを確認する。

【授業時間外学習】
成果発表に対する反省をし、今後の課題を明らかにする。(4.0hr)

第８回　有志作品選考
【　到達目標　】
有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演の際の作品選択の方法を理解する。
作品を鑑賞することにより、作品を評価する力を体得する。

【授業時間外学習】
フィードバックを踏まえて、さらに作品に改良を加える。(4.0hr)

第９回　作品づくり６
【　到達目標　】
作品を創り上げ、より良くするための今後の課題を検討する。衣装の製作に取りかかる。
舞台装置および小道具の製作に取り掛かる。

【授業時間外学習】明らかとなった今後の課題の対策を検討し、実践する。衣装や舞台装置などを準備する。(4.0hr)

第10回　作品づくり７
【　到達目標　】
作品の完成度を高める。舞台で上演することを念頭に置きながら、作品を仕上げていく手法を体得する。照明プランを考える。舞台上演に関わる作品以外の諸準備を進める。

【授業時間外学習】
さらに完成度を高めるための手法について検討する。(4.0hr)

第11回　中間発表
【　到達目標　】
作品を発表しあう事によって、舞台で上演する作品としての課題を明らかにする。

【授業時間外学習】
フィードバックを踏まえて、さらに作品の質を高めるための工夫を検討する。(4.0hr)

第12回　作品づくり８
【　到達目標　】
実際の舞台で上演する作品として、作品を仕上げる。本番の舞台を想定した場取りで、作品練習を行う。舞台上演に関わる作品以外の諸準備を進める。

【授業時間外学習】
舞台の実寸を調べ、練習においても舞台のサイズで出来るように工夫する。(4.0hr)

第13回　公演準備１
【　到達目標　】
公演に必要な準備を確認し、理解する。作品の質をさらに高めるため、踊りこみを行う。
本番当日に行う場当たりのシュミレーションを行い、その練習をする。舞台上演に関わる作品以外の諸準備を進める。
【授業時間外学習】
互いに作品を見合い、また第三者にも作品を見てもらい、さらに作品の質を高める。(4.0hr)

第14回　公演準備２
【　到達目標　】
公演に必要な準備を確認し、理解する。作品の質をさらに高めるため、踊りこみを行う。
本番当日の流れを確認する。公演全体の通し稽古を行う。舞台上演に関わる作品以外の諸準備を進める。
【授業時間外学習】
不測の事態に備え、不足なものがないか検討する。(4.0hr)

第15回　舞台上演について
【　到達目標　】
実際の舞台上演をふりかえり、反省点・検討事項についてディスカッションを行う。

【授業時間外学習】
反省点・検討事項を次回の公演に活かす。(4.0hr)

【学習上の留意点】

４年間の学習の総まとめとして、実際の舞台で公演する事を目的としています。毎時間参加を必須条件とする。第8回「有志作品選考」、第11回「中間発表」、第14回「舞台上演について」では、口頭によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

適宜配布します。

【成績評価方法】

レポート20%、授業における課題達成度60%、発表作品の完成度20%の割合で総合的に評価する。

科目名	舞踊指導演習（高齢者・障害者指導法）			担当者	八木ありさ	
英文名	Seminar in Dance Teaching Method (Teaching Method for the Elderly and People with Disabilities)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門・選択		
授業形態	演習		科目ナンバー	DME310		

【目的とねらい】

特別な場合を除いて、ダンスは厳密なルールや高度な技能を必要とせず、活動の成果は活動した人自身が決めればよい。こうしたダンスは、高齢者や障害のある人にとっても、楽しみながら、身体や動きの能力と認識を高め、社会性や情緒表現、コミュニケーションを促進することができるよい機会を提供できる。このことを念頭に、本演習では高齢者や障害者の特性を理解し、対象者に応じたダンスプログラムの組み立て方、基礎的な指導方法を習得することを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　ダンスの多様なありかた
【　到達目標　】
障害や高齢などが理由となって生まれるニーズと、これに対応するダンス活動の現状について理解する。
【授業時間外学習】
日本の障害者に関する統計や、人口動態に関する統計を調べ、近年の様子を概観する。(4.0hr)

第２回　型のあるダンスと型のないダンス
【　到達目標　】
定型的なダンスと非定型的なダンスについて､実際に体験して理解し､説明できるようになる。
【授業時間外学習】
これまでの舞踊学に関わる学修を元に、ダンスの楽しさの種類を分類・整理する。(4.0hr)

第３回　型のあるダンスと即興
【　到達目標　】
柔軟な指導の流れづくりについて学び、必要に応じて素材を組み合わせる方法を理解する。
【授業時間外学習】
科目「フォークダンス」で学んだ指導法を振り返り、その特徴を整理する。(4.0hr)

第４回　型のないダンスと即興
【　到達目標　】
柔軟な指導の流れづくりについて学び、必要に応じて素材を引き出す方法を理解する。
【授業時間外学習】
コンテンポラリーダンスや即興表現で学んだ指導法を振り返り､その特徴を整理する｡(4.0hr)

第５回　視覚障害とダンス①
【　到達目標　】
視覚障害の特性とニーズを理解し、視覚障害を持つ人に対する指導方法の基礎を理解する。
【授業時間外学習】
視覚障害の原因や種別・区分、独特のレクリエーション活動などについて調べる。(4.0hr)

第６回　視覚障害とダンス②
【　到達目標　】
視覚障害の特性とニーズを理解し、視覚障害を持つ人に対する指導方法の基礎を理解する。
【授業時間外学習】
視覚障害者を対象としたダンス指導の現状を調べる。(4.0hr)

第７回　聴覚障害とダンス①
【　到達目標　】
聴覚障害の特性とニーズを理解し、聴覚障害を持つ人に対する指導方法の基礎を理解する。
【授業時間外学習】
聴覚障害の原因や種別・区分、独特のレクリエーション活動などについて調べる。(4.0hr)

第８回　聴覚障害とダンス②
【　到達目標　】
聴覚障害の特性とニーズを理解し、聴覚障害を持つ人に対する指導方法の基礎を理解する。
【授業時間外学習】
聴覚障害者を対象としたダンス指導の現状を調べる。(4.0hr)

第９回　車椅子使用者とダンス①
【　到達目標　】
車椅子使用者の特性とニーズ、一般的な車椅子の仕組みを理解し、車椅子使用者に対する指導方法の基礎を理解する。
【授業時間外学習】
身体障害の原因や種別・区分を調べる。(4.0hr)

第10回　車椅子使用者とダンス②
【　到達目標　】
車椅子使用者の特性とニーズ、一般的な車椅子の仕組みを理解し、車椅子使用者に対する指導方法の基礎を理解する。
【授業時間外学習】日本では、身体障害者への支援がどのように整備されるべきと考えられているか調べる。(4.0hr)

第11回　その他の障害とダンス
【　到達目標　】
知的障害や精神障害の特性に応じたダンス活動の内容について考え、指導方法の基礎を理解する。
【授業時間外学習】
高次脳機能障害と統合失調症の特徴を調べる。(4.0hr)

第12回　高齢者とダンス①
【　到達目標　】
高齢者の特性とニーズを理解し、その特性に応じたダンス活動の内容を理解する。
【授業時間外学習】
日常生活動作ADLについて調べる。(4.0hr)

第13回　高齢者とダンス②
【　到達目標　】
高齢者の特性とニーズを理解し、その特性に応じたダンス活動指導方法の基礎を理解する。
【授業時間外学習】
認知症の特性と支援方法の基礎について調べる。(4.0hr)

第14回　テーマ別グループ演習①
【　到達目標　】
グループごとに選定した対象に応じた適切なプログラムを考案し、授業参加者を対象に実習する。討論、相互評価を通じて、理解を深める。
【授業時間外学習】
プログラム案を事前に試行して、検討点を確認する。(4.0hr)

第15回　テーマ別グループ演習②
【　到達目標　】
グループごとに選定した対象に応じた適切なプログラムを考案し、授業参加者を対象に実習する。討論、相互評価を通じて、理解を深める。
【授業時間外学習】
参加者からのフィードバックも参考に、実習の成果を報告書にまとめる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

学習イメージをより明確にするために、映像教材や、アイマスク・車椅子など障害疑似体験の用具を使用する。履修者同士の意見交換から理解が深まることも多いので、活動を積極的に創り出してゆく姿勢で臨んでほしい。
用具等の都合により、内容が前後することがある。毎時、リアクション・ペーパーの提出を求め、内容に対してコメントを加えて返却する。
なお、この科目は日本ダンス・セラピー協会認定「ダンスセラピー・リーダー」の資格取得を目指す学生には必修科目である。

【教科書・参考書など】

テキスト：『体や動きで表現するために』全国身体障害者福祉センター発行
その他、必要に応じて印刷資料を配布する。

【成績評価方法】

授業内容を理解し体験を深めることができたかという活動課題達成度（60%）と、個人レポート課題の達成度（40%）を併せて成績評価する。

科 目 名	スポーツ・舞踊活動特別実習			担当者	松　山　善　弘	
英 文 名	Specially Sport Methods in Club Activities					
単 位 数	3	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1～3			専門・選択		
授業形態	実習		科目ナンバー	DME311		

【目的とねらい】

大学において、授業のみならず、課外活動（舞踊に関する部活動含む）の中で、各種コンクール、発表会、イベント等に参加する事を通して更に深く専門的に舞踊活動を続け、優れた実績を残す。

【授業内容】

1，1年次4月：ガイダンスを受ける事によってスポーツ・舞踊活動特別実習の内容を理解する。

【到達目標】

1，1年次における「活動実績」をまとめる事によって、1年次の自分の実績を把握する。
「活動内容」をまとめる事によって、1年次の活動内容を確認し、来年度への目標を立てる目安とする事ができる。

2，2年次における「活動実績」をまとめる事によって、2年次の自分の実績を把握する。
「活動内容」をまとめる事によって、2年次の活動内容を確認し、来年度への目標を立てる目安とする事ができる。

3，3年次における「活動実績」をまとめる事によって、3年次の自分の実績を把握する。
「活動内容」をまとめる事によって、3年次の活動内容を確認し、来年度への目標を立てる目安とする事ができる。

4，3年次における「4年次に向けての目標および計画」を立てる事によって、これまで3年間の舞踊活動を踏まえて、卒業するまでの明確な目標を把握する事ができる。

【授業時間外学習】

毎回の活動を記録する事により、より明確な活動目標をたてていく。

【学習上の留意点】

大学で舞踊活動を実施する学生が、さらにその舞踊活動を継続させて実施する場合に受講できる。受講を希望する学生は、舞踊活動に関する書類を事前に提出し、受講可否の審査を受ける。受講学生は1年ごとに実施した舞踊活動の内容について報告書を提出する。

【教科書・参考書など】

特に使用しない。

科 目 名	卒業研究			担当者		
英 文 名	Graduation Thesis					
単 位 数	6	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3～4			専門・選択		
授業形態	演習		科目ナンバー	DME402		

【目的とねらい】

＜論文作成＞舞踊学専攻で学んだ様々な要素の中からテーマを選び、文献からの参照・フィールドワーク・実験研究などによって、その成果を自己の分析・考察とともにまとめ、発表および提出する。
＜作品制作＞リサーチなどを通して、作品を創作、演出、上演という一連の「制作」過程を実際に体験し、そこから得られた情報・考察・体験を元にレポートをまとめ、総合芸術としての舞踊について理解を深める。

【授業内容】

＜論文作成＞Ⅰ-① 舞踊の基礎理論
-② 舞踊の研究・研究方法について
-③ 研究内容・計画の検討
-④ 調査
-⑤ 資料の処理
Ⅱ 論文作成
Ⅲ 論文完成
Ⅳ 論文発表

＜作品制作＞Ⅰ-① 舞踊作品が成立するための基礎理論
-② 作品創作法研究
-③ 主題・構成・展開の検討
-④ 演出の研究
Ⅱ-① ソロ作品創作
-② アンサンブル創作（小群舞）
-③ アンサンブル創作（大群舞）
Ⅲ 制作発表

【到達目標】

＜論文作成＞
Ⅰ-① 論文の土台となる基礎理論について学び、正しく理解し、大まかな方向性をたてることができる。
-② ①の方向性に基づき、舞踊に関する文献をリサーチし、テーマを絞る。
-③ テーマに基づき、今後の大まかな計画を作成する。
-④ 文献、フィールドワーク、アンケート調査などの調査方法を正しく理解し、実践することができる。
-⑤ それまでに収集した数々のデータを分析し、執筆のための準備をする。
Ⅱ データに基づき、概念化したものを考察し、論理的な整理をしたうえで執筆をする。
Ⅲ 執筆したものを再検討し、内容的・文章的に論文としてふさわしいものへと推敲する。
Ⅳ 抄録原稿を作成し、発表をする。
＜作品制作＞
Ⅰ-① 舞踊作品制作の土台となる基礎理論を正しく理解することができる。
-② 過去の作品の振付・様式・演出を研究し、そこから制作テーマを決定する。また、それに基づき文献、映像、ムーブメントなどの調査を行う。
-③ 作品構築のために、主題・構成・展開といったことから全体像を定め、それに基づき方向性を明確にすることができる。
-④ 形式にとらわれずにさまざまな演出方法の可能性をリサーチし、分析、考察する。
Ⅱ-① これまでの結果を踏まえ、振付、音楽、空間、演出効果等を総合的に分析、考察し、ソロの作品を制作する。
② これまでの結果を踏まえ、振付、音楽、空間、演出効果等を総合的に分析、考察し、小群舞作品を制作する。
③ これまでの結果を踏まえ、振付、音楽、空間、演出効果等を総合的に分析、考察し、大群舞作品を制作する。
Ⅲ Ⅱの①②③で制作をした作品を発表、それに基づくレポートを提出する。

【授業時間外学習】

自身の卒業研究のテーマにそって研究を続けていく。

【学習上の留意点】

＜論文作成＞論文を書くことは学問的手続きをきちんと踏めるかにかかっている。したがって、①参考文献表は正確に書かれているか、②付録としての資料の提出に余念はないか、③ひとりよがりの自由作文ではないか、といったことに留意し、取り組む。
＜作品制作＞制作にあたり、日々の生活の中においても感受性を高めることにより、あらゆる題材を見極め、創造力を豊かにすることより、その題材を芸術作品に昇華していくことに、積極性を持って取り組む必要がある。また感覚的な思考だけに頼らず、総合的な演出の面からも論理的に取り組み、しっかりとした内容の提示が求められる。

【教科書・参考書など】

適宜配付。

科目名	教職論			担当者	青　木　純　一	
英文名	Study of Teaching Profession					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE101・DTE101・HTE101		

【目的とねらい】

教職論は、教職課程履修者がその仕事・職業の特質について理解を深めることが第１の課題である。その上で、履修学生一人ひとりが、教員免許取得を目指すかどうかを判断する機会を提供することも、課題としている。教師の主たる仕事である、授業や生徒指導等の理解を深めるとともに、学校の仕組みや運営体制、教職の専門性の意義と養成および採用制度について理解を深める。教職に関わる近年の改革動向と課題を理解する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　教師という仕事
【　到達目標　】
オリエンテーション。教師の仕事の特徴を理解し、本科目履修の意思を確認する。
【授業時間外学習】
最近の教職がおかれている状況について学ぶ。(4.0hr)

第２回　「私が出会った教師」を思い出す
【　到達目標　】
履修学生自身がこれまでに出会った教師について振り返り、教職免許取得にあたっての出発点とする。
【授業時間外学習】
過去に出会った教師についてそれぞれの個性や特徴を振り返る。(4.0hr)

第３回　授業をつくる
【　到達目標　】
教師が果たす仕事のうち、多くの比重を占めている授業実践について考察し、理解する。
【授業時間外学習】
授業づくりをする際の留意点について学ぶ。(4.0hr)

第４回　特別活動と生徒指導
【　到達目標　】
授業実践だけでなく、特別活動や生徒指導も教師の仕事として重要であることを理解する。
【授業時間外学習】
特別活動や生徒指導における留意点について学ぶ。(4.0hr)

第５回　校務分掌や学校組織
【　到達目標　】
学校の業務は校務分掌など組織全体を考えて円滑に運営することで大切である。また、スクールカウンセラーや学校司書といった外部スタッフとの連携・協力が今後ますます必要になることを理解する。
【授業時間外学習】
学校における校務分掌の在り方や運営する際の留意点について学ぶ。(4.0hr)

第６回　同僚性と教師文化
【　到達目標　】
同じ職場で働く同僚との協力によって、学校運営が円滑となり、児童生徒のよりよい成長が促されることを理解する。
【授業時間外学習】
学校という組織において教師の同僚性がいかに大切か、事例をもとに学ぶ。(4.0hr)

第７回　教員養成制度―教職に就くまで
【　到達目標　】
「専門職」としての教師を養成する制度である教員養成制度、とりわけ大学における教員養成のシステムを理解する。
【授業時間外学習】
養成、採用、研修を一体化した教育養成制度の在り方について学ぶ。(4.0hr)

第８回　教師の資格と任用、採用試験の動向―教職に就くとき
【　到達目標　】
免許制度と実際の学校に任用される採用試験制度を理解する。また、近年の採用試験の動向を理解する。
【授業時間外学習】
最近の教育採用の実態と特徴について学ぶ。(4.0hr)

第９回　教師の研修―教職に就いてから
【　到達目標　】
教師は教職に就いた後も様々な研修を受ける機会が保障されており、専門性を高めることが期待されていることを理解する。
【授業時間外学習】
教員にとって重要な研修について、法的根拠や制度の背景について学ぶ。(4.0hr)

第10回　教師の仕事とジェンダー
【　到達目標　】
学校は女性にとって働きやすい職場だといわれるが、その学校においても、性別役割分業が存在していることを理解する。
【授業時間外学習】とくに女性教員に焦点を当て、最近の教員の実態や問題点をジェンダーの視点から学ぶ。(4.0hr)

第11回　教師の身分と服務
【　到達目標　】
教師が職務上有している種々の権利や責任について、およびそれらを適切に行使することが必要であることを理解する。
【授業時間外学習】
教員の身分や服務について、実態を法律と絡めて学ぶ。(4.0hr)

第12回　教師像の探求
【　到達目標　】
時代とともに数多くの理想的教師像がつくられてきたことを、具体的な例とともに理解する。
【授業時間外学習】
明治以降の学校や社会がどのような「教師像」を求めていたかを学ぶ。(4.0hr)

第13回　教育改革・学校改革の動向と教師の役割（１）
【　到達目標　】
近年の教育改革・学校改革の動向についての理解を深め、新たに期待される教師の在り方について関心を持つ。
【授業時間外学習】
戦後の教育改革について、とくに教員政策を中心に学ぶ。(4.0hr)

第14回　教育改革・学校改革の動向と教師の役割（２）
【　到達目標　】
前回の続き。
【授業時間外学習】
とくに21世紀に入ってからの教育改革について、教員政策を中心に学ぶ。(4.0hr)

第15回　現代の教職をめぐる課題
【　到達目標　】
これまでの授業をもとに、各自現代の教職をめぐる課題を整理し、自らがめざす教師像をまとめる。
【授業時間外学習】
今日の教員に求められている資質・能力とはなにかについて学ぶ。(4.0hr)

【学習上の留意点】

本科目を履修することは、学生諸君が「教わる側」から「教える側」へと、立場を移す作業を始めることを意味する。その意味の重さを自覚し、単に出席するにとどまらず、積極的な授業参加を心がけること。また、この授業をきっかけにして、新聞やテレビなどから、教育に関する情報を手に入れる習慣を身につけてほしい。

【教科書・参考書など】

教科書：授業の初回に指示する。
参考書：適宜授業で指示する。

【成績評価方法】

小レポート（30%）および試験（70%）により評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。

科目名	教育原論(教育課程を含む)			担当者	小堀　哲郎・瀬川　　大	
英文名	Theory of Education (Theory of Curriculum)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE201・DTE201・HTE201		

【目的とねらい】

教育の基本的概念や理念、教育に関する歴史や思想、教育課程の意義や編成原理、カリキュラムマネジメント等を学ぶ科目である。教育の歴史や思想の中で、教育の概念や理念がどのように変化、発展してきたのかを考察し、現代の教育課題を理解する。また、学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に即してカリキュラム・マネジメントを行うことの意義も理解できるようにする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　教育の基本的概念　（担当：小堀哲郎）

【　到達目標　】

教育の基本的概念や理念、教育の目的などについて理解する。

【授業時間外学習】

教育の基本的概念についての理解を深めるために関連文献を読む。(4.0hr)

第２回　教育の歴史　（担当：小堀哲郎）

【　到達目標　】

教育の歴史について、古代から現代までの構造的な理解を進める。

【授業時間外学習】

教育の歴史についての理解を深めるために関連文献を読む。(4.0hr)

第３回　教育の思想―ヨーロッパ　（担当：小堀哲郎）

【　到達目標　】

ヨーロッパの代表的な教育思想を学び、教育の思想と実際の教育や学校とのかかわりについて理解する。

【授業時間外学習】

ヨーロッパの代表的な教育思想家の著作を読む。(4.0hr)

第４回　教育の思想―日本古代から近世　（担当：小堀哲郎）

【　到達目標　】

日本の古代から近世までの教育思想について学ぶ。日本の教育の独自の歴史、思想文化的な背景を理解する。

【授業時間外学習】

近世までの日本の教育思想についての理解を深めるために関連文献を読む。(4.0hr)

第５回　学校の形成　（担当：小堀哲郎）

【　到達目標　】

学校の成立過程について、古代から近世までを範囲として理解し、日本と諸外国の違いについて学ぶ。

【授業時間外学習】

学校の成立過程について理解を深めるために関連文献を読む。(4.0hr)

第６回　近代教育制度の成立と展開　（担当：小堀哲郎）

【　到達目標　】

近代の教育制度、学校制度の成立と現代にいたる教育と学校の変遷について理解する。

【授業時間外学習】

近代教育制度、学校制度について理解を深めるために関連文献を読む。(4.0hr)

第７回　地域社会と学校　（担当：小堀哲郎）

【　到達目標　】

地域社会と学校、家族と学校とのかかわりについて、歴史的経緯を踏まえて理解する。

【授業時間外学習】

地域社会や家族と学校とのかかわりについて理解を深めるために関連文献を読む。(4.0hr)

第８回　現代社会における教育の課題　（担当：小堀哲郎）

【　到達目標　】

社会の変化に伴う教育のあり方の歴史的変遷について理解するとともに、現代社会における教育の新たな課題を捉える。

【授業時間外学習】

現代社会における教育の課題について、新聞等を読み多角的に理解する。(4.0hr)

第９回　教育課程の編成原理　（担当：瀬川大）

【　到達目標　】

教育課程の編成原理にはいくつかある。ここでは、それらのうち代表的なものとして、「経験中心主義」と「学問中心主義」について理解する。

【授業時間外学習】

「経験中心主義」と「学問中心主義」についての文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第10回　教育課程編成と学習指導要領　（担当：瀬川大）

【　到達目標　】

学校教育の教育課程における学習指導要領の役割を理解し、その構造を説明できる。

【授業時間外学習】学校教育の教育課程における学習指導要領の役割に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第11回　学習指導要領の変遷　（担当：瀬川大）

【　到達目標　】

学習指導要領の改訂の変遷および改訂内容並びにその社会的背景を理解している。

【授業時間外学習】

学習指導要領の改訂の変遷に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第12回　学力問題　（担当：瀬川大）

【　到達目標　】

近年の教育課程改革をもたらした「学力問題」について、その概要と本質を理解し、説明できる。

【授業時間外学習】

「学力問題」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第13回　教科横断的なカリキュラム編成　（担当：瀬川大）

【　到達目標　】

教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。

【授業時間外学習】

教科横断的なカリキュラム編成に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第14回　新学習指導要領と「主体的・対話的で深い学び」　（担当：瀬川大）

【　到達目標　】

今回行われた学習指導要領の改訂の中で、とりわけ重要視されている「主体的・対話的で深い学び」について、その内容と長期的な指導計画に組み入れる必要性について、理解する。

【授業時間外学習】

アクティブ・ラーニングに関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第15回　カリキュラムをどう評価するか　（担当：瀬川大）

【　到達目標　】

教育課程を実践するに際しては評価が伴うこと、およびそのレベルや方法に様々な種類があることを理解し、説明できる。カリキュラム・マネジメントについても理解する。

【授業時間外学習】

教育評価、カリキュラム・マネジメントに関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

【学習上の留意点】

本科目によって、教育に関する基本原理や学校教育における教育課程の全体像を把握することが、教員として教育実践に携わるためには不可欠である。授業においては、できるだけわかりやすい説明を心がけるつもりである。また、講義に加え、グループワーク、ディスカッション、授業内における小レポートなどの方法を用いる予定である。学生諸君には、授業への積極的な参加を求めたい。

【教科書・参考書など】

・教科書：授業の初回に指示する。
・参考書：文部科学省『中学校・高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価方法】

グループ討論、発表、小レポートなど（30%）、試験（70%）により評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。

科目名	教育心理学			担当者	三　好　昭　子	
英文名	Educational Psychology					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE202・DTE202・HTE202		

【目的とねらい】

本講義は、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）に関する心理学を学習することを目的とする。教育の現場では、授業を行うだけでなく、子どもたちが示す様々な問題に対処していくことが望まれる。しっかりとした体系をもつ理論を学ぶことで、それらの問題の背景を正しく理解し、心理学に基づいた適切な対処法を考えることができるようになる。そのための基盤作りが本講義のねらいである。

【授業内容・到達目標など】

第１回　教育とは何か
【　到達目標　】
(1)教育心理学の考え方を理解する。
【授業時間外学習】
教育心理学の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第２回　認知発達
【　到達目標　】
(1)認知発達について理解する。
【授業時間外学習】
認知発達の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第３回　対人関係の発達
【　到達目標　】
(1)友人関係の特徴や変化について理解する。
(2)恋愛関係の現状や特徴について理解する。
【授業時間外学習】
青年期の対人関係についての理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第４回　青年期におけるアイデンティティ発達
【　到達目標　】
(1)エリクソンの発達理論について理解する。
(2)青年期におけるアイデンティティ発達について理解する。
【授業時間外学習】
青年期におけるアイデンティティ発達に関する課題を行う。(4.0hr)

第５回　学習のメカニズム
【　到達目標　】
(1)古典的条件づけについて理解する。
(2)オペラント条件づけ・観察学習について理解する。
【授業時間外学習】
学習理論の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第６回　内発的動機・外発的動機
【　到達目標　】
(1)基本的な動機について理解する。
(2)内発的動機・外発的動機について理解する。
【授業時間外学習】
動機に関する課題を行う。(4.0hr)

第７回　動機づけの理論
【　到達目標　】
(1)動機づけの理論について理解する。
【授業時間外学習】
動機づけの理論の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第８回　学習動機
【　到達目標　】
(1)学習動機について理解する。
(2)意欲を高める方法について理解する。
【授業時間外学習】
学習動機の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第９回　記憶の仕組み
【　到達目標　】
(1)記憶のメカニズムについて理解する。
【授業時間外学習】
記憶の仕組みに関する課題を行う。(4.0hr)

第10回　知識・スキルを獲得する
【　到達目標　】
(1)記憶や知識の種類やその性質について理解する。
【授業時間外学習】
知識・スキルの獲得に関する課題を行う。(4.0hr)

第11回　個に応じた教育
【　到達目標　】
(1)認知やパーソナリティにおける個人差を理解し，個人差に応じた教授技法について理解する。
【授業時間外学習】
個に応じた教育の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第12回　授業
【　到達目標　】
(1)授業の位置づけの変化について理解する。
(2)教えて考えさせる授業について理解する。
【授業時間外学習】
授業についての理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第13回　教育評価
【　到達目標　】
(1)評価の目的・基準について理解する。
(2)学力・知能・性格を測定するための方法について理解する。
(3)性格検査の結果をもとに自己分析する。
【授業時間外学習】
教育評価の理解と性格検査による自己分析に関する課題を行う。(4.0hr)

第14回　発達障害
【　到達目標　】
(1)発達障害の分類、認知の偏りについて理解する。
(2)障害特性の理解と支援について理解する。
【授業時間外学習】
発達障害の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第15回　適応支援
【　到達目標　】
(1)適応という概念について理解する。
(2)自尊感情を育む。
【授業時間外学習】
適応支援の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義ではパワーポイントを使用し、資料を毎回配布する。受講者は講義を聞きながらメモを取り、自分なりのノートを作成する。教育評価の回では性格テストを実施し、自己分析をする。毎回、講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするための課題を出す。課題の内容は期末テストと対応しているので、しっかり復習すること。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。
参考書：市川 伸一・著『学習と教育の心理学 増補版（現代心理学入門３）』岩波書店(2011年)、髙坂康雅・池田幸恭・三好昭子・編著『レクチャー 青年心理学−学んでほしい・教えてほしい青年心理学の15のテーマ』風間書房

【成績評価方法】

毎回出す課題の提出30%、期末テスト（試験は試験期間中に別途実施）を70%として評価する。

科目名	道徳教育の理論と方法			担当者	瀬　川　　大	
英文名	Moral Education					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE301・DTE301・HTE301		

【目的とねらい】

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。

【授業内容・到達目標など】

第１回　はじめに―道徳とは何か
【　到達目標　】
道徳ということばが持つ意味や、他の類似概念との違いなどを、自分なりに理解し、説明することができる。

【授業時間外学習】
「道徳」や類似概念に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第２回　自らの道徳教育経験を振り返る
【　到達目標　】
学校教育における道徳教育の役割、目的、カリキュラム、教育の実践例を理解する。それらをもとに、自分自身が受けてきた道徳教育を意味づけることができる。

【授業時間外学習】
学校教育における道徳教育の役割に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第３回　思春期①―その発達課題
【　到達目標　】
中学校、高等学校の生徒は思春期を生きていることを理解し、特有の発達課題を考えることができる。

【授業時間外学習】
思春期における発達課題に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第４回　思春期②―仲間集団
【　到達目標　】
思春期における成長には仲間集団の存在が必要であることを理解する。また集団の特徴をとらえることができる。

【授業時間外学習】
思春期における仲間集団に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第５回　学校教育活動全体を通じた道徳教育
【　到達目標　】
学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解する。特に本学は体育大学であることから、保健体育科や部活動における道徳教育について自分なりに説明できる。
【授業時間外学習】学校における教育活動全体を通じた道徳教育に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第６回　道徳教育の歴史
【　到達目標　】
道徳教育の目的と内容の歴史的な変化をたどり、現代の道徳教育の目的と課題を総合的に理解する。

【授業時間外学習】
道徳教育の歴史に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第７回　「特別の教科　道徳」の誕生
【　到達目標　】
小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から、「特別の教科　道徳」が誕生するにあたり、その特徴と、従来の「道徳の時間」との相違点について説明できる。

【授業時間外学習】
「特別の教科　道徳」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第８回　道徳教育の領域①―主として自分自身に関すること
【　到達目標　】
道徳科の内容項目を、4つの視点から理解する。本時では「A.主として自分自身に関すること」の視点から理解し、この視点に関わる現代的な道徳教育の課題について説明できる。

【授業時間外学習】「A.主として自分自身に関すること」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第９回　道徳教育の領域②―主として人との関わりに関すること
【　到達目標　】
道徳科の内容項目を「B.主として人との関わりに関すること」の視点から理解し、この視点に関わる現代的な道徳教育の課題について、説明できる。

【授業時間外学習】「B.主として人との関わりに関すること」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第10回　道徳教育の領域③―主として集団や社会とのかかわりに関すること
【　到達目標　】
道徳科の内容項目を「C.主として集団や社会との関わりに関すること」の視点から理解し、この視点に関わる現代的な道徳教育の課題について、説明できる。

【授業時間外学習】「C.主として集団や社会との関わりに関すること」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第11回　道徳教育の領域④―主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
【　到達目標　】
道徳科の内容項目を「D.主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の視点から理解し、この視点に関わる現代的な道徳教育の課題について、説明できる。

【授業時間外学習】「D.主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第12回　学習指導案の作成
【　到達目標　】
授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。
高等学校教育をより深く学ぶ学生は、高等学校における道徳教育を構想することができる。

【授業時間外学習】
道徳科の学習指導案作成に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第13回　道徳科の学習評価
【　到達目標　】
道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。

【授業時間外学習】道徳科の学習評価に関連する文献を図書館等で探して読む。教育実習における道徳指導に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第14回　模擬授業と振り返り―読み物教材を用いた授業
【　到達目標　】
読み物資料を用いた模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。

【授業時間外学習】
読み物教材を用いた道徳科の授業実践に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第15回　多様な教材と指導方法
【　到達目標　】
道徳科には多様な教材や指導方法があることを理解し、それらの特徴を踏まえた授業設計を行うことができる。特に、「主体的・対話的で深い学び」を意識して授業を設計することができる。
【授業時間外学習】
道徳科の教材や指導方法に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

【学習上の留意点】

各回のテーマに沿いながら学習を深め、同時に講義全体で学校における道徳教育のあり方を理解することを目標とする。授業時間内だけではなく、日頃から新聞、テレビのニュースなどから社会、学校のなかの道徳や道徳教育の様子、中高校生の生き方など、幅広くとらえるようにしたい。単なるタテマエではない道徳教育のあり方を考えていってほしい。

【教科書・参考書など】

文部科学省『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』（最新版）

【成績評価方法】

小レポート（30%）、期末試験（70%）により評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。

科目名	教育の方法と技術			担当者	須　甲　理　生	
英文名	Methodology of Education					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE203・DTE203・HTE203		

【目的とねらい】

本講義では、新学習指導要領で求められる資質・能力を子供たちに習得させていくために必要な、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。具体的には、まず、教育の方法として、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の展開方法、学習成果を確実に上げるための基礎的条件と内容的条件、目標に準拠した評価や指導と評価の一体化等に関する学習評価について理解していく。次に、教育の技術として、授業中の子供たちに対する相互作用行動（言葉がけ）、学習指導案の作成方法について理解していく。最後に、情報機器を効果的に活用した授業の展開方法についても具体的な授業実践例を踏まえながら理解していく。

【授業内容・到達目標など】

第１回　新学習指導要領で求められる資質・能力と保健体育科における見方・考え方
【　到達目標　】
教育方法の基礎的理論と実践について理解すると共に、新学習指導要領で求められる資質・能力の各要素と要素間の関係性について保健体育科という教科の特性の視点から理解する。また、保健体育科における見方・考え方について説明できるようにする。
【授業時間外学習】新学習指導要領解説における教科の目標とその解説を読んで、現行要領の違い等をまとめる。(4.0hr)

第２回　主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の実現（1）
【　到達目標　】
主体的・対話的で深い学びとは何か、また、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の展開方法について、具体的な授業研究の成果や授業映像から理解する。
【授業時間外学習】
主体的・対話的で深い学びを取り入れた体育あるいは保健授業の具体例を作成する。(4.0hr)

第３回　主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の実現（2）
【　到達目標　】
課題として作成してきた主体的・対話的で深い学びを取り入れた体育あるいは保健授業の具体例をもとに、グループで討論し、主体的・対話的で深い学びを授業に取り入れる際の原理・原則を見付けることができるようにする。
【授業時間外学習】
主体的・対話的で深い学びを取り入れた体育あるいは保健授業の具体例を再構成する。(4.0hr)

第４回　授業の基礎的条件と内容的条件
【　到達目標　】
教育方法の基礎的理論である授業の基礎的条件（学習規律の確立等）と内容的条件（目標・内容・教材、教具・方法の一貫性等）について、説明できるようにする。また、学級・生徒・教員・教室・教材など授業を構成する基礎的な要件を理解する。
【授業時間外学習】
基礎的条件と内容的条件について記載された資料（論文）を読んでまとめる。(4.0hr)

第５回　体育授業と学級経営の関係性
【　到達目標　】
体育授業の基礎的条件に関わっては、学級経営と密接に関連していることを具体例を挙げながら説明できるようにする。
【授業時間外学習】
体育授業と学級経営の教育方法の関連性に関する論文を読み、小レポートを作成する。(4.0hr)

第６回 学習評価の基礎的な考え方
【　到達目標　】
目標に準拠した評価、指導と評価の一体化、観点別学習状況の評価の考え方について説明できるようにする。
【授業時間外学習】
学習評価に関する小レポートを作成する。(4.0hr)

第７回 授業における教師の効果的な相互作用行動（1）
【　到達目標　】
主体的・対話的で深い学びを実現するための教師の効果的な相互作用行動について理解する。
【授業時間外学習】
相互作用行動について記載された資料（論文）を読んでまとめる。(4.0hr)

第８回　授業における教師の効果的な相互作用行動（2）
【　到達目標　】
教師による発問、肯定的な言葉がけ、矯正的な言葉がけ、励まし等の在り方について、授業場面を想定して、具体例を挙げながら説明できるようにする。また、基礎的な板書の技術を身に付ける。
【授業時間外学習】
授業場面の具体例を用いた相互作用に関する小レポートを作成する。(4.0hr)

第９回　学習指導案の作成方法（1）
【　到達目標　】
学習指導案例を基に、目標・内容、教材・教具、学習形態等の一貫性を有する授業の設計方法について理解する。
【授業時間外学習】学習指導案例を基に、目標・内容、教材・教具、学習形態等の一貫性についてまとめる。(4.0hr)

第10回　学習指導案の作成方法（2）
【　到達目標　】
学習指導案例を基に、評価規準及び基準の設定方法、評価計画の作成方法について理解する。
【授業時間外学習】学習指導案例を基に、評価規準及び基準の設定方法、評価計画の作成方法についてまとめる。(4.0hr)

第11回　学習指導案の作成方法（3）
【　到達目標　】
子供たちにおける思考力・判断力・表現力等の習得を促す学習カードやワークシートの作成方法について理解する。また、思考力・判断力・表現力等の学習評価に関する基礎的な考え方を理解する。
【授業時間外学習】
具体的な授業を想定して、学習カードやワークシートを作成する。(4.0hr)

第12回　情報機器を効果的に活用した授業の展開方法（1）
【　到達目標　】
教師による子供たちへの課題提示場面での情報機器の効果的な活用方法について説明できるようにする。
【授業時間外学習】
課題提示場面での情報機器の効果的な活用方法について小レポートを作成する。(4.0hr)

第13回　情報機器を効果的に活用した授業の展開方法（2）
【　到達目標　】
子ども達の対話的な学びの場面における情報機器の効果的な活用方法について説明できるようにする。
【授業時間外学習】対話的な学びの場面における情報機器の効果的な活用方法について小レポートを作成する。(4.0hr)

第14回 情報機器を効果的に活用した授業の展開方法（3）
【　到達目標　】
情報機器を活用した授業の展開方法について、具体例を挙げながら説明できるようにする。
【授業時間外学習】
情報機器を活用した授業の展開方法について、具体例を作成する。(4.0hr)

第15回　保健体育教師が授業から学び続けるということ
【　到達目標　】
保健体育教師は、授業の設計・実施・評価（省察）の一連のサイクルの中で、子ども達の反応や学習成果から学び、不断に授業の力量を形成し続けることが必要であること、また、教師として学び続けるための方法について理解する。
【授業時間外学習】
保健体育教師が学び続けることの意義、そのための方法についてレポートを作成する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

教育実習において、学校現場の生徒に大きな影響を与えることを十分に自覚し、教職免許を取るのにふさわしい態度で講義に臨むこと。毎回の講義は相互に関連しているので、講義内容について集中してノートをとり、予習・復習を行っていくことが必要になる。学習指導案やレポート等の課題、テストにも積極的に取り組むことが大切である。

【教科書・参考書など】

・文部科学省『中学校学習指導要領解説保健体育編』（2018年）東山書房
・文部科学省『教育の情報化に関する手引き』（2010年）
・文部科学省『高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編』（2019年）東山書房

【成績評価方法】

毎授業後に課す小レポート等の課題（50%）、試験（50%）

科目名	特別支援教育入門			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Introduction to Special Support Education					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE204・DTE204・HTE204		

【目的とねらい】

特別支援教育の入門編として、様々な障害のある子どもとともに、障害はないが特別の教育的ニーズのある子どもも含め、特別の支援を必要とする幼児、児童および生徒の学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくための基礎的知識や支援方法を理解することを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回 特別支援教育を支える理念
【　到達目標　】
(1)障害の概念、特別支援教育の歴史的変遷について理解する。
(2)自立、地域社会への参加、インクルージョンなどの理念について理解する。
(3)合理的配慮の考え方について理解する。
【授業時間外学習】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第２回　視覚・聴覚・言語障害のある子どもの理解と支援
【　到達目標　】
(1)「国際生活機能分類」による障害の捉え方を説明できる。
(2)視覚・聴覚・言語障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第３回　知的障害のある子どもの理解と支援
【　到達目標　】
(1)知的障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第４回　肢体不自由、重症心身障害、病弱、医療的ケア児の理解と支援
【　到達目標　】
(1)肢体不自由・重症心身障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
(2)重症心身障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
(3)病弱、医療的ケア児について理解し、支援のあり方を説明できる。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第５回　発達障害（LD、ADHD、ASD）のある子どもの理解と支援
【　到達目標　】
(1)LD-学習障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
(2)ADHD-注意欠陥多動性障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
(3)ASD-自閉症スペクトラム障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第６回　発達障害（DCD）、運動の苦手な子どもの理解と支援
【　到達目標　】
(1)DCD-発達性協調運動障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
(2)運動の苦手な子どもの発達を支援するための理論と実際を理解する。
【授業時間外学習】
授業を振り返り、実践に役立てるための検討を行う。(4.0hr)

第７回　LGBT、母国語の違い等の理解と支援
【　到達目標　】
(1)LGBTについて理解し、支援の在り方を説明できる。
(2)母国語の違い等、特別の支援を必要とする子どもの学習上または生活上について理解し、対応のあり方を説明できる。
【授業時間外学習】
授業を振り返り、実践に役立てるための検討を行う。(4.0hr)

第８回　貧困、虐待、DV、社会的養護等の理解と支援
【　到達目標　】
(1)貧困、虐待、DV、社会的養護等により、特別の支援を必要とする子どもの学習上または生活上の困難について理解し、対応のあり方を説明できる。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第９回 特別支援教育に関する教育課程、個別の指導計画・支援計画
【　到達目標　】
(1)特別支援教育に関する教育課程について理解する。
(2)特別支援教育課程に基づいた、個別の指導計画・支援計画の作成について理解する。
(3)「通級による指導」「自立活動」について理解する。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第10回 教員間の連携・協働
【　到達目標　】
(1)クラス内の人的配置、学校内の連携体制を理解する。
(2)情報の共有と守秘義務について理解する。
(3)特別支援教育コーディネーターの役割を理解する。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第11回　家庭への理解と支援
【　到達目標　】
(1)障害のある子どもを育てる家庭への子育て支援について理解する。
(2)ライフステージに応じた親やきょうだいへの支援について理解する。
(3)保護者間の交流や支え合いの意義とその支援について理解する。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第12回 地域における自治体・関係機関の連携・協働
【　到達目標　】
(1)障害児支援の制度政策について理解する。
(2)特別支援学校、教育委員会、医療機関等の連携・協働について理解する。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第13回　特別の支援を必要とする子どもの現状と課題（１）保健・医療
【　到達目標　】
(1)保健をめぐる特別の支援を必要とする子どもの現状と課題を理解する。
(2)医療をめぐる特別の支援を必要とする子どもの現状と課題を理解する。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第14回　特別の支援を必要とする子どもの現状と課題（２）福祉・教育
【　到達目標　】
(1)福祉をめぐる特別の支援を必要とする子どもの現状と課題を理解する。
(2)教育をめぐる特別の支援を必要とする子どもの現状と課題を理解する。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第15回　特別の支援を必要とする子どもの現状と課題（３）地域
【　到達目標　】
(1)地域における支援の場の広がりとつながりを理解する。
【授業時間外学習】
事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

【学習上の留意点】

実際に特別支援学校・特別支援学級の児童とかかわる機会を持ちながら学習し、理論と実際を結び付けて理解を深めていくことを勧める。貧困や虐待問題等、社会の動向にも目を向け、家族や関係機関、地域社会の人々との連携の進め方など幅広い視点を学習し、自らが主体的に子どもの育ちの支援にかかわることを想定しながら取り組んでほしい。

【教科書・参考書など】

教科書、資料プリント、ビデオ教材等使用。授業時に指示する。
参考書：文部科学省『中学校・高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価方法】

各回の授業時での課題40%、理解度確認のための試験結果を60%として評価する。
期末に試験を行う。

科目名	教育社会学			担当者	小　堀　哲　郎	
英文名	Sociology of Education					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE302・DTE302・HTE302		

【目的とねらい】

教育や学校に関する事項について社会学的な視点で学ぶ科目である。現代社会の状況の変化がもたらす学校教育への影響ならびに、現代の子どもたちの生活の変化に伴って生じる指導上の課題を理解する。また、日本のみならず諸外国の教育事情や教育政策の動向を理解することに加え、近年重要性を増している、学校と地域との連携に関する意義や方法を理解し、学校管理下で生じる事件や事故等に対応するために学校安全に関する基礎的知識を身につけることも目標とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　学校を取り巻く状況の変化
【　到達目標　】
グローバル化・情報化・少子化などの社会の変化に伴う学校のありかたについて理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第２回　ライフコース
【　到達目標　】
急速に変化をしている日本人のライフコースにおける教育の意味や役割について理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第３回　少子社会の家族と子ども
【　到達目標　】
少子社会における家族と子どものありようについて、虐待等を事例に理解を深める。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第４回　子どもの人間関係
【　到達目標　】
子どもたちの人間関係の変化について、仲間意識や友だちづくりの点から理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第５回　子どもの学力と体力
【　到達目標　】
子どもの学力と体力がどのように変化してきているかを理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第６回　学力と意欲の階層差
【　到達目標　】
格差社会との関連で、学力と意欲の階層差について提起されている問題点を理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第７回　　いじめ・不登校
【　到達目標　】
教育社会学の主要テーマである「いじめ」と「不登校」について理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第８回　資格社会と就職
【　到達目標　】
日本における学校卒業後の就職の状況について、歴史的経緯をふまえて理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第９回　インターネット社会と若者
【　到達目標　】
インターネットの普及による社会変動をどう捉えていくのかを若者を中心に理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第10回　学習指導要領改訂の理念
【　到達目標　】
「主体的・対話的で深い学び」を中心に、新しい学習指導要領の理念を理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第11回　学び続ける教師
【　到達目標　】
教員に要求される役割と専門的資質・能力について理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第12回　諸外国の教育事情と教育改革
【　到達目標　】
アメリカ・イギリス・韓国・フィンランドなどの諸外国の教育事情について理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第13回　学校と地域の連携
【　到達目標　】
地域との連携による学校教育活動の意義を具体的に理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第14回　開かれた学校づくりへの課題
【　到達目標　】
学校と地域の連携や協働による「開かれた学校づくり」の経緯を踏まえ、今後の課題を理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第15回　学校安全への対応
【　到達目標　】
学校管理下で起こる事件や事故、災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全について理解する。
【授業時間外学習】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

【学習上の留意点】

授業は主として教員による講義形式とするが、毎回の授業終了時に500字程度の「授業内レポート」を作成し、評価に算入する。私語その他、他の学生に迷惑となる行為は厳禁。場合によっては退出してもらうこともある。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しない。適宜、資料等を配布。
参考書等については授業時に紹介する。

【成績評価方法】

試験は「試験期間中に別途実施する」。
授業内レポート（40%）、定期試験（60%）。

科目名	教育相談			担当者	角　田　和　也	
英文名	Educational Counseling					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE303・DTE303・HTE303		

【目的とねらい】

教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。

本授業では、特に生徒を中心とした子ども発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。

【授業内容・到達目標など】

第１回　オリエンテーション／教育相談とは何？
【　到達目標　】
(1)自分の理解している「教育相談」とは何かを説明できる。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第２回　教育相談の実際
【　到達目標　】
(1) 教育相談の実際について、正しい認識をもつことができる。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第３回　学校における教育相談の意義
【　到達目標　】
(1)教員を目指す学生が教育相談を学ぶ意義を理解する。
【授業時間外学習】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第４回　教育相談の基本的事項①　実践のための基本的な理論・概念①
【　到達目標　】
(1)教育相談の実践に必要な、臨床心理学（カウンセリング）の基本理論・概念を理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第５回 教育相談の基本的事項②　実践のための基本的な理論・概念②
【　到達目標　】
(1)前回の授業内容を踏まえ、教育相談で実践されている臨床心理学（カウンセリング）の理論・概念について理解を深める。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第６回　教育相談の基本的事項③　カウンセリングマインドの必要性
【　到達目標　】
(1)教育相談の実践に必要なカウンセリングマインドについて理解する。
【授業時間外学習】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第７回　生徒理解の方法①　「きく」ことについて①
【　到達目標　】
(1)生徒理解に必要な「きく」ということについて理解を深める。
(2)「きく」方法を実践するためのポイントを理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第８回　生徒理解の方法②　「きく」ことについて②
【　到達目標　】
(1)前回の授業をうけて、さらに「きく」際に注意するポイントについての理解を深める。
【授業時間外学習】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第９回　生徒理解の方法③　「話す」ことについて①
【　到達目標　】
(1)生徒理解に必要な「話す」ということについて理解を深める。
(2)「話す」方法を実践するためのポイントを理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第10回　生徒理解の方法④　「話す」ことについて②
【　到達目標　】
(1)不快に思われない話し方について理解を深める。
【授業時間外学習】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第11回　生徒理解の方法⑤　「みる」ことについて①
【　到達目標　】
(1)生徒理解に必要な「みる」ということについて理解を深める。
(2)「みる」方法を実践するためのポイントを理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第12回　生徒理解の方法⑥　「みる」ことについて②
【　到達目標　】
(1)みられている側の気持ちを理解する。
(2)「みる」際に注意するさらなるポイントについて理解する。
【授業時間外学習】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第13回　教育相談の展開①　「私」が教育相談を行うために
【　到達目標　】
(1)テーマに沿って､実際に教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を考えることができる。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第14回　教育相談の展開②　連携の必要性について
【　到達目標　】
(1)実際に教育相談を行う際に欠くことのできない学校内・外における連携について、理解する。
【授業時間外学習】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第15回　教育相談の展開③　組織的な取り組みの必要性について
【　到達目標　】
(1)教育相談の実践には、組織的な展開が必要であることを理解する。
【授業時間外学習】
課題レポートの作成。(4.0hr)

【学習上の留意点】

①基本的には、毎回、板書の代わりにPCおよびプロジェクターを使用して授業を行います。板書に費やす時間を省略するのが主なねらいです。
②授業内容の理解を深めることを目的とした課題レポートの作成を、授業時間外学習で課します。この作成したレポートは後日提出してもらい、評価に反映させていきます（下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します）。
③期末試験は、授業で伝えた内容の理解度を確認するためだけではなく、その知識をもとにした実践力を問うためにも実施しています。受講の際にメモをとるだけでなく、普段からの自主的な学習・復習が単位取得には必要です。

【教科書・参考書など】

・１回目の授業時に、本授業用に作成したテキストを販売します。受講する学生は、必ず購入してください。
・テキストには、各回ごと、授業内容に基づいた参考文献を示してありますので、そちらも参考にしてください。
・参考書：文部科学省『中学校・高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価方法】

・提出物の評価……50%　　期末試験の結果……50%
・試験は試験期間中に別途実施します。

科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法			担当者	稲　井　達　也	
英文名	Special Activities & Integrated Learning					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE304・DTE304・HTE304		

【目的とねらい】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領に位置づけられている特別活動について理解し、中学校・高等学校の学級担任として、この指導ができる知識と能力を培い、望ましい指導のあり方を研究するとともに、特別活動の存在意義について考える。また、総合的な学習の時間の意義や狙いについて理解するとともに、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指すとともに、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するためのカリキュラム編成、指導計画の作成、具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身に付けるため、具体的な実践事例を通して検討する。

【授業内容・到達目標など】

第１回　特別活動のカリキュラム、中学校と高等学校の特別活動の目標、指導と評価、地域との連携

【　到達目標　】教育課程の中での特別活動の位置付けについて知る。

また、中学校特別活動の目標について、特別活動における「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の視点から理解するとともに、評価について理解する。また、「地域に開かれた教育課程の実現」の観点から特別活動を考える。

【授業時間外学習】

学習指導要領解説編を通読し、全体の構成を把握する。(4.0hr)

第２回　特別活動と各教科等の関連性、学級活動・ホームルーム活動　1.目標と内容

【　到達目標　】

特別活動と各教科等との関連性について知る。また、担任教員の役割について理解するとともに、実例を通して、中学校における学級活動、高等学校におけるホームルーム活動について理解する。

【授業時間外学習】

ホームルーム活動の実例について検討する。(4.0hr)

第３回　学級活動・ホームルーム活動 2.年間指導計画と学級担任の指導

【　到達目標　】

学級活動、ホームルーム活動の年間指導計画を理解し、実際に学級担任の指導について、模擬授業を通して体験的に理解する。

【授業時間外学習】

ホームルーム活動の年間指導計画の作成について整理する。(4.0hr)

第４回　学級活動・ホームルーム活動 3.学級活動・ホームルーム担任の実務

【　到達目標　】

学級・ホームルーム担任の実務について理解するとともに、担任の立場に立って、実例を検討し、より良い学級づくり、望ましい集団形成について考える。

【授業時間外学習】

学級・ホームルーム担任の1年間の実務について一覧表に整理する。(4.0hr)

第５回　生徒会活動の目標と内容

【　到達目標　】

生徒会指導の目標と内容について理解するとともに、生徒会担当者の立場に立って、実例を検討し、集団における合意形成などについて具体的に理解する。

【授業時間外学習】

生徒会指導の実例について検討する。(4.0hr)

第６回　学校行事の目標と内容、儀式的行事、文化的行事

【　到達目標　】

学校行事の目標と内容について理解するとともに、儀式的行事、文化的行事の指導について検討する。また、文化祭指導の実例を検討し、集団における合意形成などについて具体的に理解する。

【授業時間外学習】

文化祭の指導計画を立案する。(4.0hr)

第７回　学校行事　健康安全・体育的行事

【　到達目標　】

健康安全・体育的指導について理解するとともに、運動会・体育祭指導の実例を検討し、集団における合意形成などについて具体的に理解する。

【授業時間外学習】

体育祭の指導計画を立案する。(4.0hr)

第８回　学校行事　旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事

【　到達目標　】

旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事について理解するとともに、修学旅行、合宿の実例について検討し、望ましい集団形成について考える。また、修学旅行の指導計画を立案する。

【授業時間外学習】

修学旅行の指導用プリントを作る。(4.0hr)

第９回　総合的な学習の時間の目標と内容、各教科等との関連、「主体的・対話的で深い学び」の過程

【　到達目標　】

総合的な学習の時間の目標と内容について理解するとともに、各教科等との関連性を踏まえたカリキュラム編成等の留意点や高等学校の総合的な学習の時間の方向性について検討する。また、総合的な学習の時間における「主体的・対話的で深い学び」の過程について考える。

【授業時間外学習】

出身校等の総合的な学習の時間のカリキュラムについて調べる。(4.0hr)

第10回　総合的な学習の時間の意義と課題　総合的な学習の時間のカリキュラム編成、指導と評価

【　到達目標　】

総合的な学習の時間の意義と実施する上での課題などについて理解するとともに、総合的な学習の時間のカリキュラム編成、指導と評価について知る。

【授業時間外学習】

総合的な学習の時間の意義と実施上の課題についてまとめる。(4.0hr)

第11回　総合的な学習の時間のカリキュラム研究1 キャリア教育の観点

【　到達目標　】

総合的な学習の時間のカリキュラムのうち、進路指導に焦点を当てた、中学校、高等学校の特色あるカリキュラムの実践事例を検討する。

【授業時間外学習】検討した総合的な学習の時間のキャリア教育の観点でのカリキュラムについてまとめる。(4.0hr)

第12回　総合的な学習の時間のカリキュラム研究2 探究的な学習の観点

【　到達目標　】

総合的な学習の時間のカリキュラムのうち、探究的な学習に焦点を当てた高等学校の特色あるカリキュラムの実践事例を検討する。

【授業時間外学習】検討した総合的な学習の時間の探究的な学習の観点でのカリキュラムについてまとめる。(4.0hr)

第13回　総合的な学習の時間の環境整備　学校図書館の整備と活用

【　到達目標　】

総合的な学習の時間を推進する上で、環境整備について理解するとともに、学校図書館を活用した特色ある実践事例について検討する。

【授業時間外学習】

総合的な学習の時間における学校図書館の活用についてまとめる。(4.0hr)

第14回　総合的な学習の時間と社会に開かれた教育課程の実現

【　到達目標　】

総合的な学習の時間における「社会に開かれた教育課程」の在り方について理解するとともに、高校における「社会に開かれた教育課程の実現」を目指した特色ある実践事例を検討する。

【授業時間外学習】

道徳と、総合的な学習の時間の内容、目標について確認する。(4.0hr)

第15回　総合的な学習の時間とグローバル教育

【　到達目標　】

グローバル教育の観点から総合的な学習の時間について理解するとともに、高校の総合的な学習の時間におけるグローバル教育の視点に立った特色ある実践事例について検討する。

【授業時間外学習】

改めて学習指導要領解説編を読み、課題にそって自分の理解をまとめる。(4.0hr)

【学習上の留意点】

特別活動が学校教育に果たす役割は大きい。授業では、学習指導要領の理解はもとより、学校の即戦力となるよう、教師としての教育実践力を身につける。これまで出会った中学校・高等学校時代の先生やクラスメートとのやり取りを振り返りながら、「学校の先生」になるためのイメージを膨らませ、受け身の授業にならないように積極的な学習に努めること。学習指導要領の解説書をよく読み込むことと、具体的な教員の業務などのシミュレーションや、学生同士のディスカッション、実例、実践事例の検討(ケース・スタディー)等の学習に積極的に参加することを通して、実践的な指導力を身につけていってもらいたい。

【教科書・参考書など】

文部科学省『中学校学習指導要領解説特別活動編』（最新版）、文部科学省『高等学校学習指導要領解説特別活動編』(最新版)を毎時間持参する。

【成績評価方法】

毎時間のミニレポート・各種提出課題40%、定期試験60%として評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	生徒指導法(進路指導を含む)			担当者	三　好　昭　子	
英文名	Guidance Services in School (Career Counseling)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義		科目ナンバー	STE305・DTE305・HTE305		

【目的とねらい】

生徒指導・進路指導は学習指導とともに教育の二大支柱の一つであり、学習指導に劣らず重要なものである。特に、いじめ、不登校、非行などの問題の改善・克服は生徒指導・進路指導上の重要な課題であり、児童生徒の将来、すなわち生き方やキャリア形成につながっていく。本講義は、生徒指導・進路指導の目的や方法、意義などの基本的な内容を理解した上で、今日的課題の特徴やそれに対する対応についての理解を深めることを目的とする。生徒指導・進路指導は幅が広くかつ高い専門性を必要とするため、教職についてからも継続的に自己研鑽を積むことが必要である。そのための基盤作りをすることが本講義のねらいである。

【授業内容・到達目標など】

第１回　生徒指導の目的と必要性（意義）
【　到達目標　】
(1)生徒指導の目的とその必要性（意義）について理解する。
(2)教育課程における生徒指導の位置付けを理解する。
(3)各教科や特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解する。
【授業時間外学習】
生徒指導の目的と必要性（意義）についての理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第２回　学校の指導方針・年間指導計画に基づいた組織的な取組
【　到達目標　】
(1)学校の指導方針・年間指導計画に基づいた組織的な取組の重要性を理解する。
(2)学校の指導方針・年間指導計画に基づいた組織的な取組を通してのアイデンティティ形成について理解する。
【授業時間外学習】学校の指導方針・年間指導計画に基づいた組織的な取組についての理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第３回　基本的信頼感の発達
【　到達目標　】
(1)基本的信頼感の発達について理解する。
(2)愛の本質的特徴である無条件性と相互性について理解する。
(3)愛の対極について理解する。
【授業時間外学習】
基本的信頼感の発達について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第４回　自律性の発達
【　到達目標　】
(1)自律性の発達について理解する。
(2)基礎的な生活習慣の確立のための日々の生徒指導の在り方を理解する。
【授業時間外学習】
自律性の発達について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第５回　主導性の発達
【　到達目標　】
(1)主導性の発達と役割実験について理解する。
(2)規範意識醸成のための日々の生徒指導の在り方を理解する。
【授業時間外学習】
主導性の発達について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第６回　否定的アイデンティティ「どうせ私は～」の心理
【　到達目標　】
(1)否定的アイデンティティについて理解する。
(2)児童生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方を例示することができる。
【授業時間外学習】
否定的アイデンティティの理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第７回　生産性の発達と進路への自覚
【　到達目標　】
(1)生産性と劣等感について理解する。
(2)自己効力感について理解する。
【授業時間外学習】
生産性の発達について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第８回　集団指導・個別指導
【　到達目標　】
(1)集団指導について理解する。
(2)個別指導について理解する。
(3)生徒指導体制と教育相談体制について理解する。
【授業時間外学習】
集団指導と個別指導について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第９回　専門家や関係機関との連携
【　到達目標　】
(1)生徒指導における校内の連携について理解する。
(2)生徒指導における外部機関との連携について理解する。
(3)生徒指導における専門家や関係機関との連携の在り方を例示することができる。
【授業時間外学習】
専門家や関係機関との連携について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第10回　非行・性非行・暴力行為
【　到達目標　】
(1)喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する指導について理解する。
(2)非行・性非行・暴力行為の背景について理解する。
(3)非行・性非行・暴力行為への対応の基本について理解する。
【授業時間外学習】
非行・性非行・暴力行為について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第11回　いじめ（インターネット含む）・不登校
【　到達目標　】
(1)いじめ（インターネット含む）の実態、要因について理解する。
(2)いじめ防止対策推進法について理解する。
(3)不登校の実態・要因、およびその対応について理解する。
【授業時間外学習】
いじめ（インターネット含む）・不登校について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第12回　生徒指導に関する法令
【　到達目標　】
(1)校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容を理解している。
(2)児童虐待への対応を理解する。
【授業時間外学習】
生徒指導に関する法令や児童虐待について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第13回　進路指導・キャリア教育の意義と原理
【　到達目標　】
(1)教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けを理解する。
(2)学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方を例示することができる。
(3)進路指導における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解する。
【授業時間外学習】
進路指導・キャリア教育の意義と原理について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第14回　全体に対する進路指導・キャリア教育の考え方と指導の方法
【　到達目標　】
(1)職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義を理解する。
(2)ガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点を理解する。
【授業時間外学習】全体に対する進路指導・キャリア教育の考え方と指導の方法について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第15回　個別の進路指導・キャリア教育の考え方と指導の方法
【　到達目標　】
(1)生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用の在り方を例示することができる。
(2)キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法を説明することができる。
【授業時間外学習】個別の進路指導・キャリア教育の考え方と指導の方法について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

【学習上の留意点】

講義ではパワーポイントを使用し、資料を毎回配布する。受講者は講義を聞きながら、メモを取り、自分なりのノートを作成する。毎回、講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするための課題を出す。課題を通して、生徒指導に関する様々な問題について自分の考えをまとめていくことが必要である。課題の内容は期末テストとも対応しているので、しっかり復習すること。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。
参考書：日本青年心理学会企画『君の悩みに答えよう：青年心理学者と考える10代・20代のための生きるヒント』福村出版
文部科学省『中学校・高等学校学習指導要領』（最新版）、文部科学省『生徒指導提要』(最新版)

【成績評価方法】

毎回出す課題の提出30%、期末テスト（試験は試験期間中に別途実施）を70%として評価する。

科目名	教職実践演習（中・高）			担当者	須甲　理生・小堀　哲郎・高橋　修一 宮本　乙女・助友　裕子・瀬川　　大 沢田真喜子・山下敬緯子・髙野美和子	
英文名	Practical Seminar for the Teaching Profession					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	演習		科目ナンバー	STE401・DTE401・HTE401		

【目的とねらい】

この科目は、教職課程の総仕上げとして、教育実習経験を踏まえて、学生による発表やグループ討論によって、学生ひとり一人が自己の学修課題を見つけ、課題解決のための学修を積極的に進めていく。そのため教育実習を踏まえた課題の発表は、中学校・高等学校の体育実技の授業を分けて検討する。また、保健分野及び学級活動を含む特別活動との関わりで、学級担任としての役割と使命を十分に理解できるように演習を構成する。演習全体として、保健体育の教科の指導力と学校経営の視点を持った学級経営ができる実践的な力量形成を目指す。

【授業内容・到達目標など】

第１回　教職課程学修の振り返りと自己の課題確認
【　到達目標　】
授業開始までの夏季休業期間中に、教育実習を振り返り、課題レポートを提出する。
【授業時間外学習】
教育実習を振り返り、課題レポートを作成する。(4.0hr)

第２回　保健体育科教員の使命と責任（講義）
【　到達目標　】
今日の学校教育における保健体育の重要性、およびそれを担う教員の意義や責任について、再確認する。
【授業時間外学習】今日の学校教育における保健体育の重要性、およびそれを担う教員の意義や責任について理解を深める。(4.0hr)

第３回　授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）①
【　到達目標　】
中学校保健体育科（体育分野）の授業研究（実習生による授業のVTR視聴とディスカッション）
【授業時間外学習】
中学校保健体育科（体育分野）の授業研究から得られたことを整理する。(4.0hr)

第４回　授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）②
【　到達目標　】
高等学校保健体育科（科目体育）の授業研究（実習生による授業のVTR視聴とディスカッション）
【授業時間外学習】
高等学校保健体育科（科目体育）の授業研究から得られたことを整理する。(4.0hr)

第５回　授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）③
【　到達目標　】
中学校保健体育科（保健分野）および高等学校保健体育科（科目保健）の授業研究（実習生による授業のVTR視聴とディスカッション）
【授業時間外学習】中学校保健体育科（保健分野）および高等学校保健体育科（科目保健）の授業研究から得られたことを整理する。(4.0hr)

第６回　保健体育科教員に求められる教科の指導力①
【　到達目標　】
第３～４回において指摘された場面の指導方法代替案シナリオを作成・発表する。
【授業時間外学習】
指摘された場面の指導方法代替案シナリオ発表から学んだことを整理する。(4.0hr)

第７回　保健体育科教員に求められる教科の指導力②
【　到達目標　】
第５回において指摘された場面の指導方法代替案シナリオを作成・発表する。
【授業時間外学習】
指摘された場面の指導方法代替案シナリオ発表から学んだことを整理する。(4.0hr)

第８回　教科外における生徒指導について　「学校生活改善プロジェクト」の実践①
【　到達目標　】
あらかじめ考えてきた活動内容を持ち寄りプロジェクトを決定し、具体的な対策を検討。実際に現場に出て観察、聞き取り、巡回などを行った後、本日の活動をまとめ、次回までに取り組んでくる内容を決定する。
【授業時間外学習】
各自プロジェクト内容を考案してくる。(4.0hr)

第９回　教科外における生徒指導について　「学校生活改善プロジェクト」の実践②
【　到達目標　】
プロジェクト活動の続きを行い、報告書を完成させ、グループ間で発表を行う。
【授業時間外学習】
プロジェクトを継続して行い、問題点等を記録しておく。(4.0hr)

第10回　特別活動・部活動から学んだこと
【　到達目標　】
事例に基づきグループ討論を行う。
【授業時間外学習】
グループ討論から学んだことや気づいたことを整理する。(4.0hr)

第11回　自己の学修課題の確認と研究活動
【　到達目標　】
第３回～10回の発表・討論を踏まえ、とりわけ不足している知識と実技能力の課題の補完に向けて各自研究活動を進める。
【授業時間外学習】
これまでに学んできたことを生かして、新たな指導案を作成する。(4.0hr)

第12回　教員として求められる社会性・対人関係能力は何か（講話）
【　到達目標　】
現職教員を招き、現場の実情について講話を聞くことにより、教職現場で求められている教員としての能力を把握し、これから何をすべきかを明確にする。
【授業時間外学習】
教員として求められる社会性・対人関係能力について理解を深める。(4.0hr)

第13回　教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題（講話）
【　到達目標　】
現職教員を招き、教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題について理解を深め、教育現場で果たすべき義務と責任を果たすための心構えを養い、さらにはライフサイクルに応じた課題の変化についてどのように対応していくべきかについての準備をする。
【授業時間外学習】教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題について理解を深める。(4.0hr)

第14回　各自の研究活動の成果発表と学生の相互評価
【　到達目標　】
第11回における研究活動およびその後の授業時間外学習の成果を発表相互に発表しあい、討論を行う。
【授業時間外学習】
各自の研究活動の成果発表から学んだことを整理する。(4.0hr)

第15回　魅力ある教員をめざして―まとめレポートの作成と意見交換―
【　到達目標　】
教員としての資質能力の確認：実技・知識・教職の適性。
【授業時間外学習】
教員としての資質能力（実技・知識・教職の適性）について理解を深める。(4.0hr)

【学習上の留意点】

夏季休業期間中に、６月に行った教育実習を振り返り、各自の実習中の課題等についてレポートを提出すること。そのため、各実習中に作成した指導案や資料等は整理しておくこと。なお、教職実践演習は、グループでのディスカッション、ポスター作成、事例研究等のアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業スタイルで進められる。そのため、受講生には、主体的に学修に取り組む態度が求められる。また、授業の中、あるいは、課題として作成される学習指導案、ポスター、事例研究のディスカッション内容等については、担当教員から適宜フィードバックされる。

【教科書・参考書など】

テキスト：「教職実践演習テキスト」（学内作成予定）、学習指導要領、「体育教育学入門」（大修館）、「体育実技書」
参考書・参考資料等：教育実習事前指導である「教育実践研究」の授業時に作成する教職課程履修チェックリスト、教育実習時に作成する教科指導案、「教育実習の手引き」「教育実習ノート」等

【成績評価方法】

各種レポート等の提出状況と完成度等を総合的に評価する。（履修カルテ：10%、第２回から第10回までの授業内提出物：40%、自己の学修課題の確認と研究活動により作成した指導案：30%、「魅力ある教員をめざして」に関するまとめレポート：20%）
なお、良好な出席状況は、当然の前提である。

科目名	教育実習（事前・事後指導を含む）			担当者	髙橋　修一・山下敬緯子 湯澤　芳貴・須甲　理生 瀬川　　大	
英文名	Teaching Practice					
単位数	5	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	実習		科目ナンバー	STE402・DTE402・HTE402		

【目的とねらい】

「教育実習」は、大学内で行う「事前･事後指導」（1単位）と実習校で行う「実習校実習」（4単位）からなる。「事前・事後指導」は2年次後期から始まり、講義、外部講師による講話、上級生からの報告とディスカッション、模擬授業等の他、教育実習に関する諸事項と、介護等体験に関する事前指導も含めて展開する。これらのことを通して、教員として必要な実践的力量を向上させていくことを目的とする。

【授業内容・到達目標など】

第１回　教員養成と免許法について、授業日程、介護等体験について（2年次） 【　到達目標　】 (1)説明を聞いて理解し、4年次の自分の姿をイメージする。 (2)学び続ける教員像について理解できる。 【授業時間外学習】 自身の目指すべき教員像について考察する。	**第９回　授業研究5（模擬授業の実践3）** 【　到達目標　】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。
第２回　本学の教員養成の特色、口頭内諾の進め方（2年次） 【　到達目標　】 (1)本学の教員養成の特色と口頭内諾の進め方を理解する。 【授業時間外学習】 本学の教員養成の特色について復習する。	**第10回　授業研究6（模擬授業の実践4）** 【　到達目標　】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。
第３回　保健体育教師の使命、内諾手続きについて 【　到達目標　】 (1)保健体育教師の使命について理解する。 (2)正式な内諾手続きについて理解する。 【授業時間外学習】学び続ける教員像や授業で勝負できる教員像の視点から改めて理想の教師像について考察する。	**第11回　授業研究7（模擬授業の実践5）** 【　到達目標　】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。
第４回　4年生の教育実習体験報告 【　到達目標　】 (1)4年生の報告から、自己の課題を明確にする。 【授業時間外学習】 自己の課題を明確にし、教育実習のイメージを深める。	**第12回　外部講師による講話（中学校教員）** 【　到達目標　】 (1)中学校での教育実習の進め方や中学校保健体育科教員としての在り方を理解する。 (2)中学校における職務内容、地域との連携、学校安全について理解する。 (3)中学校における道徳、総合的な学習の時間、キャリア教育等について理解する。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。
第５回　授業研究1(模擬授業の意義と進め方について) 【　到達目標　】 (1)模擬授業の意義と進め方について理解する。 (2)アクティブラーニングやICTを取り入れた授業計画や実践について理解する。 (3)特別の支援を必要とする生徒の理解を踏まえた授業計画や実践について理解する。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。	**第13回　外部講師による講話（高等学校教員）** 【　到達目標　】 (1)高等学校での教育実習の進め方や高等学校保健体育教員としての在り方を理解する。 (2)高等学校における職務内容、地域との連携、学校安全について理解する。 (3)高等学校における総合的な学習の時間、キャリア教育等について理解する。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。
第６回　授業研究2（体育授業におけるマネジメント技術の習得） 【　到達目標　】 (1)体育授業の基礎的条件となるマネジメント技術について、実技を通して理解する。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。	**第14回　教育実習直前の諸注意** 【　到達目標　】 (1)教育実習期間中（3週間）の過ごし方、事務処理、報告方法等を理解する。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。
第７回　授業研究3（模擬授業の実践1） 【　到達目標　】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。	**《教育実習校実習　3週間》**
第８回　授業研究4（模擬授業の実践2） 【　到達目標　】 (1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。	**第15回　教育実習の報告会** 【　到達目標　】 (1)教育実習で学んだことをレポートにまとめ、報告する。 【授業時間外学習】 教育実習を省察し、改めて、自身の目指すべき保健体育教師像について考察する。

【学習上の留意点】

教育実習校実習は4年次であるが、この授業は2年次後期から始まり、教育実習事後指導までの長期間に亘る。この間の欠席は一切許されない。教職に就くことを目指す者として、真剣な態度で望んで欲しい。なお、本授業の第6回～11回については、模擬授業設計・実施・省察のサイクルをグループで行っていく。教育実習において主体的・対話的で深い学びを実現するための手続きについて、受講生自ら対話的な学びを通して学んでいくため、積極的な態度で授業に臨むこと。また、グループで作成する学習指導案や個人で作成する模擬授業の振り返りシートについては、提出後、担当教員からフィードバックされる。

【教科書・参考書など】

「教育実習の手引き」

【成績評価方法】

「事前・事後指導」の成績と教育実習校からの評価を総合して単位を認定する。